

佐賀市文化財調査報告書第44集

しゆく の
宿 野 遺 跡

平成5年3月

佐賀市教育委員会

発刊にあたって

久保泉東部地区での農業基盤整備事業は昭和60年度に起工され、平成4年度で8年目をむかえます。この事業に伴い佐賀市教育委員会では、工事によって破壊される部分の遺跡について発掘調査を行っています。これまでに、昭和60年度に泉遺跡、昭和61年度に上和泉遺跡、昭和62年度に泉三本栗遺跡、平成元年度に南宿遺跡・本村遺跡、平成2年度に原ノ町遺跡・東高田遺跡・櫟木遺跡・北宿遺跡・南宿遺跡、平成3年度に宿野遺跡、平成4年度に浦田遺跡、の延べ12遺跡を調査しました。ことに本村遺跡では、平安時代末から鎌倉時代にかけて安富荘泉村と呼ばれた中世村落内の屋敷地の大部分を検出し、多大な成果を収めました。

平成3年度に行った宿野遺跡の調査は、久保泉東部地区で第6年次の発掘調査にあたり、本書はその発掘調査報告書であります。調査の結果、奈良時代集落の一部、平安時代前半の墓地、鎌倉時代集落の一部を検出するとともに、今から約8,000年前の縄文時代早期の押型文土器を確認しました。

とくに、押型文土器の出土は、縄文時代前半期の遺跡の検出例が少ない佐賀市域では、貴重な資料であります。

この報告書が、市民のみなさんの郷土の歴史学習に役立ち、先人の文化遺産の偉大さを知っていただけるならば、幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を行うにあたってご協力いただいた地元の方々に、深く感謝いたします。

平成5年3月

佐賀市教育委員会
教育長 野口 健

例 言

1. 本書は、農業基盤整備事業に伴い、平成3年度に実施した宿野遺跡1～8区の発掘調査報告書である。
2. 調査は、佐賀県農林部の委託と国庫補助を受けて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査地の所在および規模などは、以下のとおり。

遺跡登録番号	1010・2011・3010	遺跡略号	SKN-1～8
調査地	久保泉町大字川久保字御供田	開発面積	293,000m ²
調査対象面積	10.080m ²	調査実施面積	10,080m ²
調査期間	平成3年6月26日～同年12月24日		

4. 発掘調査・整理作業・報告書作成の作業分担は、以下のとおり。

表土除去：山豊建設株式会社

全体遺構実測：(有)埋蔵文化財サポートシステム

個別遺構実測：前田達男・山口一郎

空中写真：有限会社空中写真企画

遺構写真：前田・山口

遺物写真：前田

遺物復元：馬場恵美子・古賀尚子

遺物実測：古賀・前田

製図：古賀・前田

5. 調査記録類・出土遺物は、佐賀市文化財資料館（佐賀市本庄町大字本庄1121番地）で、一括保管している。巻末の収藏品目録を参照されたい。
6. 本書の執筆・編集は、前田がこれにあたった。

凡 例

1. 遺構については略記号を用いる。調査区ごとに連番号をつけ、その番号の前に遺構分類記号をつけた。SD：溝・堀、SK：土塋、SP：土塋墓、P：小穴。
2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物のそれはcm単位とした。
3. 表示した方位は、すべて座標北（G、N）である。
4. 容器類の掲載図で、断面白ヌキ：縄文土器・土師器、断面網カケ：瓦器、断面黒ヌキ：須恵器・陶磁器、断面斜線：滑石製石鍋、を表現している。
5. 容器類で、完形とは破片の接合によって完形状態にあるものをいい、完存とは破損が認められない完形状態にあるものをいう。

本文目次

I. 序 説	1	(2)溝と出土遺物	34
1. 調査にいたる経過	1	(3)土壙と出土遺物	37
2. 調査の組織	1	2. その他の出土遺物	38
II. 遺跡の位置と環境	2	3. 小 結	38
1. 遺跡の位置	2	VIII. 5区の記録	39
2. 遺跡の地理的環境	3	1. 古墳時代の遺構と遺物	44
3. 遺跡の歴史的環境	4	(1)土壙と出土遺物	44
III. 調査の概要	7	2. 鎌倉時代の遺構と遺物	46
1. 調査の概要	7	(1)溝と出土遺物	46
2. 遺跡の概要	8	(2)土壙と出土遺物	48
IV. 1区の記録	9	3. 小 結	52
V. 2区の記録	11	IX. 6区の記録	55
VI. 3区の記録	14	1. 鎌倉時代の遺構と遺物	55
1. 縄文時代遺跡	14	(1)溝と出土遺物	55
2. 平安時代の遺構と遺物	22	(2)土壙と出土遺物	81
(1)土壙墓と出土遺物	22	(3)その他の出土遺物	92
3. 鎌倉・室町時代の遺構と遺物	24	2. 小 結	92
(1)土壙と出土遺物	24	X. 7区の記録	92
(2)溝と出土遺物	27	1. 奈良時代の遺構と遺物	94
4. その他の出土遺物	29	(1)土壙と出土遺物	94
5. 小 結	29	(2)その他の出土遺物	97
VII. 4区の記録	30	XI. 8区の記録	97
1. 室町時代の遺構と遺物	34	文献一覧	102
(1)堀と出土遺物	34		

表 目 次

Tab.1:土師器供膳具観察表(1)	99	Tab.3:土師器供膳具観察表(3)	101
Tab.2:土師器供膳具観察表(2)	100		

挿 図 目 次

Fig. 1：宿野遺跡位置図 …………… 2	Fig.32：S K 4 0 4 土壙 ……………38
Fig. 2：佐賀市北部の洪積台地群 …………… 3	Fig.33：S K 4 1 3 土壙 ……………39
Fig. 3：周辺主要遺跡分布図 …………… 5	Fig.34：宿野遺跡 4 区表採遺物 ……………40
Fig. 4：調査区設定図 …………… 8	Fig.35：宿野遺跡 5 区北壁土層断面 ……………40
Fig. 5：宿野遺跡 1 区南壁土層断面 …………… 9	Fig.36：宿野遺跡 5 区遺構配置図 ……41～42
Fig. 6：宿野遺跡 1 区遺構配置図 ……………10	Fig.37：S K 5 0 6 土壙 ……………43
Fig. 7：宿野遺跡 1 区出土遺物 ……………11	Fig.38：S K 5 0 6 出土遺物 ……………44
Fig. 8：宿野遺跡 2 区遺構配置図 ……………12	Fig.39：S D 5 0 1 溝 ……………45
Fig. 9：宿野遺跡 2 区出土遺物 ……………13	Fig.40：S D 5 0 1 出土遺物 1 ……………47
Fig.10：宿野遺跡 3 区遺構配置図 ……15～16	Fig.41：S D 5 0 1 出土遺物 2 ……………48
Fig.11：宿野遺跡 3 区試掘坑設定図 ……17	Fig.42：S D 5 0 3・5 0 4 区画溝 ……48
Fig.12：宿野遺跡 3 区出土縄文土器 1 ……18	Fig.43：S D 5 0 3 出土遺物 ……………49
Fig.13：宿野遺跡 3 区出土縄文土器 2 ……19	Fig.44：S K 5 0 2 土壙 ……………49
Fig.14：宿野遺跡 3 区出土縄文土器 3 ……20	Fig.45：S K 5 0 5 土壙 ……………50
Fig.15：S P 3 0 4 土壙墓 ……………22	Fig.46：S K 5 0 2・5 0 5 出土遺物 ……51
Fig.16：S P 3 0 4 出土遺物 ……………23	Fig.47：S K 5 1 0 土壙 ……………51
Fig.17：S K 3 0 2 土壙 ……………24	Fig.48：S K 5 1 0 出土遺物 ……………52
Fig.18：S K 3 0 3 土壙 ……………25	Fig.49：宿野遺跡 6 区遺構配置図 ……53～54
Fig.19：S K 3 0 2・3 0 3 出土遺物 ……26	Fig.50：S D 6 0 1・6 0 2 出土遺物 ……55
Fig.20：S K 3 1 1 土壙 ……………27	Fig.51：S D 6 0 3・6 0 4 出土遺物 ……57
Fig.21：S K 3 1 1・3 2 8 出土遺物 ……27	Fig.52：S D 6 0 4 区画溝 ……………58
Fig.22：S K 3 3 0・3 3 1 出土遺物 ……28	Fig.53：S D 6 1 2 出土遺物 ……………59
Fig.23：SD 332・324・325 出土遺物 …… 28	Fig.54：S D 6 1 3 溝 ……………60
Fig.24：SD 332・324・325 土層断面 …… 29	Fig.55：S D 6 1 3 出土遺物 ……………61
Fig.25：宿野遺跡 3 区表採遺物 ……………30	Fig.56：S D 6 1 4・6 1 5 土層断面 ……62
Fig.26：宿野遺跡 4 区遺構配置図 ……31～32	Fig.57：S D 6 1 4 出土遺物 1 ……………63
Fig.27：S D 4 0 1 堀 ……………33	Fig.58：S D 6 1 4 出土遺物 2 ……………64
Fig.28：SD 401・402・405 出土遺物 …… 34	Fig.59：S D 6 1 4 出土遺物 3 ……………65
Fig.29：S D 4 0 2・4 0 3 区画溝 ……35	Fig.60：S D 6 1 4 出土遺物 4 ……………66
Fig.30：SK 404・SD 411・412 出土遺物 …… 36	Fig.61：S D 6 1 4 出土遺物 5 ……………67
Fig.31：SK 413・SD 416 出土遺物 …… 37	Fig.62：S D 6 1 4 出土遺物 6 …… ……68

Fig.63 : S D 6 1 4 出土遺物 7	69	Fig.83 : S K 6 1 0 土壙	85
Fig.64 : S D 6 1 4 ・ 6 1 5 出土遺物 1	70	Fig.84 : S K 6 0 9 ・ 6 1 0 土壙	85
Fig.65 : S D 6 1 4 ・ 6 1 5 出土遺物 2	71	Fig.85 : S K 6 1 8 土壙	86
Fig.66 : S D 6 1 4 ・ 6 1 5 出土遺物 3	72	Fig.86 : S K 6 1 8 出土遺物 1	87
Fig.67 : S D 6 1 4 ・ 6 1 5 出土遺物 4	73	Fig.87 : S K 6 1 8 出土遺物 2	88
Fig.68 : S D 6 1 4 ・ 6 1 5 出土遺物 5	74	Fig.88 : S K 6 1 8 出土遺物 3	89
Fig.69 : S D 6 1 5 出土遺物	75	Fig.89 : S K 6 1 9 土壙	90
Fig.70 : S D 6 1 1 区画溝	76	Fig.90 : S K 6 2 0 土壙	90
Fig.71 : S D 6 1 6 土層断面	76	Fig.91 : S K 6 1 9 ・ 6 2 0 出土遺物	91
Fig.72 : S D 6 1 6 出土遺物	77	Fig.92 : 宿野遺跡 6 区出土遺物	91
Fig.73 : S D 6 1 7 土層断面	78	Fig.93 : 宿野遺跡 7 区遺構配置図	93
Fig.74 : S D 6 1 7 出土遺物	79	Fig.94 : 宿野遺跡 7 区北壁土層断面	94
Fig.75 : S D 6 2 1 出土遺物	80	Fig.95 : S K 7 0 1 出土遺物 1	94
Fig.76 : S D 6 2 2 ・ 6 2 3 出土遺物	80	Fig.96 : S K 7 0 1 土壙	95
Fig.77 : S K 6 0 5 土壙	81	Fig.97 : S K 7 0 1 出土遺物 2	96
Fig.78 : S K 6 0 5 出土遺物	82	Fig.98 : 宿野遺跡 7 区出土遺物	97
Fig.79 : S K 6 0 6 ・ 6 0 7 土壙	83	Fig.99 : 宿野遺跡 8 区遺構配置図	98
Fig.80 : S K 6 0 8 土壙	83	Fig.98 : 宿野遺跡 7 区出土遺物	97
Fig.81 : S K 6 0 6 ・ 6 0 8 出土遺物	84	Fig.99 : 宿野遺跡 8 区遺構配置図	98
Fig.82 : S K 6 0 9 土壙	85		

図 版 目 次

PL.1 宿野遺跡遠景	
PL.2 1 : 宿野遺跡 3 区全景、2 : 宿野遺跡 5 ・ 6 区全景	
PL.3 1 : 宿野遺跡 5 区全景、2 : 宿野遺跡 6 区全景	
PL.4 1 : 宿野遺跡 1 区、2 : 宿野遺跡 1 区、3 : 宿野遺跡 2 区、4 : 宿野遺跡 2 区、5 : SK 302、 6 : SP 304、7 : SP 304 遺物出土状況、8 : SP 304 遺物出土状況	
PL.5 1 : SD 401、2 : SD 401、3 : SD 401、4 : SD 401 Aベルト、5 : SD 401 Bベルト、 6 : SD 401 Cベルト、7 : SK 404、8 : SK 404、9 : SK 404、10 : SK 404	
PL.6 1 : SK 413、2 : 宿野遺跡 4 区南西側、3 : 宿野遺跡 4 区西側、4 : 宿野遺跡 4 区南東側、 5 : 宿野遺跡 4 区北西側、6 : 宿野遺跡 4 区西側、7 : 宿野遺跡 4 区南東側、8 : 宿野遺跡 4	

区

- PL.7 1: 宿野遺跡 5 区北壁、2: SD 501 Aベルト、3: SK 502、4: SK 502、5: SD 503 B
ベルト、
6: SD 503 Cベルト、7: SK 510、8: SD 604 南壁
- PL.8 1: SD 604、2: SD 604、3: SD 604、4: SD 604、5: SK 605、6: SK 606、7: SK 607、
8: SK 608
- PL.9 1: SK 609、2: SK 610、3: SD 612 Aベルト、4: SD 613 Cベルト、5: SD 614・615
Bベルト、6: SD 616 Bベルト、7: SD 617 Aベルト、8: SK 620
- PL.10 1: SK 618、2: SK 618、3: SK 619、4: SK 619、5: SK 701、6: 宿野遺跡 7 区西側、
7: 宿野遺跡 7 区東側、8: 宿野遺跡 8 区
- PL.11 SP 304 出土遺物、3 区出土遺物、SD 501 出土遺物
- PL.12 SK 505 出土遺物、6 区出土遺物、SD 603 出土遺物、SK 606 出土遺物、SK 608 出土
遺物、SD 612 出土遺物
- PL.13 SD 612 出土遺物、SD 613 出土遺物、SD 614 出土遺物
- PL.14 SD 614 出土遺物、SD 614・615 出土遺物
- PL.15 SD 614・615 出土遺物
- PL.16 SD 614・615 出土遺物、SD 615 出土遺物、SD 616 出土遺物、SK 618 出土遺物
- PL.17 SK 618 出土遺物、SK 701 出土遺物、1 区出土遺物、2 区出土遺物
- PL.18 2 区出土遺物、3 区出土縄文土器
- PL.19 3 区出土縄文土器
- PL.20 3 区出土縄文土器
- PL.21 3 区出土縄文土器、SK 303 出土遺物、SD 322 出土遺物、SK 328 出土遺物、
SD 324 出土遺物
- PL.22 SK 330 出土遺物、SD 401 出土遺物、SK 404 出土遺物、SD 416 出土遺物、4 区出土
遺物、SD 501 出土遺物、SK 510 出土遺物
- PL.23 SD 501 出土遺物、SD 503 出土遺物、SD 604 出土遺物、SD 614 出土遺物
- PL.24 SK 618 出土遺物、SK 619 出土遺物

1. 調査にいたる経過

I. 序 説

1. 調査にいたる経過

平成2年10月26日に佐賀県農林部から、平成3年度の久保泉東部地区における農業基盤整備事業計画が提示された。29.3haにわたる施工計画範囲は、そのほぼ全域が周知の埋蔵文化財包蔵地である熊本山遺跡・牟田々遺跡・東高田遺跡・宿野遺跡・櫟木遺跡と重複していた。この事業計画を受けて、県農林部・佐賀市土地改良課・佐賀県教育委員会文化財課・佐賀市教育委員会社会教育課（平成3年度から文化課）の四者で、埋蔵文化財の保存について協議を行い、平成2年11月に県文化財課が市社会教育課から職員の派遣を受けて当該地区の試掘調査を実施することになった。

試掘調査は11月5日から14日にかけて7日間行われ、その結果、宿野遺跡・櫟木遺跡で約69,800㎡にわたり遺跡の広がりを確認した。

この調査結果に基づき先の四者で協議を重ね、盛土などの計画・設計変更で対応できる部分については埋蔵文化財を保存し、止むを得ず削平される水路・高畑部分などにあたる宿野遺跡の10,080㎡については平成3年度に発掘調査を行い記録保存を図ることで、平成2年12月20日に協議がまとまった。

農林省と文化庁の取り決めにより、農家負担分にあたる調査面積の1/4 (2,520㎡) を国庫補助事業で、3/4 (7,560㎡) については県農林部の委託事業として、佐賀市教育委員会文化課が発掘調査を実施した。

発掘調査は、平成3年6月26日から開始し、同年12月24日にすべての現地作業を終了した。出土遺物・調査記録の整理作業及び報告書作成は、平成4年1月から平成5年3月にかけて、佐賀市文化財資料館で行った。

2. 調査の組織

以下の体制で調査を行った。初夏の長雨と盛夏の炎天、二度にわたる台風と12月の寒風をのりきり、作業員各位の健闘と多くの人々の協力と激励によって、無事に調査が終了したことをここに明記し、感謝したい。

事業主体 佐賀市教育委員会

事務局 教育委員会文化課

文化課長：総括 中野和彦

文化係長：庶務総括 野口義通

事務吏員：庶務担当 増田耕輔 (前任) 甲木亮一

文化財係長：調査総括 福田義彦

事務吏員：調査・報告書担当 前田達男

1. 序 説

事務吏員：調査担当 山口一郎

発掘作業員 朝鶴クニ子・井田英子・井田フミ子・伊東のり子・内村美里・江口マサミ・大坪エイ・大野ユキエ・緒方敏子・亀川すえみ・川崎義雄・小出香澄・小林澄子・小林美智子・酒見節子・貞包久枝・篠木美枝子・柴田和子・下村保枝・千住藤子・副島かすみ・託間正子・武富ヨシエ・角田絹子・角田千代乃・富永ツヤ子・友添丸子・中島サツ子・中野俊昭・畑瀬弘・原京子・原ツル・原敏子・樋口イマ・樋口マツミ・真崎イサ子・宮地峰子・武藤明子・武藤ツル代・山田久子・山田八重子・山本江美子・龍由美子

整理作業員 古賀尚子・馬場恵美子

調査協力 地元各位・佐賀県農林部・佐賀市土地改良課・久保泉土地改良区・佐賀県教育委員会

調査指導・助言 宮武正登*1（佐賀県文化課）・下山正一*2（九州大学理学部）

*1：宮武氏には、中世集落遺跡のありかたについて、様々なご教示をいただいた。

*2：下山氏には、遺跡周辺における地下の地形・地質について有益なご助言をいただいた。

II. 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

佐賀市は佐賀県の東南部に位置し、その市域は北の脊振山系から南の有明海沿岸にいたる佐賀平野*1中央部を縦貫するかたちで広がっている。市域は、東側で佐賀郡諸富町・神埼郡神埼町・千代田町に接し、最東方で筑後川を挟んで福岡県大川市と対向し、西側で佐賀郡大和町・久保田町・小城郡三日月町、南側で佐賀郡東与賀町・川副町、北側では佐賀郡大和町・神埼郡脊振村に接する。宿野遺跡は、市域北東部の久保泉町に所在し、神埼町との市町境に近い東端に位置する。佐賀市中心部に所在する佐賀市役所からは東北約8km



Fig.1 宿野遺跡位置図 (1/1,000,000)

1. 遺跡の位置

の距離である。宿野遺跡が所在する久保泉町は、宅地化があまり進んでいなくて、大部分が田・畑などの農地として利用されている。

2. 遺跡の地理的環境

市域の地形は、北から山地帯・洪積台地・合流（複合）扇状地帯・沖積低地に分類〔経済企画庁1966〕される。市域最北部は脊振山系が東西に連なる山地帯である。山地帯の南麓には、標高40～15m付近で洪積台地が発達している。台地は舌状あるいは樹枝状の低丘陵として南に突き出しているが、台地の崖は標高15m付近で終息し、明確な段位は看取できない。標高15～5m付近は、嘉瀬川・巨勢川などの河川群による合流扇状地帯が分布するが、北からのびる洪積台

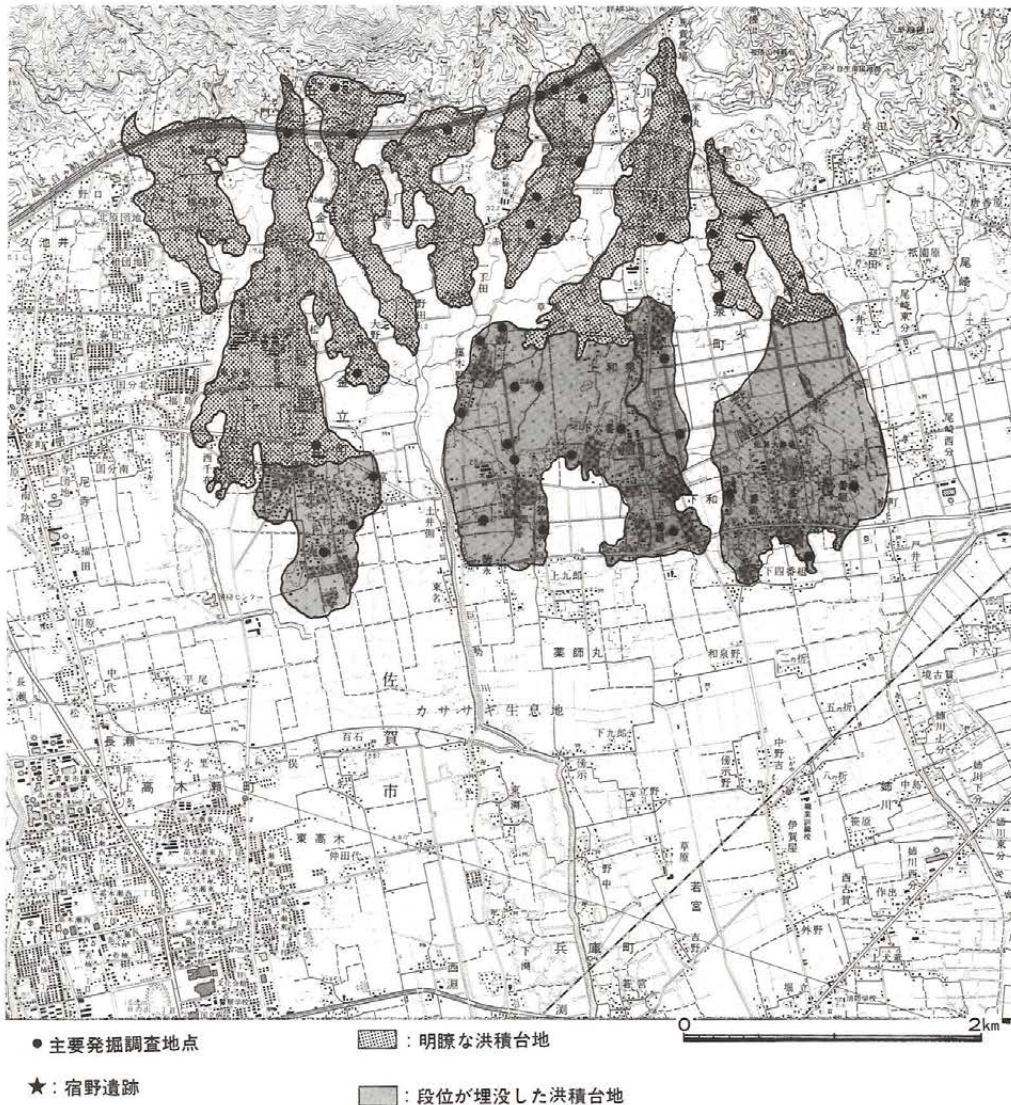


Fig. 2 佐賀市北部の洪積台地群 (1/50,000)

II. 遺跡の位置と環境

地が埋没し、複雑な微地形を形成している。標高7~4m付近は、扇状地帯の下位ないし沖積低地の上位にあたるが、その境界が不分明な漸移地帯である。それ以南は三角州などの平坦な沖積低地が広がる。

Fig.2に佐賀市北部の洪積台地群と主要発掘調査地点を示した。これらの台地群は低位段丘面にあたる。洪積台地群とその先端が埋没した部分に遺跡が集中していることがわかる。これらの台地群上に縄文時代遺跡は点在するが、弥生時代*2~古墳時代前半の集落遺跡は南側の台地の埋没部分に集中し、古墳時代後半~奈良時代の集落遺跡は台地上を北進する傾向にあり、平安時代~鎌倉時代の集落は再び台地の先端から埋没部分にかけて出現する。これらの洪積台地群に立地する遺跡群に対し、標高3m前後の市域南部の沖積地では、弥生時代III期から多量の遺物とともに集落が開始され、平安時代後半まで集落が点在する傾向にあるが、平安時代末~鎌倉時代には集落は安定的に増加する。北部の台地群でも南部の沖積地でも、室町時代以降の集落は検出例がほとんどなく、現在の集落の地下にもぐり込んでいる可能性が高い。

宿野遺跡は、北部の段位が明確な洪積台地上と、その下位の扇状地面に立地する。標高は18~20mほどをはかる。

3. 遺跡の歴史的環境

宿野遺跡が所在する佐賀市久保泉町は、現時点では市域において最も発掘調査件数が多い地区で、弥生時代から鎌倉時代にかけての遺跡の変遷が具体的に捉えられつつある。近年の調査成果を中心に、久保泉町周辺の主要遺跡を概観したい。

旧石器時代遺跡については、いまだによくわかっていない。

縄文時代遺物の出土地点は、近年増加している。早期の押型文土器が千布二本黒木遺跡〔西田・前田1993〕で、前期の曾畑系土器が篠木野遺跡〔角1993〕で、中期の阿高系を主体とする資料が来迎寺遺跡〔加藤・福田・前田1990〕で確認された。川久保遺跡*3では土壙群とともに曾畑系土器が出土している。平成5年度に発掘調査が予定されている新発見の東名遺跡*4では、標高4mほどの後背湿地的な低平地の粘土層中で早期末の塞ノ神式土器が確認されている。

弥生時代に入ると確実に遺跡は増加し、調査例も多い。北部の集落遺跡としては、I期の泉三本栗遺跡〔福田1987〕・琵琶原遺跡・赤井出遺跡*5、II期の大野原遺跡〔西田1993〕、II~III期の立野遺跡〔福田1989〕・久富遺跡〔福田1985/木島1992〕・浦田遺跡*6、III~IV期の村徳永遺跡〔前田ほか1990/木島1990/前田1991/前田1992/西田1992〕・南宿遺跡〔前田ほか1990/西田・木島1992〕、V期の琵琶原遺跡〔福田1981〕・赤井出遺跡*5・大野原遺跡〔西田1993〕などで調査が行われ、IV期の村徳永遺跡とV期の琵琶原遺跡で大規模な集落が確認されている。南部の集落遺跡は、III期の瓦町遺跡〔前田・牟田1992〕、V期の牟田寄遺跡〔福田1990/前田ほか1990/福田1993〕で調査が行われ、瓦町遺跡では漆塗木製高杯をはじめ多量の木製品が出土し、牟田寄遺跡は千住遺跡*7と合わせて大規模な集落であることがわかった。墓地遺跡は南部では検出

3. 遺跡の歴史的環境



- | | | | |
|------------|---------|---------|---------|
| ①：宿野遺跡 | ⑦：立野遺跡 | ⑬：琵琶原遺跡 | ⑰：本村遺跡 |
| ②：千布二木黒木遺跡 | ⑧：久富遺跡 | ⑭：赤井出遺跡 | ⑱：徳永遺跡 |
| ③：篠木野遺跡 | ⑨：浦田遺跡 | ⑮：瓦町遺跡 | ⑲：古陣館跡 |
| ④：川久保遺跡 | ⑩：大野原遺跡 | ⑯：牟田寄遺跡 | ⑳：土生島館跡 |
| ⑤：東名遺跡 | ⑪：村徳永遺跡 | ⑰：来迎寺遺跡 | ㉑：上和泉遺跡 |
| ⑥：泉三本栗遺跡 | ⑫：南宿遺跡 | ⑱：千住遺跡 | ㉒：東高田遺跡 |

Fig. 3 周辺主要遺跡分布図 (1/50,000)

II. 遺跡の位置と環境

例がなく、北部では集落内の群集しない小形土器棺墓の他は、東千布遺跡 [福田1985]・篠木野遺跡 [角1993] で大形土器棺墓群が確認されている。

古墳時代前半の集落遺跡は琵琶原遺跡 [福田1981]・泉三本栗遺跡 [福田1987] 久富遺跡 [福田1985/木島1992]・大野原遺跡 [西田1993]・本村遺跡 [前田1990]・徳永遺跡*⁸・御手水遺跡*⁹ で調査が行われ、後半の集落遺跡では古村遺跡 [前田ほか1990]・原ノ町遺跡・東高田遺跡 [西田・木島1992]・村徳永遺跡 [前田1992]・御手水遺跡*⁹ で調査が行われた。

奈良時代の集落遺跡は、大日遺跡 [木島1989a]・古村遺跡 [前田ほか1990]・琵琶原遺跡 [福田1981]・原ノ町遺跡・東高田遺跡 [西田・木島1992]・御手水遺跡*⁹ で調査が行われた。琵琶原遺跡では「稲主」「五月」と読める墨書土器が出土した。

平安時代前半の集落遺跡は、上和泉遺跡 [福田1988a/福田1988b]・泉三本栗遺跡 [福田1987]・村徳永遺跡 [前田ほか1990/木島1990/前田1991/前田1992/西田1992]・徳永遺跡*⁸ で調査が行われている。特に徳永遺跡では広い範囲に掘立柱建物群が分布し畑と思われる耕作痕跡を伴って検出され、この磁器の集落の様相をくわしく示す資料として注目される。

平安時代後半から鎌倉時代の集落遺跡は、継続して南北朝期に断絶するものが多い。本村遺跡 [前田1990/前田ほか1990/徳永・宮武1991]・村徳永遺跡 [福田1989/木島1989b/木島1990/前田ほか1990/前田1991]・立野遺跡 [福田1989]・千布二本黒木遺跡 [西田・前田1993]・徳永遺跡*⁸ と古陣館跡周辺の遺跡群*¹⁰、で調査が行われている。特に徳永遺跡では30,000㎡を超える範囲で矩形の堀を伴う館跡が検出され、その内部では規模が大きな掘立柱建物をはじめ濃厚な密度の遺構群が確認された。一町二町の規模で複数の堀と土塁を有する古陣館跡の年代はまだ不明であるが、その周辺では鎌倉時代の60棟以上の掘立柱建物群を検出している。また、本村遺跡の周辺は<安富荘泉村>と呼ばれた荘園内村落に属し、肥前国衙領→大宰府府領(平家領)→関東御領(鎌倉将軍家領)→北条得宗領といった図式で領有形態が変遷し、南北朝期には北朝方の恩賞配分により細分割領有され、荘園内村落としてのまとまりがなくなったものと想定されている [徳永・宮武1991]。

南北朝期を含む室町時代の集落遺跡で、確実な調査例は少ない。川久保遺跡*³と川久保松原遺跡*¹¹で検出された掘立柱建物群は南北朝期にあたる可能性がある。浦田遺跡*⁶では室町時代末の掘立柱建物群が検出されている。また、友貞遺跡*¹²では土塁と堀を伴う館跡が確認されている。

江戸時代の集落遺跡では、村徳永遺跡 [前田1991]・北宿遺跡 [西田・木島1992] で調査が行われ、村徳永遺跡では屋敷地の一部を確認している。

* 1 : <佐賀平野>は、広義には筑紫平野の筑後川以西の平野部をさし、狭義には筑後川と六角川の間の平野部をさす、本書で<佐賀平野>という場合は、狭義の<佐賀平野>をいう。

1. 調査の概要

- * 2：弥生時代の時期区分に関して、従来の相対区分（前期・中期・後期）は記述者各人の微妙なニュアンスでさらに細分されて用いられ、共通の基準とはなりにくくなっている。本書では、この相対区分にかえて便宜的に弥生時代をⅠ～Ⅴ期に区分する。北部九州での従来の相対区分との対応はおおまかに、Ⅰ期：前期、Ⅱ期：中期前半、Ⅲ期：中期後半、Ⅳ期：後期前半、Ⅴ期：後期後半、と理解されたい。突帯文土器単純期は、Ⅰ期に含めず、先Ⅰ期（早期）ともしない。
- * 3：平成4年度、佐賀市教育委員会発掘調査。平成5年度報告書刊行予定。
- * 4：平成2年度、佐賀市教育委員会試掘調査。
- * 5：平成4年度、佐賀市教育委員会発掘調査。平成5年度報告書刊行予定。
- * 6：平成4年度、佐賀市教育委員会発掘調査。平成5年度報告書刊行予定。
- * 7：平成4年度、佐賀市教育委員会発掘調査。平成5年度報告書刊行予定。
- * 8：平成3年度以降、佐賀市教育委員会が発掘調査中。
- * 9：平成4年度、佐賀市教育委員会発掘調査。平成5年度報告書刊行予定。
- * 10：平成3年度以降、佐賀市教育委員会が発掘調査中。
- * 11：平成4年度、佐賀市教育委員会発掘調査。平成5年度報告書刊行予定。
- * 12：平成4年度、佐賀市教育委員会試掘調査。平成5年度報告書刊行予定。

III. 調査の概要

1. 調査の概要

今回の発掘調査は平成3年度久保泉東部地区農業基盤整備事業に伴うもので、宿野遺跡における初例であり、工区や水路・道路で8分割された調査区は、宿野遺跡では第1～第8調査地点にあたる。

調査開始前の現況は水田・畑地であり、調査は1区から、機械力（バックホー）による表土の除去から開始した。0.2～1.2mほどの耕作土を除去すると遺構検出面があらわれた。遺構検出面は、2～6区は褐色粘土層・暗黄褐色～黄褐色の砂質土（二次真砂）であり、1区は暗灰色・黒灰色の粘質土、7・8区は暗灰色・黒灰色砂質土であった。遺構はこうした検出面に、黒色土・黒灰色・暗褐色土・灰褐色土・暗灰色土といった埋土が落ち込んだ状態で検出され、識別は比較的容易であった。

表土の除去後に、調査区全面に国土座標第Ⅱ系を基準とした5mの方眼を設定した。この方眼には各調査区ごとに、東西方向をアラビア数字、南北方向をアルファベットで名称を与えた。発掘調査における実測図の基準や遺構の位置表示などは、すべてこの方眼によって行っている。

人力による作業は遺構検出作業から開始し、順次遺構の掘り下げを行った。必要な遺構については個別実測図作成（1/10・1/20）を行い、検出した遺構のすべては完掘状態で全体遺構図（1/20）に記録している。個別の写真撮影は、35mmサイズで52mm・28mmレンズで行った。調査区の全体写真撮影は、バルーン空中写真による6×6cmサイズ、組立足場からの35mmサイズで行

III. 調査の概要

った。

2. 遺跡の概要

西端の1区は台地上の開析谷にかかり、2～6区は洪積台地上、7・8区は台地東側の扇状地面に立地する。標高は遺構検出面で17.5～19.5mほどである。調査区の西端は平成2年度に発掘調査を実施した東高田遺跡1区〔西田・木島1992〕に接し、同じ台地上の南1.5kmには櫟木遺跡の広型銅戈鑄型*1出土地点が所在する。

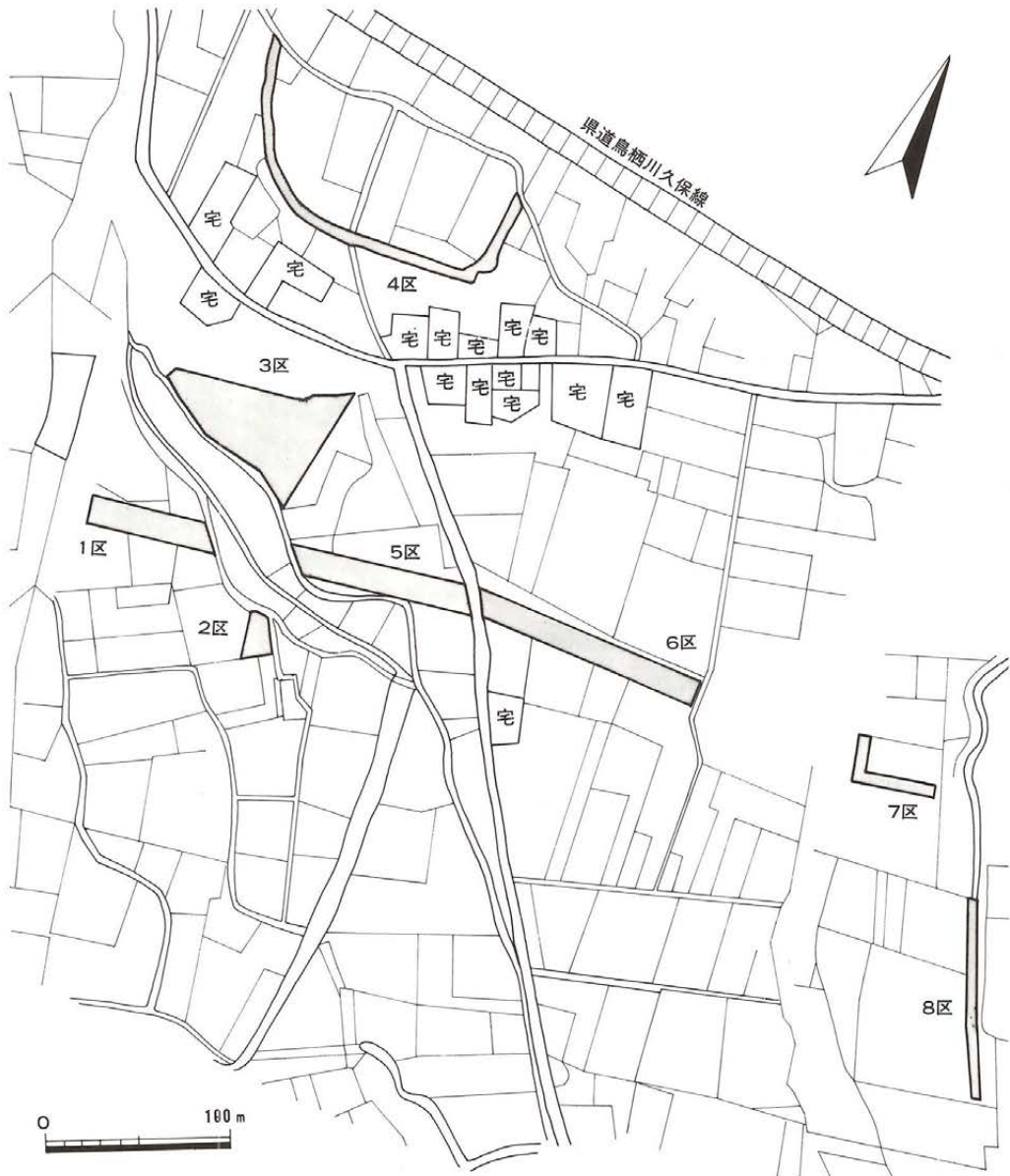


Fig. 4 調査区設定図 (1/4,000)

2. 遺跡の概要

1区では、明確な遺構はなく、奈良時代と近世の遺物がわずかに出土した。

2区では近現代の攪乱により遺跡は消滅していた。

台地のほぼ中央に位置する3区は、葡萄畑による攪乱が激しくかなりの遺構が消滅していた。良好な状況の包含層ではないが、楕円と山型の押型文土器が30点ほど出土し、楕円のものは口縁内面に縦位の沈線（原体条痕）を伴うものがある。また、平安時代前半の土壙墓を検出し、土師器の良好な一括資料を得た。

最も高所に位置する4区は、15世紀の用水路と溜め舂らしきものと、15～16世紀の堀を検出した。

5区では、古墳時代前半の竪穴住居らしきものと、14世紀前半の溝を検出した。

5区の西側に接する6区は、中世集落の一部にあたり、用水路・区画溝らしきものと土壙群を検出し、良好な土師器資料を得た。

7区では、奈良時代の土壙（土器溜）を検出した。

8区は、近現代の攪乱により遺跡は消滅していた。

* 1：畑の開墾中に発見され、現在は国立東京博物館に収蔵されている。

IV. 1区の記録

宿野遺跡1区は、台地上の開析谷にかかり、明確な遺構を検出していない。この状況は西側で調査区を接する東高田遺跡1区〔西田・木島1992〕でも同様で、この谷は南南東方向にぬけ、広い部分で幅100mほどである。

Fig.5に調査区南壁中央の土層断面を示した。上部の①～③層は新旧の耕作土で、①：暗褐

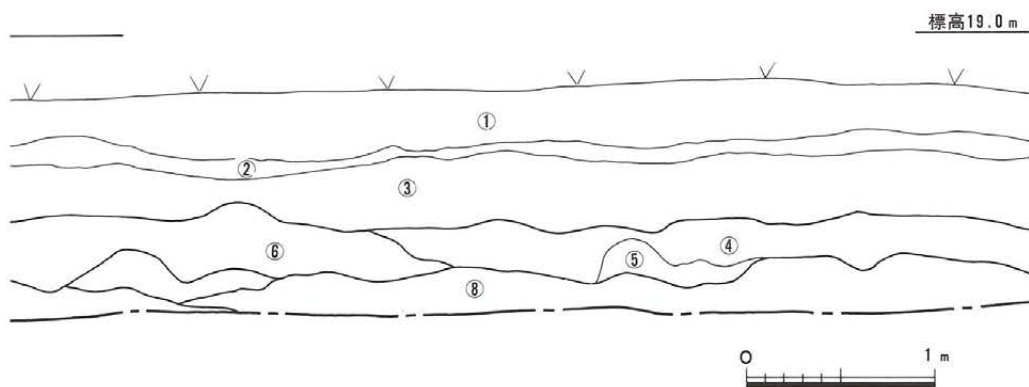


Fig. 5 宿野遺跡1区南壁土層断面 (1/40)

IV. 1区の記録

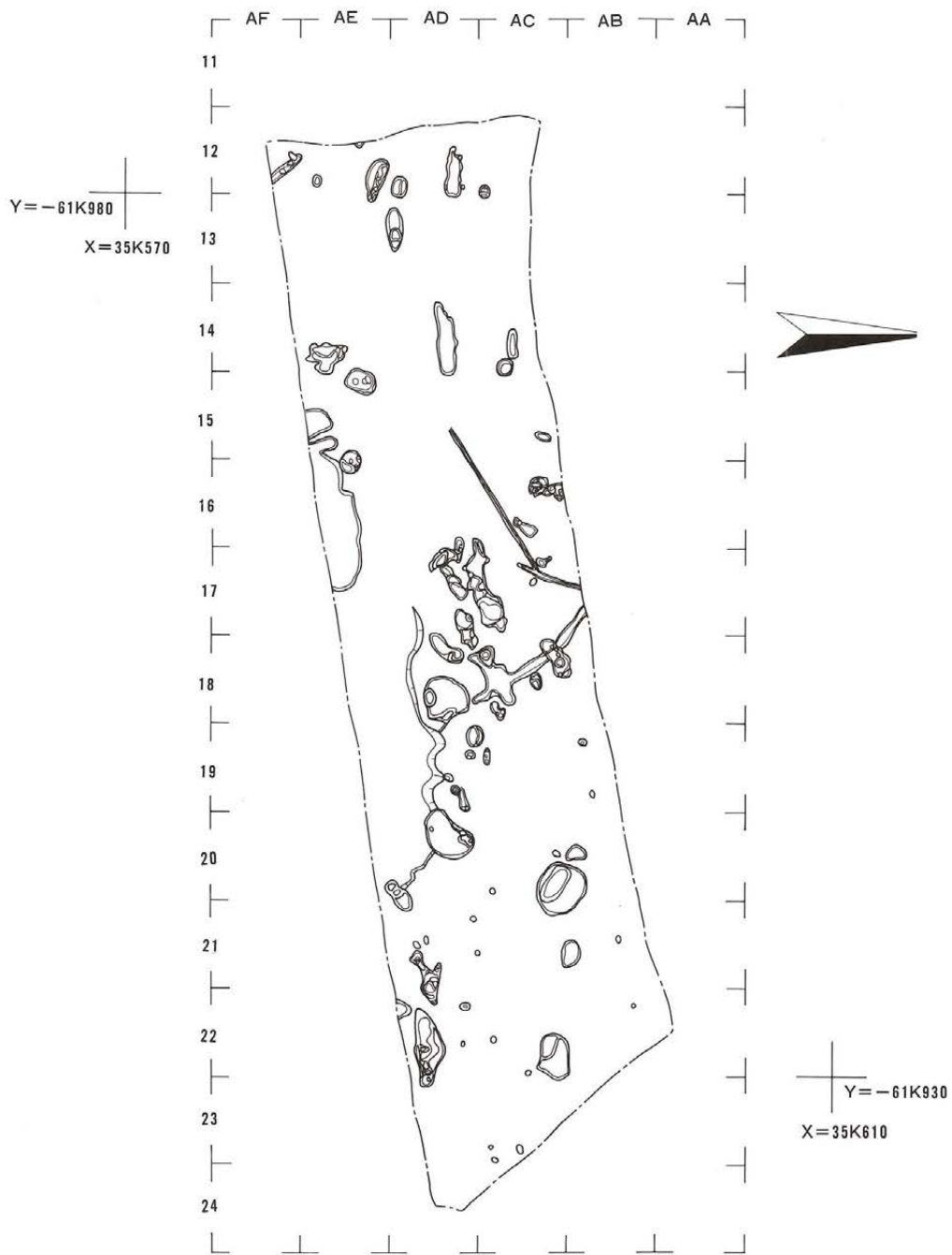


Fig. 6 宿野遺跡 1区遺構配置図 (1/400)

IV. 1区の記録

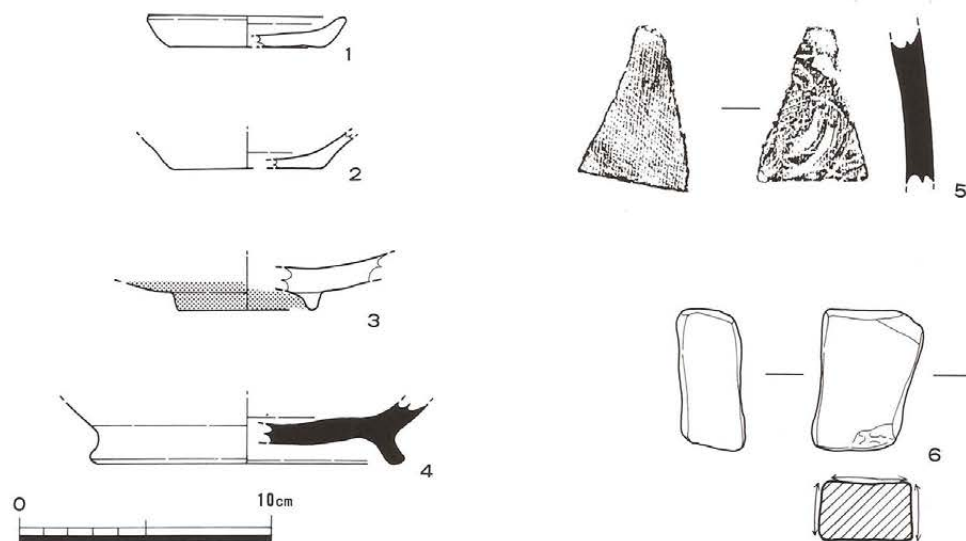


Fig. 7 宿野遺跡1区出土遺物 (1/3)

色砂質土、②：赤褐色砂質土、③：褐色砂質土である。下部の④層以下は谷の堆積層で、④層：黒褐色砂質土、⑤：黒褐色ブロック混入の黄褐色粘質土、⑥：黒褐色砂質土、⑦：黒褐色粘質土、⑧：白灰色ブロック混入の黒褐色粘質土であり、ゆるい鱗状の堆積を示す。

①～③層の表土を除去すると、④・⑥層上面で暗灰褐色土・黒灰色土の落ち込みが確認された。その落ち込みを掘り下げたところ、どれも5～10cmで浅く、内容も明確な遺構とは考えられなかった。調査区南壁にそって試掘坑を設定し、④・⑥層以下を掘り下げてみたが、遺物の出土は認められなかった。そこで、前述の検出面で確認した落ち込みを記録して調査を終了した。

Fig. 7に表土層や検出した落ち込みから出土した遺物を図示している。1は土師器皿で、復元口径7.6cm・器高1.2cm・復元底径6.0cm、糸切り底で、内外面回転ナデ、内底面にナデを加える。2はへら切り底の土師器杯破片で、復元底径6.0cm、内外面回転ナデ、内底面にナデ。3は黒色土器B類碗底部破片で、復元高台径5.4cm、調整は不明瞭。4は大振りな須恵器高台付杯の底部破片で、復元高台径12.4cm、内外面回転ナデ、内底面にナデを加える。5は須恵器瓶胴部破片で、外面は平行タタキ目をナデ消し、内面は円弧タタキ目である。6は砂岩系石材の砥石で、3面を使用している。

V. 2区の記録

宿野遺跡2区は前述した開析谷の西側で、3～6区が立地する台地とは谷地形で隔てられた台地側に立地する。

V. 2区の記録

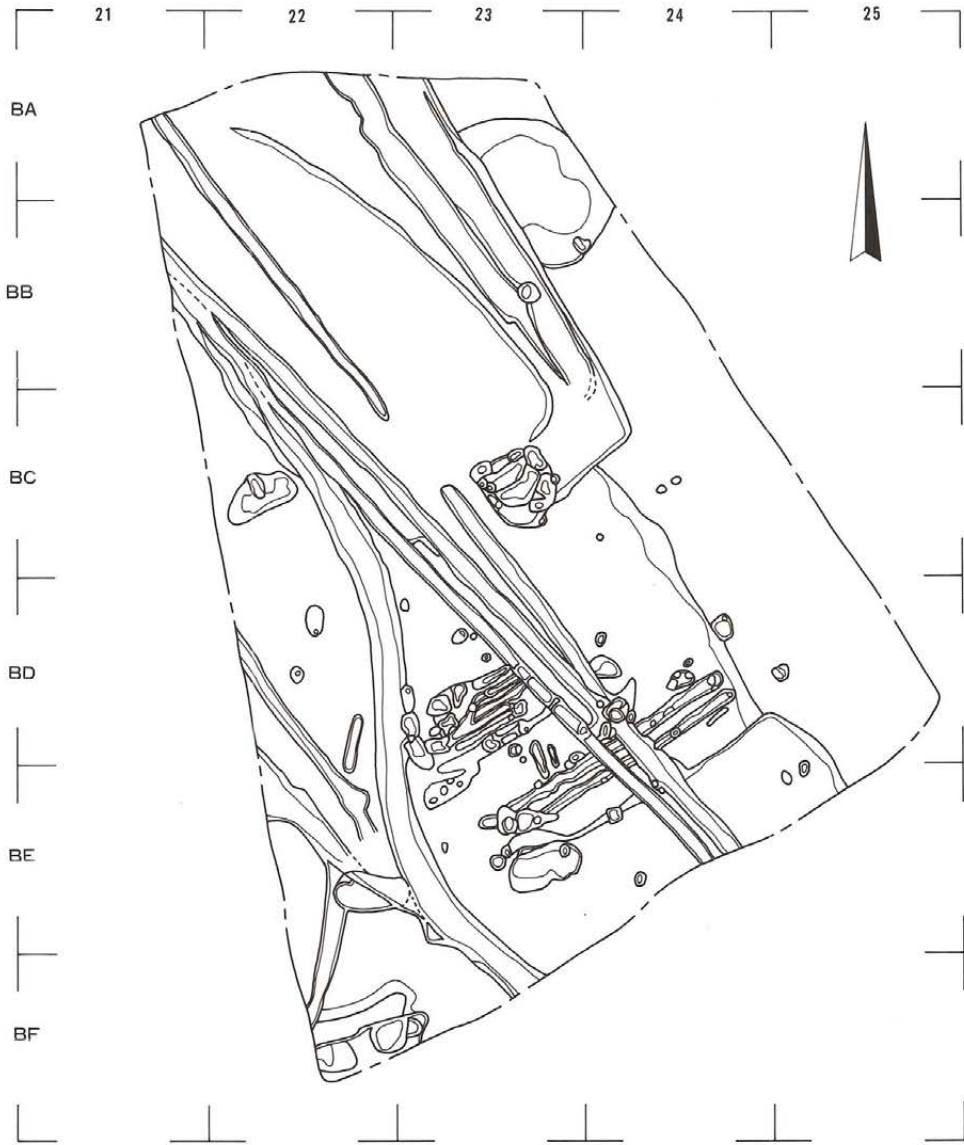


Fig. 8 宿野遺跡 2区遺構配置図 (1/200)

V. 2区の記録

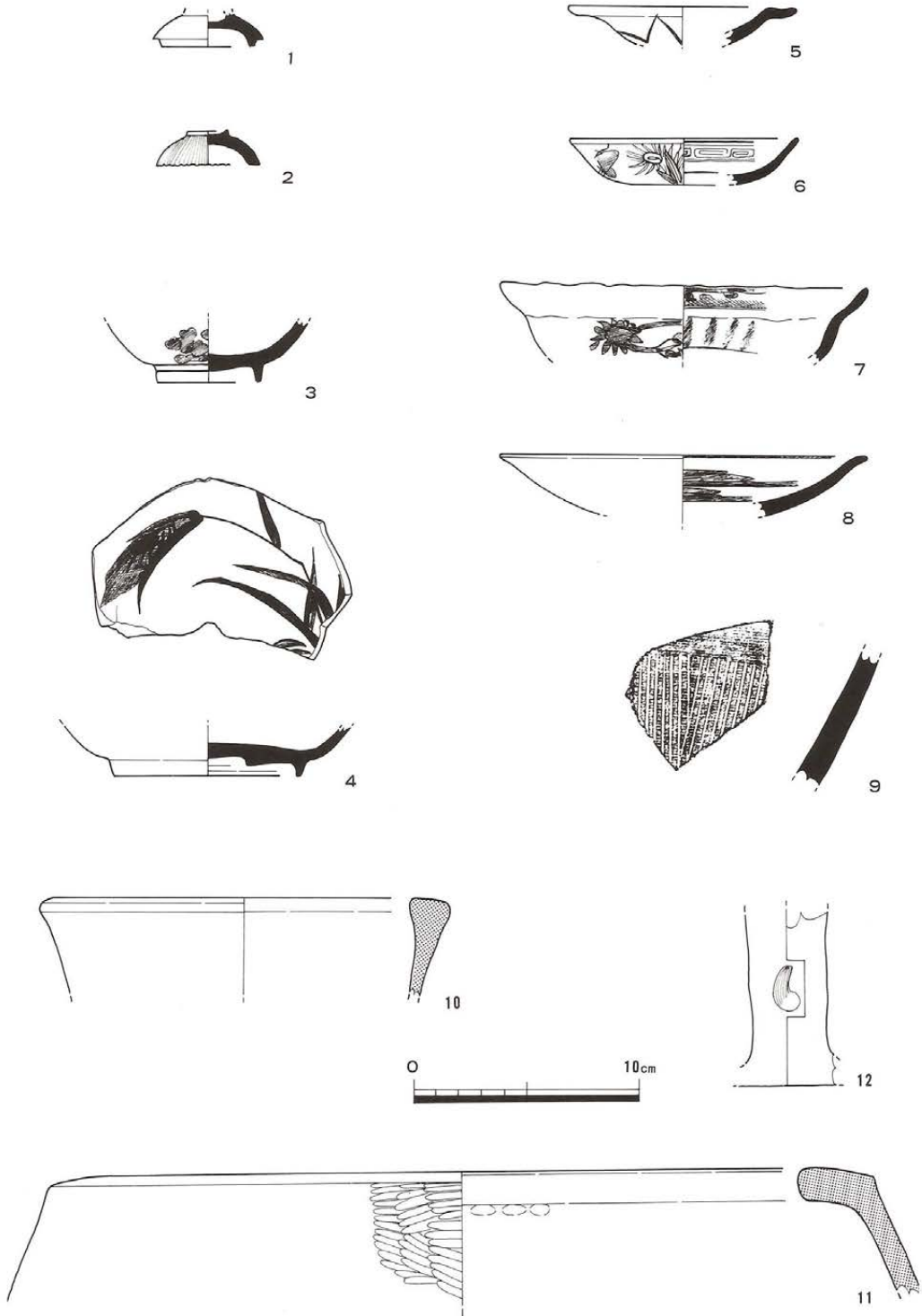


Fig. 9 宿野遺跡2区出土遺物 (1/3)

VI. 3区の記録

20cmほどの耕作土を除去すると、黄褐色砂質土の検出面が表れた。続いて検出作業を開始したが、調査区のほぼ全面が近現代の農地整備のために攪乱されていた。地形的にみて東高田遺跡1・2区と連続する遺跡が存在したと思われるが、攪乱のために消滅したものと判断した。一応、攪乱の状況を記録して、調査を終了した。

Fig.9に攪乱から出土した遺物を図示している。1は陶器合子で復元口径4.0cm。2は白磁合子で、復元口径4.6cm・器高1.5cm・天井部径1.8cm。3は染付碗で、復元高台径4.4cm。4は、染付碗で、高台径8.2cm。5は青磁皿で、復元口径10.0cm。6は染付皿で、復元口径10.0cm。7は染付皿で、復元口径18.0cm。8は染付皿で、復元口径16.0cm。9は陶器挿鉢である。10は瓦器鉢で、復元口径17.8cm、内外面横ナデ。11は瓦器鉢で、復元口径30.0cm、口縁部から内面横ナデ、外面横方向のヘラミガキ。12は土製品。

VI. 3区の記録

宿野遺跡3区は面積的にはまとまっていたが、全体に攪乱と削平が激しく、遺構の残存状況はよくない。遺物の量もかなり少なく、縄文時代遺物・奈良時代遺物は遺構に伴っていない。表土は0.2~1.2mほどで、遺構検出面は暗褐色~黄褐色の砂質土で、部分的に有機質土のような砂混じりの黒灰色土が堆積していた。遺構はこうした基盤面に暗褐色・黒褐色の有機質土が落ち込んだ状態で検出された。

1. 縄文時代の遺物

CI-44区画付近の遺構検出面で、縄文時代早期の押型文土器片を採集したので、遺構の掘り下げと記録作業が終了した後、試掘坑の掘り下げを行い、下部での遺跡の有無を確認することにした。Fig.11に示すように、攪乱された部分や掘り上げた遺構を除いて、調査区全面に1m×1mの試掘を設定し、掘削を行った。その結果、押型文土器の分布はCD~CH-43~45区画に限られ、前述した有機質土のような砂混じりの黒灰色土中か、暗褐色~黄褐色砂質土上面で出土した。

出土した押型文土器を、A類：比較的太めの楕円文を施してあるもの、B類：比較的細かい楕円文を施してあるもの、C類：大きな山形文を施してあるもの、に分類した。

A類 (Fig.12) 器壁は0.8~1.1cmと厚く、口縁内面に原体条痕はなく、内面は無文である。1はSK303出土の口縁部破片である。横走施文で、施文の重複関係から原体長3.4cm以上・原体径0.97cm前後・3単位・4条以上と推定できる。内面はナデ。2はCH-44区画出土の胴部破片である。横走施文で、施文の重複関係から原体長3.2cmと推定できるが、単位の復元は困難である。内面はナデ。3はSK317出土の胴部破片で、横走施文と思われるが、細片で原体の復元は推定はできない。内面ナデ。4はCI-44区画出土の胴部破片で、横走施文で、施文の重複関係から原体長3.2cm以上・原体径0.98cm前後・3単位・3条以上と推定できる。内面はヘラ状工具による横方

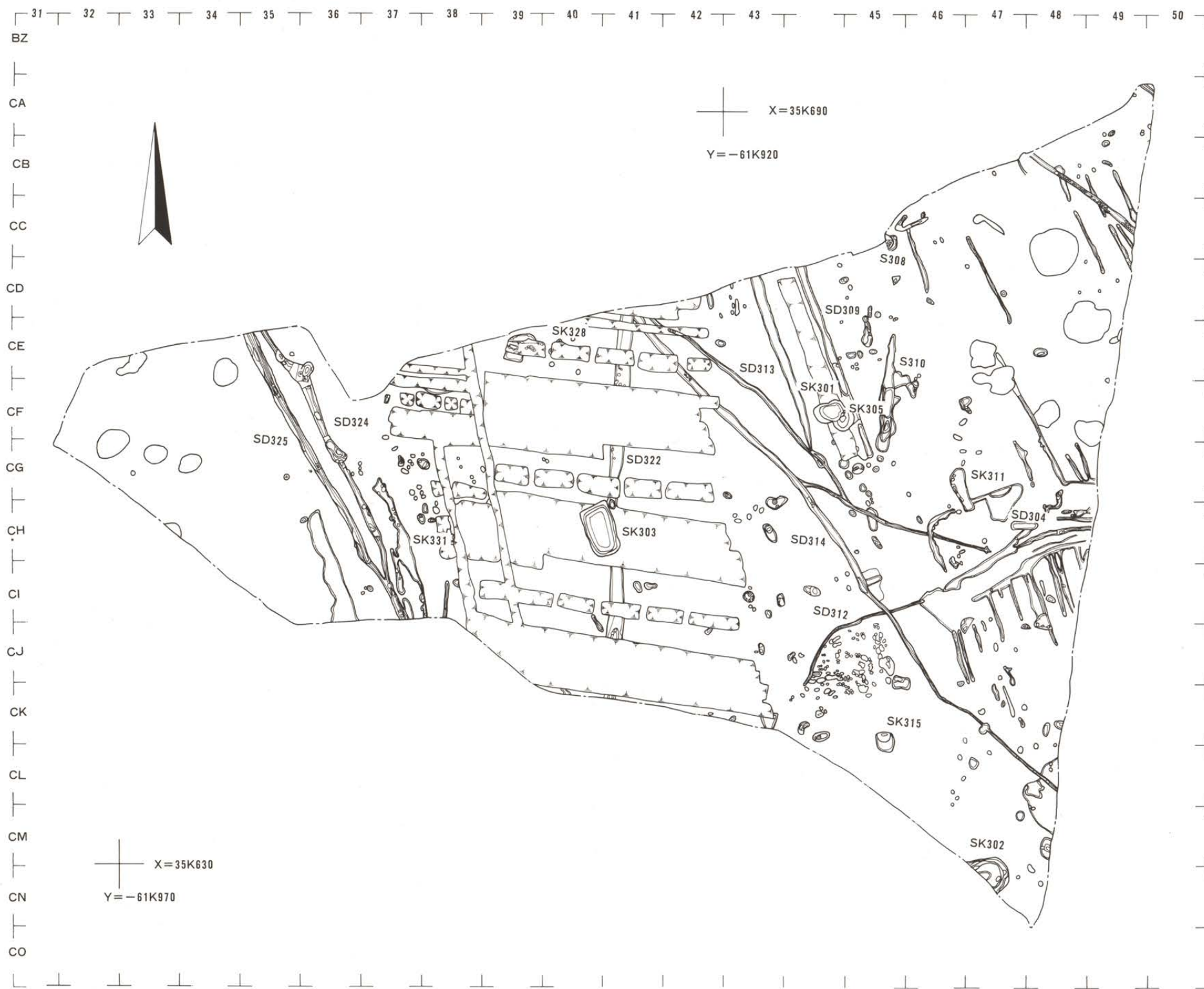


Fig.10 宿野遺跡 3区遺構配置図 (1/400)

1. 縄文時代の遺物

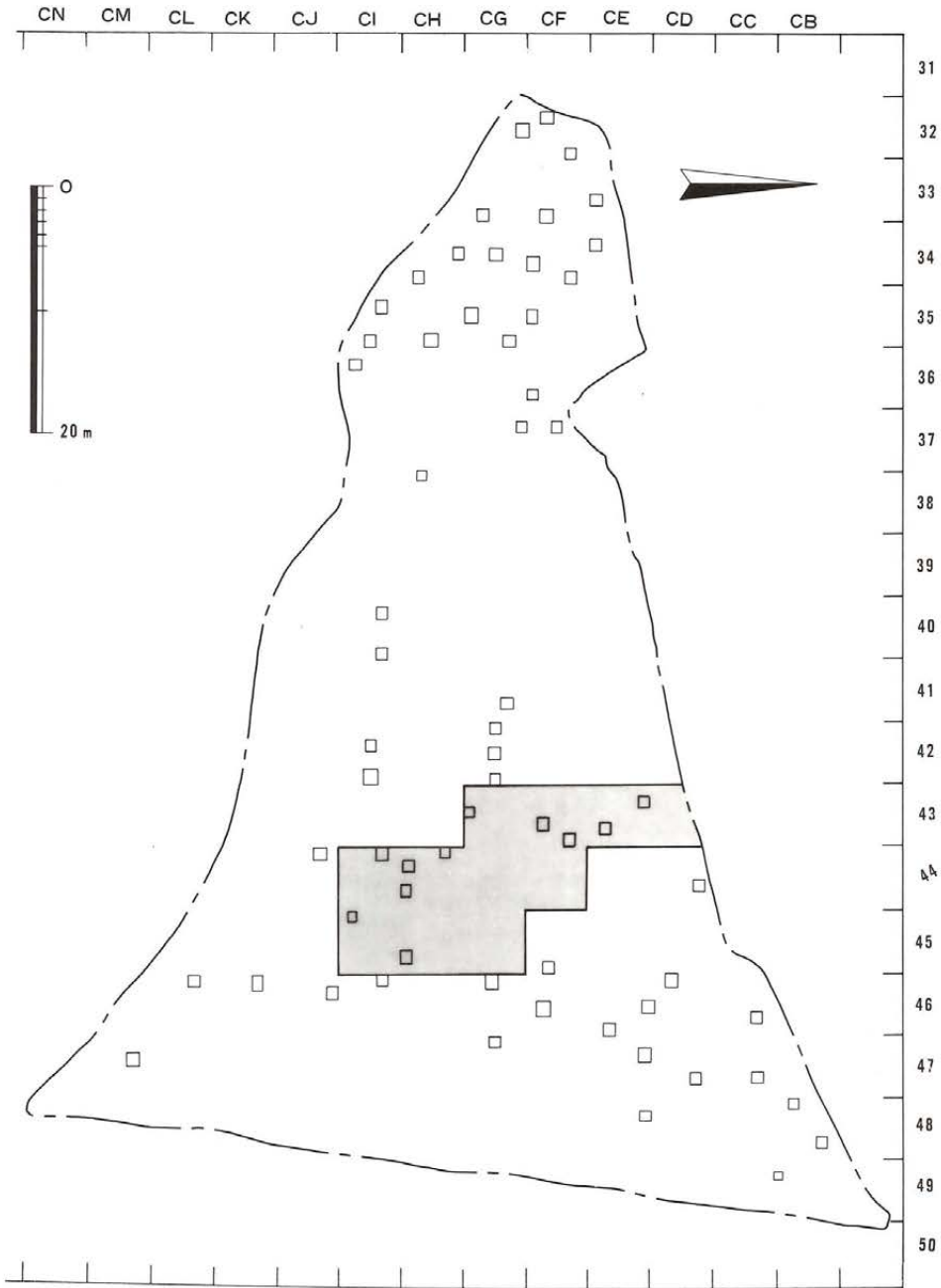


Fig.11 宿野遺跡 3区試掘坑設定図 (1/600)

VI. 3区の記録

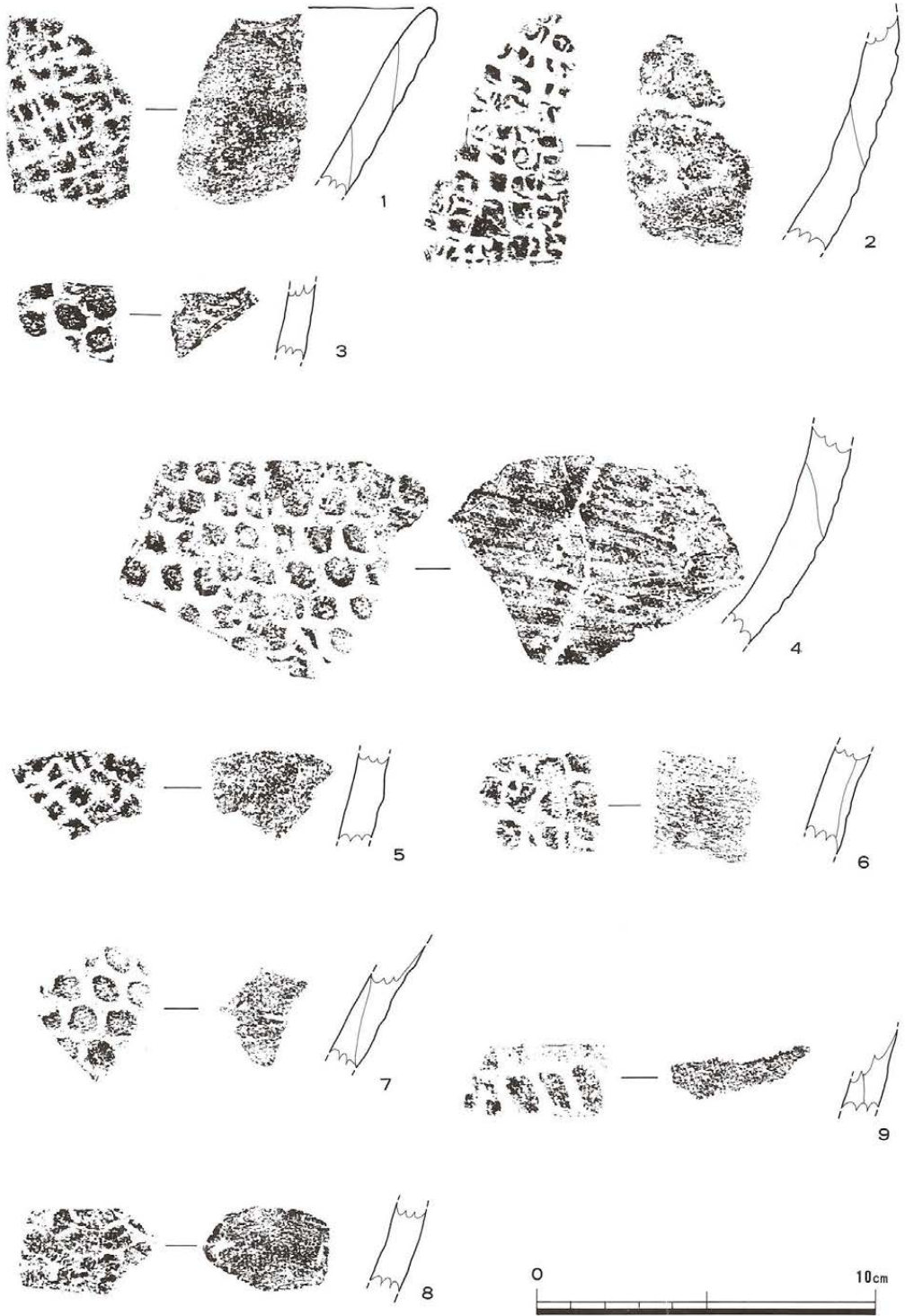


Fig.12 宿野遺跡3区出土縄文土器1 (1/2)

1. 縄文時代の遺物

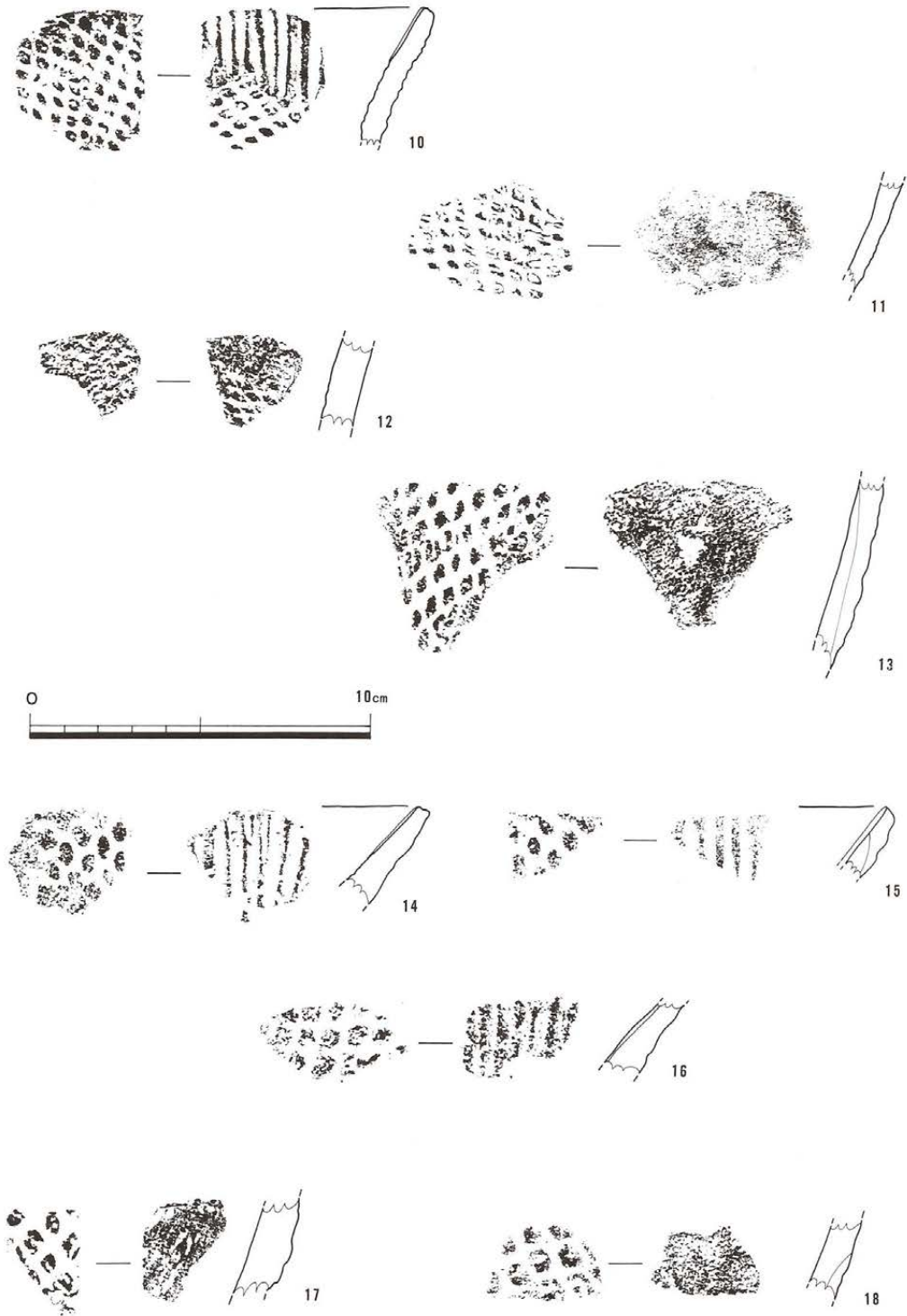


Fig.13 宿野遺跡3区出土縄文土器2 (1/2)

VI. 3区の記録

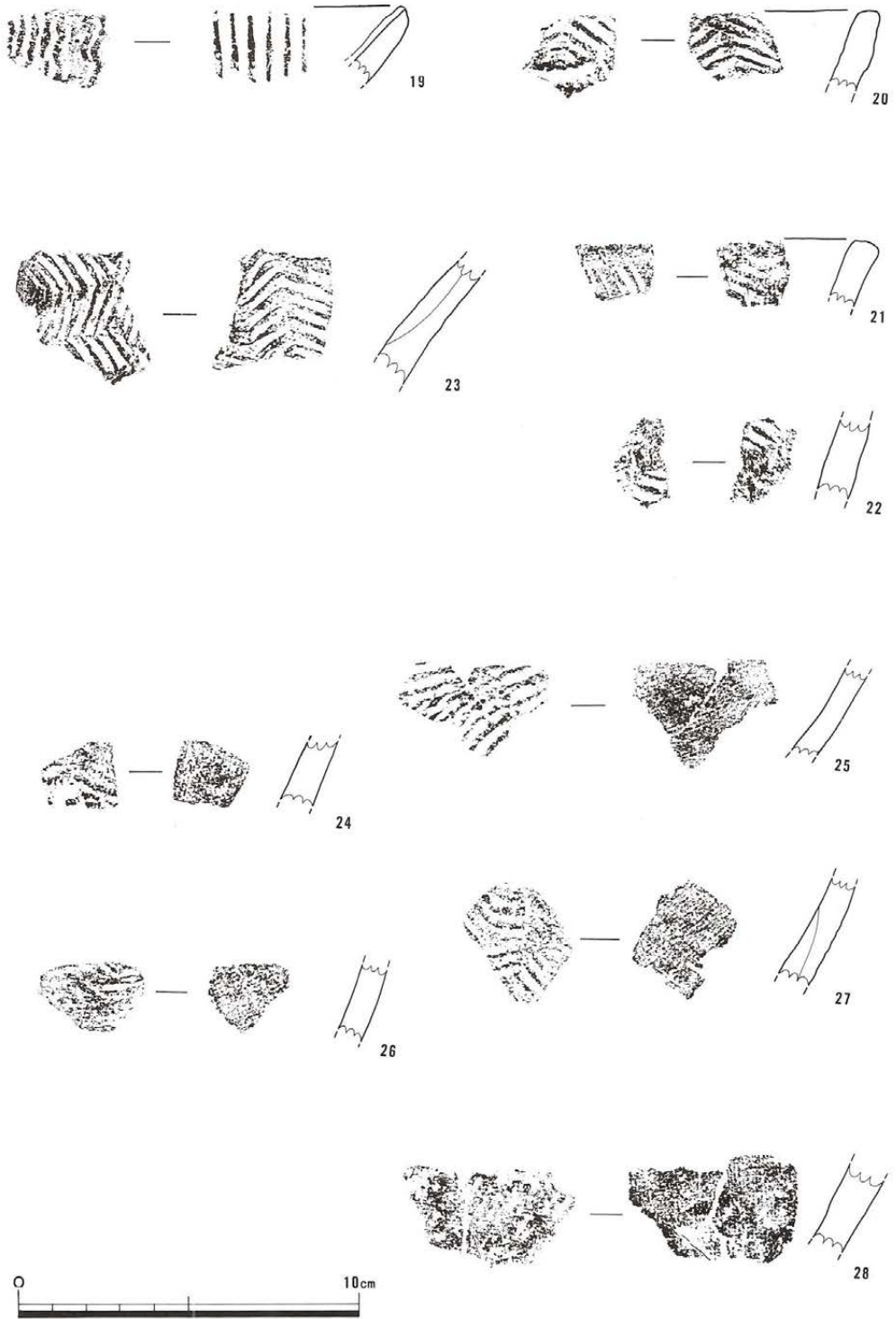


Fig. 14 宿野遺跡 3区出土縄文土器 3 (1/2)

1. 縄文時代の遺物

向のナデ研磨。5はSK311出土の胴部破片で、横走施文と思われるが、細片で原体の復元は推定はできない。内面ナデ。6はCI-39区画出土の胴部破片で、横走施文であるが、細片で原体の復元は推定はできない。内面ナデ。7はCI-44区画出土の口縁部に近い破片で、横走施文と思われるが、細片で原体の復元は推定はできない。内面ナデ。8はCH-43区画出土の胴部破片で、横走施文と思われるが、細片で原体の復元は推定はできない。内面ナデ。9はCI-39区画出土の胴部破片で、横走施文であるが、細片で原体の復元は推定はできない。内面ナデ。

B類 (Fig.13) 器壁は0.6~1.2cmで、A類に比較して口縁部付近で薄い。口縁内面に原体条痕を有し、原体条痕の文様帯の下に楕円文を施すものや、内面に無文帯と施文帯を有するものがある。10はCI-43区画出土の口縁部破片で、内外面斜走施文で、施文の重複関係から原体長2.0cm以上・原体0.28cm・2単位・4条以上と推定できる。内面の原体条痕を楕円文が切っている。11はCI-43区画出土の胴部破片で、斜走~横走施文で、施文の重複関係から原体長2.7cm以上・原体0.28cm・2単位・5条以上と推定できる。内面は横~縦方向のへら状工具によるナデ研磨。胎土・焼成・原体の推定から考えて、器壁はやや薄いが10の破片と同一個体と思われる。12はSK315出土の胴部破片で、内面上位に無文帯を有する。細片で原体の復元は推定はできないが、基本的に斜走施文と思われる。無文帯はナデ。13はCH-44区画で出土した胴部破片で、斜走施文と思われ、施文の重複関係から、原体長2.0cm・3単位以上・4条以上と推定できる。内面ナデ。14はCG-44区画で出土した口縁部破片で、内面に原体条痕を有し、その下位に楕円文を施文する。斜走施文と思われるが、細片のため原体については推定できない。15はCG-43区画出土の口縁部破片で、内面に原体条痕を有する。斜走施文と思われるが、細片のため原体については推定できない。胎土・焼成・施文から考えて、14の破片と同一個体と思われる。16はCH-44区画出土の口縁付近の破片で、斜走施文と思われるが、細片のため原体については推定できない。内面はナデ。17はCH-45区画出土の胴部破片で、斜走~横走施文と思われるが、細片のため原体については推定できない。内面はナデ。18はCH-44区画出土の胴部破片で、斜走~横走施文と思われるが、細片のため原体については推定できない。内面はナデ。

C類 (Fig.14) 器壁は0.8~1.1cmと厚い。口縁部内面に、原体条痕や、縦走施文の山形文・横走施文の山形文を有するものがある。破片の分布は、CG-45区画を中心に集中する傾向にある。19はCG-44区画で出土した口縁部破片で、外面は縦走施文の山形文で、内面は原体条痕を施す。細片のため原体については推定できない。20はCG-45区画で出土した口縁部破片で、内外面横走施文の山形文を有する。細片のため原体については推定できない。21はCG-45区画で出土した口縁部破片で、外面斜走施文、内面横走施文の山形文を有する。細片のため原体については推定できない。22はCG-45区画で出土した胴部破片で、外面斜走施文、内面横走施文と思われる山形文を有する。細片のため原体については推定できない。23はCG-45区画で出土した口縁部に近い破片で、外面縦走施文、内面横走施文の山形文を有する。細片のため原体

VI. 3区の記録

については推定できない。24はCG-45区画で出土した胴部破片で、外面横走施文の山形文、内面はナデで、細片のため原体については推定できない。25はCF-46区画で検出した胴部破片で、外面は斜走の山形文、内面はナデ。細片のため原体については推定できない。26はCG-45区画で出土した胴部破片で、外面は横走の山形文、内面はナデ。細片のため原体については推定できない。27はCG-45区画で出土した胴部破片で、外面は横走の山形文、内面はナデ。細片のため

原体については推定できない。28はCH-45区画で出土した底部に近い破片で、外面は横走の山形文、内面はナデで、細片のため原体については推定できない。

2. 平安時代の遺構と遺物

(1) 土墳墓と出土遺物

SP304土墳墓 (Fig. 15)

CH-47・48区画で検出した。中世に属すると思われる浅い溝に、墓壙と埋土の上部を切られていた。墓壙の平面形は2.1m×0.7mの隅丸長方形をなし、壁面はきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。主軸をほぼN-S軸にとる。埋土は、黄褐色の地山ブロックを含んだ暗褐色土で、調査上のミスで、土層

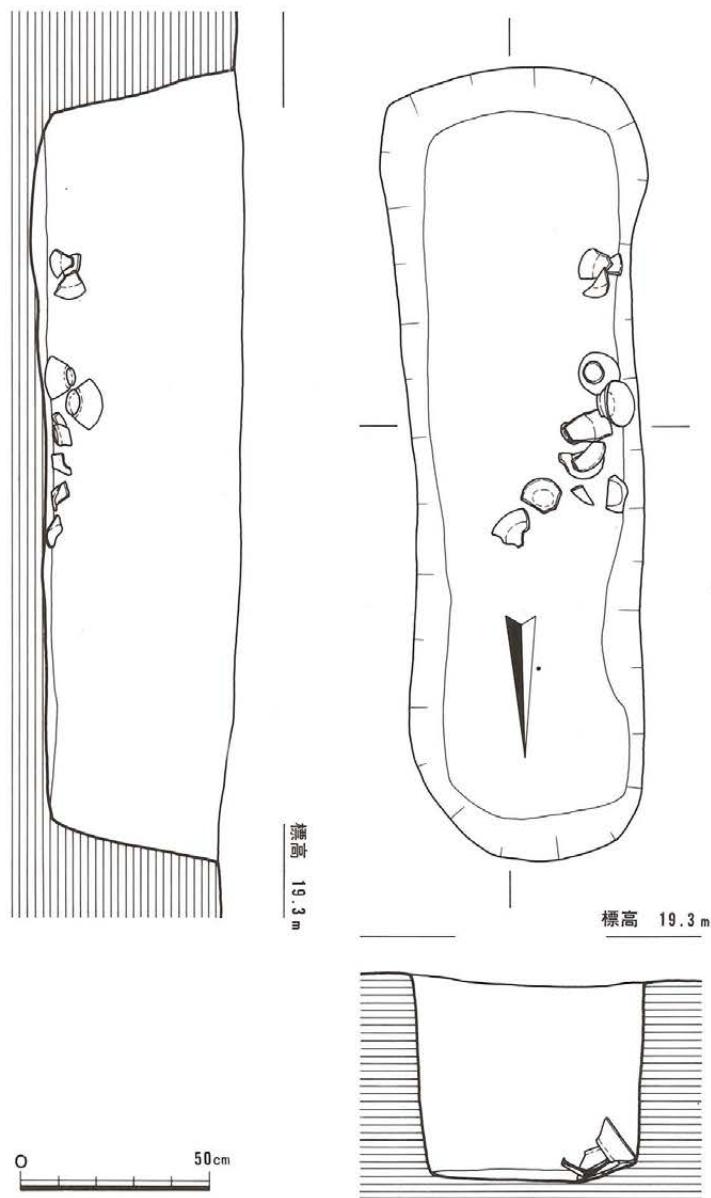


Fig. 15 SP304土墳墓 (1/20)

2. 平安時代の遺構と遺物

断面図を取りそこなったが、沈み込んだようなレンズ状の堆積をしていた。木蓋を用いた土壙墓と考える。

副葬品と考えられる遺物が、墓壙底面の中央西側にまとまって出土した。土師器高台付杯が4個体、土師器杯が2個体である。破片の接合で完形になるものばかりではなく、明らかに破片状態で副葬されたものもある。

SP304出土遺物 (Fig.16)

土師器高台付杯 (1~6) 1~5は小振りで、口径12.2~13.3cm、器高5.5~5.8cm、高台径7.0~8.0cm、2は高台内面にヘラ削りを加えている。6は比較的大振りで、口径15.4cm・器高

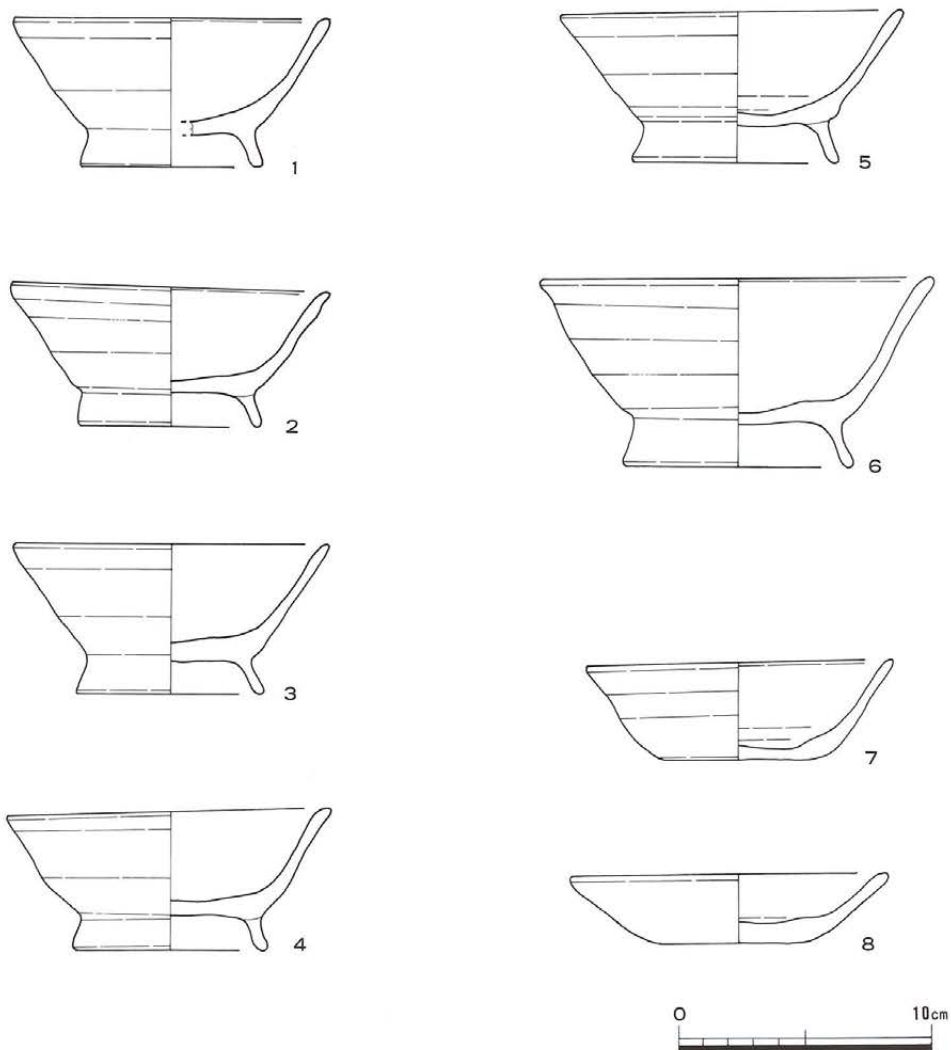


Fig.16 SP304出土遺物 (1/3)

VI. 3区の記録

7.4cm・高台径8.8cmである。

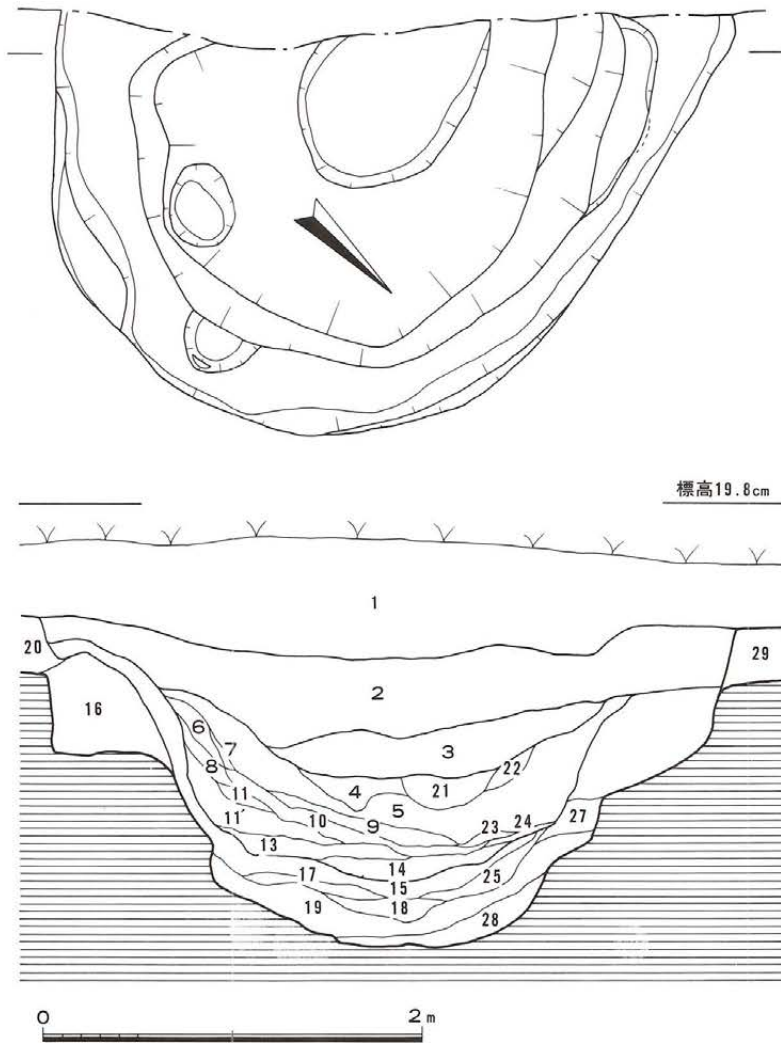
土師器杯 (7・8) 7は口径12.0cm・器高3.8cm・底径6.8cm。8は復元口径12.3cm・器高2.7cm・底径6.2cm。ヘラ切り底で板目圧痕を有し、内底面にナデを加えている。

3. 鎌倉・室町時代の遺構と遺物

(1)土壙と出土遺物

SK302土壙 (Fig.17)

CM・CN-46・47区画で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。遺構の半分以上は調査区外へ展開すると思われる。平面形は3.5mほどの隅丸方形か楕円形と思われる。断面形はゆるやかな二段掘りをなし、壁面もゆるく立ち上がる。1層の黒褐色土は耕作土で、20・29層は有機質土のような砂



混じりの黒褐色土、16層は暗褐色砂質土で、いわゆる地山である。表土除去のさいに削りすぎているのがよくわかる。20・29層は、押型文土器の包含層である可能性が高く、遺構はこの上面から切り込んでいる。埋土は、どれも暗褐色～黒褐色土で、上部では灰色・黄褐色のブロックを含む。埋没の過程では、15層上面で一度面が構成されていたと思われる。埋土中部から土師器・須恵器破片が出土した。

Fig.17 SK302土壙 (1/40)

3. 鎌倉・室町時代の遺構と遺物

SK302出土遺物 (Fig.19-1・2)

1の土師器は見慣れない器形で、器種不明。糸切り底で、内外面回転ナデ。2は東播系須恵器捏鉢口縁部破片である。

SK303土壙 (Fig.18)

CH-40・41区画で検出した。攪乱坑の底面で検出され、上部を少なくとも検出面から0.8m以上は削平されている。平面形は4.3m×2.6mのやや不整な隅丸長方形をなし、壁はきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は15の分層が確認でき、1・2層は砂混じりの黒褐色土、3層は黄褐色土、4層は淡褐色土、5・6層は黒褐色土、7層は黄褐色砂質土、8層は黒褐色砂質土、9・10層は淡褐色砂質土、11層は黄褐色砂質土、12層は黒褐色土、13層は淡褐色土、14層は黒褐色土、15層は黄褐色砂、である。どれも水平堆積や不整合面は認められず、何度かその過程で面を構成しながら、自然流入によって堆積したものと判断する。出土遺物はほとんどなく、14層底面近くで、瓦片が出土した。

SK303出土遺物 (Fig.19-3)

3は丸瓦の破片で、内面は布目痕を有する。

SK311土壙 (Fig.20)

CH・CH-46・47区画で検出した。浅い落ち込み状のくぼみの埋土が上に乗っていた。平面形は3.4m×0.8

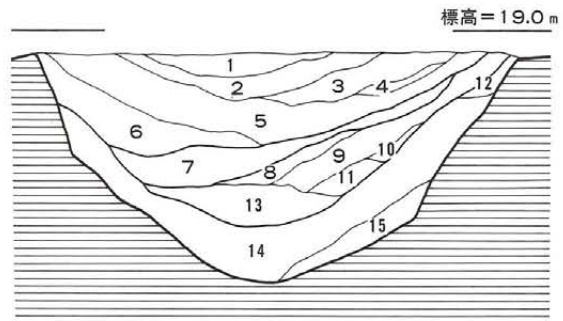
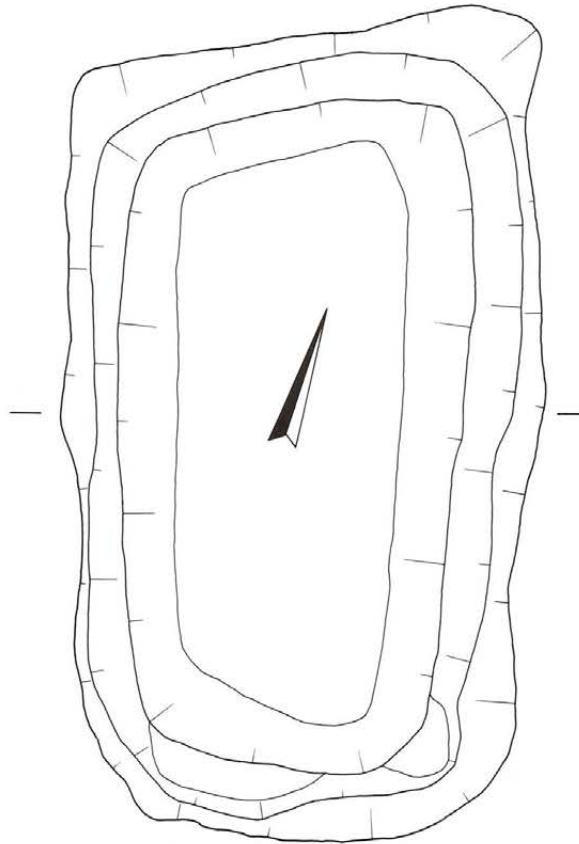


Fig.18 SK303土壙 (1/40)

VI. 3区の記録

~1.3mの不整な隅丸長方形をなし、壁はややきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。西側の壁に沿って溝状の落ち込みがある。埋土は砂混じりの暗褐色土で、土壌ほぼ中央の底面から土師器片が出土した。

SK311出土遺物 (Fig.21-1)

1は土師器杯で、復元口径13.1cm・器高3.5cm・底径7.0cmで、内外面回転ナデ。

SK328土壌

CE-40区画で検出した。攪乱坑にその大部分を破壊され、壁と埋土の一部を残すのみであった。埋土中から陶器片が出土している。

SK328出土遺物 (Fig.21-2)

2は褐釉陶器四耳壺の破片である。

SK330土壌

CF-38区画で検出した。攪乱坑にその大部分を破壊され、壁と埋土の一部を残すのみであった。埋土中から瓦器破片が出土している。

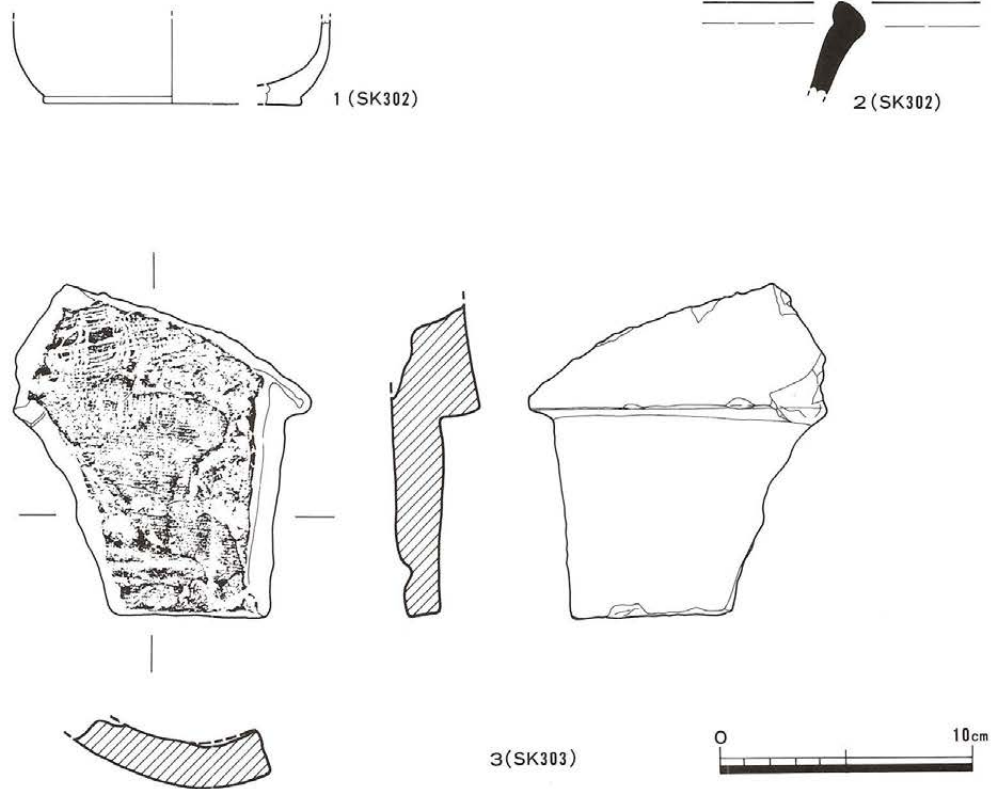


Fig.19 SK302・303出土遺物 (1/3)

3. 鎌倉・室町時代の遺構と遺物

SK330出土遺物 (Fig.22-1)

1は瓦器鉢の口縁部破片で、端部は横ナデ、外面は縦方向のハケ目、内面は横・斜方向のハケ目。

SK331土壌

CG~CI-37・38区画で検出した。土壌というか溝状の浅い落ち込みである。埋土は淡褐色土で、底面は平坦、深さは2~4cmほどである。埋土中から磁器片が出土した。

SK331出土遺物 (Fig.22-2)

2は白緑灰色の釉がかかった磁器皿の口縁部破片である。

(2)溝と出土遺物

SD322溝 (Fig.24)

CD~CK-41区画で検出した。南北両端は調査区外に展開する。攪乱坑により、遺構の大部分が破壊されている。SK303との切り合い関係は不明である。溝幅はほぼ1.5mほどで、断面は浅いV字状をなし、底面の標高は18.5~18.7mほどで南に向って深くなる。埋土は3層に大別でき、流入による自然堆積の状況を示す。出土遺物はほとんどなく、埋土中から土師器破片が出土した。

SD322出土遺物 (Fig.23-1)

1は土師器鍋Ⅲ類 [徳永1990] の口縁部破片で、口縁端部から外面は横ナデ、内面は横方向の

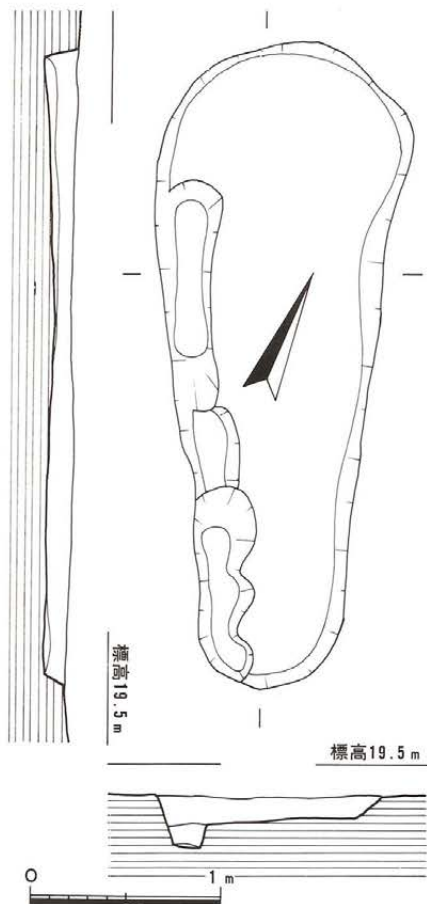


Fig.20 SK311土壌 (1/40)

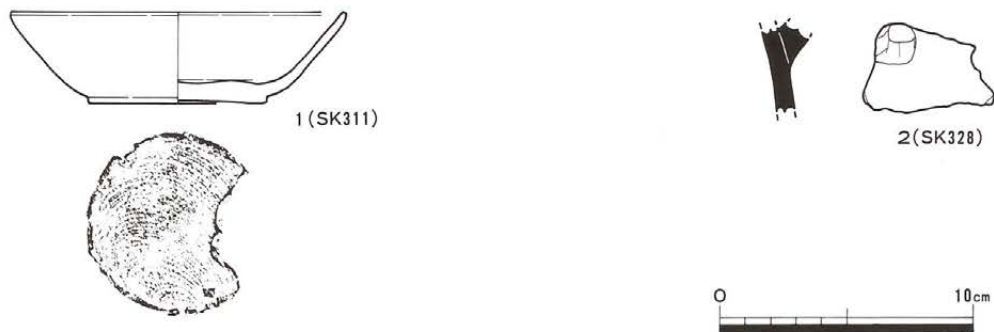


Fig.21 SK311・328出土遺跡 (1/3)

VI. 3区の記録



Fig.22 SK330・331出土遺物 (1/3)

細かいハケ目を施す。

SD324溝 (Fig. 24)

CE～CI-35～37区画で検出した。SD325と切り合い関係にあり、SD324が後出する。溝幅は0.5～0.7mほどで、断面はU字状をなし、底面の標高18.5～18.6mほどで南に向かい深くなる。埋土は2層に大別でき、流入による自然堆積を示す。出土遺物はほとんどなく、埋土中から陶器破片が出土している。

SD324出土遺物 (Fig. 23-2)

2は暗赤褐色をなす見慣れない無釉陶器播鉢の破片で、復元口径19.0cm・器高9.8cm・復元底径10.2cmをはかる。片口を有し、内外面は横ナデ、内面に5本単位の播目を施し、外面には煤が付着する。搬入品かと思われる。

SD325溝 (Fig. 24)

CE～CI-35～37区画で検出した。SD324と切り合い関係にあり、SD325が先行する。溝幅は

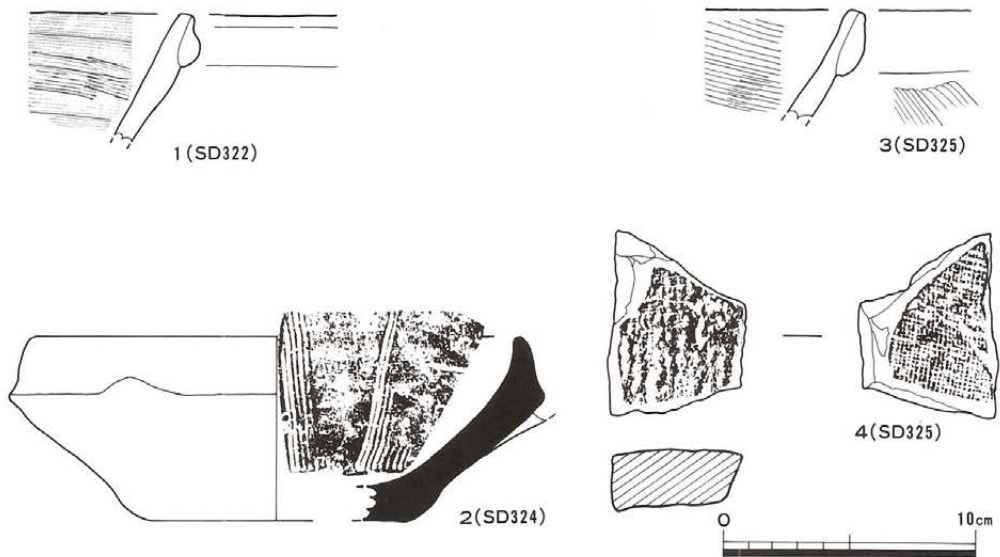


Fig.23 SD322・324・325出土遺物 (1/3)

3. 鎌倉・室町時代の遺構と遺物

0.3~0.5mほどで、断面は浅いU字状をなし、底面の標高18.7~18.8mほどで南に向かい深くなる。埋土は2層に大別でき、流入による自然堆積を示す。出土遺物はほとんどなく、埋土中から土師器片と瓦片が出土した。

SD325出土遺物 (Fig.23-3・4)

3は土師器鍋Ⅲ類 [徳永1990] の口縁部破片で、端部から口縁部外面は横ナデ、外面は斜方法のハケ目、内面は横方向のハケ目を施す。外面には煤が付着する。4は土師質の平瓦の破片で、外面に縄目、内面に布目痕を有する。

4. その他の出土遺物

Fig.25に宿野遺跡3区の表採遺物を図示した。1は土師器蓋で、復元口径17.0cm、器高2.8cm。口縁端部は折り返し、天井部に静止ヘラ削りを加えている。2は須恵器高台付杯で、復元口径12.4cm・器高3.3cm・復元高台径9.6cm。3は土師器鍋Ⅰ類 [徳永1990] の口縁部破片で、復元口径33.4cm。口縁部は横ナデ、外面は不明瞭な縦方向のハケ目、内面は指押さえを加える。4は砂岩系石材の砥石破片で、2面を使用している。

5. 小 結

ここで、宿野遺跡3区の調査成果について、ひとまずまとめておく。

縄文時代遺跡については、残存状況が悪く、早期遺跡の存在以外にわかったことはない。この押型文土器の包含層と思われる暗褐色~黒褐色の有機質土に近い土壌は、脊振山系南麓の低位段丘面上に

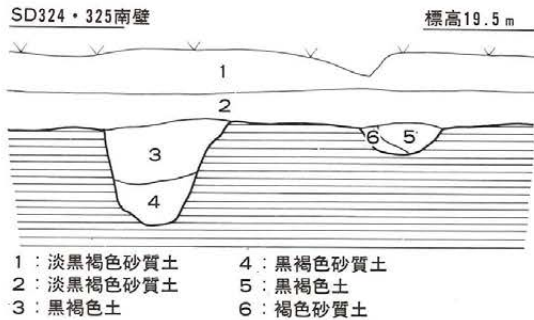
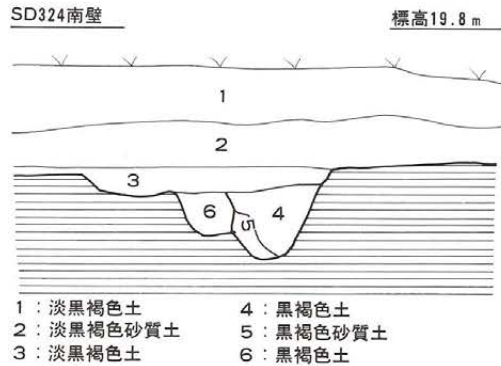
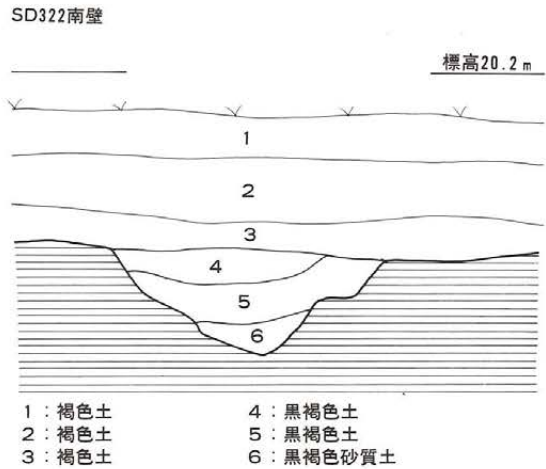


Fig.24 SD322・324・325土層断面 (1/40)

VI. 3区の記録

広く堆積し、地元で〈黒ボヤ〉と呼ばれているものである。縄文時代晩期を含む新しい遺構はこの層を切り込んでいるが、この層上での遺構検出が難しいため表土除去のさいにとばされることが多い。この層に含まれている遺物については注意する必要がある。

平安時代前半のSP304土壙墓は、調査区内に同時代の他遺構がなく、単独で存在している。こうした傾向は泉三本栗遺跡〔福田1987〕のSP001土壙墓でも同様であり、平安時代末～鎌倉時代の集落地で検出されているいわゆる〈屋敷墓〉のあり方とは異なる状況を示している。

鎌倉時代から室町時代にかけての宿野遺跡3区は、主として耕作関連に利用されたのではないかと考える。いわゆる大型土壙〔福田1987〕であるSK303は、溜め舂的な用途も想定でき、調査区東側の標高がやや低い部分で検出された同一方位のN-S軸とE-W軸の細く浅い溝の集合は、年代決定に足る遺物を伴わなかったが耕作痕（耕条痕）と考えている。

VII. 4区の記録

宿野遺跡4区は、今回の調査区の中では台地中央北側の最も標高が高い部分にあたる。調査区の幅かなり狭いため、遺跡の性格をつかみがたいが、検出した堀や区画溝の状況から屋敷地の縁辺にあたるものとする。出土遺物には奈良時代や江戸時代のものもあるが、混入品を除くと遺構に伴うものは室町時代に属する。

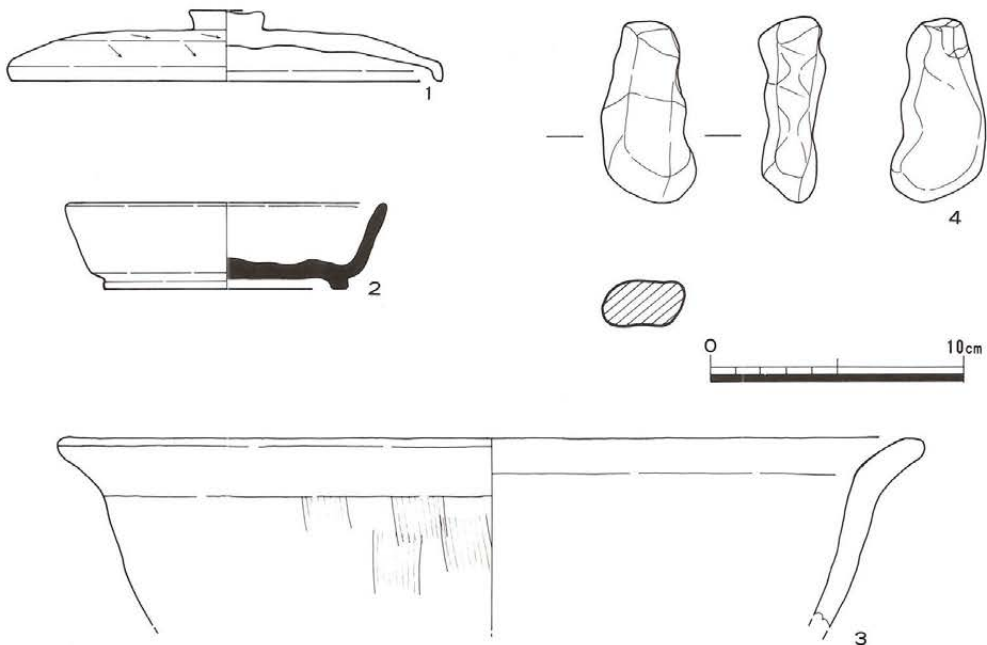


Fig.25 宿野遺跡3区表採遺物 (1/3)

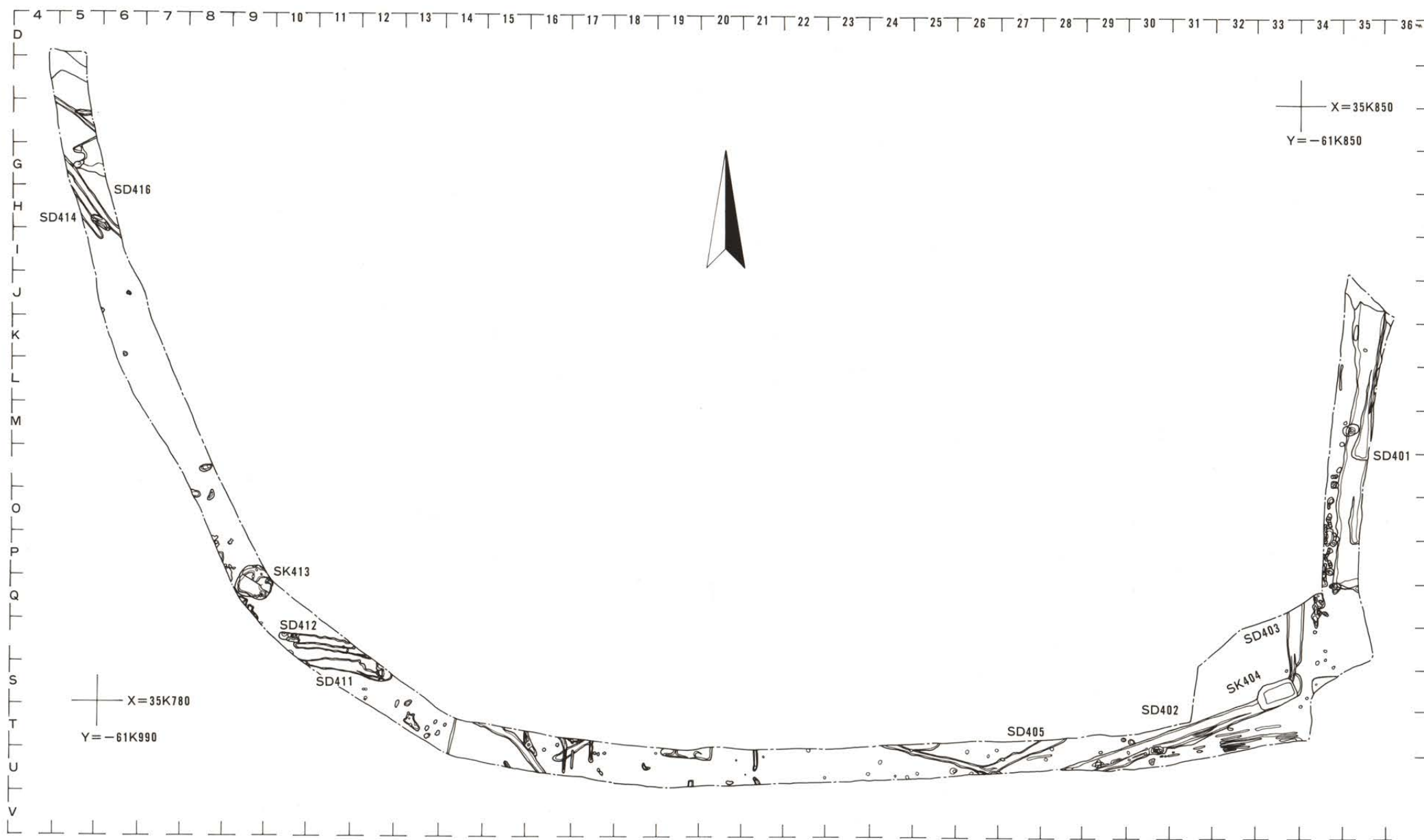


Fig. 26 宿野遺跡 4区遺構配置図 (1/600)

1. 室町時代の遺構と遺物

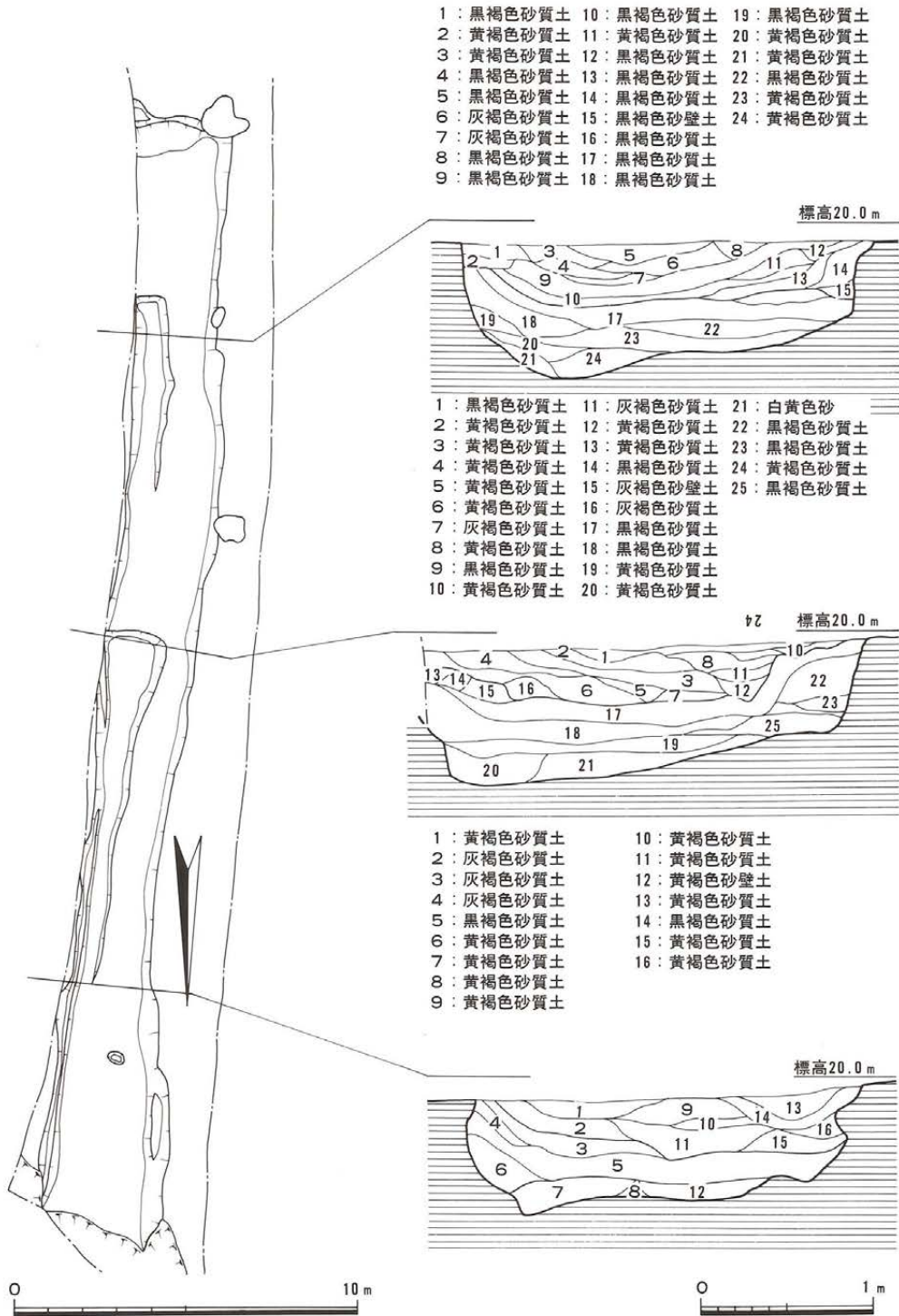


Fig.27 SD401土堀 (1/200・1/40)

VII. 4区の記録

1. 室町時代の遺構と遺物

(1) 堀と出土遺物

SD401堀 (Fig.27)

J～Q-34・35区画で検出した。土壌・小穴に上端と埋土を切り込まれている。ほぼN-S軸に走行する。堀幅は2.8～3.7m、断面形は不整な逆台形状で、底面はほぼ平坦で標高19.3m前後をはかり極端な傾きはない。東側で浅い二段掘りをなす部分があるが、土層断面観察では切り合いはない。埋土は大きく2群に大別できる。上部層群は、地山ブロックや粘土ブロックを多く含み、不整合な堆積を示し、人為的な埋土と考える。下部層群は、ほぼレンズ状に整合する堆積状況を示し、流入による自然堆積と考える。したがって、この堀は、自然流入によって複数の面を構成しながら堆積（特に帯水ないし流水の痕跡はない）し、ある時点で人為的に埋められたものと判断する。同じような埋没状況は（堀の形状は異なるが）、村徳永遺跡K地区〔前田1992〕SD141にみられる。遺物はほとんどなく、上部層群から磁器片、下部層群から土師器片・瓦器片が出土した。

SD401出土遺物 (Fig.28-1・2)

上部層群で出土した磁器片は図示に耐えないが、碗の破片と思われ、暗黄灰色の釉がかかり、細かい貫入が多い。1は糸切り底の土師器皿で、復元口径8.0cm・器高2.1cm・復元底径5.2cm。2は瓦器鉢で、口縁端部横ナデ、外面は不明瞭な縦方向のハケ目、内面は横方向の細かいハケ目である。

(2) 溝と出土遺物

SD402・403区画溝 (Fig.29)

Q～U-28～33区画で検出した。SD402・403とSK404には切り合い関係は認められず、一連の遺構と考えている。形状からみて、方形かそれに近い形の区画溝のコーナー部分と判断する。SD403はほぼN-S軸をとり、SD402はE-W軸をとるが南へ20°ほどふれる。SD402・403は連

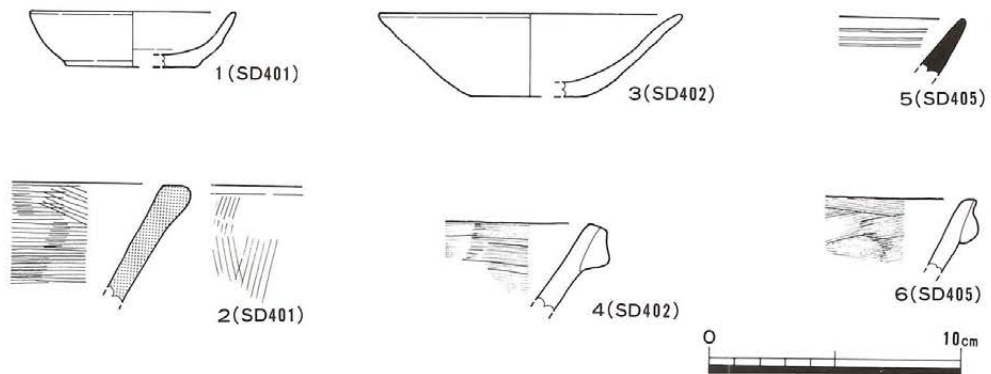


Fig.28 SD401・402・405出土遺物 (1/3)

1. 室町時代の遺構と遺物

結部分で細い溝でつながる形になるが、ここでも切り合いは認められなかった。SD402の溝幅は1.6～2.0mで、断面形は逆台形状で南側は浅い二段掘りの形状をなし、底面はほぼ平坦で標高は19.7～19.5mをはかり、西に向かい傾斜する。SD403の溝幅は1.4～1.9mで、断面形は逆台形状をなし、底面はほぼ平坦で標高19.6m前後をはかり南に向かいわずかに傾斜する。連結部の細い溝は、溝幅は0.6m前後、断面形はゆるいV字状をなし、底面の標高はSD403と変わらない。SD402の埋土は暗褐色～黒褐色土、SD403の埋土は暗褐色土である。帯水や流水の顕著な痕跡は認められなかった。遺物はほとんどなく、SD402の埋土から土師器片が出土している。

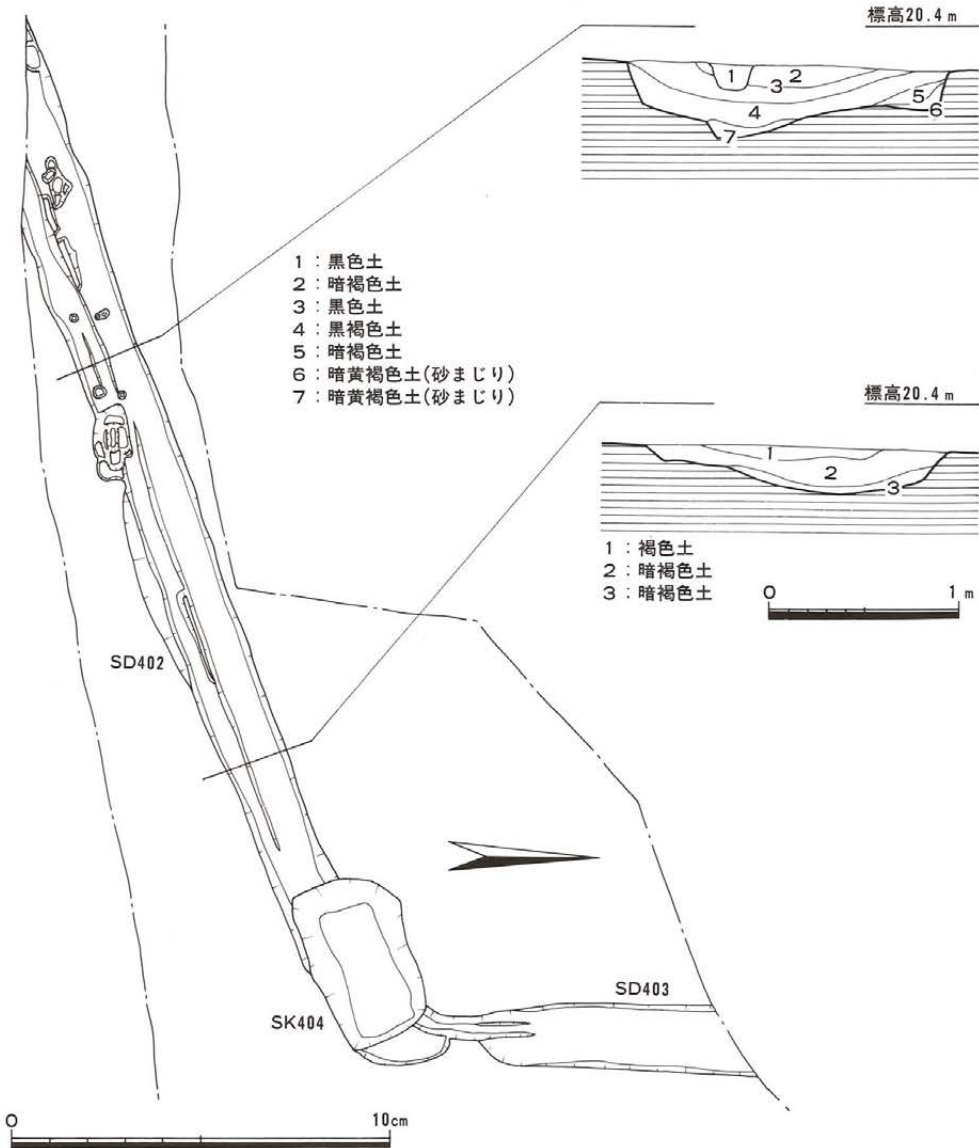


Fig.29 SD402・403区画溝 (1/200・1/40)

VII. 4区の記録

SD402出土遺物 (Fig.28-3・4)

3は糸切り底の土師器杯で、復元口径11.9cm・器高3.2cm・復元口径4.8cm。4は土師器鍋Ⅲ類 [徳永1990] の口縁部破片で、口縁端部から外面は横ナデ、内面は横方向のハケ目である。

SD405溝

T・U-24~28区画で検出した。約120°の角度で屈曲し、西北西と東北東にのびる。東西両端は調査区外に展開する。東北東部分は、SD402と距離約3mでほぼ平行する。溝幅0.4~1.2m、断面形は浅い逆台形状をなし、底面はほぼ平坦で標高20.2m前後をなし、明瞭に傾斜する方向はない。埋土は暗褐色土で、帯水や流水の顕著な痕跡は認められなかった。形状・位置から考えるとSD402・403と関係する区画の一部か。遺物はほとんどなく、埋土中から青磁片・土師器片が出土した。

SD405出土遺物 (Fig.28-5・6)

5は青磁碗の口縁部破片で、暗黄緑色の釉がかかり、細かい貫入がある。6は土師器鍋Ⅲ類 [徳永1990] の口縁部破片で、口縁端部から外面は横ナデ、内面は横方向のハケ目である。

SD411溝

R・S-10~12区画で検出した。ほぼE-W軸をとる。東西両端は調査区外に展開する。東端でほぼ直角に北に屈曲するコーナー部分をもつ。溝幅は0.7~1.6mで、ごく浅く、底面はほぼ平坦で標高20.2m前後をはかり、抉ったような凸凹がかなりある。埋土は褐色~暗褐色土である。遺物はほとんどなく、埋土中から土師器片が出土した。

SD411出土遺物 (Fig.30-2)

土師器鍋Ⅲ類 [徳永1990] の口縁部破片で、復元口径17.0cm、口縁端部から外面は横ナデ、内面は横方向のハケ目である。

SD412溝

R-10~12区画で検出した。ほぼE-W軸をとる。掘り直しによるものか、完掘した状態では、

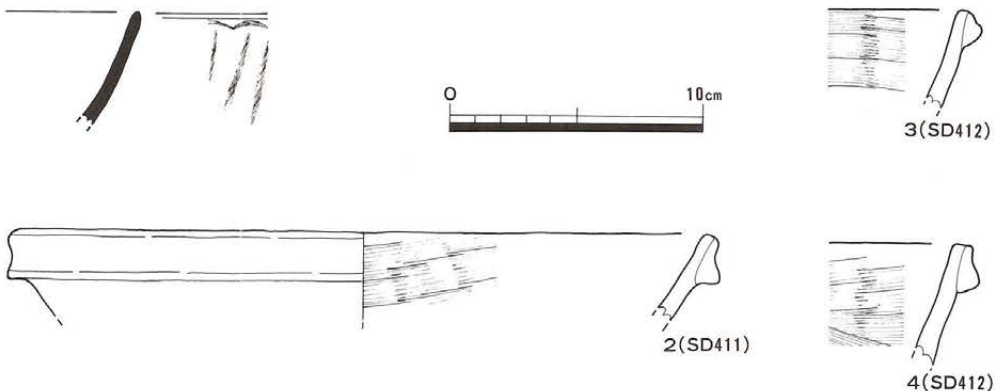


Fig.30 SK404・SD411・412出土遺物 (1/3)

1. 室町時代の遺構と遺物

同様な2条の溝が重複している。西端の部分は終結し、東端は調査区外に展開する。溝幅は0.8～1.6mで、断面は浅い逆台形状をなし、底面はほぼ平坦で標高20.1～20.2mをはかり、東に向かいわずかに傾斜する。埋土は褐色～暗褐色土である。遺物はほとんどなく、埋土中から土師器片が出土した。

SD412出土遺物 (Fig.30-3・4)

3・4は土師器鍋Ⅲ類〔徳永1990〕の口縁部破片で、口縁端部から外面は横ナデ、内面は横方向のハケ目である。

SD414・416溝

G～I-5・6区画で検出した。NW-SE軸をとり、2条の溝が0.8m距離をおいて並走する。どちらも北西端は調査区外に展開し、SD414の南東端は調査区内で終結し、SD416は調査区外に展開する。溝幅はどちらも0.9～1.1mほどで、断面形は逆台形状をなし、底面はほぼ平坦である。底面標高は、SD414で20.2m前後、SD416で20.4m前後であり、明瞭に傾斜する方向はない。埋土はどちらも褐色～淡褐色土である。遺物はほとんどなく、SD416の埋土中から須恵器片が出土した。

SD416出土遺物 (Fig.31-2)

須恵器捏鉢の口縁部破片で、内外面は横ナデである。

(3)土壇と出土遺物

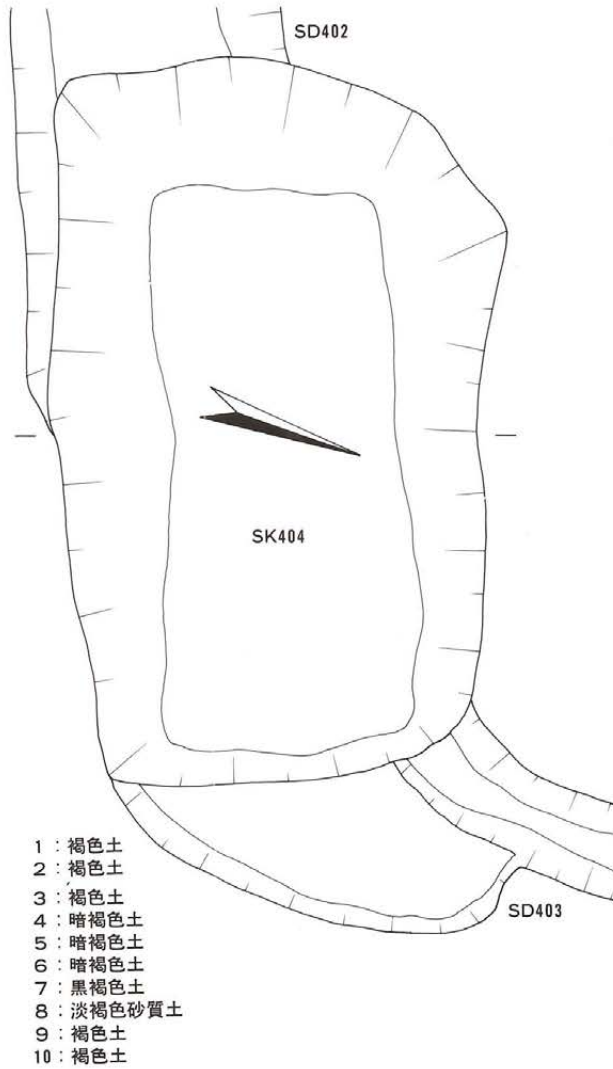
SK404土壇 (Fig.32)

S-32・33区画で検出した。SD402と重複関係にあるが、切り合いは認められず、SD402・403と一連の遺構と考えている。平面形は3.9m×1.9～2.4mの不整な方形をなし、断面形は逆台形状で、底面はほぼ平坦である。埋土は10層に細別できた。5層・6層・8層上面で堆積状況が不整合であり、自然流入による埋没の過程で一度掘り直され、その後に再び自然流入によって埋没したものとする。掘り直しの幅がSD402の溝幅と一致せず、切り合いによるものとは考えない。9層・10層は砂混じりの粘質土で、消極的に帯水の状況を示す。SK404は、区画溝と連結した溜め舁的な用途のものである可能性が高い。遺物はほとんどなく、埋土中から青磁片が出土した。



Fig.31 SK413・SD416出土遺物 (1/3)

VII. 4区の記録



- 1 : 褐色土
- 2 : 褐色土
- 3 : 褐色土
- 4 : 暗褐色土
- 5 : 暗褐色土
- 6 : 暗褐色土
- 7 : 黒褐色土
- 8 : 淡褐色砂質土
- 9 : 褐色土
- 10 : 褐色土

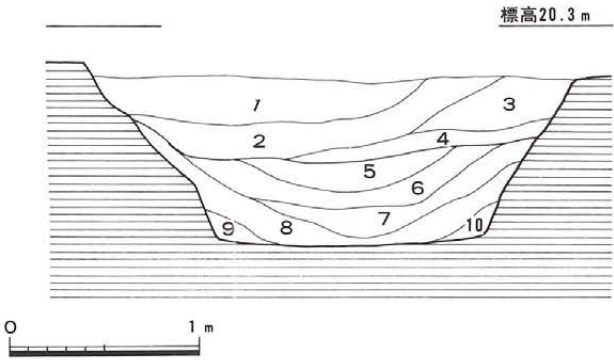


Fig.32 SK404土壙 (1/40)

SK404出土遺物 (Fig.30-1)
 龍泉窯系青磁椀 I-5BC類の口縁部破片である。

SK413土壙 (Fig.33)
 P・Q-9区画で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。遺構の東端が調査区外に展開する。平面形は3.3~3.5mほどの不整な隅丸方形をなし、壁はおおむねゆるく立ち上がる。底面は不整で細かい起伏があり、小穴状の落ち込みもある。埋土は褐色~暗褐色土であった。遺物はほとんどないが、埋土中から土師器細片と須恵器片が出土した。

SK413出土遺物 (Fig.31-1)
 図示に耐えないが、他の土師器細片をみると糸切り底の破片が存在し、1は混入遺物と考える。須恵器高台付杯の底部破片で、内外面回転ナデ。

2. その他の出土遺物

宿野遺跡4区の表採遺物をFig.34に図示した。1は土師器皿の底部破片で、底径3.5cm、内外面回転ナデ。2はルツボの破片である。器表面は溶解しガラス質になっている。3は平瓦の破片で、外面はへら状の工具による擦過痕がある。4・5は土製品。

3. 小 結

ここでひとまず宿野遺跡4区の調査成果についてまとめておく。

3. 小 結

今回の調査区は、区画溝であるSD402・403の存在から、室町時代前半の屋敷地の縁辺の一部にあたると考えている。この屋敷地に堀であるSD401を伴うかどうかは、SD401とSD403の方位が若干ずれていることから、SD401の掘削が後出する感触を得ている。区画溝と連結するいわゆる大型土塋〔福田1987〕であるSK404については、溜め舛的な機能を想定できる可能性を指摘した。SD402・403・SK404の南側に耕作痕（耕条痕）と思われる細く浅い溝群を検出したことから、耕作関連の遺構ではないかと考える。区画溝といわゆる大型土塋と耕作痕の組合せは立野遺跡〔福田1989〕でも検出されていて、今後検討を要する問題と思う。

VIII. 5 区 の 記 録

洪積台地が扇状地面と接する落ち際に立地する。遺構は、古墳時代のものと、鎌倉時代のものに大別できるが、大部分は鎌倉時代のものである。東側は市道をはきんで宿野遺跡6区と接し、5区・6区は同一の遺跡の広がりの中でとらえることができる。調査区西側の一段落ちた

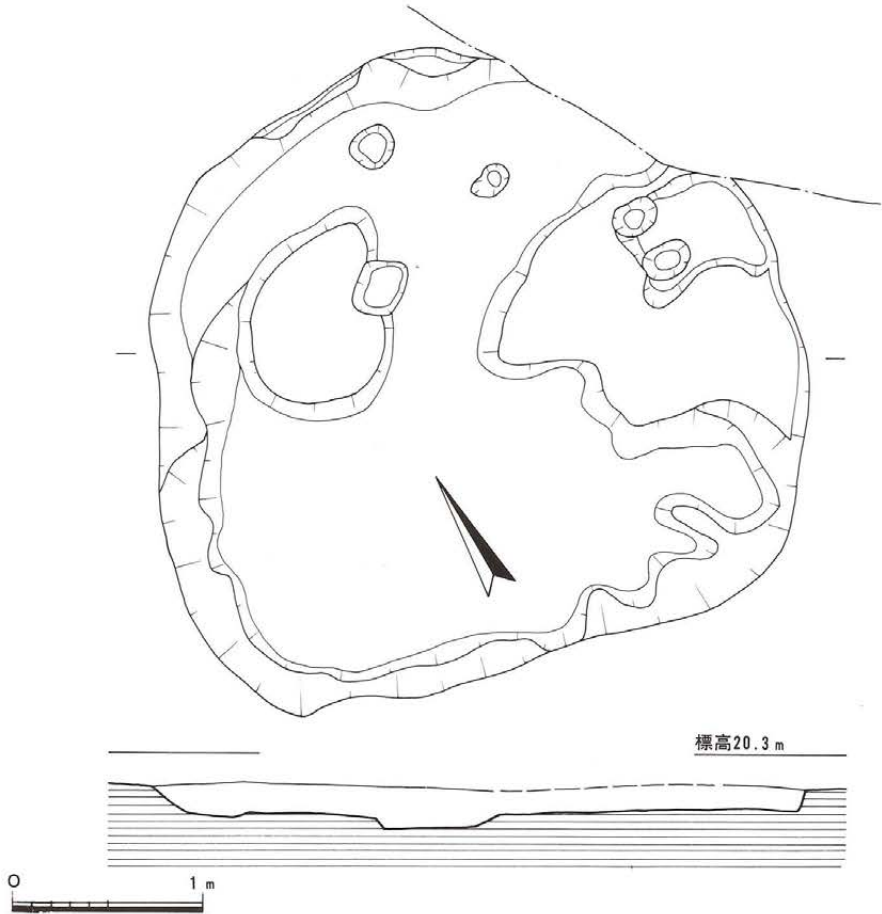


Fig.33 SD413土塋 (1/40)

VIII. 5区の記録

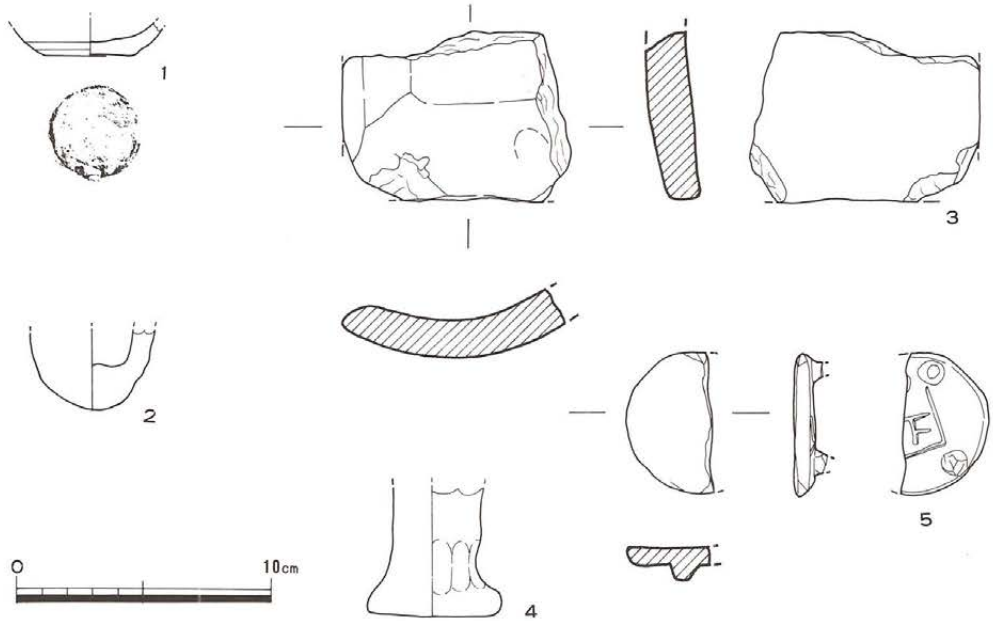


Fig.34 宿野遺跡4区表採遺跡 (1/3)

部分は、明らかに近世以降の削平によるものである。

Fig.35に調査区北壁の土層断面を図示した。1層・2層・2'層：淡灰色砂質土、3層・4層：黒褐色砂質土、5層：褐色砂質土、6層：黒褐色砂質土、7層：黒色粘性土、8層：褐色粘性土、9層：黒褐色土である。1～6層は新旧の耕作土で、台地の上であるが耕作によりかなり嵩上されている状況がわかる。7層・8層が基盤面であるが、7層上面での遺構検出は困難で、8層上面までを除去した。9層は小溝の埋土である。台地の基盤面である8層は、FH-68～71区画付近で、扇状地面を構成する砂質土の堆積層の中にもぐり込む。それ以南の堆積層上では遺構は分布しない。

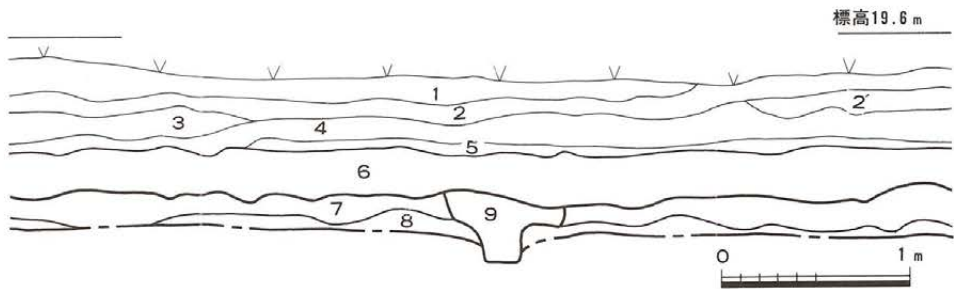


Fig.35 宿野遺跡5区北壁土層断面 (1/40)

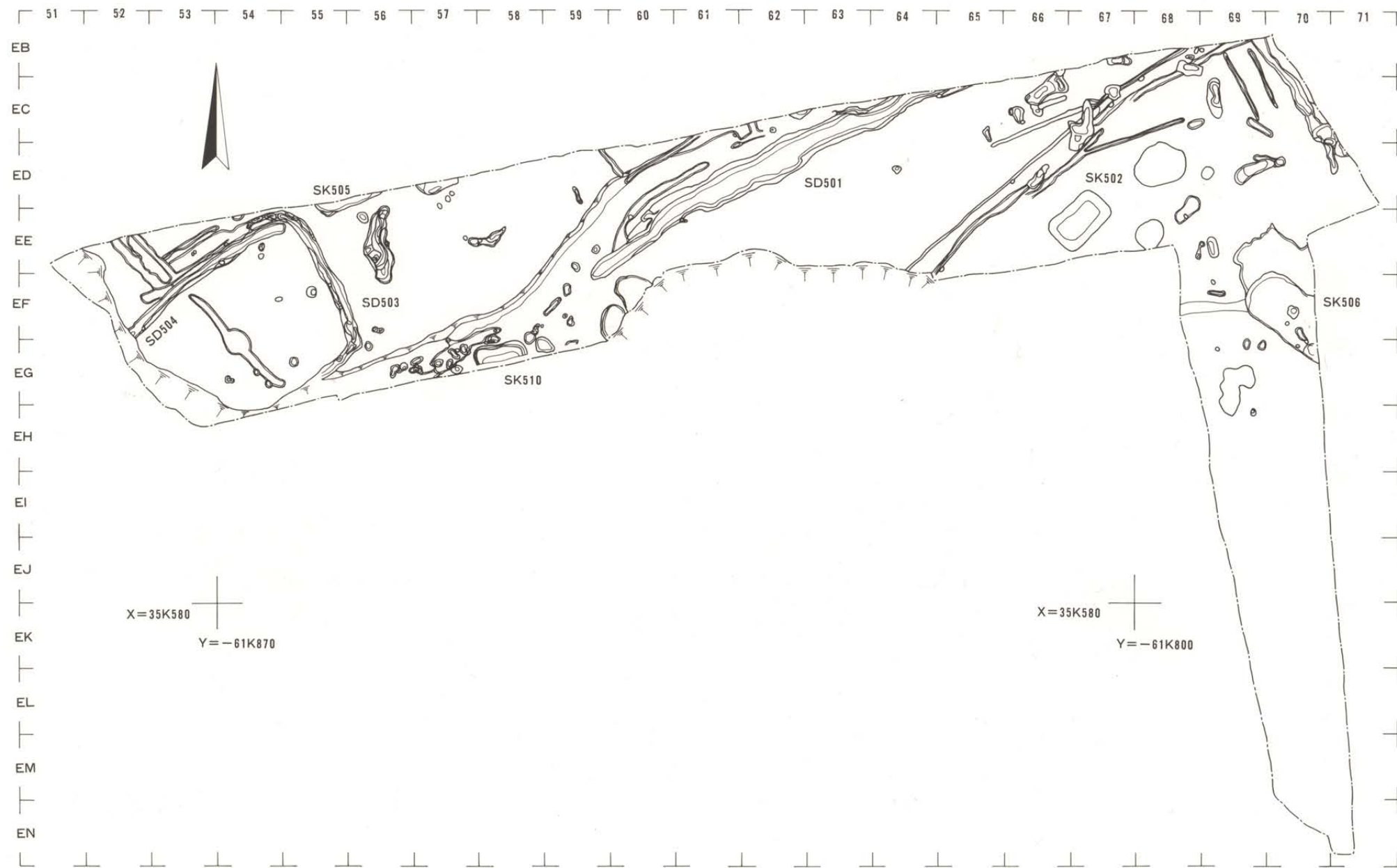


Fig. 36 宿野遺跡 5区遺構配置図 (1/400)

1. 古墳時代の遺構と遺物

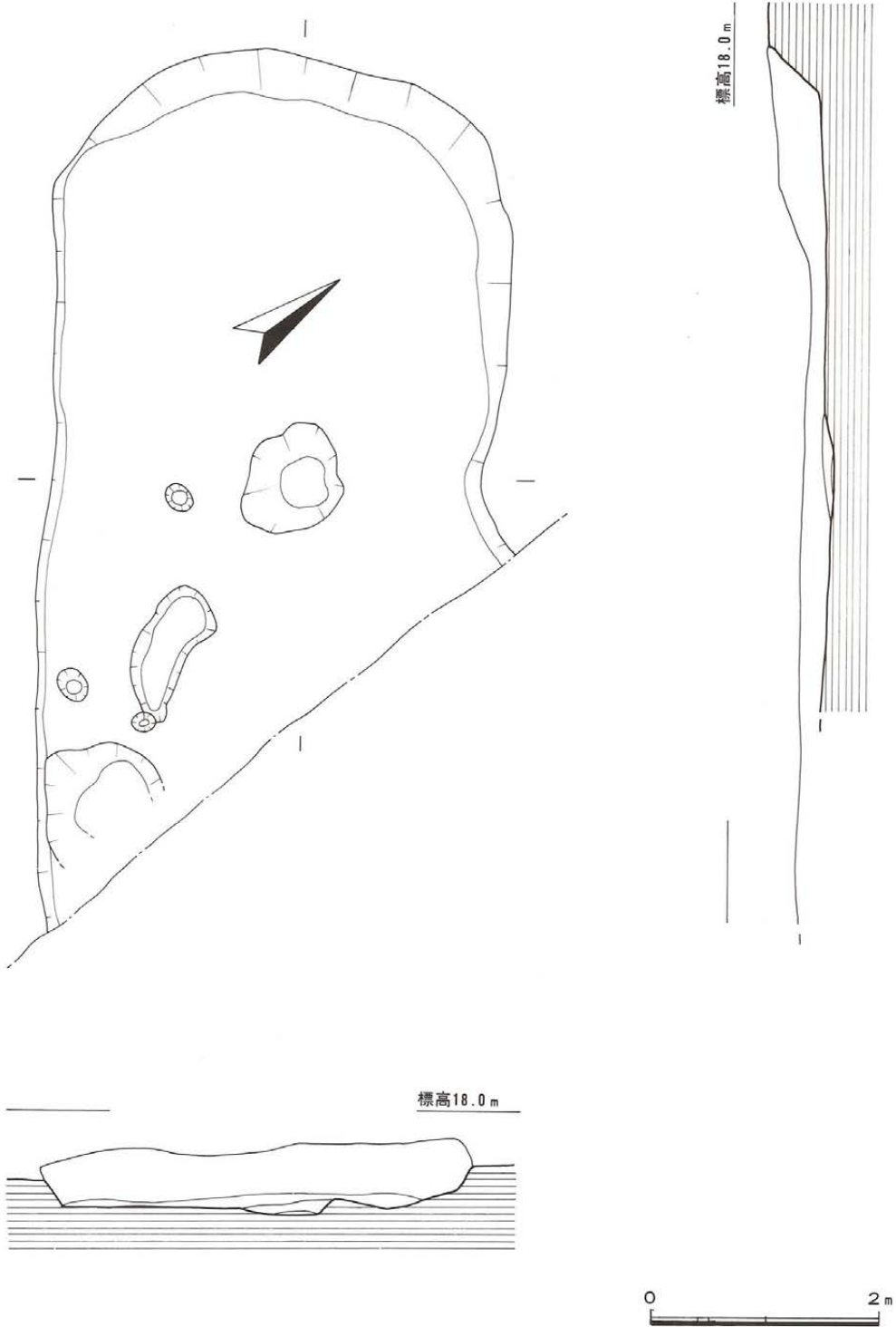


Fig.37 SK506土壙 (1/60)

1. 古墳時代の遺構と遺物

土壇と出土遺物

SK506土壇 (Fig.37)

EE・EF・EG-69・70区画で検出した。扇状地面の堆積層に近い位置で、湧水が激しく、堀下げは難行した。平面形は7.6m以上×3.9mの不整な隅丸長方形をなすと思われ、壁面はややきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は褐色～淡褐色土である。底面で土壇状・小穴状の落ち込みを検出し、埋土は土壇内埋土と同様であった。竪穴住居である可能性も存在する

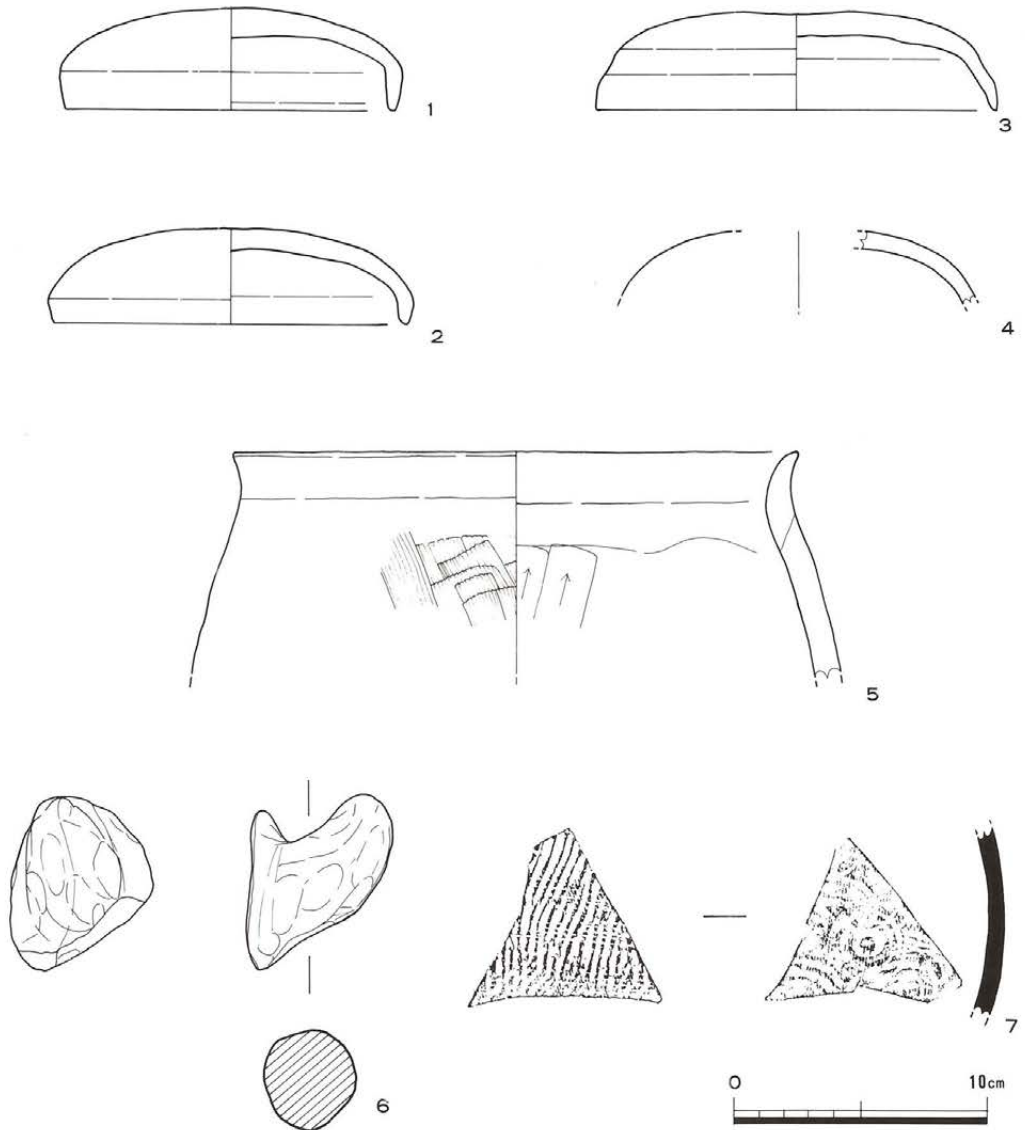


Fig.38 SK506出土遺物 (1/3)

1. 古墳時代の遺構と遺物

が、規模が大きいこと、確実に柱穴と考えられるものが検出されていないこと、から一応土坑として報告する。埋土中から、土師器片・須恵器片が出土している。

SK506出土遺物 (Fig.38)

1~4は土師器杯蓋の破片で、1は復元口径13.0cm・器高4.0cm、2は復元口径14.0cm・器高3.8cm、3は復元口径15.8cm・器高3.8cm、内外面は横ナデで仕上げてある。5は土師器甕の破片で、復元口径22.0cm、口縁部内外面は横ナデ、胴部外面は斜方向のハケ目、胴部内面は荒い縦方向のへら削りである。6は土師器甕の把手破片で、指押さえて仕上げてある。7は須恵器瓶の胴部破片で、外面は平行タタキ目、内面は同心円タタキ目が残る。

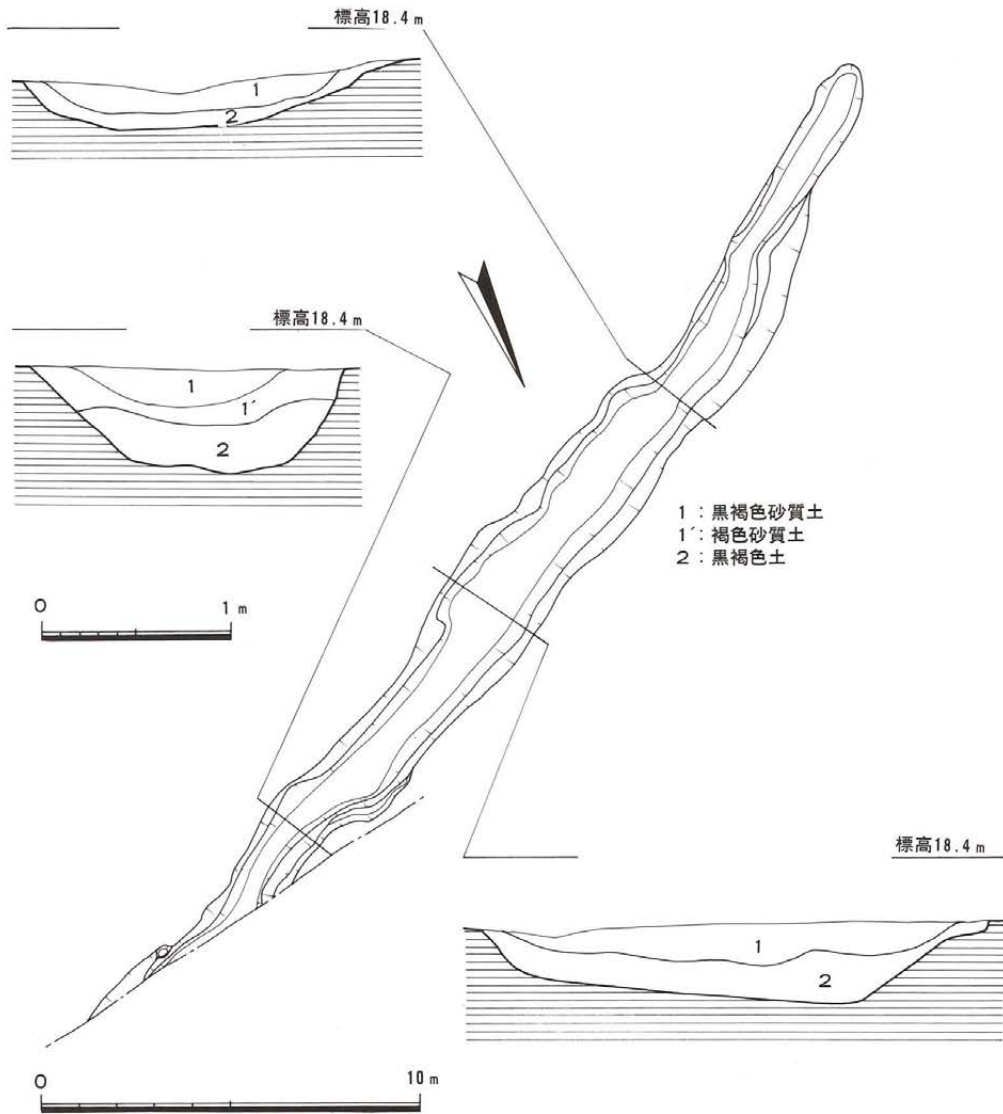


Fig.39 SD501溝 (1/200・1/40)

VIII. 5区の記録

2. 鎌倉時代の遺構と遺物

(1) 溝と出土遺物

SD501溝 (Fig. 39)

EC~EE-59~65区画で検出した。溝の西端は調査区内で終結するが、東端は調査区外に展開する。溝幅は1.2~2.7mで、断面形はゆるい逆台形状をなし、底面はほぼ平坦で標高17.8~17.6mをはかり、東に向かい明瞭に傾斜する。埋土は2層に大別でき、明瞭に帯水や流水を示す状況にはない。溝の形状から区画溝の一部かと思われるが、6区で検出されたものとは走行の方位がやや異なる。埋土中から土師器片・須恵器片・白磁片・土製品が出土した。

SD501出土遺物 (Fig. 40・41)

土師器杯 (Fig. 40-1・2) 1・2とも糸切り底で、内外面は回転ナデ、内底面にナデを加えている。1は復元口径11.4cm・器高3.0cm・復元底径8.0cm、2は口径13.3cm・器高3.5cm・底径8.8cm。

白磁椀 (Fig. 40-3) 白磁椀IV類 [森田・横田1978] の口縁部破片で、復元口径16.0cmをはかる。

須恵器瓶 (Fig. 40-4~6) 4は口縁部破片、5・6は胴部破片で、5は底部近い部分と思われる。4は端部から内面は横ナデ、外面は格子状タタキ目。5・6は外面は格子状タタキ目、内面は横~斜方向のハケ目が残る。

支脚 (Fig. 41-7) 土師質の土製品で、支脚の一部と思われる。外面はナデで仕上げている。

SD503・504区画溝 (Fig. 42)

ED~EG-52~56区画で検出した。SD503とSD504の組合せで、一辺12m前後の略方形の区画を構成している。区画の内部では、掘立柱建物など区画溝に伴うと思われる遺構は検出していない。

SD503 北端は調査区外に展開し、西南端は削平の段落ちで消滅している。クランク状に三つのコーナー部分をもち、北側は別の遺構かとも思われたが、切り合い関係は認められなかった。溝幅は0.7~1.4mほどで、北側で広がる。断面形は、南側では基本的に舟底状で、二段掘りの形状をなす部分もあり、北側では浅い台形状をなし底面はほぼ平坦である。底面の標高は18.2~18.5mほどで、北側で浅く、南側で深くなる。埋土は、北側では黒褐色~暗褐色土が暗黄褐色土と互層状に堆積し、南側では暗褐色土によって埋没していた。土層断面の観察では特に不整合な面は認められず、流入による自然堆積によるものと考えられる。帯水や流水を示す明瞭な状況はない。遺物はほとんどなかったが、埋土中から土師器片が出土している。

SD504 東端はSD503のコーナー部分で終結し、西端は削平の段落ちで消滅している。SD503との直接の切り合い関係は認められなかった。溝幅0.9~1.1m、断面形はゆるいV字状を

2. 鎌倉時代の遺構と遺物

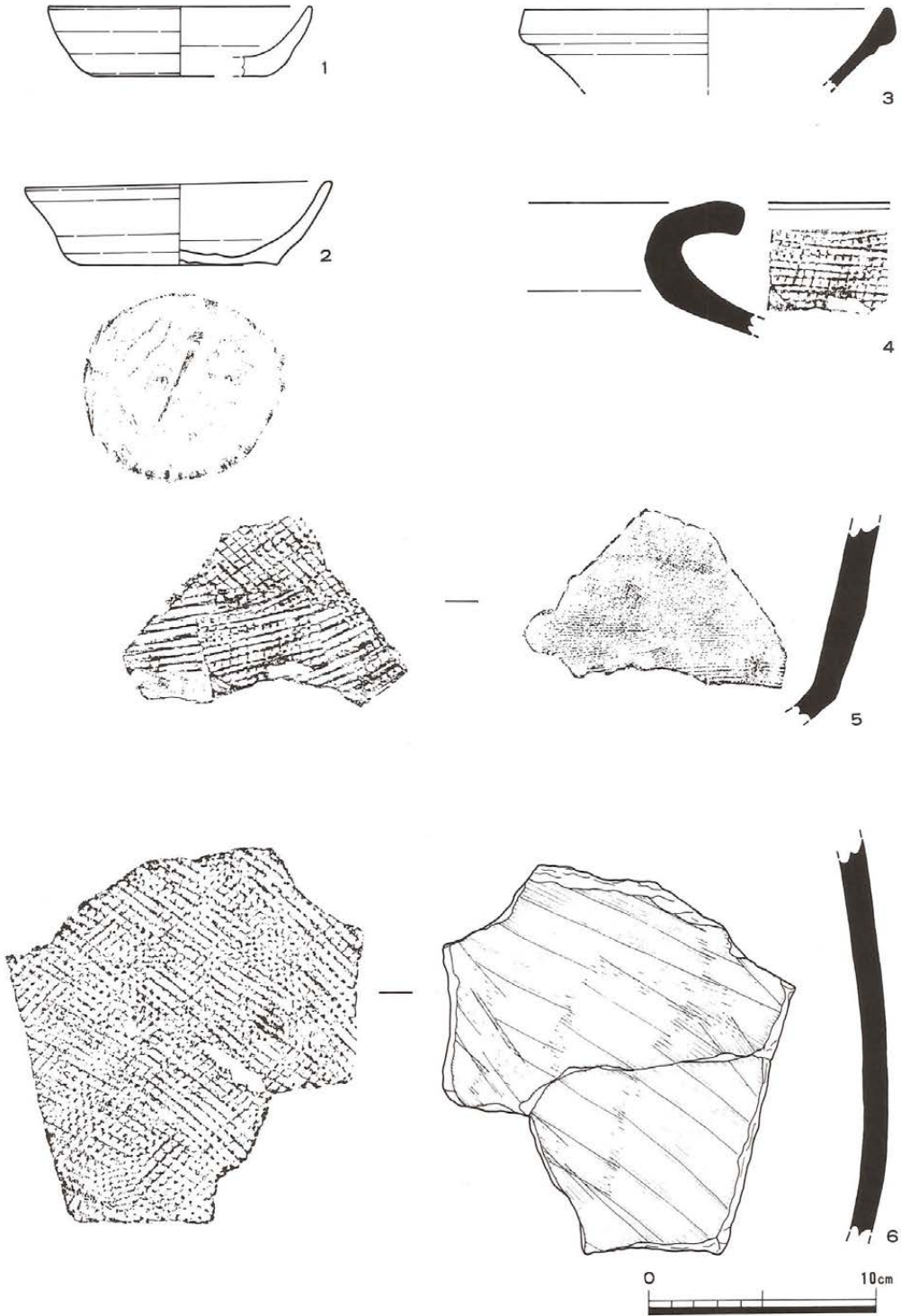


Fig.40 SD503・504区画溝 (1/200・1/40)

VIII. 5区の記録

なし、底面の標高は18.4~18.5mほどでゆるやかに西側に傾斜する。埋土は黒褐色土で2層に大別できた。土層断面の観察では特に不整合な面は認められず、流入による自然堆積によるものとする。帯水や流水を示す明瞭な状況はない。出土遺物はない。

SD503出土遺物 (Fig.41)

1は土師器杯の底部破片で、復元底径7.0cm、内外面は回転ナデを施す。2は土師器鍋Ⅲ類〔徳永1990〕の口縁部破片で、口縁端部は横ナデ、外面は指押しえ、内面は横方向の細かいハケ目を施す。

(2)土壌と出土遺物

SD502土壌 (Fig.44)

ED・EE-66・67区画で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。平面形は4.6×2.7~3.0

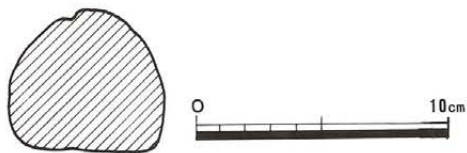
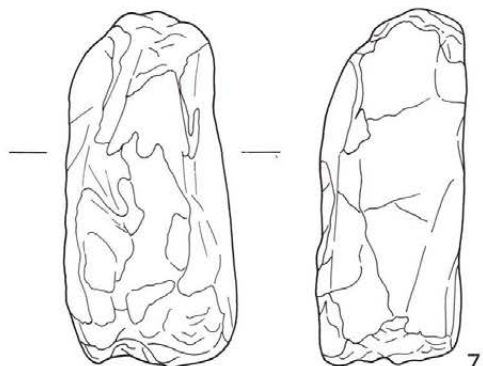


Fig.41 SD503出土遺物 (1/3)

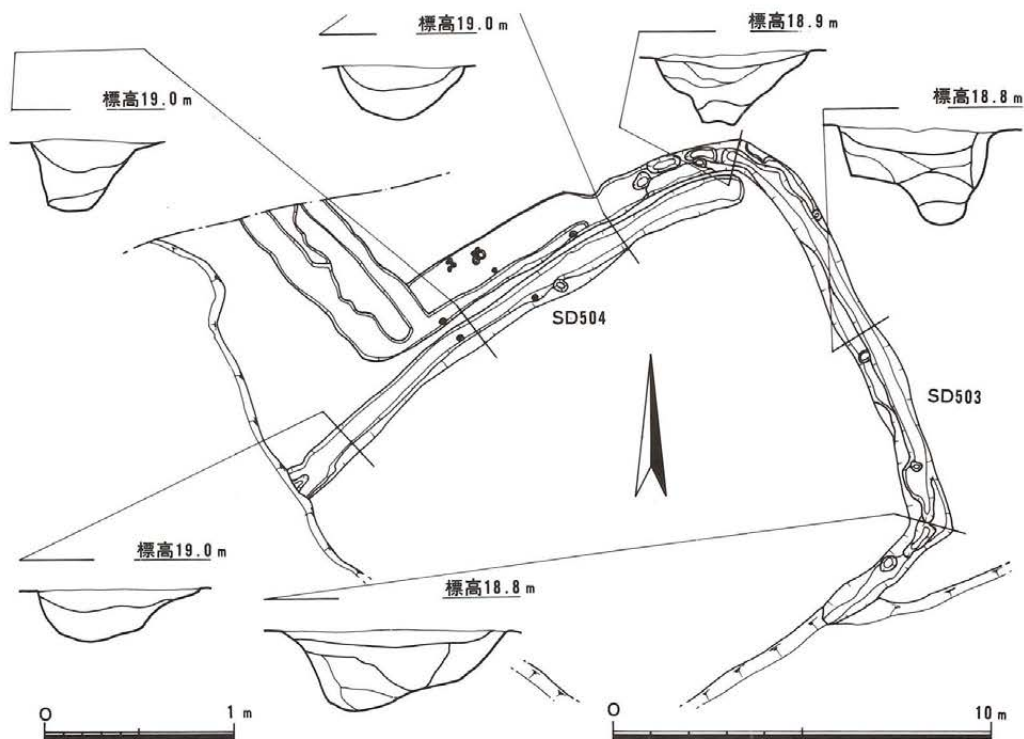


Fig.42 SD503・504区画溝 (1/200・1/40)

2. 鎌倉時代の遺構と遺物

mの端正な隅丸長方形をなす。壁面はややきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は7層に細別できた。不整合な面は認められず、流入による自然堆積で、面を構成しながら埋没したものとする。基底面での湧水が激しく、5~7層では帯水の形跡が認められる。溜め舂的な機能が推定できる遺構であろう。遺物はほとんどなく、埋土中から土師器片が出土している。

SK502出土遺物 (Fig.46-1)

糸切り底の土師器杯の底部破片で、復元底径8.0cm、内外面は回転ナデを施す。

SK505土壙 (Fig.45)

ED-55・56区画で検出した。他の遺構との切り合い関係

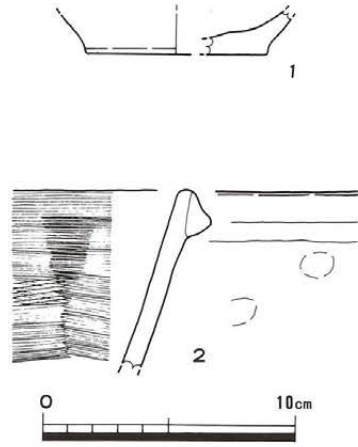


Fig.43 SD503出土遺物 (1/3)

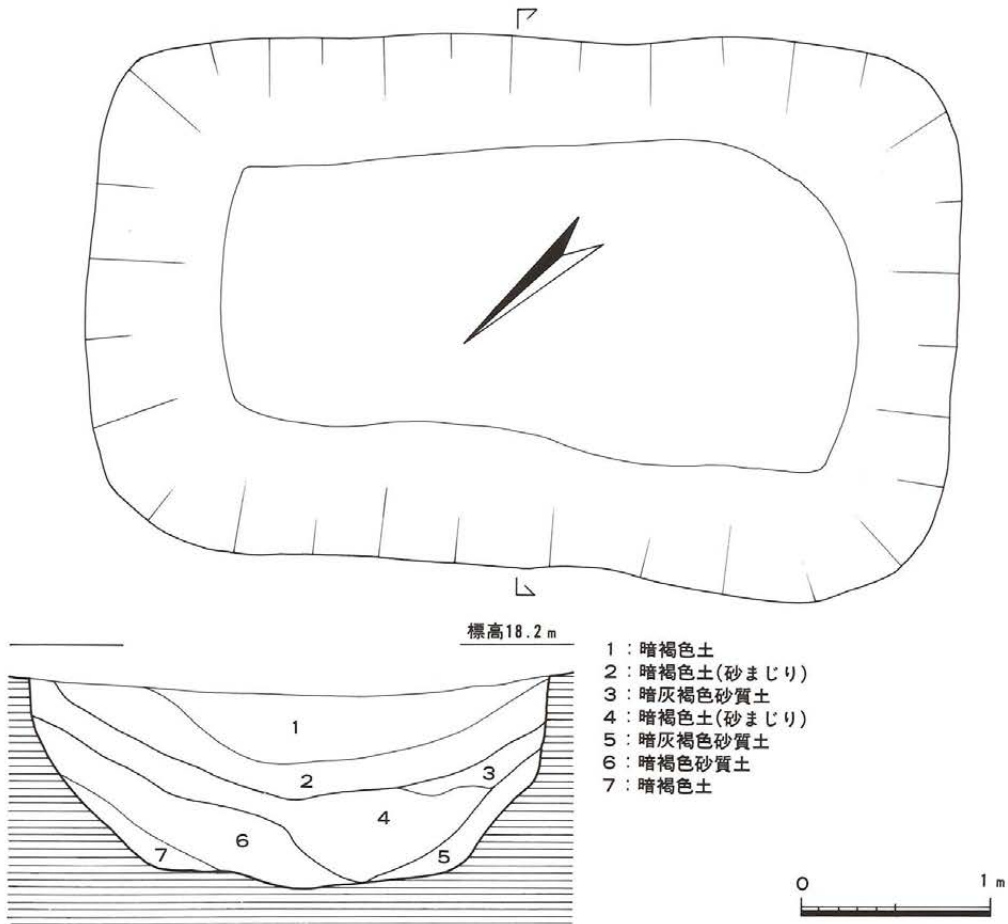


Fig.44 SK502土壙 (1/40)

はない。遺構の大部分が調査区外に展開し、その形状が不明だが一応土塋として報告しておく。埋土は暗褐色土で、細かい黄褐色ブロックを多く含む。埋土中から土師器片・須恵器片が出土した。

SK505出土遺物 (Fig.46-2~5)

土師器杯 (2・3・4) どれも糸切り底で、2は復元口径11.0cm・器高4.1cm・底径7.6cm、3は口径12.4cm・器高4.0cm・底径8.0cm、4は復元口径13.6cm・器高3.3cm・復元底径8.0cm、内外面は回転ナデ、2は内底面にナデを加えている。

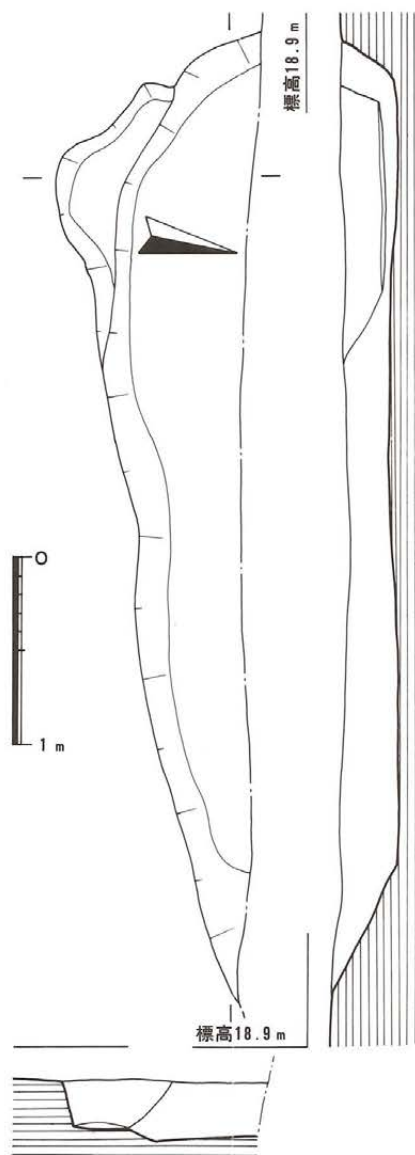


Fig.45 SK505土塋 (1/40)

須恵器瓶 (5) 口縁部破片で、復元口径36.0cm。口縁端部から頸部内面は横ナデ。胴部内面はハケ目をナデ消しているが、頸部の一部に斜方向のハケ目を残す。外面は格子状のタタキ目が残る。

SK510土塋 (Fig.47)

EF・EG-57・58区画で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。遺構の半分以上が調査区外に展開する。平面形は4.0m×1.3m以上の隅丸長方形をなすと思われる。壁面はややきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は18層に細別でき、不整合な面は認められず、流入による自然堆積で面を構成ながら埋没したものとする。基底面での湧水が激しく、6・7・8層に帯水の痕跡が認められる。形状・埋土の堆積から考えてSK502と同様な溜め舂的な機能が推定できる遺構と考える。遺物はごく少ないが、埋土中から土師器片・須恵器片・青磁片・土製品が出土した。

SK510出土遺物 (Fig.48)

土師器杯 (1・2) どちらも糸切り底で、1は復元口径12.0cm・器高3.3cm・復元底径6.0cm、2は復元口径13.6cm・器高3.2cm・復元口径8.0cm、内外面は回転ナデを施す。

青磁杯 (3) 杯の口縁部破片と思われる。

須恵器瓶 (4) 胴部破片で、古墳時代遺物の混入と思われる。外面は平行タタキ目、内面は円弧タタキ目が残る。

支脚 (5) 土師質の土製品で、支脚の一部と思わ

2. 鎌倉時代の遺構と遺物

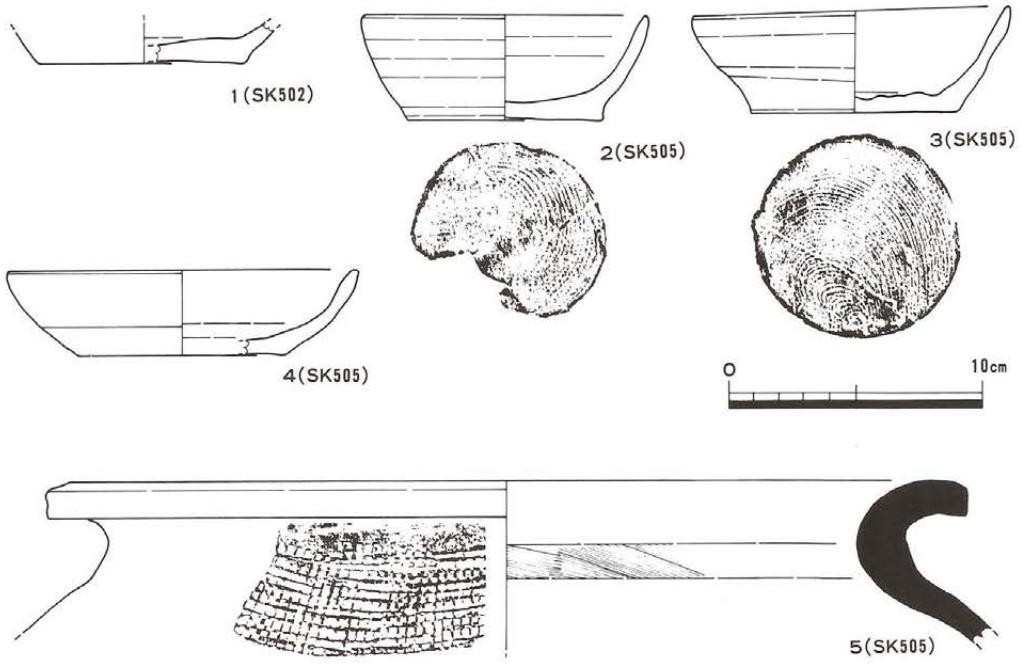


Fig.46 SK502・505出土遺物 (1/3)

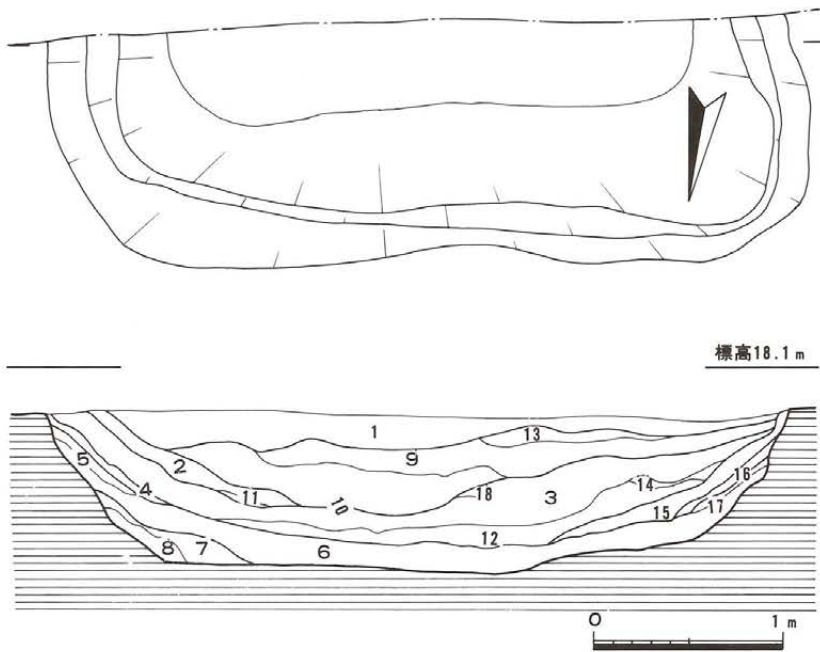


Fig.47 SK510土壙 (1/40)

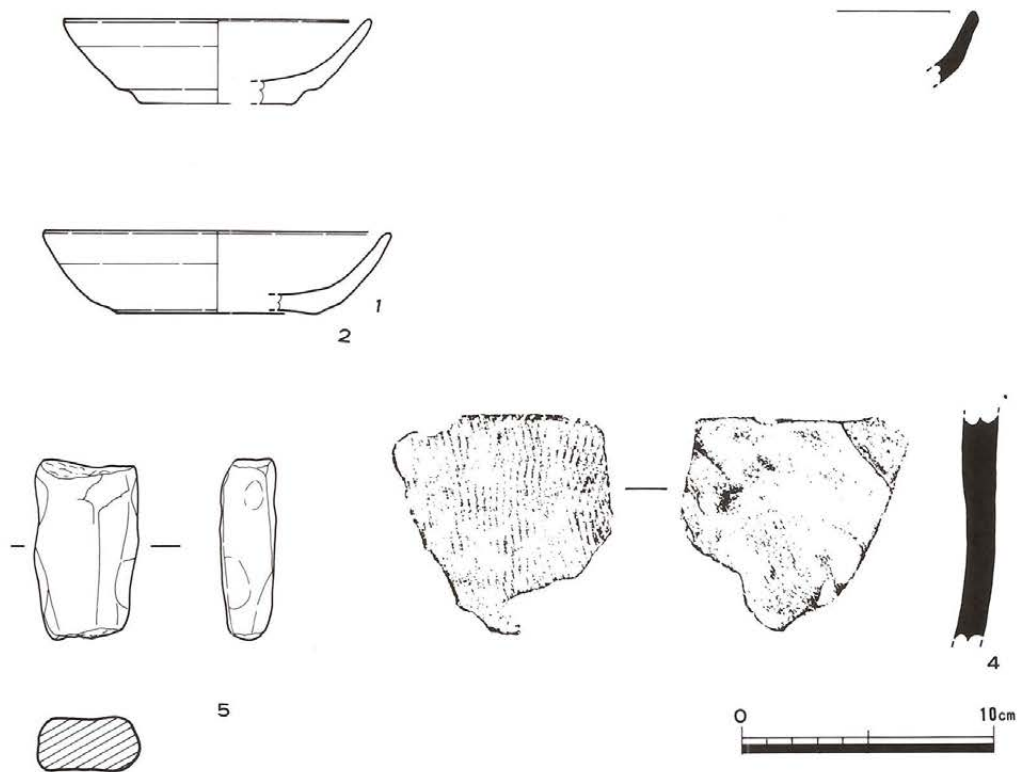


Fig.48 SK510出土遺物 (1/3)

れる。外面はナデで仕上げている。

3. 小 結

ここでひとまず宿野遺跡5区の調査成果についてまとめておく。

古墳時代遺跡については、遺物は混入などで認められるが、明確な遺構としてはSK506しかない。竪穴住居である可能性については、前述した通りである。

鎌倉時代遺跡については、溝・土塋を検出した。年代決定に足る遺物を得てないが、調査区東側で検出した小溝も、この時期の耕作関連の遺構である可能性が高い。

SD503・504で構成された区画溝は、内部の関連遺構が検出されず性格がよくわからない。一辺12m程度であることを考えれば、東背振村大曲A遺跡 [久保1985] の検出例のように一つの区画に1棟づつの掘立柱建物を伴うものか、あるいは墓地の外表面施設である可能性もある。

溜め舂的な機能を想定したSK502・510は、いわゆる大型土塋 [福田1987] といわれるものである。洪積台地の先端に位置する立地で基底面での湧水を伴い、溝と組合せになる例が多く、耕作関連で溜め舂的な機能を想定していることは前述したが、原ノ町遺跡 [西田・木島1992] で一列に並んだ状態の検出例は様相が異なるようである。典型的な屋敷地の内部では前者の検出例は今のところなく、市域南部での検出例もない。

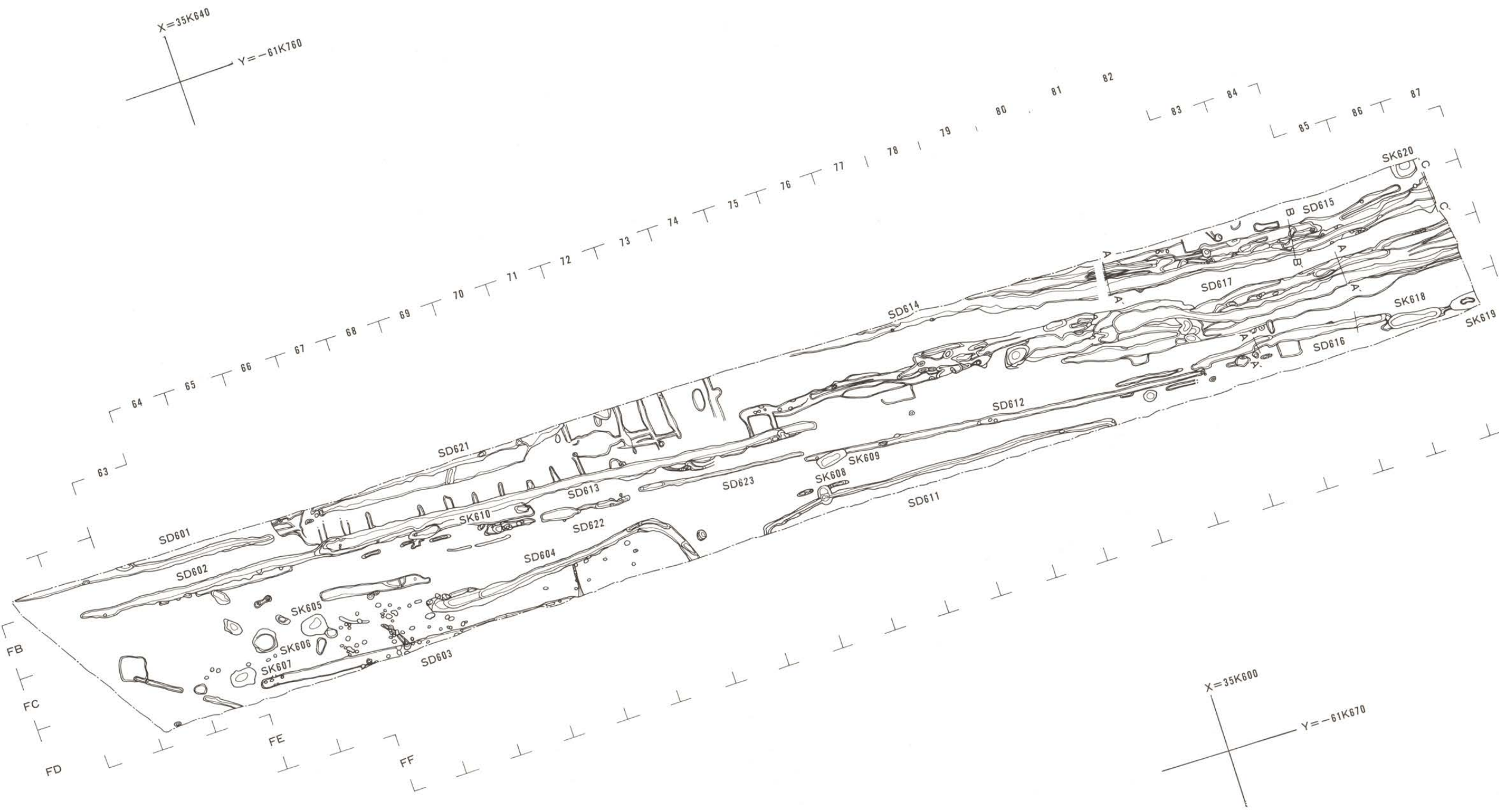


Fig.49 宿野遺跡6区遺構配置図 (1/400)

IX. 6区の記録

宿野遺跡6区は南に突き出した舌状の洪積台地を東西に横断する形で位置し、西側は市道をはさんで5区に接する。遺構の広がりとしては両者を同一にとらえていい。

検出された遺構・遺物のほとんどが鎌倉時代後半に属するものと考えられる。遺構は溝・土塋・小穴であるが、掘立柱建物は確認できていない。

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

(1) 溝と出土遺物

SD601溝

FA・FB-61～66区画で検出した。ほぼE-W軸をとる直線的な溝で、西端は調査区外に展開し、東端は調査区内で終結する。調査区内では24mほど確認されている。溝幅0.6～0.8mほどで、断面形はゆるい逆台形状をなし、底面はほぼ平坦で標高18.1mほどをはかり、明瞭な傾斜の方向は認められない。埋土は砂混じりの褐色～明褐色土で、流入による自然堆積と思われる、帯水や流水を明瞭に示す状況は認められなかった。遺物はほとんどなく、埋土中から土師器片が出土した。

SD601出土遺物 (Fig.50-1)

糸切り底の土師器杯底部破片で、復元底径6.0cm、体部内外面は回転ナデで、内底面にナデを加え、外底面に板目圧痕が残る。

SD602溝

FB-62～66区画で検出した。ほぼE-W軸をとる直線的な溝で、SD601と距離2mほどでほぼ

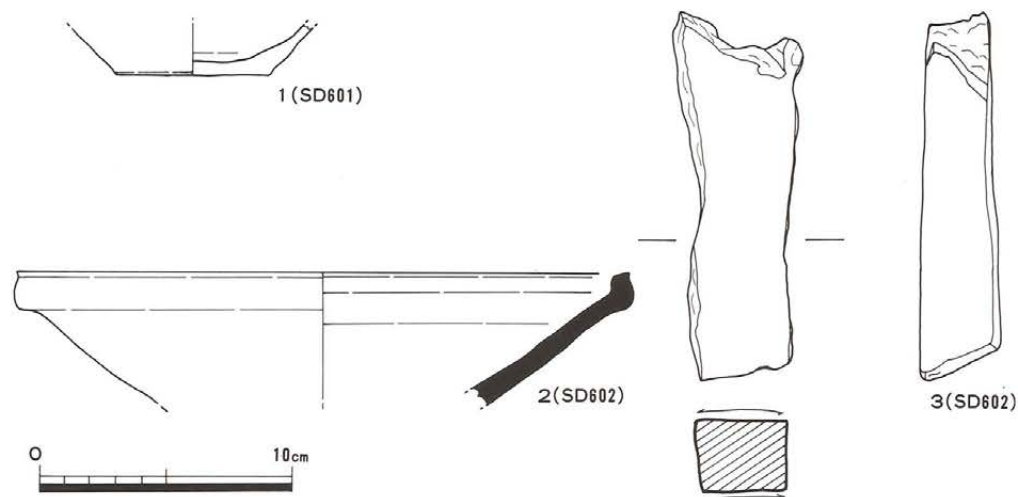


Fig.50 SD601・602出土遺物 (1/3)

IX. 6区の記録

平行する。調査区内で終結し全長は21m、東端でSD613とわずかに重複するが切り合いによる先後関係は不明。溝幅は0.4~1.0mほどで、断面形は逆台形状をなし、底面はゆるい舟底状で標高18.1~18.2mをはかり、東に向ってわずかに傾斜する。埋土は砂混じりの暗褐色土で、流入による自然堆積と思われ、帯水や流水を明瞭に示す状況は認められなかった。遺物はほとんどなく、埋土中から須恵器片・石製品が出土した。

SD602出土遺物 (Fig.50-2・3)

2は東播系須恵器捏鉢と思われる口縁部破片で、復元口径24.0cm、内外面は回転ナデを施す。3は堆積岩(石材不明)の砥石で、2面を使用している。

SD603溝

FD-65~70区画で検出した。埋土の上面から複数の小穴に切り込まれていた。ほぼE-W軸をとる直線的な溝で、西端は調査区内で終結し、東端は調査区外に展開する。調査区内では28mが確認されている。溝幅は1.1mほどで、断面形は深さ0.2mほどの浅い逆台形状をなし、底面はほぼ平坦で標高18.2mほどをはかり、明瞭な傾斜は認められない。埋土は砂混じりの淡褐色土で、流入による自然堆積と思われ、帯水や流水を明瞭に示す状況は認められなかった。遺物はほとんどなく、埋土中から土師器片が出土した。

SD603出土遺物 (Fig.51-1~3)

1・2は糸切り底の土師器杯の破片で、内底面にナデを加え外底面に板目圧痕が残る。1は復元口径13.0cm・器高3.6cm・底径8.8cm、2は復元底径7.8cm。3は土師器器台で、古墳時代遺物の混入品と思われる。復元底径10.0cm、指押さえて仕上げている。

SD604区画溝 (Fig.52)

FC・FD-68~73区画で検出した。西端は調査区内で終結し、南端は調査区外に展開する。約60ほど屈曲するコーナー部分を有する。その形状から屋敷地内部の区画溝と思われる。溝幅は0.6~1.4mほどで、断面形は不整な逆台形状をなし、底面はおおむねゆるい舟底状で標高17.8~18.0mをはかり、傾斜は西に向ってかかっている。埋土は3層に大別され、帯水や流水を明瞭に示す状況は認められなかった。土層断面観察では、E-W軸の部分では埋土が北から流入し、NW-S E軸の部分では西側の区画内部の地山が高く、埋土が西から流入していることがわかる。削平を考慮しても、E-W軸では区画内部の標高が外部と比較して高かったことを窺わせる。区画内部から終結点付近に散在する小穴群は、SD603を埋土上面から切り込んでいることから、この区画溝に伴う遺構ではないかと考える。遺物は少ないが、埋土中から土師器片が出土している。

SD604出土遺物 (Fig.51-4~8)

土師器杯 (4~6) 4・6は糸切り底で、4は復元口径13.6cm・器高3.8cm・底径8.7cm、5は復元口径17.4cm、6は底径7.7cm。4・6は内底面にナデと外底面に板目圧痕が残る。

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

土師器播鉢 (7) 復元口径20.2cm、口縁端部は横ナデ、外面はナデと指押さえ、内面は横方向の細かいハケ目の後に播目を施す。播目の単位は不明。

土師器鍋 (8) III類 [徳永1990] の口縁部破片で、内外面に横ナデを施す。

SD612溝

FC・FD-75~82区画で検出した。SK609と切り合い関係にあり、SD612が先行する。SD616との切り合いはない。調査区内で展開し、全長36m、溝幅0.5~0.7mほどで、断面形は端正な

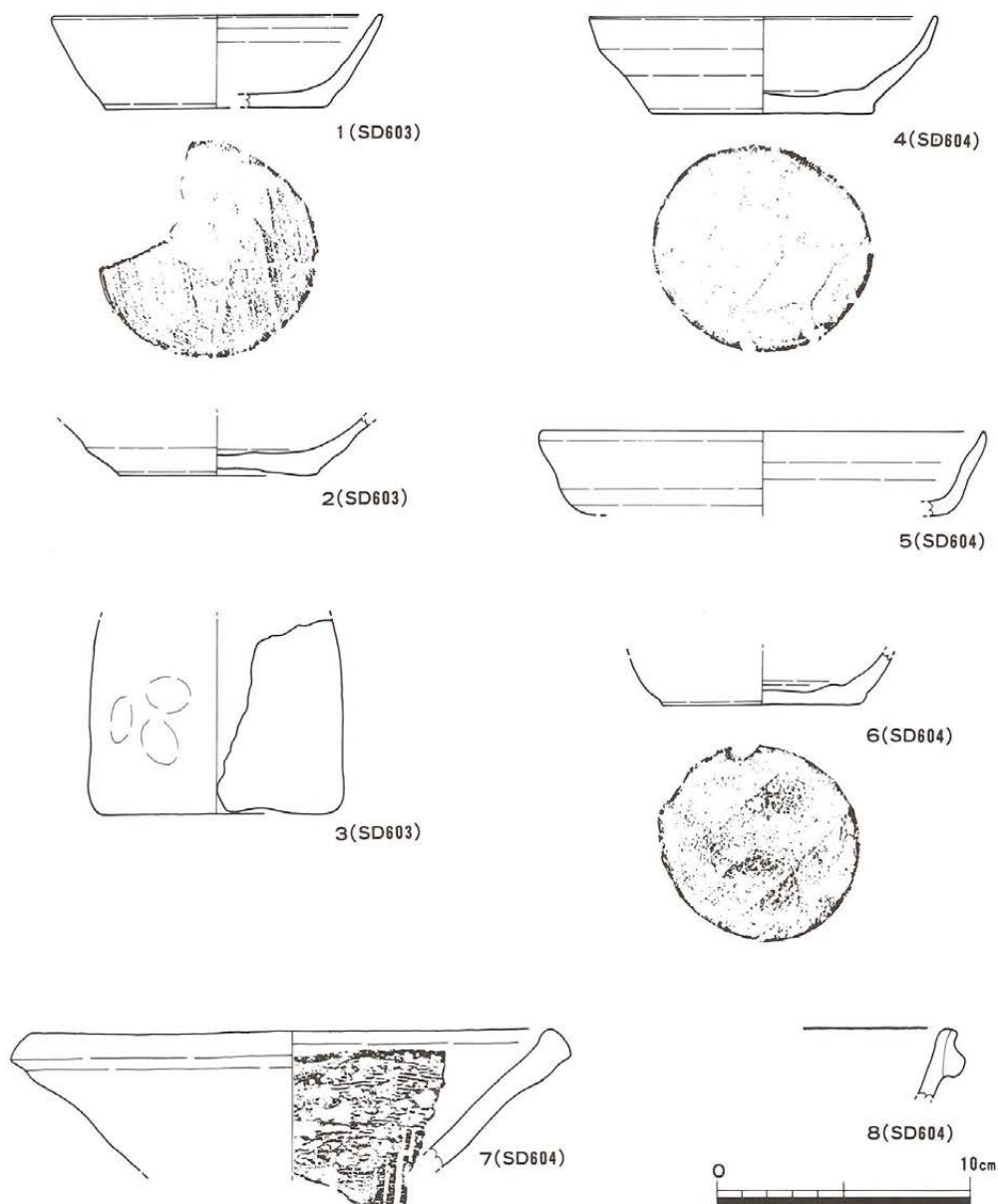


Fig. 51 SD603・604出土遺物 (1/3)

IX. 6区の記録

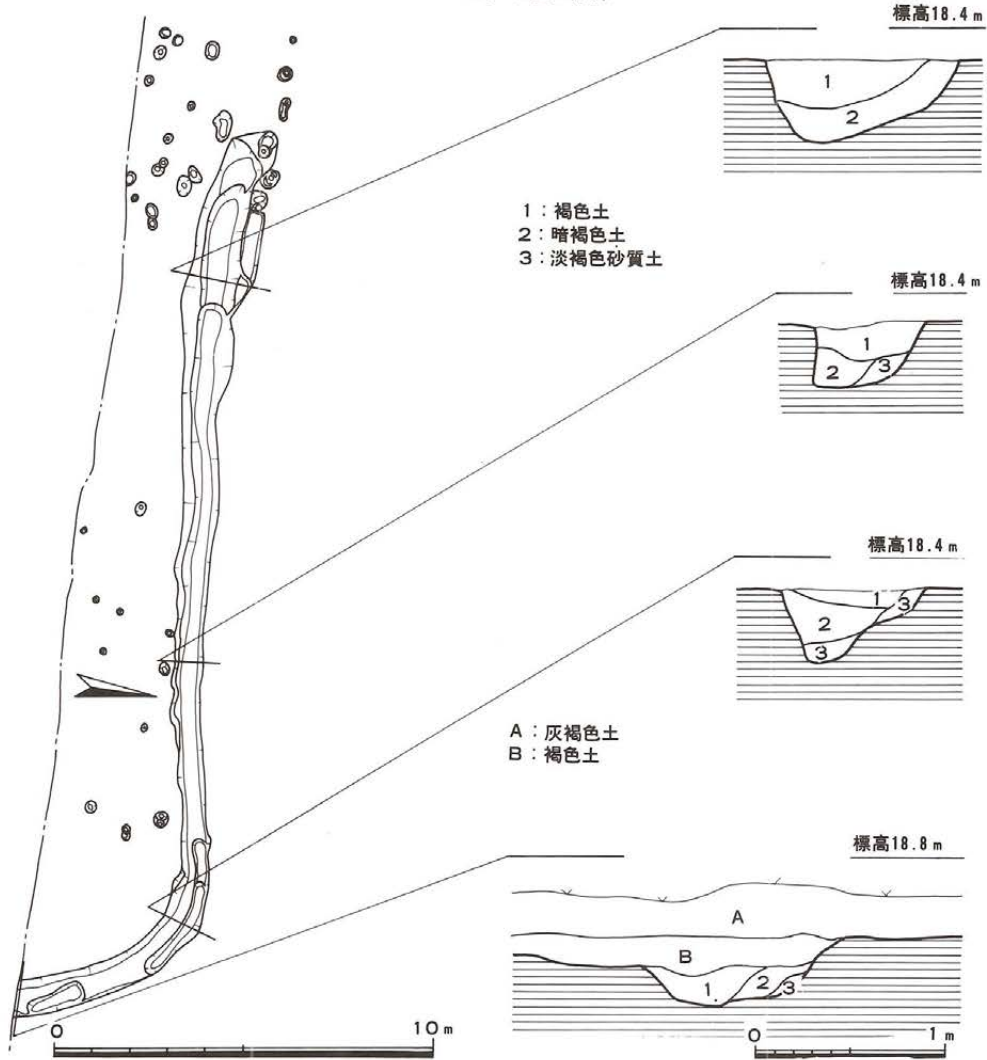


Fig.52 SD604区画溝 (1/200・1/40)

箱形をなし、底面はほぼ平坦で標高18.1~18.2mをはかり、東に向ってわずかに傾斜する。埋土は砂混じりの褐色~暗褐色土で、流入による自然堆積と思われ、帯水や流水を示す明瞭な痕跡はない。遺物は少ないが、埋土中から土師器片・須恵器片が出土した。

SD612出土遺物 (Fig.53)

土師器皿 (1・2) 口径8.1cm・器高1.5~1.6cm・底径6.1~7.0cm、内底面から体部外面は回転ナデを施す。

土師器杯 (3~8) 口径11.4~15.0cm・器高2.5~3.5cm・底径8.0~11.2cm、内底面から体部外面に回転ナデ、3・4・7・8は内底面にナデを加え、7は外底面に板目圧痕が残る。

支脚 (9・10) 土師質の土製品で、支脚と思われる。9は外面を指押さえて仕上げ、10は内

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

外面をナデで仕上げる。

須恵器捏鉢 (11) 東播系須恵器捏鉢の口縁部破片である。

SD613溝 (Fig.54)

FB・FC-66～75区画で検出した。SD602とわずかに切り合い関係にあるが、先後関係は不明である。調査区内で展開し、全長46m。ほぼE-W軸をとる不整な溝で、溝幅0.8～2.0mで、断面形はゆるいV字状で、底面は舟底状で標高17.8mをはかり、明瞭な傾斜は認められない。北側に幅0.3～0.6m、深さ0.1～0.2mほどのN-S軸をとる小溝が連結する。埋土は4層に大別でき、2・3層で帯水の痕跡がある。小溝の埋土は黒灰色砂質土で、SD613より先に埋没した形跡を示す。小溝の埋土からの出土遺物はない。SD613の埋土からは土師器片・青磁片・瓦器片・須恵器片が出土した。

立野遺跡 [福田1989] でも、しっかりした溝と直交方向で小溝が検出されている。立野遺跡

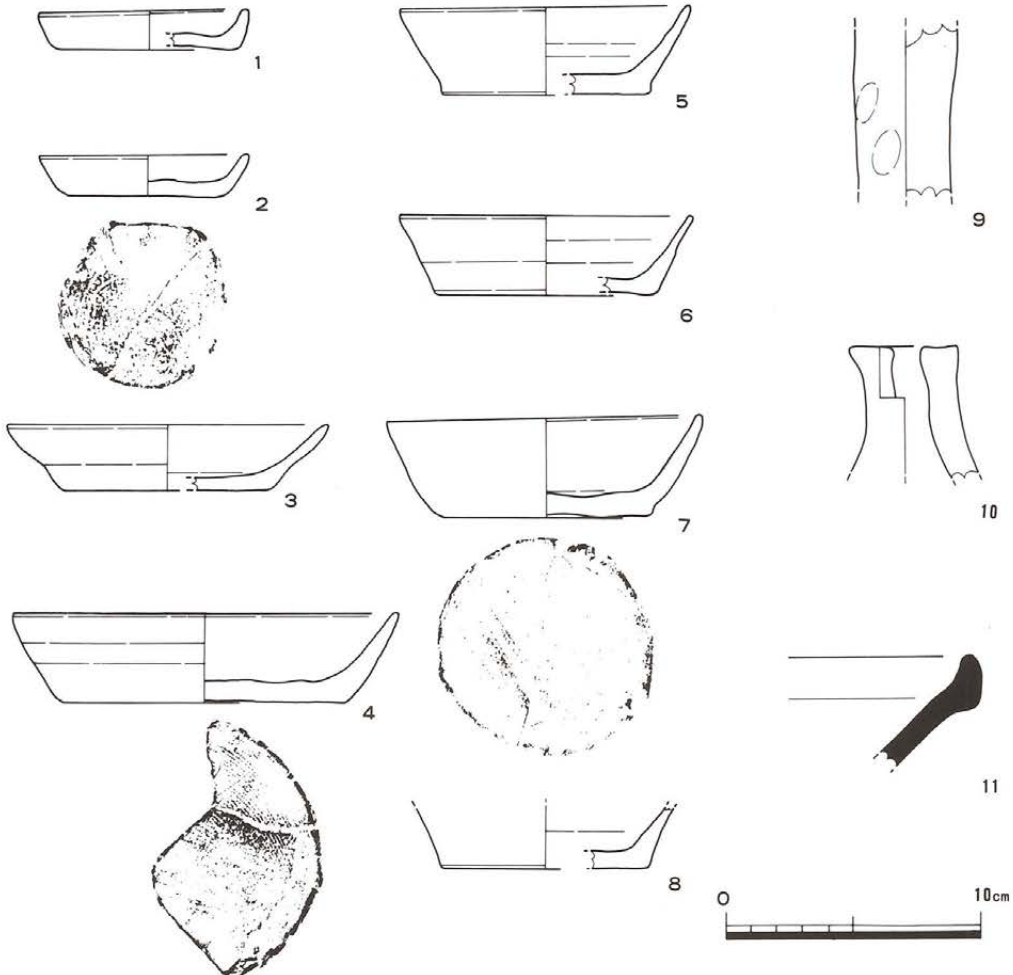


Fig.53 SD612溝 (1/300・1/40)

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

の例では、溜め舛的な機能を想定できるいわゆる大型土壌 [福田1987] も溝と連結していて、こうした形態の溝が耕作関連遺構ではあることを窺わせる。

SD613出土遺物 (Fig.55)

土師器皿 (1~3) 糸切り底で、口径8.4~8.8cm・器高1.5~1.7cm・底径6.4~7.4cm、体部内外面は回転ナデ、内底面にナデを加え、3は外底部に板目圧痕が残る。

土師器杯 (4・5) 糸切り底で、口径15.0cm・器高3.2cm・底径9.2~9.8cm、内底面から体部外面に回転ナデを施す。

青磁椀 (6) 青磁椀の体部破片と思われる。

須恵器捏鉢 (7) 東播系須恵器捏鉢の口縁部破片である。

瓦器壺 (8) 見慣れない器形の口縁部破片であり、一応壺にしておく。復元口径13.7cm、口縁部内外面は横ナデ、外面は縦方向の細かいハケ目、内面は上位で横方向のハケ目、下位ではヘラ状工具による横方向の擦過痕が残る。

須恵器瓶 (9) 底部付近の破片で、外面は格子状タタキ目、内面はナデを施す。

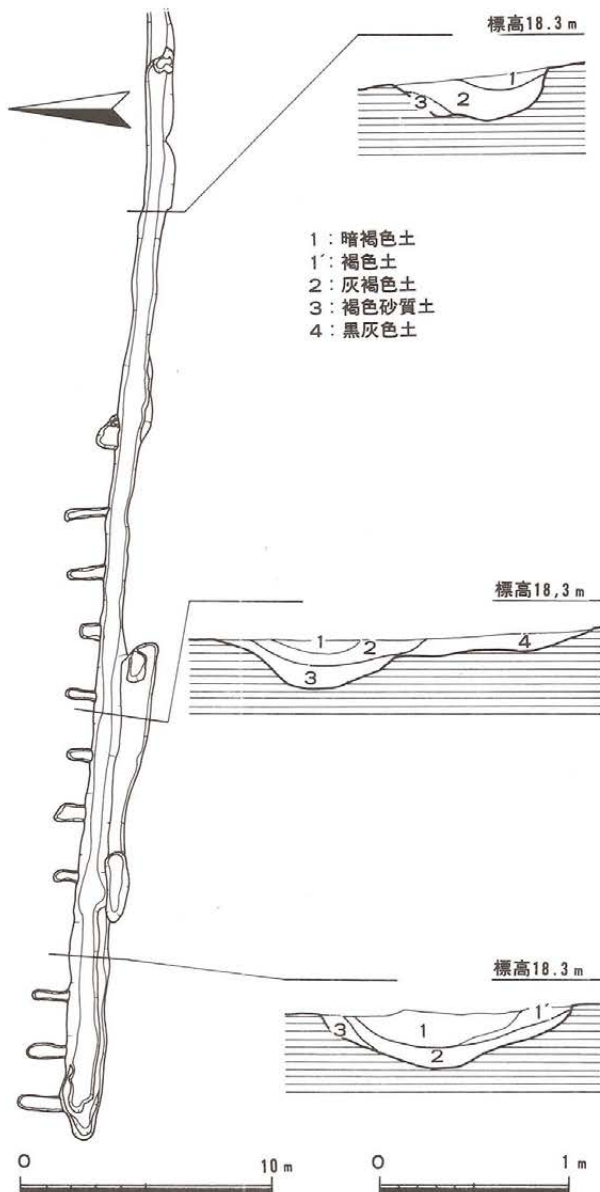


Fig.54 SD613溝 (1/300・1/40)

SD614・615溝 (Fig.56)

FA・FB-75~87区画で検出した。本来一つの溝が数回の掘り直しのたびに位置がずれ、このような形状になったものとする。ほぼE-W軸をとる不整な溝で、やや南に向って弧を張る。東西両端は調査区外に展開する。調査区内での検出距離は約50m。平面での埋土の切り合い状況で、SD614とSD615に分離したが、土層断面の観察ではそれ以外にも数回の掘り

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

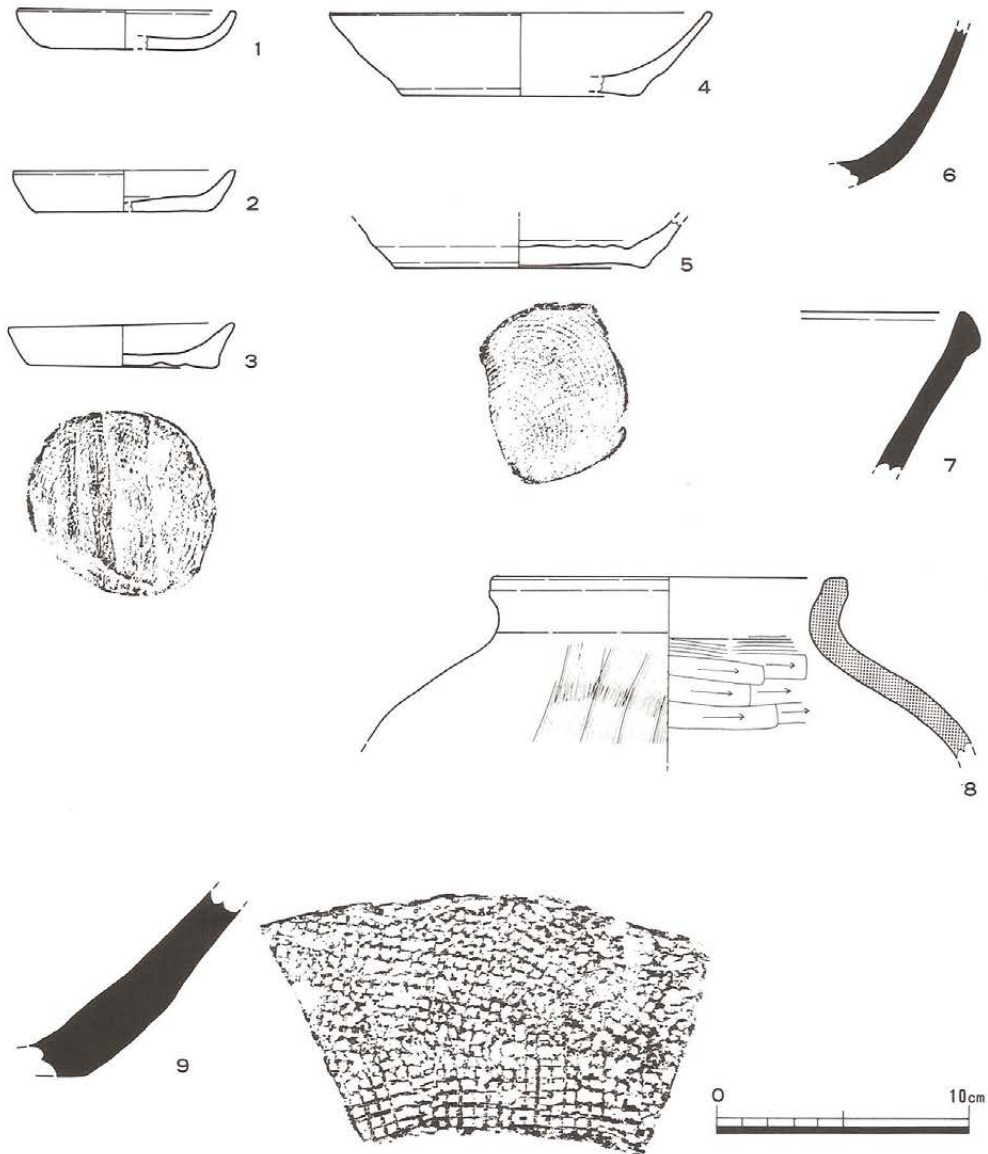


Fig.55 SD613出土遺物 (1/3)

直しが行われている。SD614がSD615を切る。溝幅1.0~2.0m、断面形はゆるい逆台形状をなす部分が多く、底面は浅い舟底状である。底面の標高は17.0~17.5mをはかり、明瞭に東に向けて傾斜する。埋土は流水による堆積の特徴を明確に示し、洪水のような状況で溝が埋没した後掘り直しが行われている。用水路的な機能の遺構と考えて、まず間違いないだろう。埋土中からは、まとまった量の土師器片と瓦器片・須恵器片・土製品・石製品が出土している。土師器皿・杯は完形に近いものも多く、若干の年代差がみてとれることから、掘り直しのたびに土師器皿・杯の投棄が行われた形跡があるが、細かい分層による遺物の取り上げには完全に失敗

IX. 6区の記録

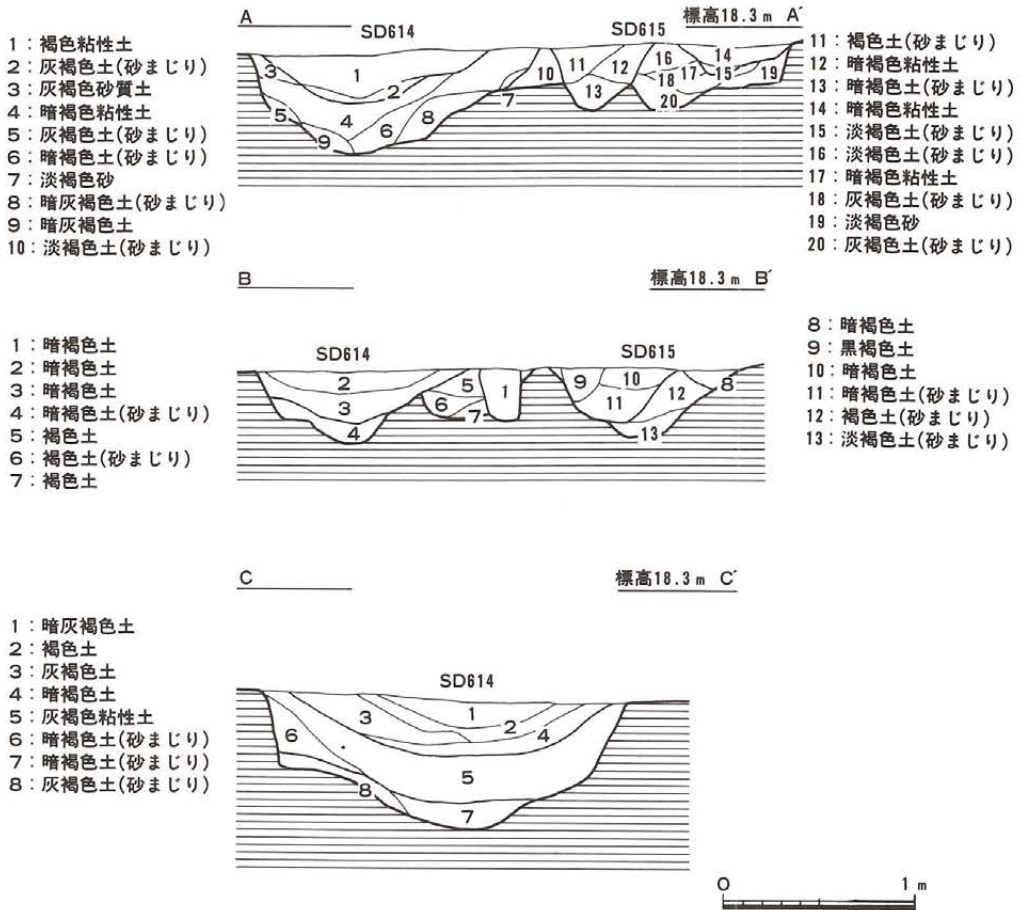


Fig.56 SD614・615土層断面 (1/40)

している。

SD614出土遺物 (Fig.57~63)

土師器皿 (Fig.57-1~11) 口径7.8~9.5cm・器高1.4~1.8cm・底径5.0~7.8cm、内底面にナデを加え、外底面に板目圧痕が残るものが多い。

土師器杯 (Fig.57-12~59-33) 口径11.6~16.0cm・器高2.7~4.5cm・底径7.0~12.0cm、内底面にナデを加えているものは多いが、外底面に板目圧痕を残すものは少ない。

土師器小壺 (Fig.59-34) 一応小壺として分類しておく。復元底径7.0cm、外面上位は横ナデ、下位は細かい縦方向のハケ目、内面は指押さえで仕上げている。

土師器捏鉢 (Fig.59-35・36) 35は見慣れない器形で、一応捏鉢として分類する。口縁部内外面は横ナデ、外面は指押さえ、内面は横~斜方向の細かいハケ目。36は片口を有する口縁部破片で、口縁端部から外面は横ナデ、内面は細かい横方向のハケ目。

土師器播鉢 (Fig.59-37) 復元口径22.0cm、内外面は横ナデで、内面に4本単位の浅い播

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

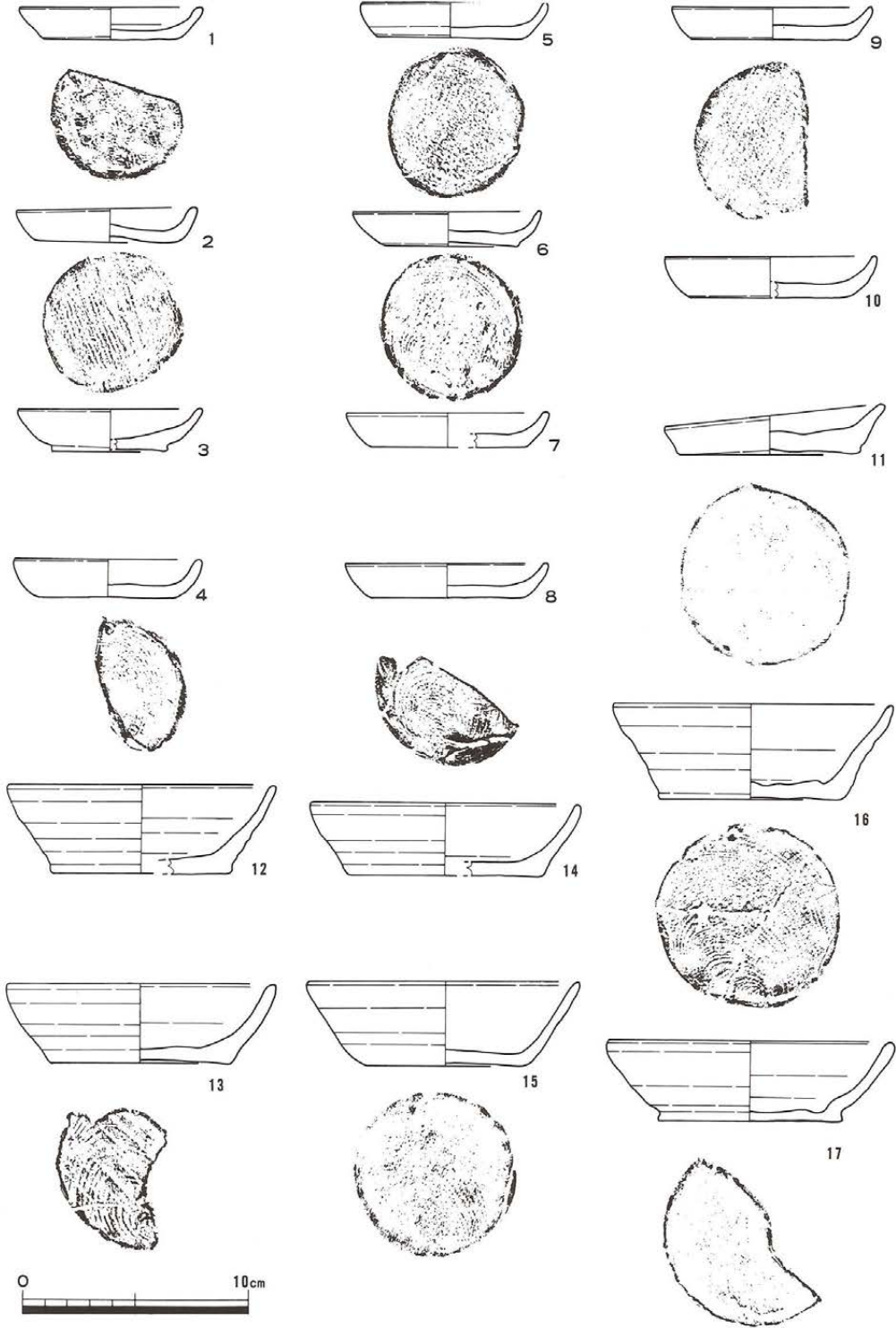


Fig.57 SD614出土遺物 1 (1/3)

IV. 6区の記録

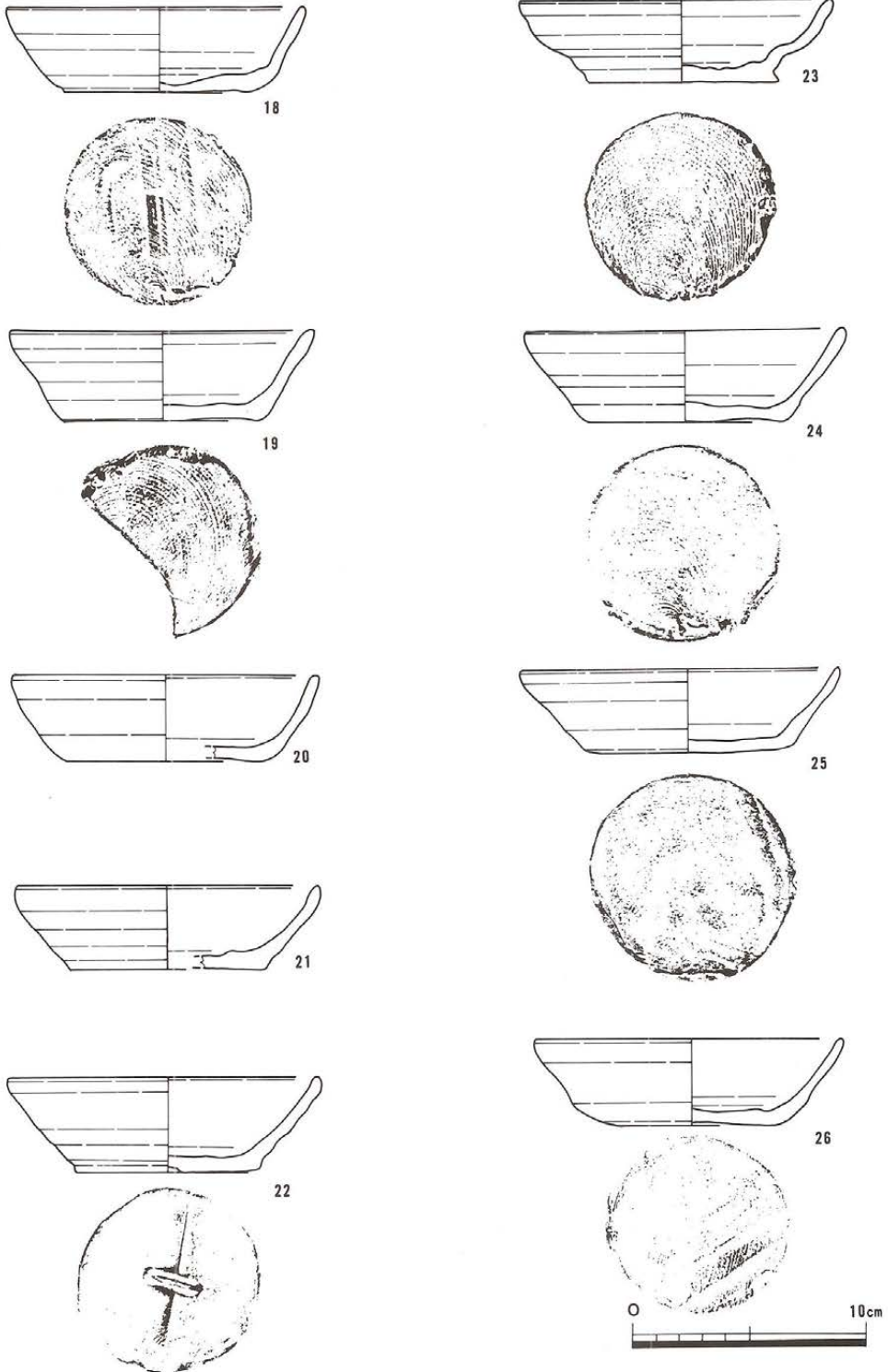


Fig.58 SD614出土遺物2 (1/3)

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

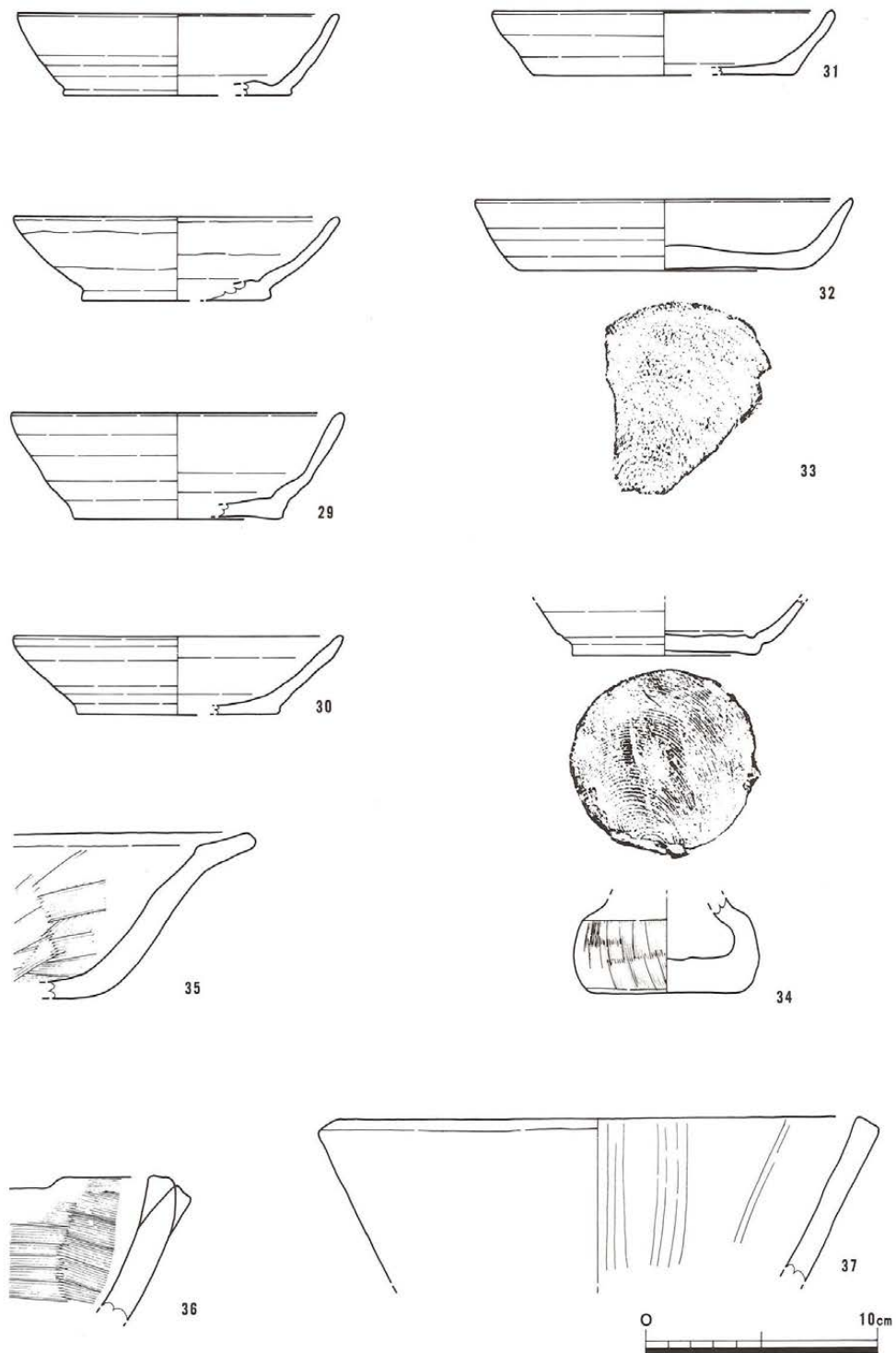


Fig.59 SD614出土遺物 3 (1/3)

IV. 6区の記録

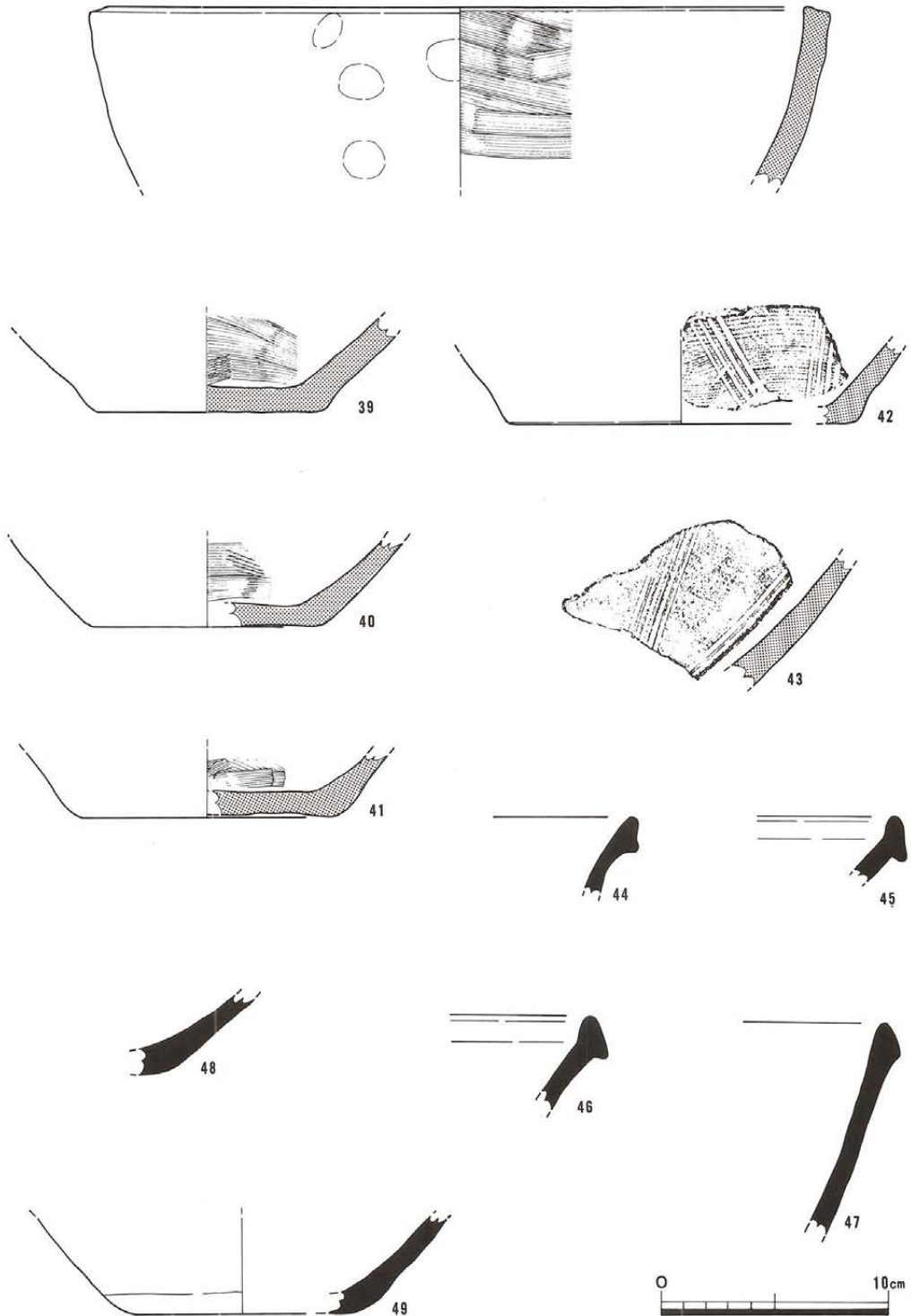


Fig.60 SD614出土遺物 4 (1/3)

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

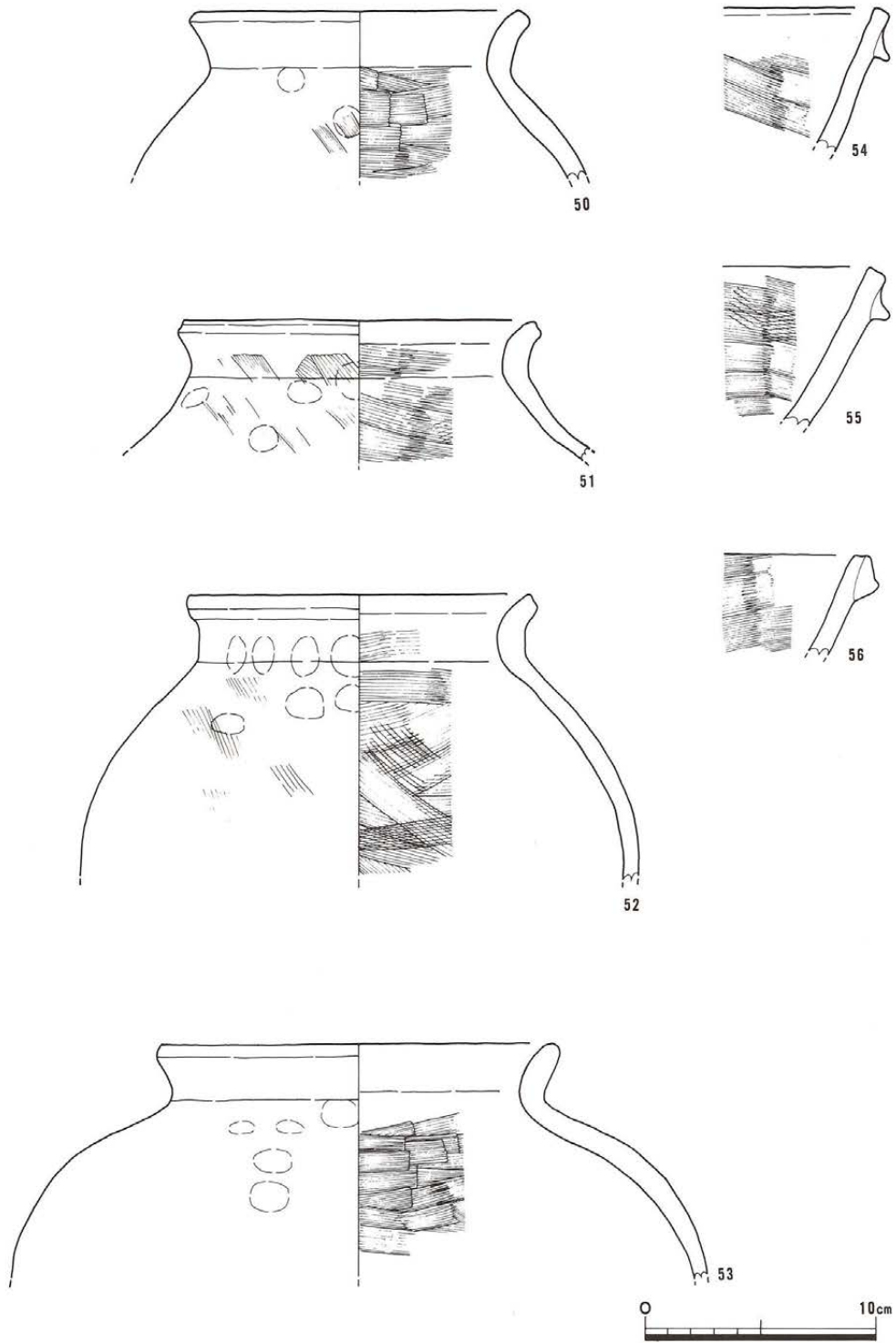


Fig.61 SD614出土遺物 5 (1/3)

IV. 6区の記録

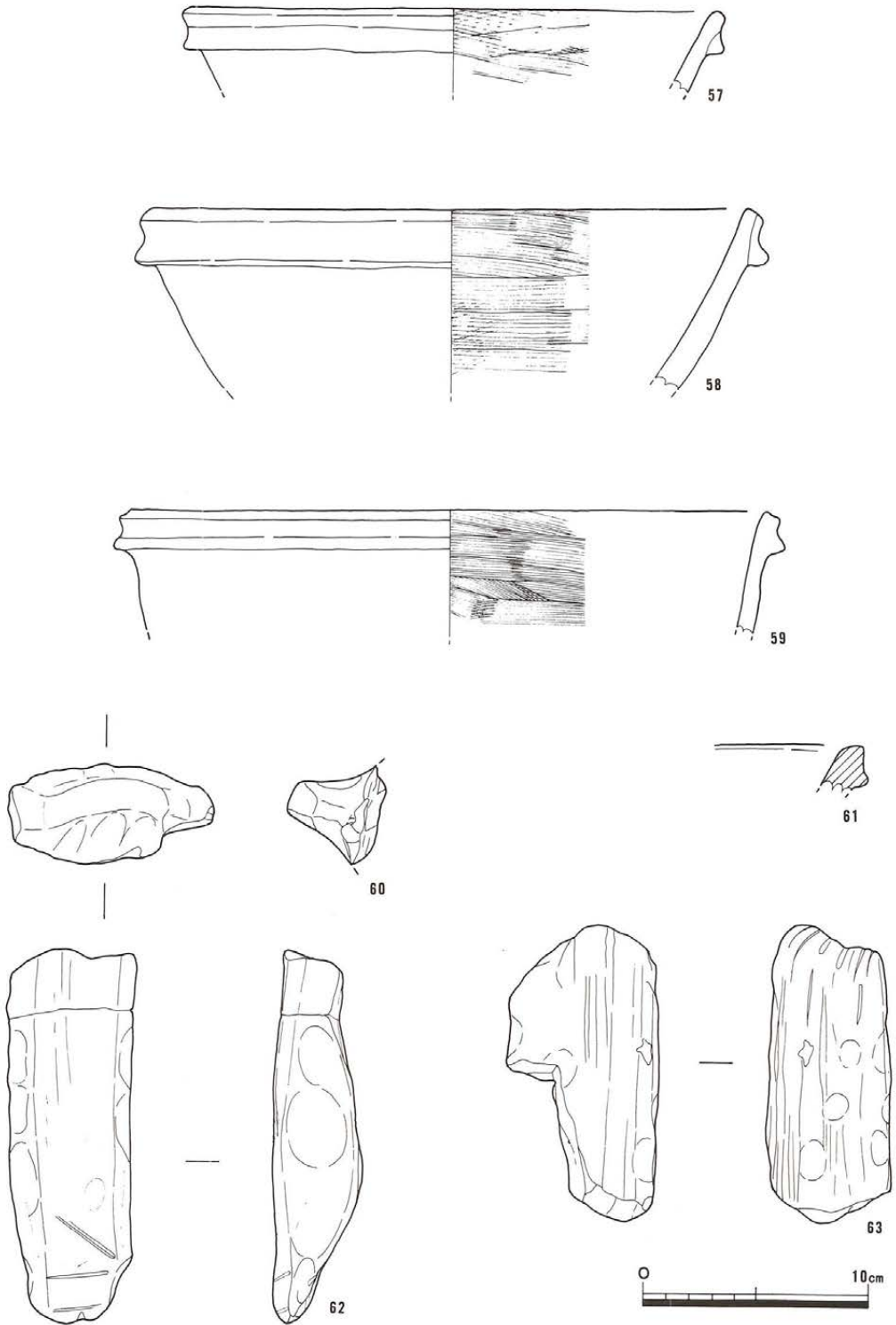


Fig. 62 SD614出土遺物 6 (1/3)

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

目を施す。

瓦器捏鉢 (Fig. 60-38~41) 38は復元口径30.6cm、口縁端部は横ナデ、外面は指押さえ、内面は横方向の細かいハケ目。39・40・41は復元底径10.0~11.0cm、外面はナデ、内面は横~斜方向の細かいハケ目、外底面にもハケ目を施す。

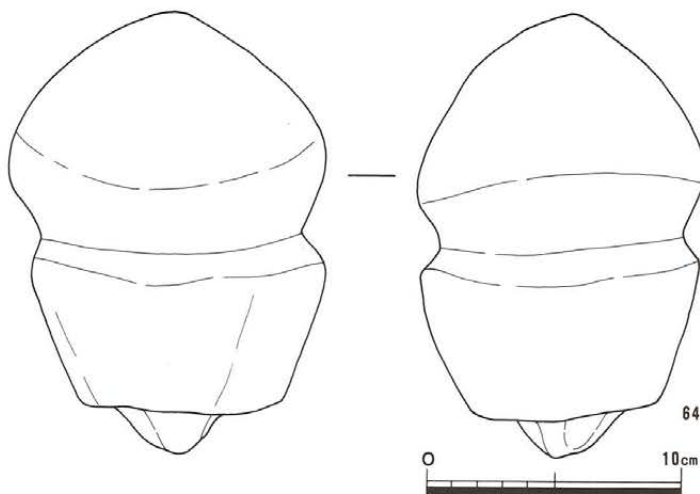


Fig.63 SD614出土遺物 7 (1/3)

瓦器播鉢 (Fig. 60-42・43) 42は復元底径15.0cm、外面はナデ、内面は細かい横方向のハケ目の後に4本単位の播目を施す。43は外面指押さえ、内面は細かい横~斜方向のハケ目の後に6本単位の播目を施す。

須恵器捏鉢 (Fig. 60-44~49) 東播系須恵器捏鉢の破片で、内外面回転ナデ。49は復元口径10.0cm。

土師器壺 (Fig. 61-50~53) この時代では見慣れない器形の口縁部破片で、一応壺と分類しておく。復元口径14.0~17.0cm、口縁部は横ナデ、外面は斜方向のハケ目をナデ消し、内面は横~斜方向のハケ目を施す。

土師器鍋 (Fig. 61-54~62-60) 54~59は土師器鍋Ⅲ類 [徳永1990] の口縁部破片で、復元口径23.0~28.0cm、口縁部は横ナデ、内面は細かい横~斜方向のハケ目、外面はナデと指押さえで仕上げる。60は把手付鍋の把手部分と思われる。他地域からの搬入品か。

滑石製石鍋 (Fig. 62-61) 口縁部破片である。

支脚 (Fig. 62-62・63) 土師質の土製品で、支脚の破片と思われる。外面はナデと指押さえで仕上げている。

石塔 (Fig. 63-64) 石塔の頂部の宝珠である。

SD614・615出土遺物 (Fig. 64~68)

取り上げに失敗し、SD614・615の遺物が混合したものについて、ここで報告する。

土師器皿 (Fig. 64-1~15) どれも糸切り底で、口径7.2~10.0cm・器高1.2~2.2cm・底径5.0~8.4cm、内底面にナデを加え、外底面に板目圧痕が残るものが多い。

土師器杯 (Fig. 64-16~66-36) どれも糸切り底で、口径11.4~14.4cm・器高2.8~4.2cm

IV. 6区の記録

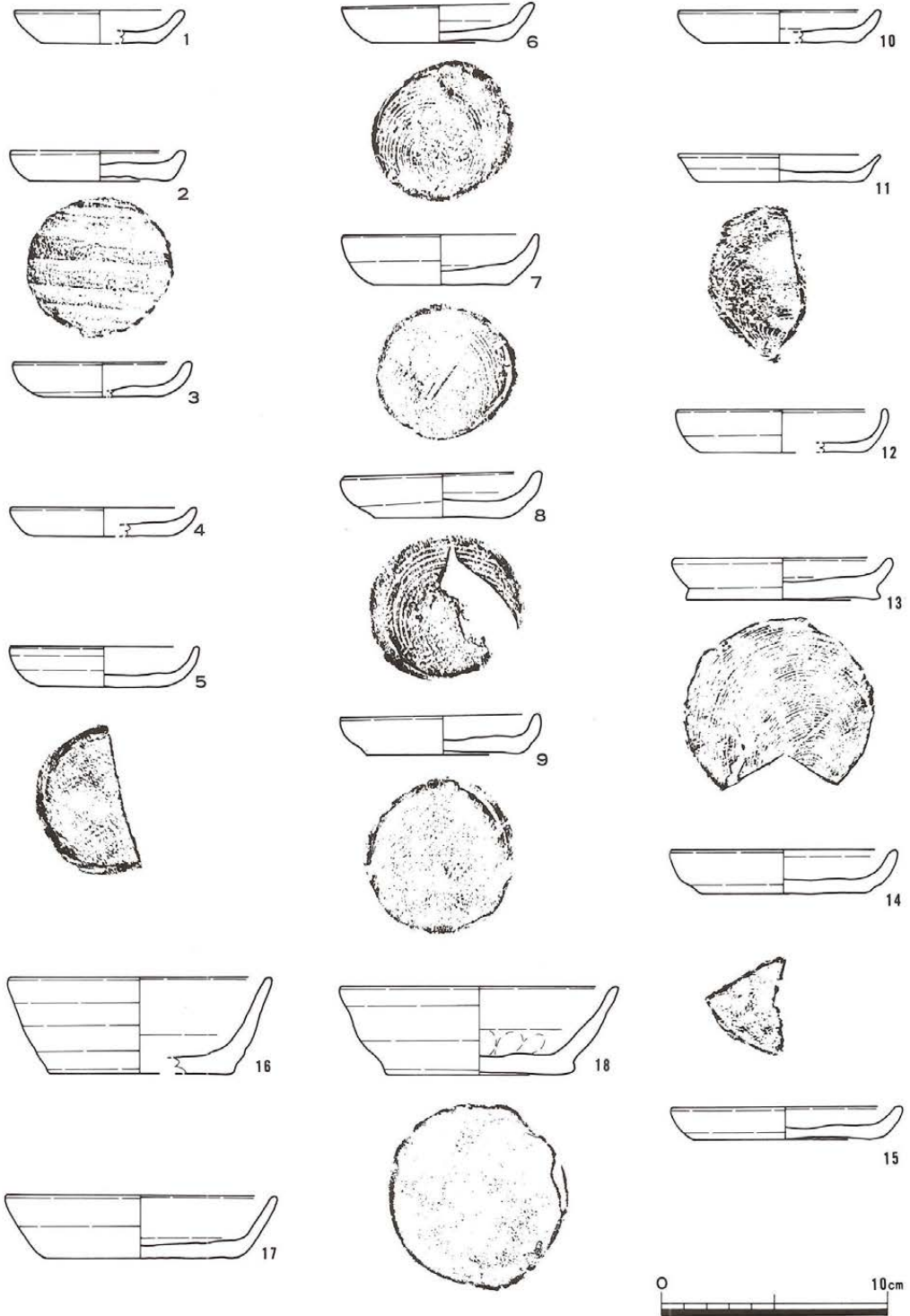


Fig.64 SD614・615出土遺物 1 (1/3)

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

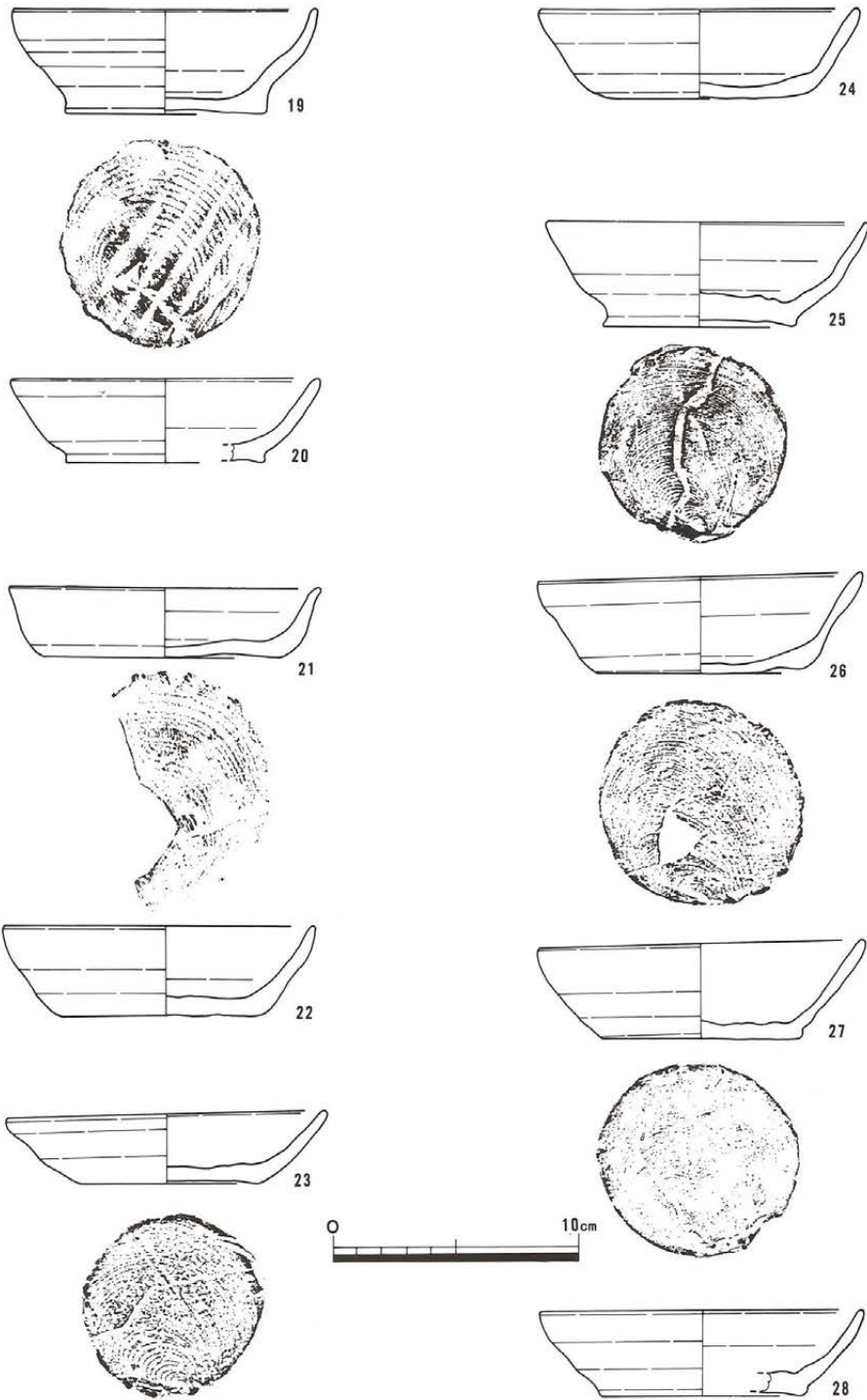


Fig.65 SD614・615出土遺物2 (1/3)

IV. 6区の記録

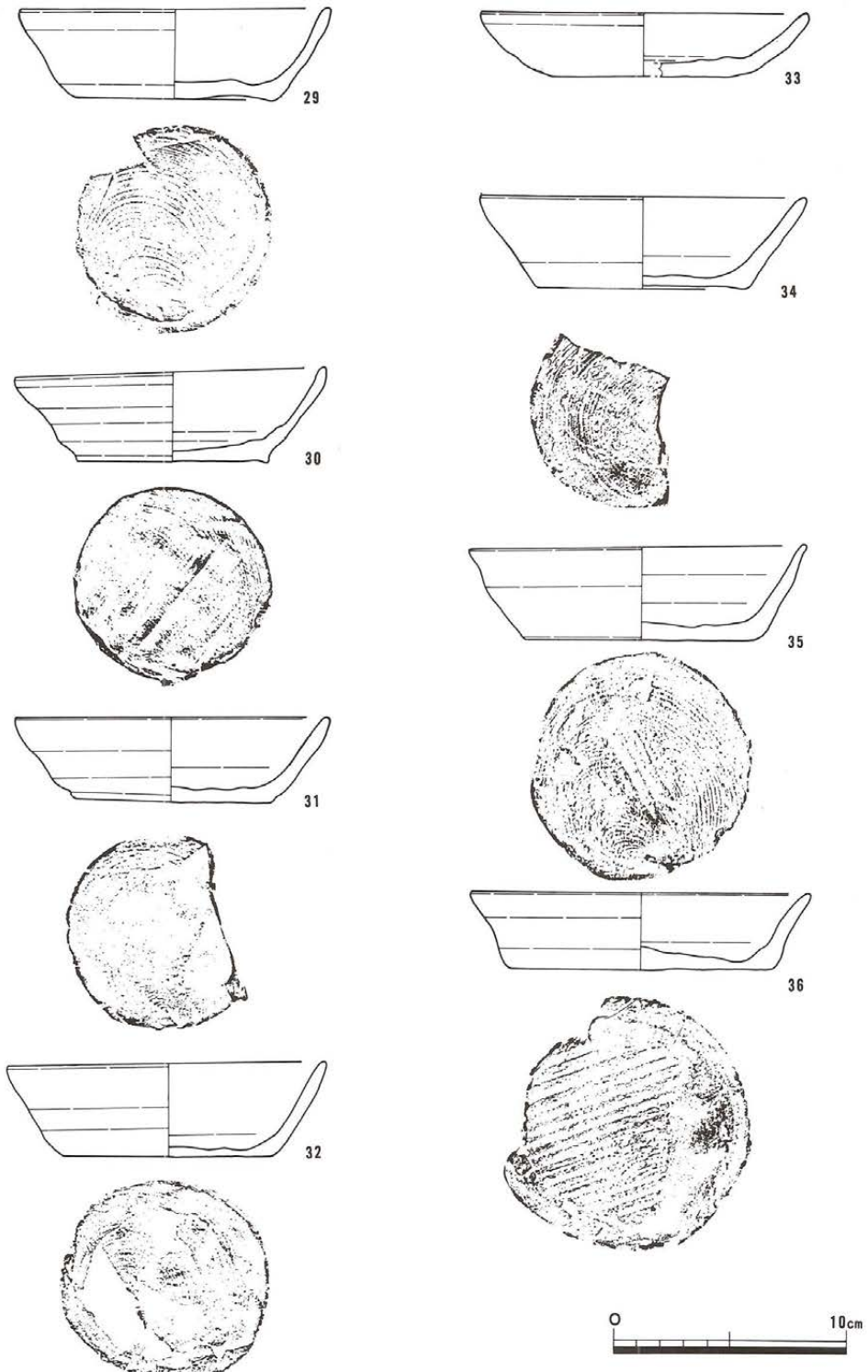


Fig. 66 SD614・615出土遺物 3 (1/3)

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

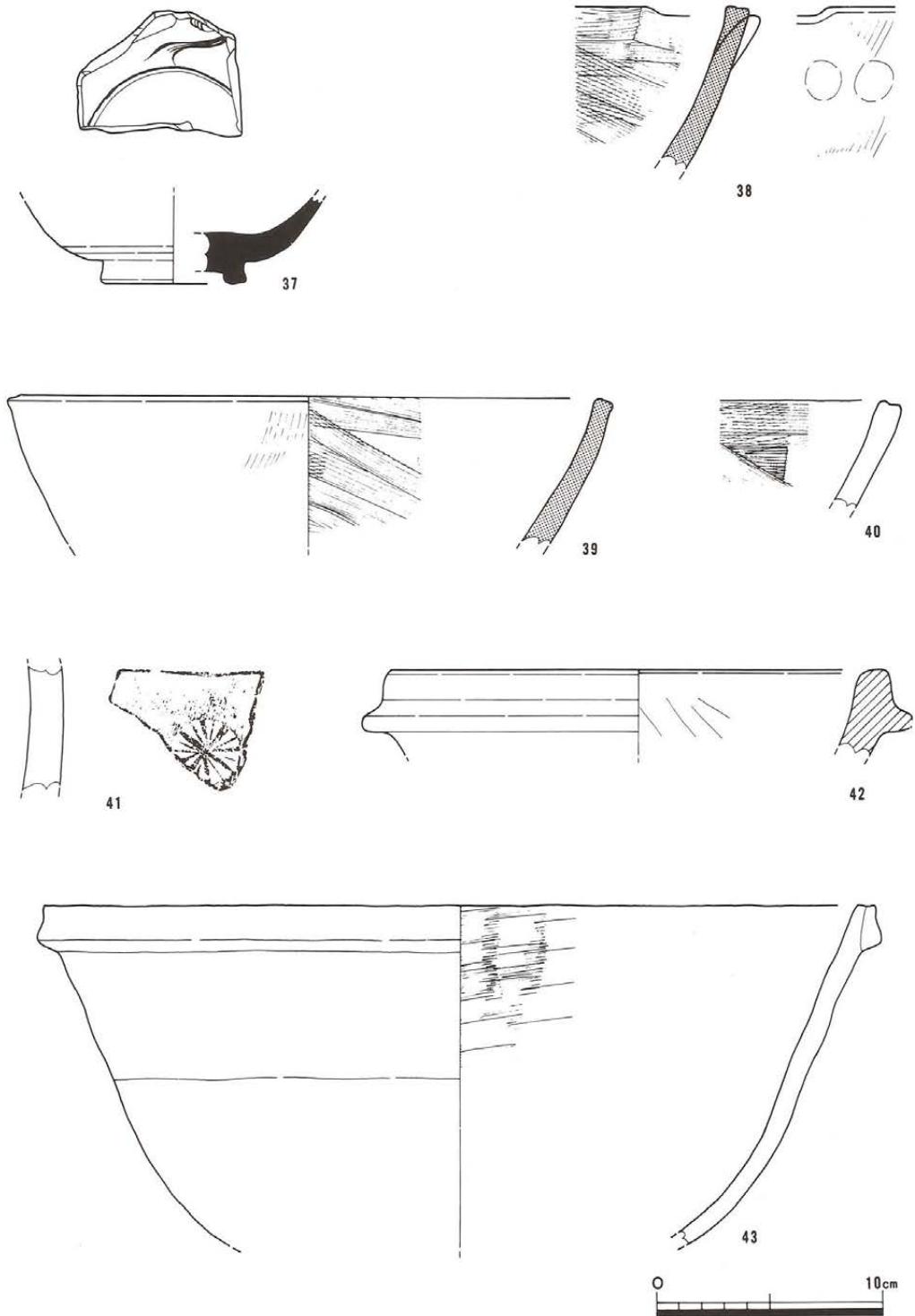


Fig.67 SD614・615出土遺物4 (1/3)

IX. 6区の記録

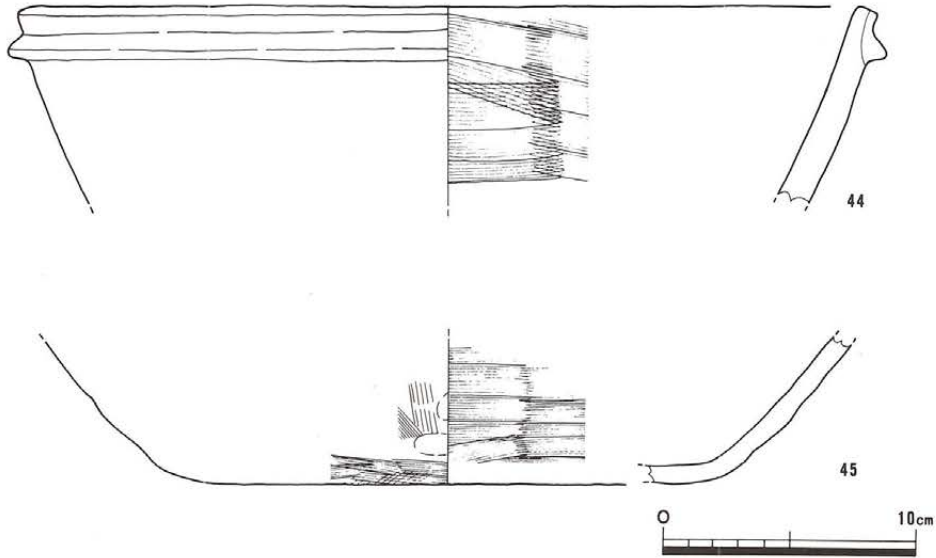


Fig.68 SD614・615出土遺物5 (1/3)

・底径7.4~11.0cm、内底面にナデを加えたものが多いが、外底面に板目圧痕が残るものは少ない。

青磁碗 (Fig.67-37) 竜泉窯系青磁碗Ⅰ-4類 [森田・横田1978] の底部破片である。

瓦器捏鉢 (Fig.67-38・39) 口縁端部は横ナデ、外面は縦~斜方向のハケ目の後にナデと指押さえを加え、内面は横~斜方向の細かいハケ目を施す。38は片口を有する口縁部破片である。

土師器捏鉢 (Fig.67-40) 口縁端部は横ナデ、外面は縦~斜方向のハケ目の後にナデと指押さえを加え、内面は横~斜方向の細かいハケ目を施す。

土師器火鉢 (Fig.67-41) 火鉢の口縁に近い部分の破片と思われる。内外面はていねいなナデを加え、外面に印花文を施す。

滑石製石鍋 (Fig.67-42) 口縁部破片で、復元口径21.8cm。

土師器鍋 (Fig.67-43~68-45) 鍋Ⅲ類 [徳永1990] の破片で、復元口径25.0~32.0cm、復元底径23.0cm、口縁外面は横ナデ、外面はハケ目の後にナデと指押さえを加え、内面は横~斜方向の細かいハケ目を施す。45の外底面には交差状にハケ目が残っている。

SD615出土遺物 (Fig.69)

土師器皿 (1~5) どれも糸切り底で、口径8.0~8.4cm・器高1.2~1.6cm・底径5.2~6.4cm、内底面にナデを加えている。

土師器杯 (6~12) どれも糸切り底で、口径12.8~14.6cm・器高3.2~3.9cm・底径7.6~9.0cm、内底面にナデを加えている。9は外底面に板目圧痕が残る。

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

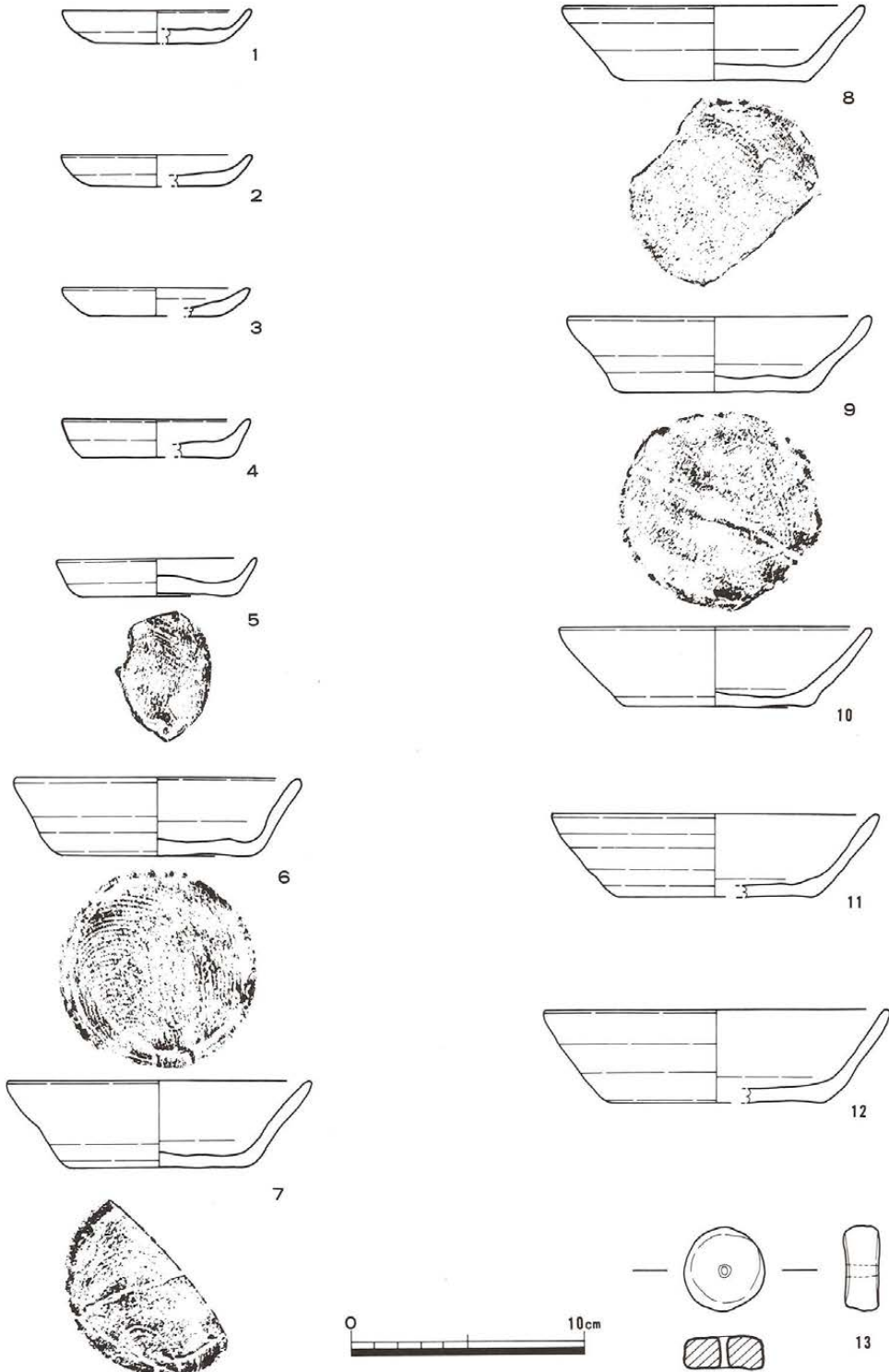


Fig.69 SD615出土遺物 (1/3)

IX. 6区の記録

紡錘車 (13) 土師質の土製品で、外面をナデで仕上げている。

SD611区画溝 (Fig.70)

FD-74~80区画で検出した。SK608と切り合い関係にあり、SD611が先行する。E-W軸をと

り、東西両端で南に屈曲するコーナー部分を有する。一辺33mほどの方形の区画溝の北辺と思われる。南側は調査区外に展開する。溝幅0.4~0.6m、断面形は逆台形状をなし、底面は浅い舟底状で標高18m前後、明瞭な傾斜の方向は認められない。埋土は褐色~暗褐色土で、帯水や流水の明瞭な痕跡はない。図示に耐える遺物は出土しなかった。

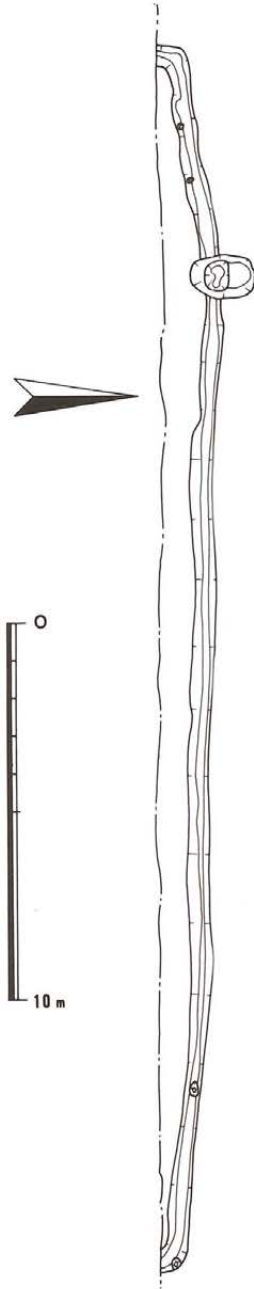


Fig. 70 SD611区画溝 (1/200)

SD616溝 (Fig.71)

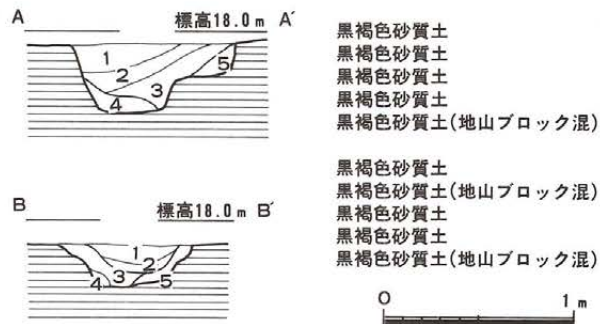
FD-82~85区画で検出した。全長18mほどのE-W軸をとる不整な溝で、溝幅0.6~1.0m、断面形は不整な逆台形状をなし、底面はほぼ平坦で標高17.5m前後、明瞭な傾斜の方向は認められない。土層断面観察では、一部に帯水の形跡が認められたが、常時帯水していたとは思えない。流入による自然堆積で埋没している。埋土中から、土師器片・青磁片・須恵器片が出土した。

SD616出土遺物 (Fig.72)

土師器皿 (1~4) 口径7.6~9.1cm・器高1.5~2.0cm・底径4.6~8.7cm、内底面にナデを加え、3・4は外底面に板目圧痕が残る。

土師器杯 (5・6) 口径12.8~13.0cm・器高3.3cm・底径7.4~8.2cm、内底面にナデを加えている。

青磁碗 (7) 龍泉窯系青磁碗 I-5bc類である。



黒褐色砂質土
 黒褐色砂質土
 黒褐色砂質土
 黒褐色砂質土
 黒褐色砂質土(地山ブロック混)

黒褐色砂質土
 黒褐色砂質土(地山ブロック混)
 黒褐色砂質土
 黒褐色砂質土
 黒褐色砂質土(地山ブロック混)

Fig. 71 SD616土層断面 (1/40)

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

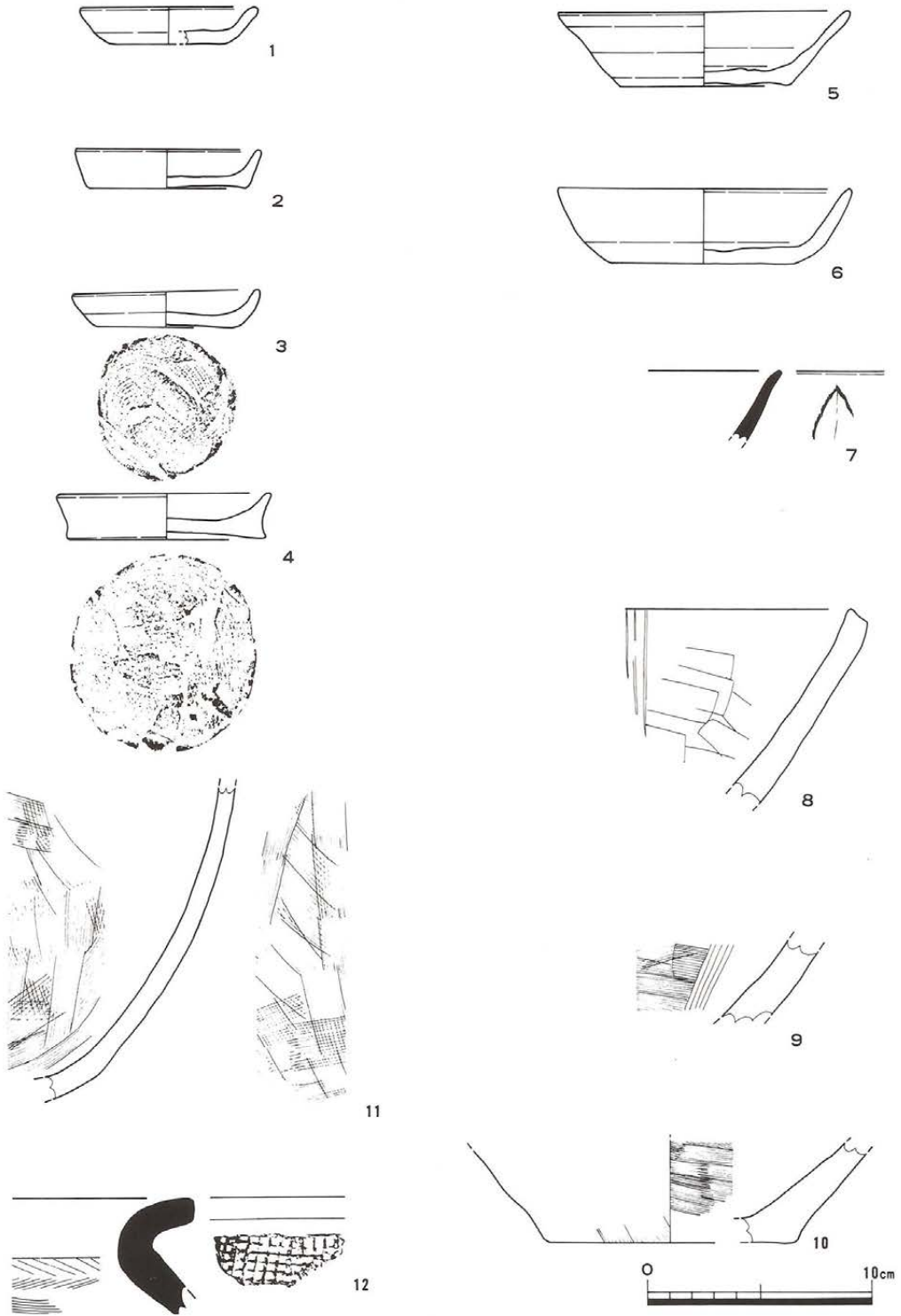


Fig. 72 SD616出土遺物 (1/3)

IX, 6区の記録

土師器播鉢 (8・9) 口縁端部は横ナデ、外面はナデと指押さえ、内面は横～斜方向のハケ目の後に浅い播目を施している。9の播目は4本単位である。

土師器捏鉢 (10) 復元底径11.0cm、外面はハケ目の後にナデと指押さえ、内面は横方向の細かいハケ目を施す。

土師器鍋 (11) 鍋Ⅱ類 [徳永1990] の底部に近い部分の破片で、内外面に交差状にハケ目を施している。

須恵器瓶 (12) 口縁部内外面は横ナデ、外面は格子状のタタキ目、内面は横～斜方向のハケ目の後にナデを加えている。

SD617溝 (Fig.73)

FB・FC-74～87区画で検出した。東端は調査区外に展開する。SD614・615と同じく、東へ向けて流れる流水路で、複数の掘り返しにより複雑な形状になっている。全長65m以上、溝幅は検出平面で1.1～4.2mだが、掘り返しによって実際に機能していた溝幅は1m前後であったと思われる。溝の断面形はゆるいV字状ないし逆台形状で、底面の標高は17.2～17.8mほどで、FB-79区画付近から東に向かい傾斜がきつくなる。埋土は全体に砂混じりで、流水による埋没の状況をよく示している。遺物は少なく、埋土中から土師器片・青磁片・瓦器片・須恵器片が出土した。

SD617出土遺物 (Fig.74)

土師器皿 (1) 復元口径8.6cm・器高1.4cm・復元底径5.8cm、内底面にナデを加える。

土師器杯 (2・3) 口径13.0cm・器高2.3～3.5cm・底径7.4～7.6cm、内底面にナデを加え、外底面に板目圧痕が残る。

白磁碗 (4) 復元高台径6.0cm、白磁碗Ⅳ類 [森田・横田1978] の底部と思われる。

土師器羽釜 (5) 復元口径20.4cm、口縁部内外面は横ナデ、外面はナデと指押さえ、内面は横方向の細かいハケ目を施し、外面から口縁にかけて煤をかぶる。この周辺では見慣れない器種であり、他地域からの搬入品か。

瓦器瓶 (6) 底部に近い破片で、外面は格子状タタキ目、内面はへら状工具の擦過痕が残る。

常滑焼瓶 (7) 常滑焼大瓶の

底部破片ではないかと思われる。内外面にへら状工具の擦過痕が残る。

須恵器捏鉢 (8) 復元口径26.0cm、東播系須恵器捏鉢の口縁部破片である。

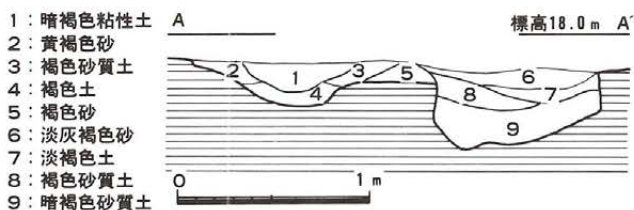


Fig.73 SD617土層断面 (1/40)

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

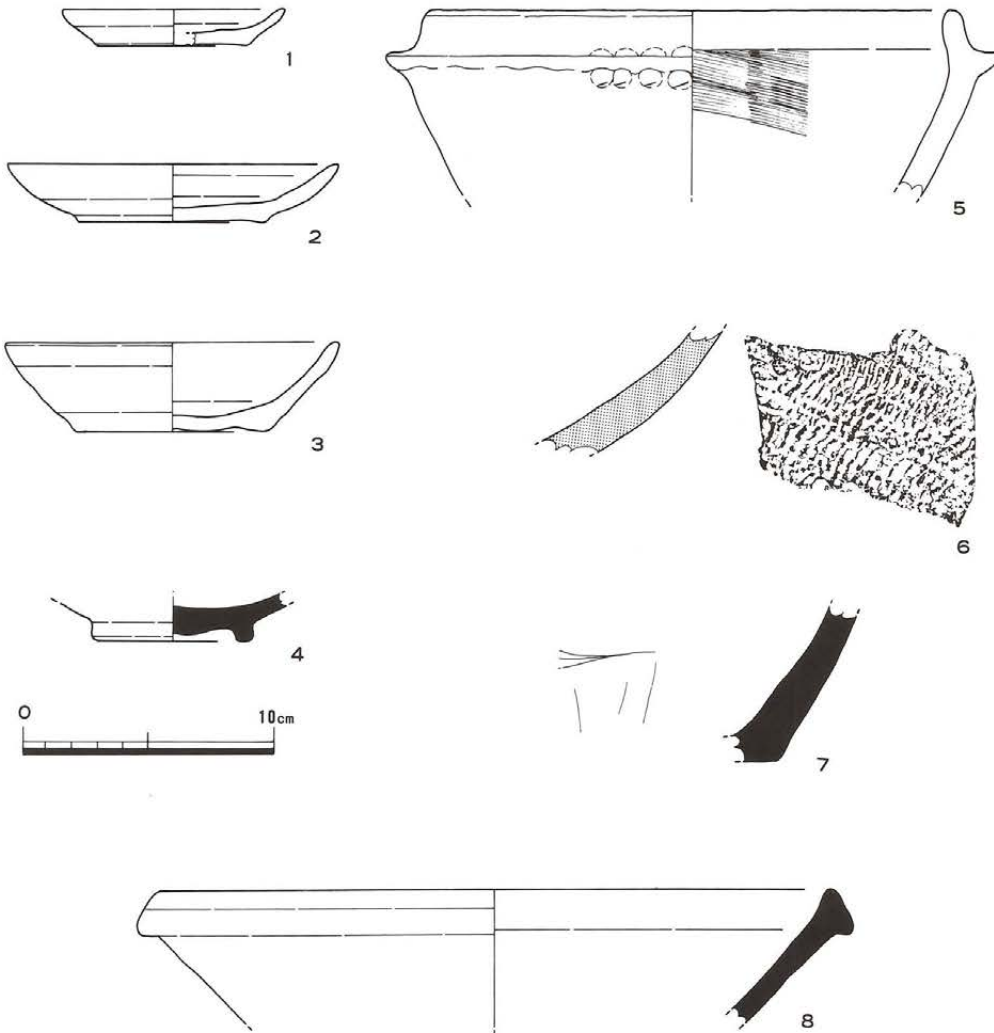


Fig.74 SD617出土遺物 (1/3)

SD621溝

FA・FB-67～71区画で検出した溝状の遺構で、かなりの部分は調査区外に展開し、形状は不明である。全長23m以上・幅2.4m以上で、断面形は浅い二段掘りの形状をなし、底面はほぼ平坦で標高17.5～17.7mをはかり、明瞭な傾斜の方向は認められない。埋土は砂混じりの褐色～淡褐色土で、底面近くで帯水の痕跡があった。埋土中から、土師器片・青磁片・瓦器片・須恵器片が出土している。

SD621出土遺物 (Fig.75)

土師器皿 (1) 復元口径8.8cm・器高1.4cm・復元底径7.0cm、内底面にナデを加え、外底面に板目圧痕が残る。

IX. 6区の記録

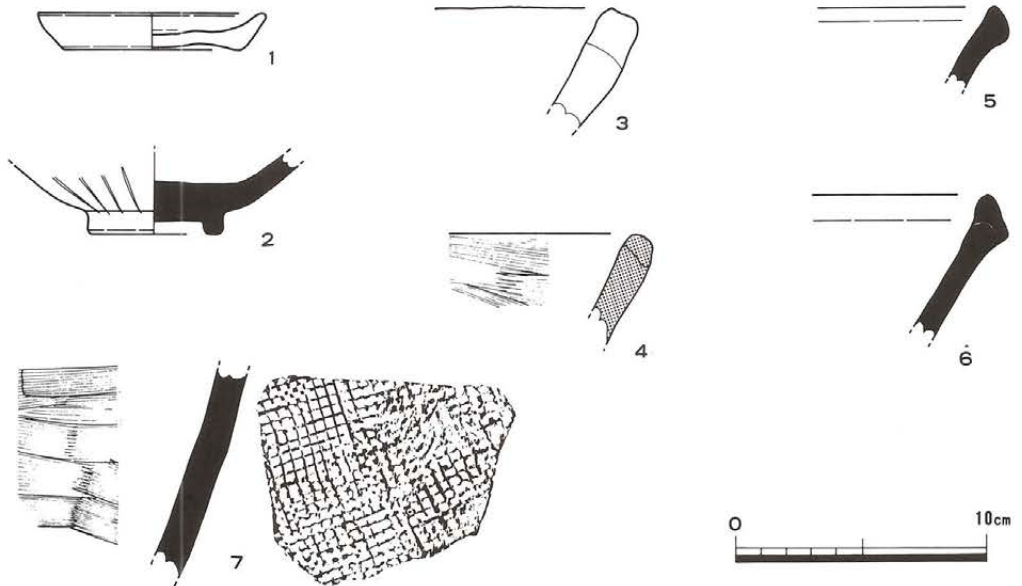


Fig.75 SD621出土遺物 (1/3)

青磁碗 (2) 龍泉窯系青磁碗 I-5bc類 [森田・横田1978] で、高台径5.0cm。

土師器捏鉢 (3) 口縁端部は横ナデ、内外面はナデで仕上げている。

瓦器捏鉢 (4) 口縁端部は横ナデ、外面はナデ、内面は細かい横方向のハケ目。

須恵器捏鉢 (5・6) 東播系須恵器捏鉢の口縁部破片である。

須恵器瓶 (7) 胴部破片で、外面は格子状タタキ目、内面は横方向の細かいハケ目。

SD622溝

FC-70~72区画で検出した不整な溝状遺構である。全長8.1m・幅0.4~0.9m、断面形は浅い箱形をなし、深さ0.1~0.15mほどである。埋土は淡褐色土で、土師器片が少量出土した。

SD622出土遺物 (Fig.76-1・2)

1は土師器皿で、復元口径8.2cm・器高1.5cm・復元底径7.0cm、内底面にナデを加えている。

2は土師器杯の底部破片で、復元口径9.0cm、内底面にナデを加えている。

SD623溝

FC-72~75区画で検出した細い溝で、全長14.8m、溝幅0.4~0.5mで、断面形は逆台形状で、底面は浅い舟底状をなし、底面標高は18.1m前後で明瞭な傾斜の方向はない。埋土は褐色~暗

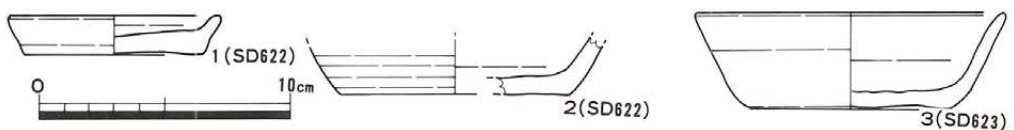


Fig.76 SD622・623出土遺物 (1/3)

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

褐色土で、帯水や流水を示す明瞭な痕跡はない。埋土中から土師器片が出土した。

SD623出土遺物 (Fig.76-3)

土師器杯で、復元口径12.2cm・器高3.7cm・復元底径8.0cm。

(2)土壌と出土遺物

SK605土壌 (Fig.77)

FC-66区画で検出した。P6001と切り合い関係にあり、SD605が後出する。平面形は2.8m×1.3~1.9mの不整な隅丸台形状をなし、壁面はきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は褐色～淡褐色土で、流入による自然堆積で埋没したものとする。埋土中から土師器片が出土した。

SK605出土遺物 (Fig.78)

1は糸切り底の土師器杯で、復元底径8.0cm。2は手捏土器で、古墳時代遺物の混入と思われる。復元口径5.0cm・器高3.2cm・底径3.0cm、口縁端部は横ナデ、外面は指押さえ、内面はへら状工具の擦過痕が残る。3は土師器捏鉢の口縁部破片で、復元口径26.0cm、口縁部から内面は横ナデ、外面はナデと指押さえ。4も土師器捏鉢で、復元口径27.0cm・器高10.8cm・復元底径14.0cm。片口を有し、口縁端部から外面は横ナデ、内面はナデ、外底面に板目圧痕が残る。5は土師器鍋Ⅲ類〔徳永1990〕で、復元口径31.0cm、器表面の剝離で調整不明。

SK606土壌 (Fig.79)

FC-65区画で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。平面形は径2.1m前後の不整な円形をなし、壁面はきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は淡褐色土で、流入による自然堆積で埋没したものとする。底面近くの埋土中から、土師器片が出土した。

SK606出土遺物 (Fig.81-1)

糸切り底の土師器杯で、口径13.8cm・器高4.1cm・底径6.4cm、内外面回転ナデ。

SK607土壌 (Fig.79)

FD-64区画で検出した。他の遺構との切り合い関係はない。平面形は2.3m×1.4mほどの不整な隅丸長方形をなし、壁面はややきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は褐色～淡褐色土で、流入による自然堆積で埋没したものとする。

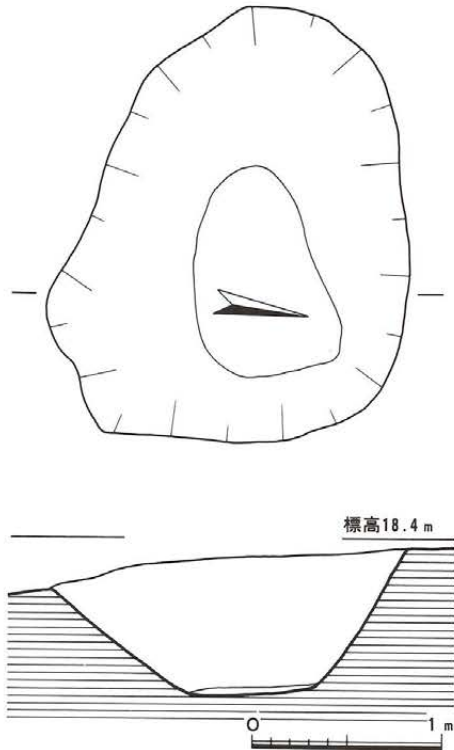


Fig.77 SK605土壌 (1/40)

IX. 6区の記録

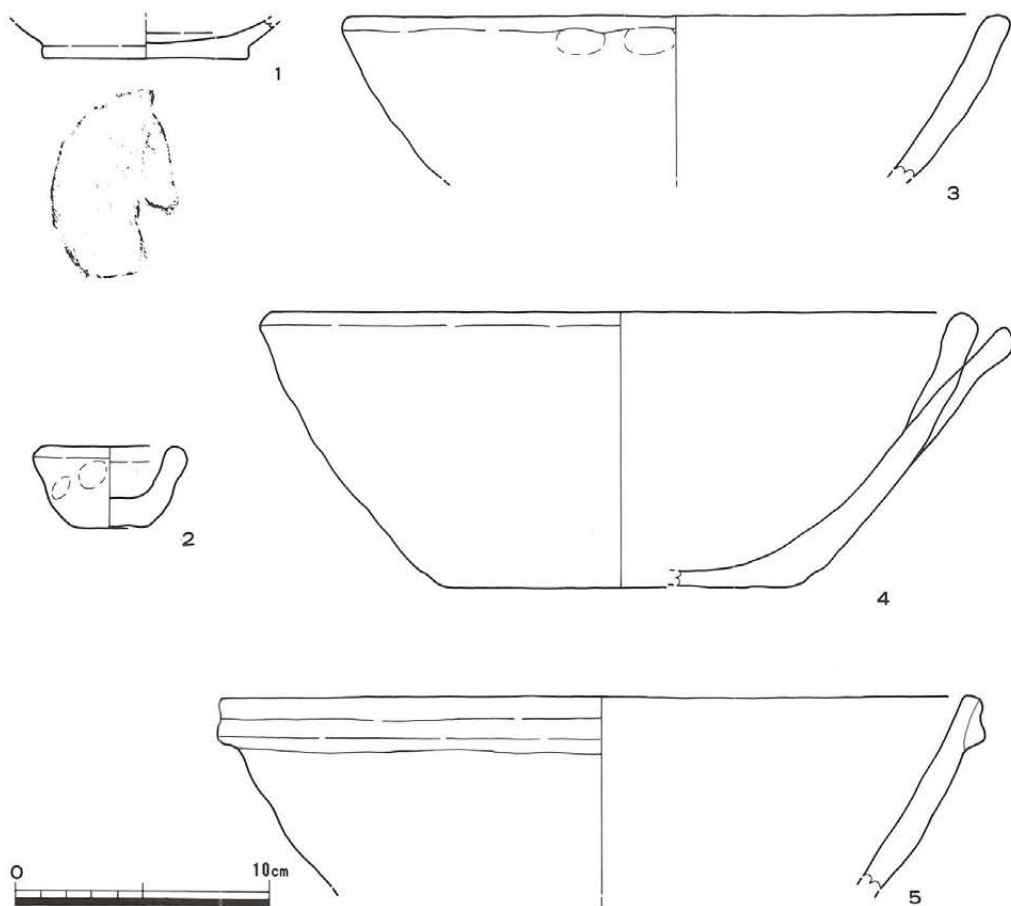


Fig.78 SK605出土遺物 (1/3)

と考える。図示に耐える遺物は出土していない。

SK608土壙 (Fig.80)

FD-75区画で検出した。SD611と切り合い関係にあり、SK608が後出する。平面形は1.8m×1.1mほどの胴張りな隅丸長方形をなし、壁面はややきつく立ち上がる。底面で二段掘りの形状をなし、深さ0.15mほどの落ち込みがある。土壙埋土は褐色～暗褐色土、落ち込みの埋土は暗褐色土であった。流入による自然堆積で埋没したものと考え。埋土中から土師器片・石製品が出土した。

SK608出土遺物 (Fig.81-2~6)

2は土師器皿で、口径8.1cm・器高1.2cm・底径7.0cm、内底面にナデを加え、外底面に板目圧痕が残る。3は土師器杯で、復元口径14.0cm・器高3.7cm・復元底径9.6cm、内底面にナデを加え、外底面に板目圧痕が残る。4は土師器杯の底部破片で、底径7.2cm、外面は回転ナデ、内面はヘラ状工具の擦過痕が残る、外底部には板目圧痕が残る。5は土師器捏鉢で、内外面横ナデを施す。

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

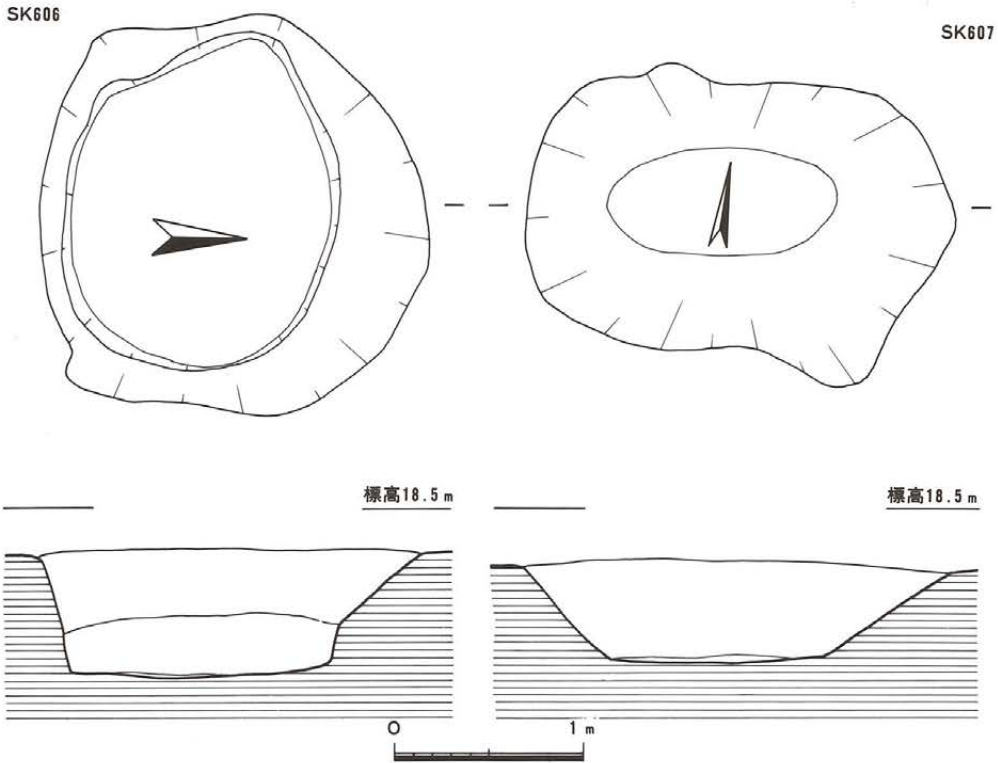


Fig.79 SK606・607土壙 (1/40)

6は堆積岩（石材不明）の砥石で、1面を使用している。

SK609土壙 (Fig.82)

FC-75・76区画で検出した。SD612と切り合い関係にあり、SK609が先行する。平面形は2.7m×1.0～0.6mの隅丸長方形をなし、壁面はゆるく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は暗褐色土で、暗黄褐色の地山ブロックを多く含み、人為的な堆積である可能性が高い。土壙の形状や埋土の状況から考えて、土壙墓である可能性を考慮したが、副葬品と思われる状況の遺物が出土していないので、確証がない。埋土中から、土師器片・瓦器片が出土した。

SK609出土遺物 (Fig.84-1～3)

1は瓦器碗の底部破片で、復元底径7.0cm、器表面

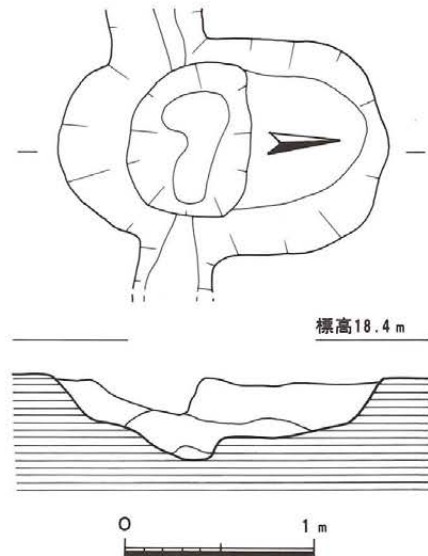


Fig.80 SK608土壙 (1/40)

IX. 6区の記録

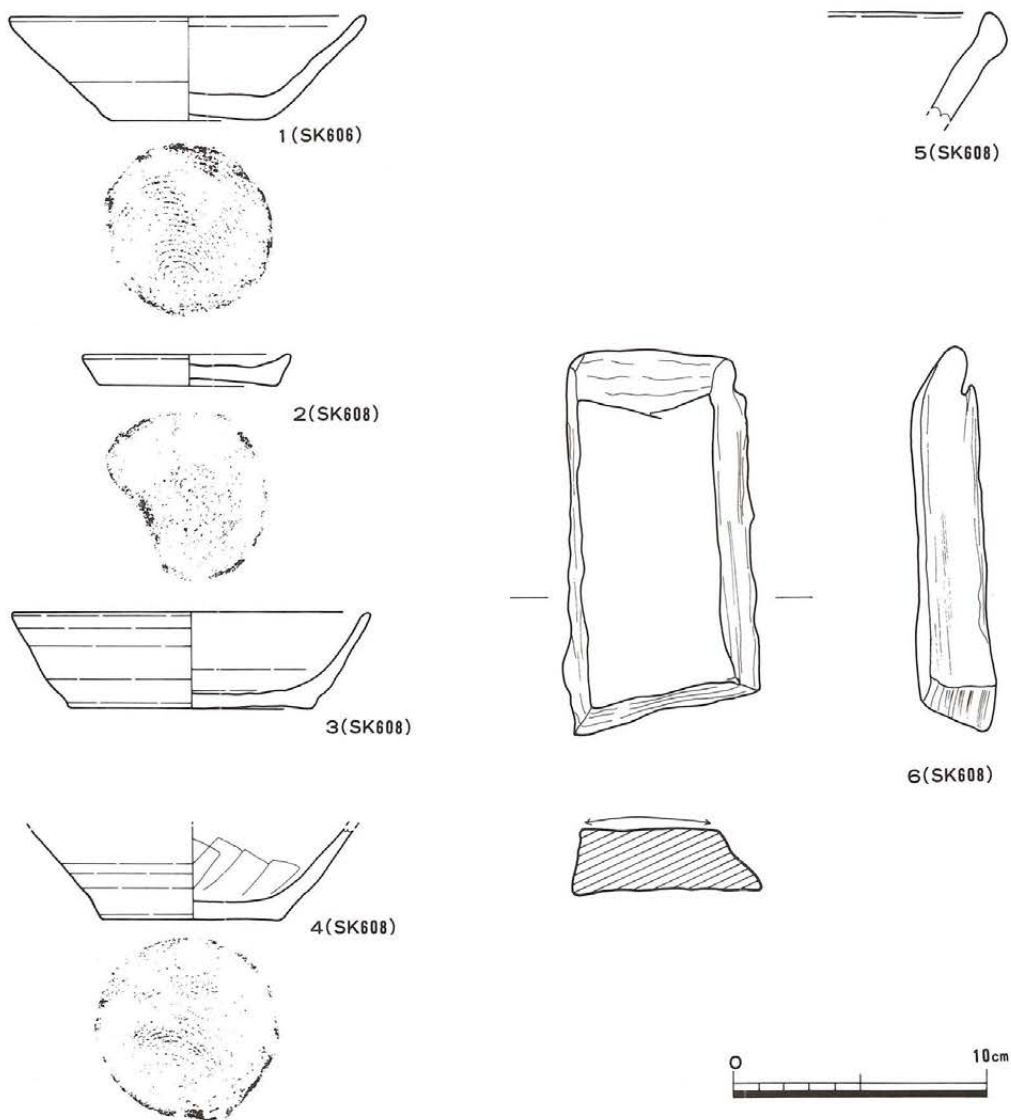


Fig.81 SK606・608出土遺物 (1/3)

剥離で調整不明。2は土師器杯の底部破片で、底径8.4cm、内底面にナデを加え、外底面には板目圧痕が残る。3は土師器鍋Ⅲ類の口縁部破片で、口縁部から内面は横ナデ、外面はナデと指押さえて仕上げている。

SK610土壙 (Fig.83)

FB-68区画で検出した。SD613と切り合い関係にあり、SK610が後出する。平面形は2.8m×0.6~0.9mの不整な隅丸長方形をなし、壁面はきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は褐色~淡褐色土で、流入による自然堆積による埋没と考える。埋土中で3個の石塊が出土した。埋没の過程で投棄されたものとする。埋土からは土師器片も出土している。

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

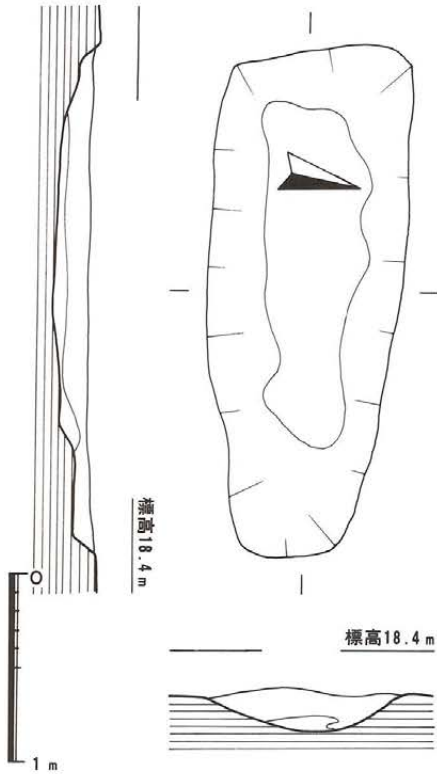


Fig.82 SK609土壙 (1/40)

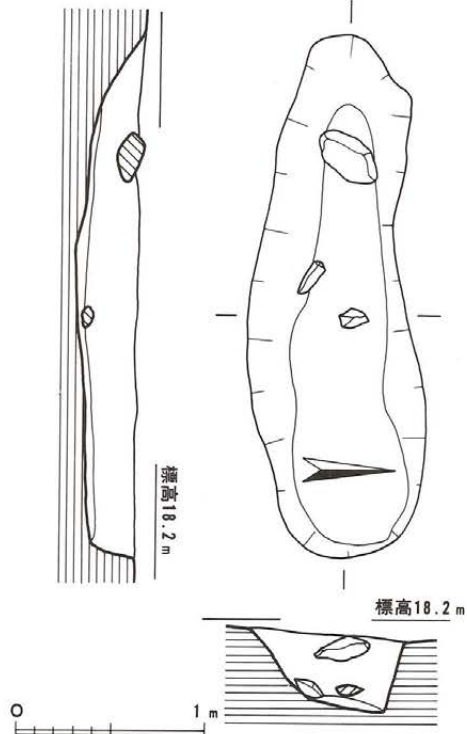


Fig.83 SK610土壙 (1/40)

SK610出土遺物 (Fig.84-4)

土師器高杯の脚部破片で、内外面ナデを施している。古墳時代遺物の混入と思われる。

SK618土壙 (Fig.85)

FD-85・86区画で検出した。他の遺構との直接の切り関係はない。平面形は4.7m×0.9~1.2mの細長く不整で胴張りな隅丸長方形をなし、壁面はきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦だが明瞭に東へ向けて傾斜する。6層に細別された埋土は、典型的なレンズ状の堆積を示し、流入による自然堆積で埋没している。埋土中から、比較的まとまった量の土師器片と瓦器片が出土し

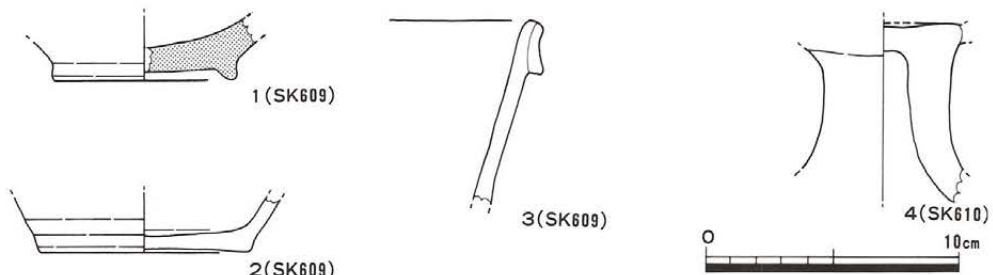


Fig.84 SK609・610出土遺物 (1/3)

IX. 6区の記録

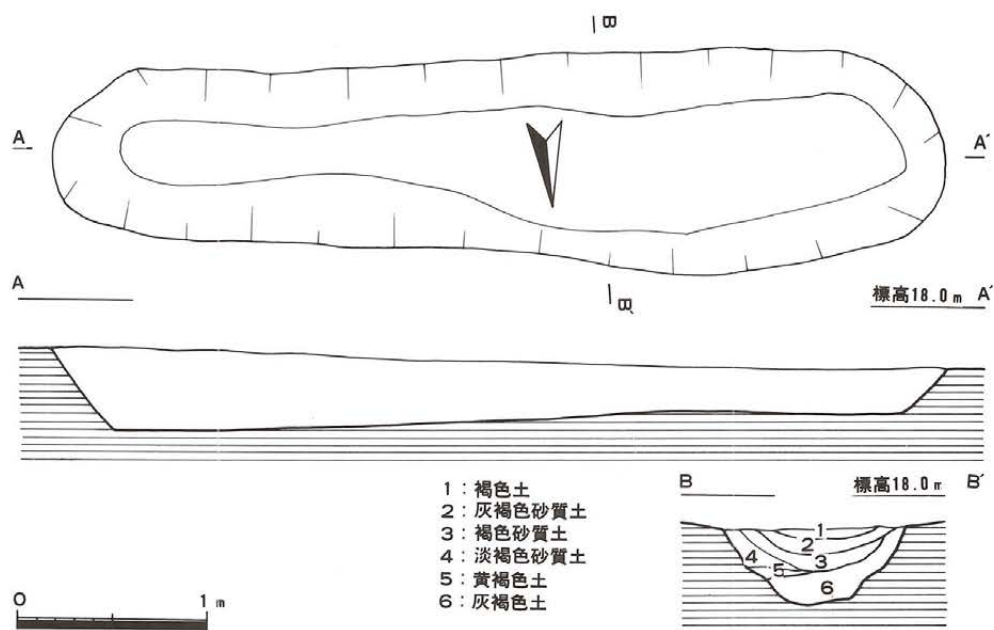


Fig.85 SK618土坑 (1/40)

ている。土師器杯は完形に近いものが多く、投棄によるある程度の一括性は考慮できる。

SD618出土遺物 (Fig.86~88)

土師器皿 (86-1~3) 口径8.0~8.4cm・器高1.4~1.6cm・底径6.0~6.4cm、内底面にナデを加え、2は外底面に板目圧痕が残る。

土師器杯 (86-4~10) 口径11.8~13.2cm・器高3.2~4.4cm・底径7.4~8.8cm、内底面にナデを加え、外底面に板目圧痕が残るものが多い。

土師器播鉢 (86-11~87-13) 口縁端部は横ナデ、外面はナデと指押さえて仕上げ、内面は・横方向のハケ目・横ナデの後に4~6本単位の浅い播目を施す。

土師器捏鉢 (87-14~16) どれも底部破片で、復元底径9.0~17.0cm。外面は指押さえてへら状工具の擦過痕が残り、内面は横~斜方向の細かいハケ目を施す。

土師器鍋 (87-17~88-24) 土師器鍋Ⅲ類で、17~19・23・24は口縁外部に貼り付け突帯をもつⅢA類、20・21は素口縁のⅢB類、22は底部破片である。復元口径25.0~33.0cm。口縁端部は横ナデで、外面はナデと指押さえて仕上げ、内面には横~斜方向の細かいハケ目を施すが、20は口縁端部にハケ目を施し、24は突帯下位にへら状工具の擦過痕が残る。

土師器火鉢 (87-25) 復元口径37.0cm、口縁端部は横ナデ、外面はていねいなナデで仕上げ、内面は横~斜方向のハケ目の後に指押さえを加えている。

瓦器壺 (87-26) 見慣れない器形で、一応壺としておく。口縁は横ナデで端部に沈線状の凹みがあり、外面はハケ目の後に格子状タタキ目、内面は横方向の細かいハケ目を施す。

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

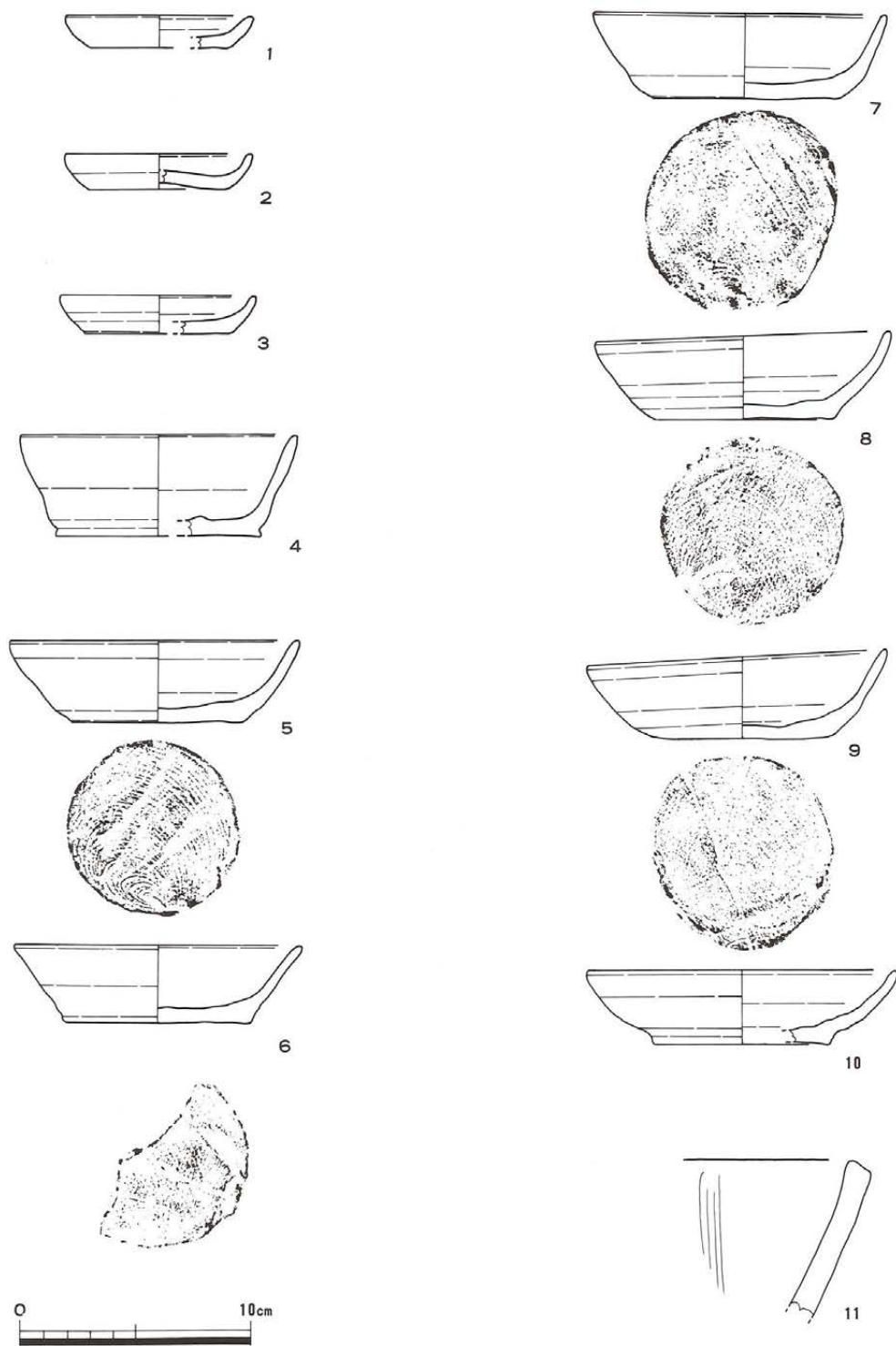


Fig. 86 SD618出土遺物 1 (1/3)

IV. 6区の記録

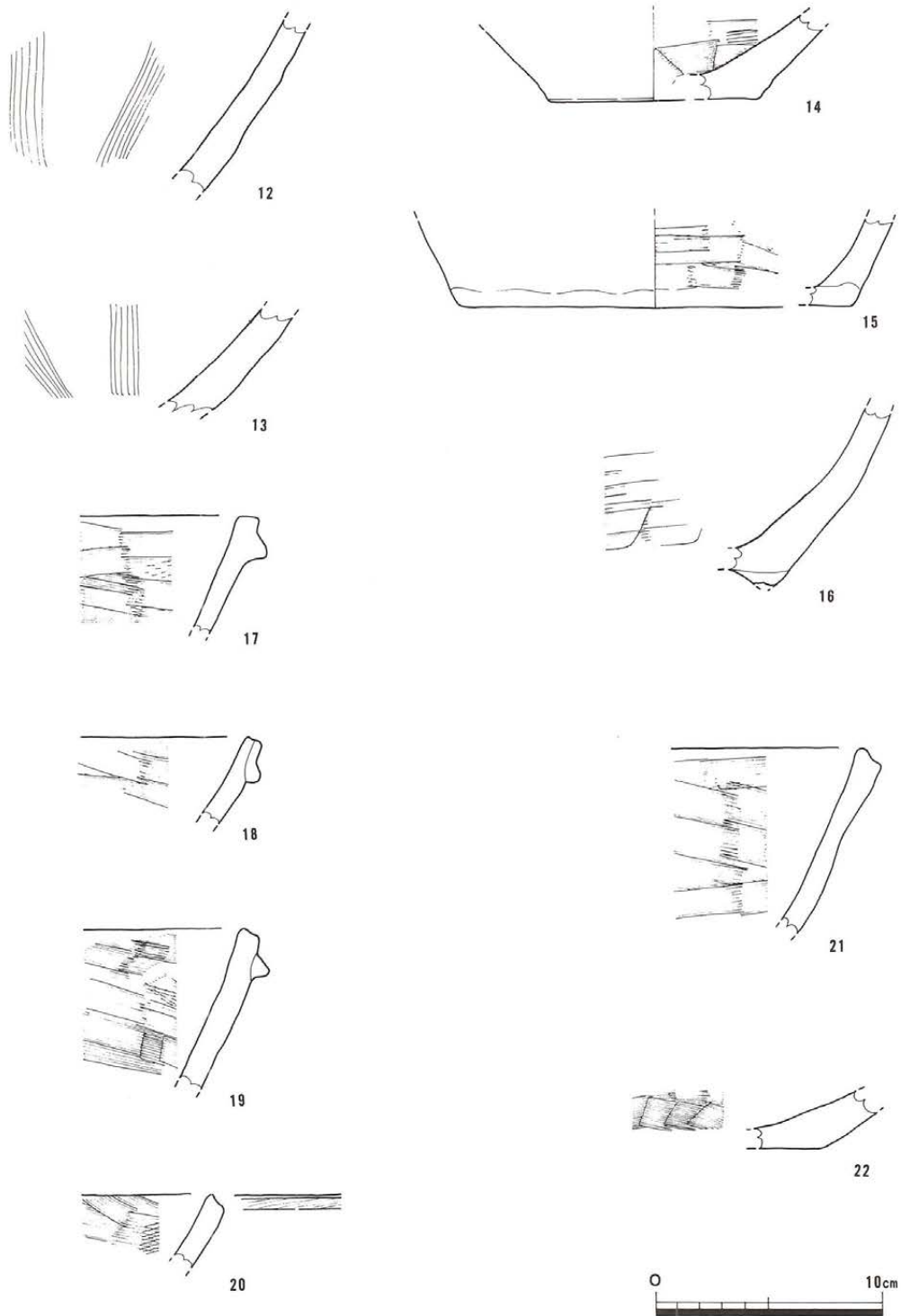


Fig.87 SD618出土遺物 2 (1/3)

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

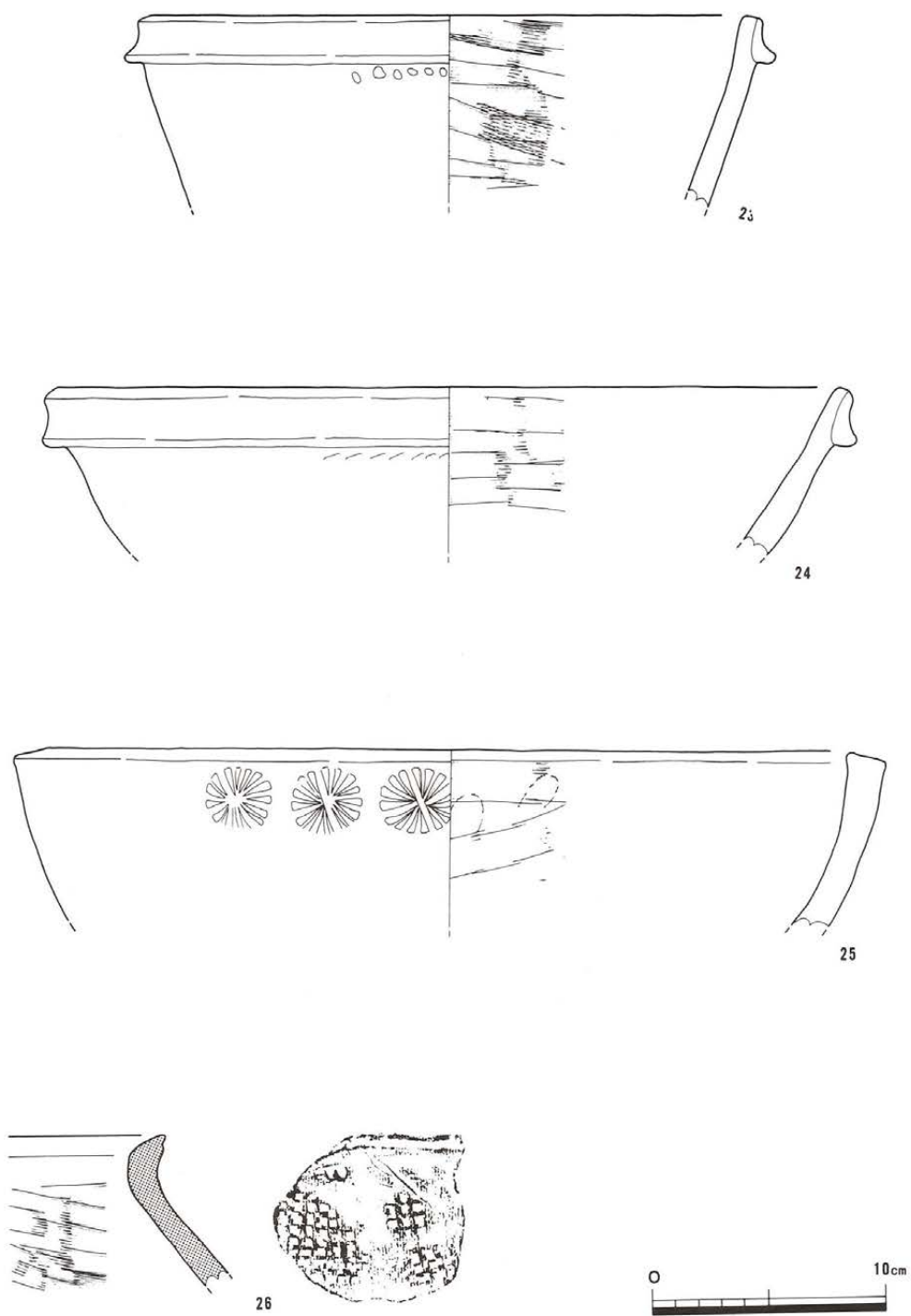


Fig.89 SD618出土遺物3 (1/3)

IX. 6区の記録

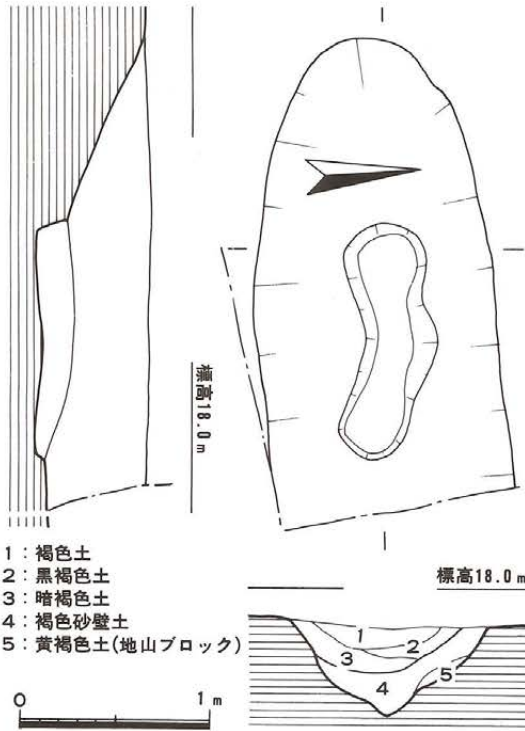


Fig.89 SK619土壙 (1/40)

SK619土壙 (Fig.89)

FD-87区画で演出した。遺構の東側2/3ほどは調査区外に展開する。平面形は2.5m以上×1.3mの細長い楕円形に近い形状と思われる。壁面はゆるく立ち上がり、底面で二段掘りの形状をなす。5層に細別された埋土は、レンズ状の堆積を示し、流入による自然堆積で埋没したものとする。埋土中から、土師器片・瓦器片が出土した。流れ込みによるものとする。

SK619出土遺物 (Fig.91-1~3)

1は土師器皿で、復元口径8.0cm・器高1.4cm・底径6.4cm。3は土師器杯で、復元底径7.6cm、内底面にナデを加える。3は瓦器挿鉢で、底径14.2cm、内底面はナデの後に5本単位の播目を施している。

SK620土壙 (Fig.90)

FA・FB-86・87区画で検出した。遺構の1/2ほどは調査区外に展開する。平面形は2.0m×1.4m以上の胴張りの隅丸方形をなすと思われる。壁面はきつく立ち上がり、底面で二段掘りの形状をなす。埋土は、1層：黒褐色土、2層：砂混じりの褐色土、3層：暗褐色土、4層：褐色土、5層：地山の崩落ブロックの暗黄褐色土、6層：暗褐色土、7層：砂混じりの褐色土、8層：暗褐色土、9層：暗褐色粘性土、9層に細別され、流入による自然堆積の状況を示し、底面近くでは帯水していた可能性がある。埋土中から、土師器片・瓦器片が出土した。

SK620出土遺物 (Fig.91-4・5)

4は土師器皿で、復元口径9.0cm・器高1.5cm・復元底径6.6cm、内底面にナデを加

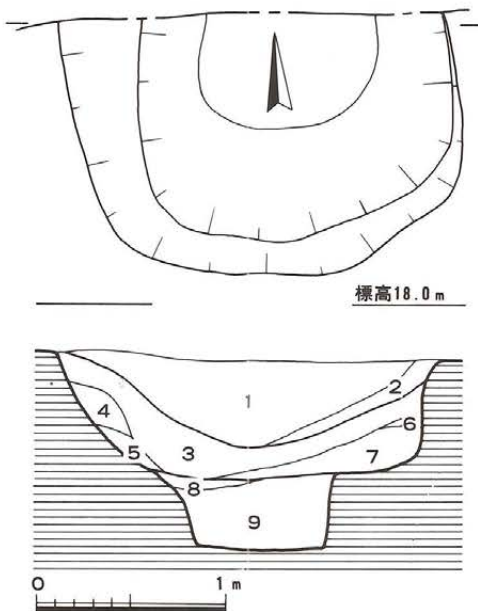


Fig.90 SK620土壙 (1/40)

1. 鎌倉時代の遺構と遺物

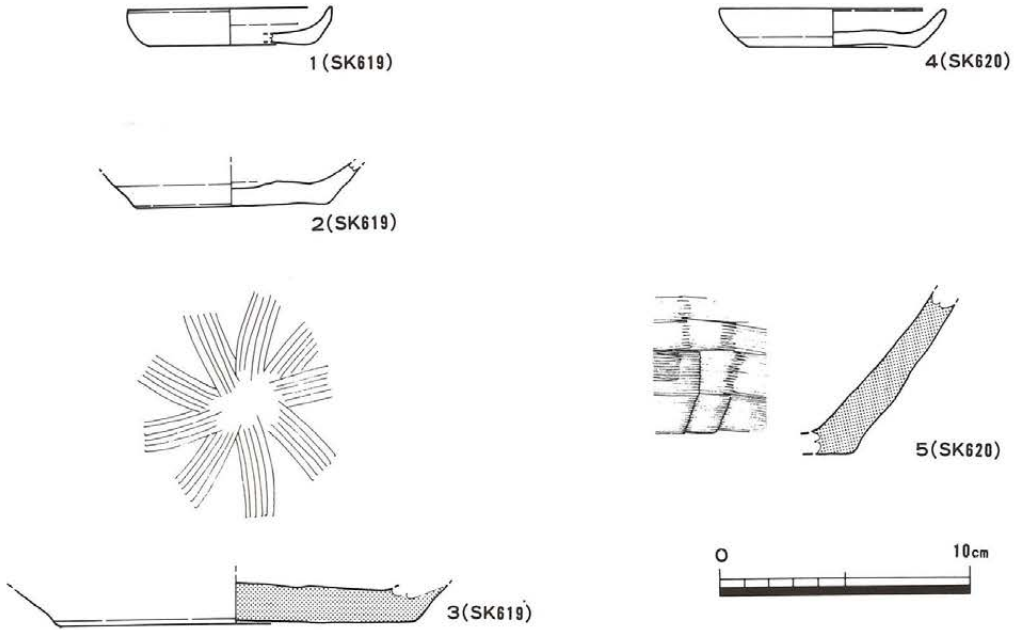


Fig.91 SK619・620出土遺物 (1/3)

える。5は 瓦器捏鉢で、外面はハケ目の後に指押さえて仕上げ、内面は横方向の細かいハケ目を施す。

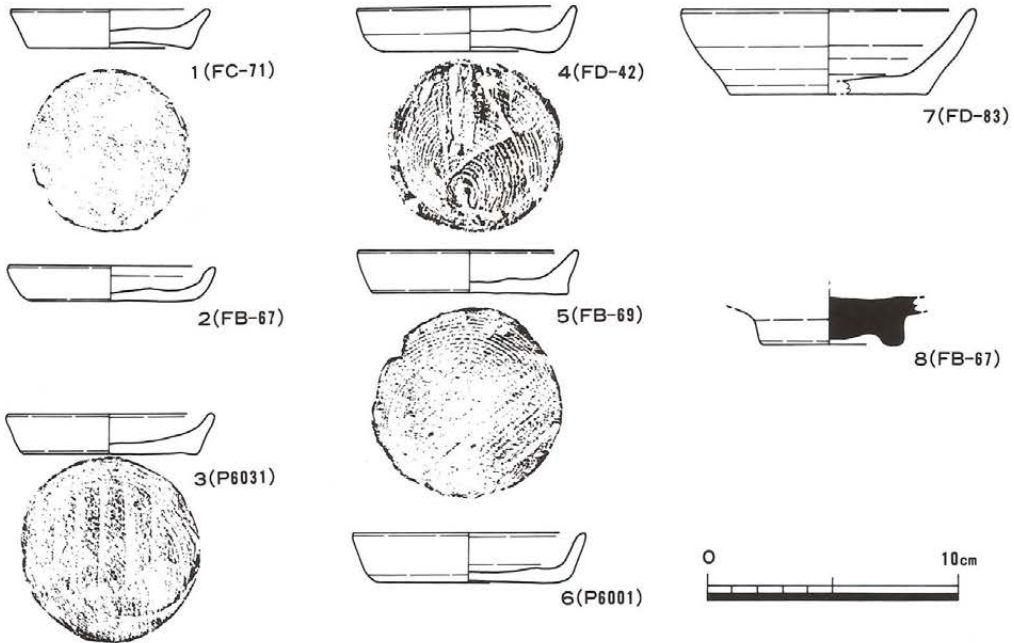


Fig.92 宿野遺跡 6区出土遺物 (1/3)

IX. 6区の記録

(3)その他の出土遺物

小穴の出土遺物と表採遺物をFig.92に図示した。

土師器皿(1~6) 口径7.8~9.1cm・器高1.4~1.9cm・底径6.5~7.6cm、内底面にナデを加え、外底面に板目圧痕が残るものが多い。

土師器杯(7) 復元口径11.4cm・器高3.3cm・復元底径7.8cm、内底面にナデを加えている。

青磁碗(8) 竜泉窯系青磁碗I類[森田・横田1978]の底部破片で、底径5.3cm。

2. 小 結

ここでひとまず、宿野遺跡6区の調査成果についてまとめておく。

①：出土遺物をみると、わずかな混入品を除けば、その年代は13世紀後半~14世紀前半に収まり、ほぼ鎌倉時代後半期にあたる遺跡である。

②：遺構の組合せでは、屋敷地に伴うと考えられる区画溝SD604・611、耕作関連の遺構と思われるSD613、舌状台地を横断する形で東へ抜ける流水路SD614・615・617などがある。

③：他の性格不明の規模が小さな溝の走行も、SD613・614・615・617と一致し、区画溝SD604・611とは合わない。出土遺物ではSD604が比較的古い様相を示していて、区画溝が他の溝に対して時期的に先行するものとする。

④：溝の走行方向の一致から、SD613にみられるように、区画溝以外の溝は耕作関連の遺構ではないかと思われる。

⑤：区画溝に示される屋敷地は、南側の調査区外に展開して、その内容はまるで不明である。区画溝の一辺の規模からは、本村遺跡1区の検出例[徳永・宮武1991]よりは、大曲A遺跡の検出例[久保1985]に類似し、区画内部に1~2棟の掘立柱建物を伴う可能性が高い。

⑥：したがって宿野遺跡6区は、当初屋敷地の一部として利用されたが、ある時点で耕作地の一部に転換され、14世紀の前半までは耕作地として利用されたものとする。それ以降の土地利用については遺構を伴っていない。

X. 7区の記録

宿野遺跡7区は、6区がのる舌状の洪積台地の東側に堆積する扇状地面に立地する。検出面になった扇状地面の堆積層はかなり不安定で、遺物を伴う確実な遺構はSK701だけである。

Fig.94にGE-76区画の調査区北壁の土層断面を図示した。1層：褐色砂質土、2層：黒褐色砂質土、3層：灰褐色砂質土、4層：黒褐色砂質土、5層：暗黄褐色粘質土、6層：黒褐色砂質土、7層：暗黄褐色粘質土、8層：黒褐色砂質土、9層：黒褐色粘質土、10層：灰褐色粘質土、11層：黄褐色砂質土、12層：黒褐色砂質土。1層は新旧の耕作土で、3層上面が検出面である。2層は調査区全面で検出面上に被っていた。3層以下は典型的な扇状地の堆積層で、砂質土と粘質土が互

1. 奈良時代の遺構と遺物

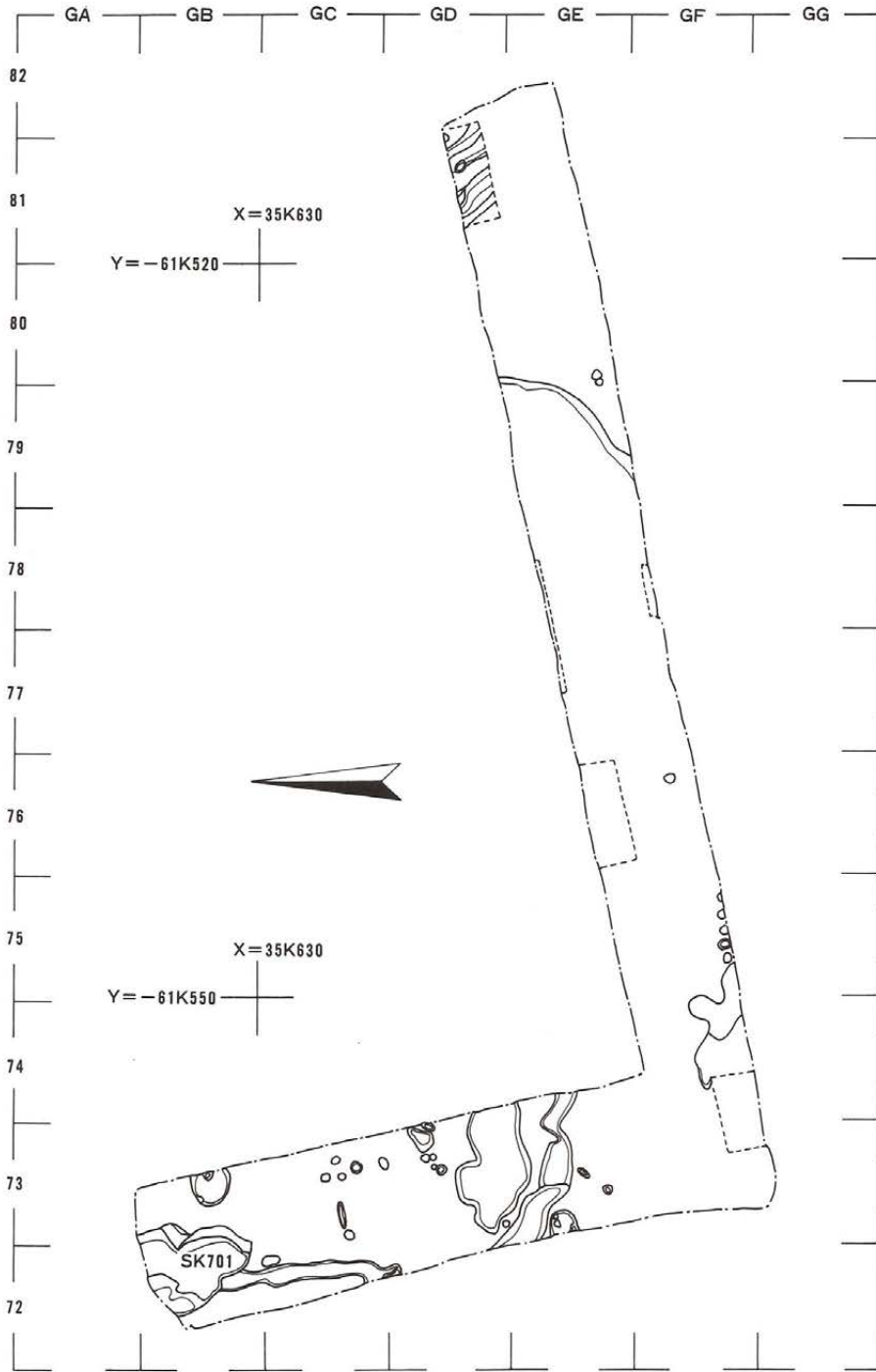


Fig.93 宿野遺跡7区遺構配置図 (1/300)

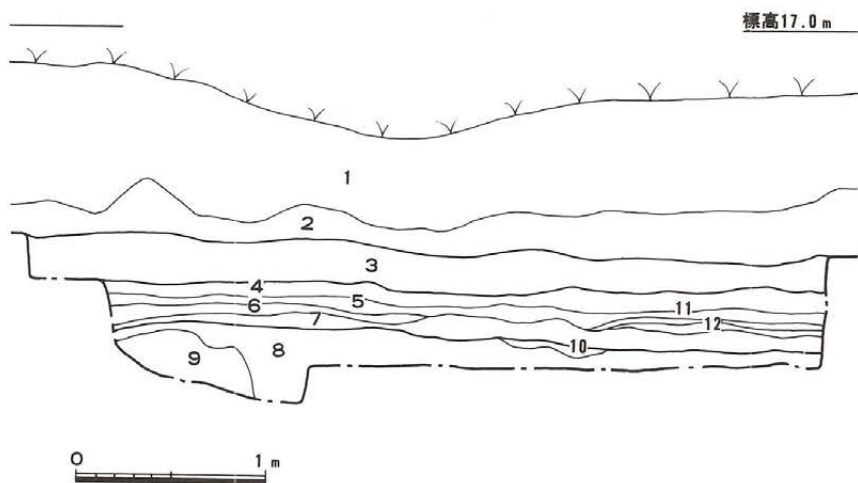


Fig.94 宿野遺跡7区北壁土層断面 (1/40)

層に堆積する。

1. 奈良時代の遺構と遺物

(1) 土壙と出土遺物

SK701土壙(Fig.96)

GB-72・73区画で検出した。平面形は4.5m以上×3.6mの不定形をなし、遺構のかなりの部

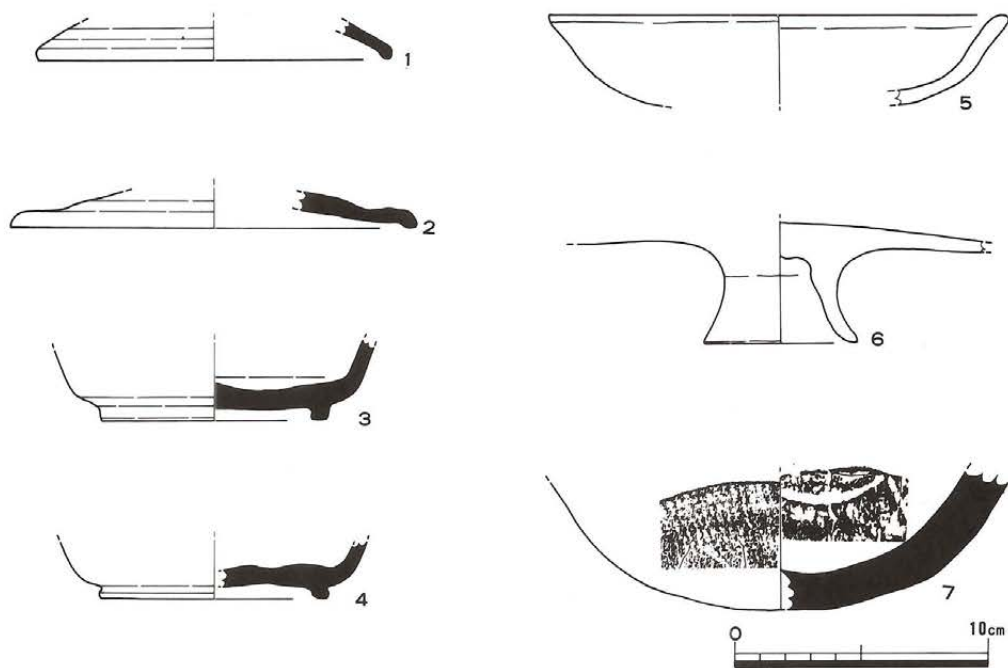


Fig.95 SK701出土遺物 1 (1/3)

1. 奈良時代の遺構と遺物

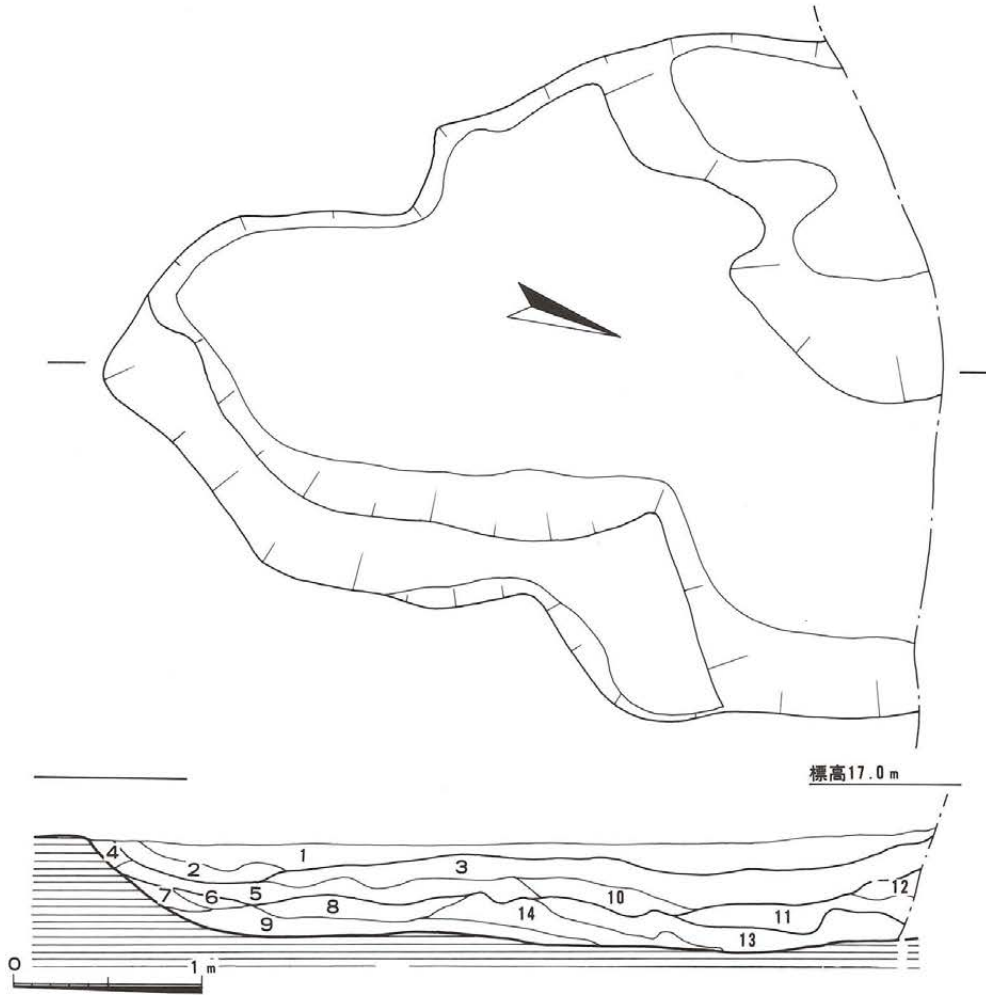


Fig.96 SK701土壙 (1/40)

分が調査区外に展開する。壁面はややきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は14層に細分され、1~7層：黒褐色砂質土、8層：暗灰褐色砂質土、9~10層：灰褐色砂質土、11層：黒褐色粘質土、12~13層：黒褐色砂質土、14層：暗黄褐色粘質土、流入による自然堆積で埋没したものと判断する。埋土中から、まとまった量の土師器片・須恵器片が出土した。

SK701出土遺物(Fig.95・97)

須恵器杯蓋 (95-1~2) 復元口径13.8~16.0cm、内外面回転ナデで、端部の折り返しは弱く、内面に沈線状の凹みがまわるだけである。

須恵器高台付杯 (95-3~4) 復元底径8.8~9.0cm、体部内外面は回転ナデ、内底部にナデを加え、外底面に回転ヘラ削りを施している。

土師器杯 (95-5) 復元口径18.0cm、内外面回転ナデ。

X. 7区の記録

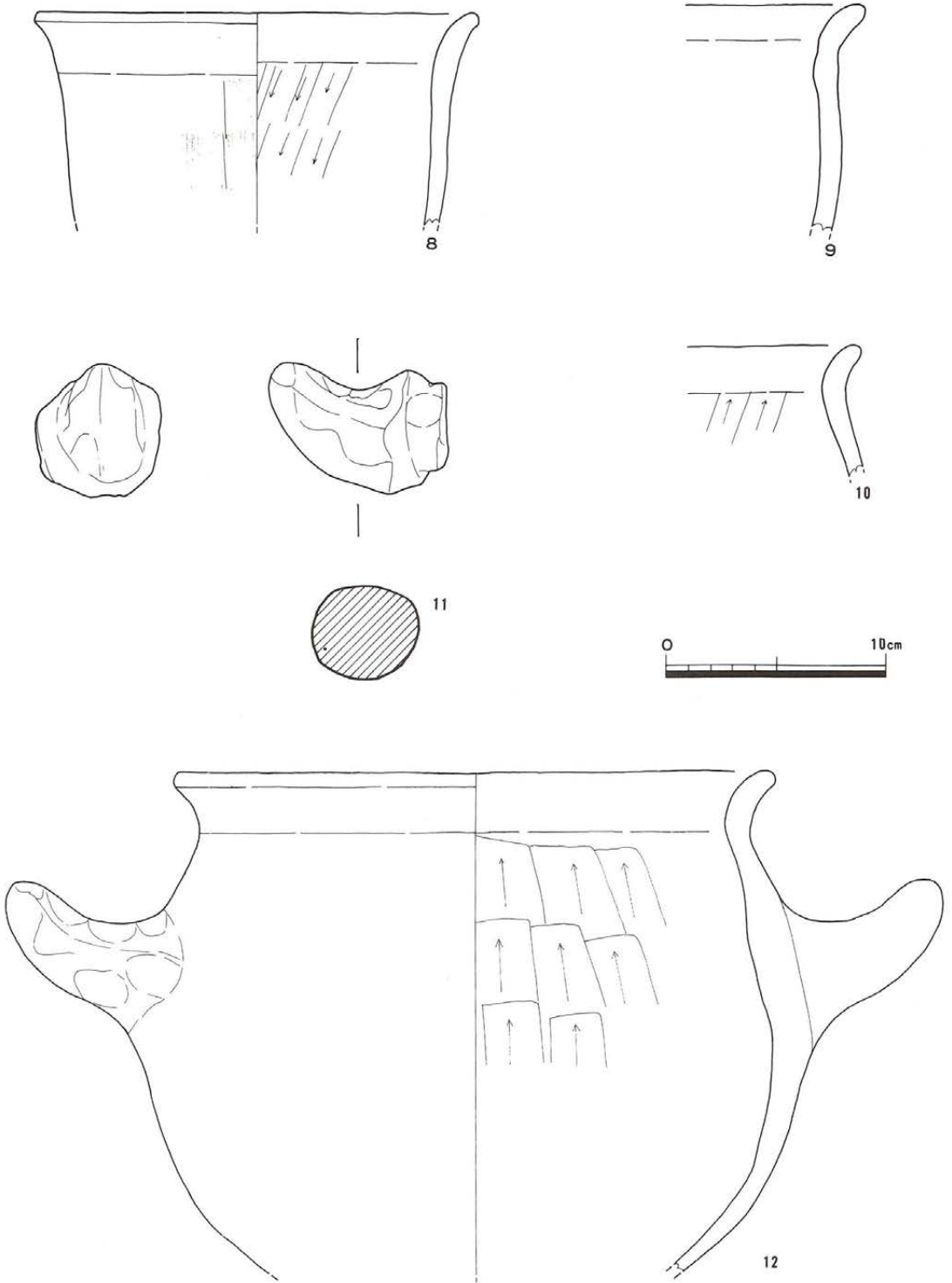


Fig.97 SK701出土遺物2 (1/3)

1. 奈良時代の遺構と遺物

土師器高杯 (95-6) 脚部径6.0cm、外面は横ナデ、内底面はナデで仕上げている。

須恵器瓶 (95-7) 外面は細かい平行タタキ目、内面は円弧タタキ目の後にナデを加えている。

土師器甕 (97-8~10) 復元口径19.8cm、口縁部内外面は横ナデ、外面はハケ目をナデ消し、内面は荒いへら削りを施している。

土師器甕 (97-11~12) 把手付甕で、復元口径27.0cm、口縁部内外面は横ナデ、外面はハケ目をナデ消し、内面は荒いへら削りを施し、把手は指押さえて仕上げている。

(2)その他の出土遺物

Fig.98に、調査区2層の出土遺物を図示している。1は須恵器杯蓋で、内外面回転ナデ、端部の折り返しは弱く、内面に沈線状の凹みがまわるだけである。2は須恵器杯で、復元口径13.8 cm、器高2.9cm、復元底径9.0cm、内外面回転ナデ、外底面には回転へら切りの後にナデを加えている。3は土師器甕で、口縁部内外面は横ナデ、外面は粗い縦方向のハケ目、内面はナデと指押さえて仕上げている。

XI. 8区の記録

宿野遺跡8区は、7区と同様な洪積台地東側の扇状地面に立地する。

20~40cmほどの耕作土を除去すると、7区と同様な灰褐色砂質土の検出面が表れた。続いて検出作業を開始したが、調査区のかかなりの部分に近現代の攪乱坑が分布し、明確な遺構は存在しなかった。一応、攪乱の状況を記録して、調査を終了した。



Fig.98 宿野遺跡7区出土遺物 (1/3)

XI. 8区の記録

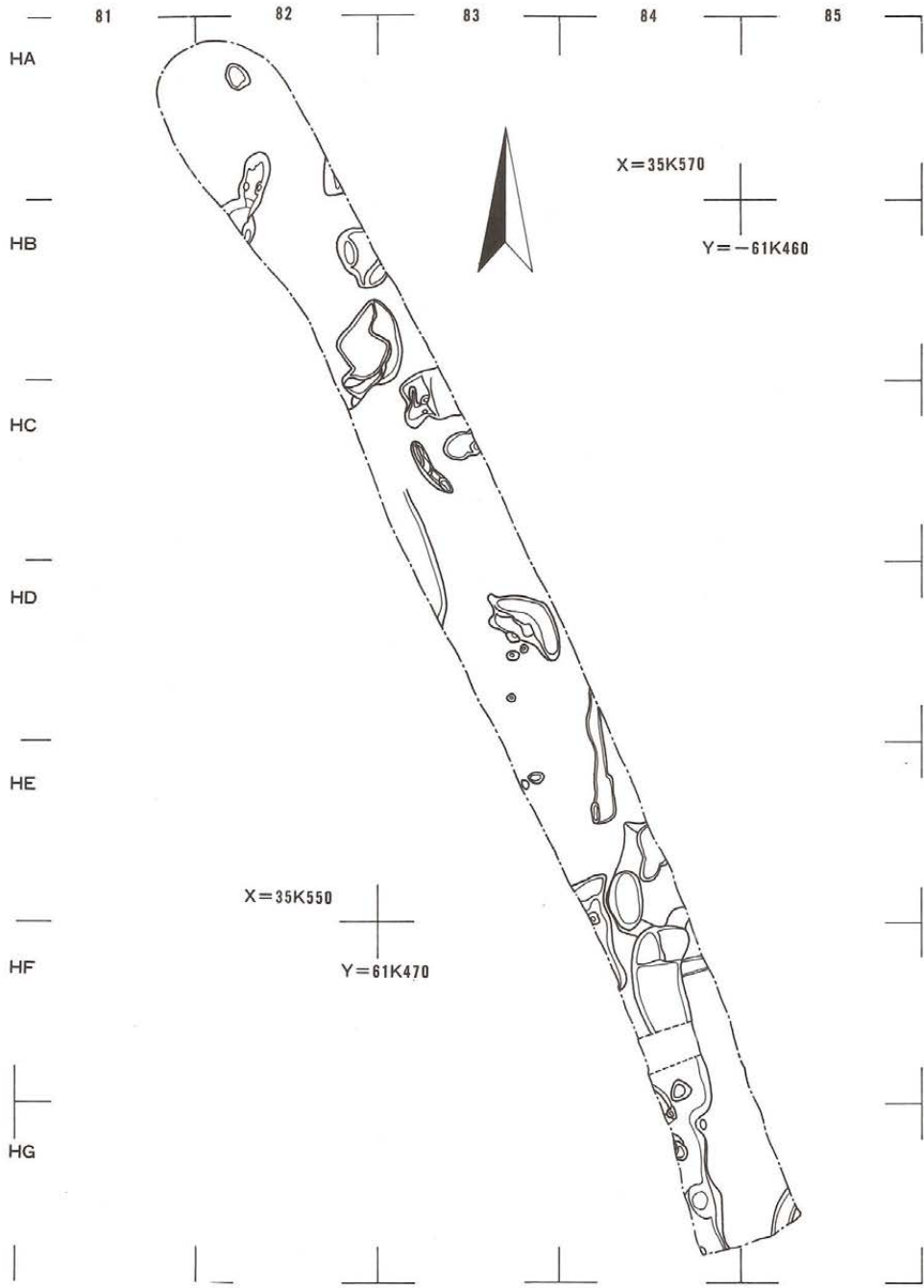


Fig.99 宿野遺跡 8区遺構配置図 (1/200)

Tab.1 土師器供膳具観察表 (1)

器種	番号	口径	器高	底径	切離	ナデ	圧痕	器種	番号	口径	器高	底径	切離	ナデ	圧痕
1区出土遺物															
皿	9-1	(7.6)	1.2	(6.0)	丌	○	○								
SP304出土遺物															
高台付杯	16-1	(12.2)	5.8	(7.0)	ヘラ	×	×	高台付杯	16-2	12.3	5.5	7.0	ヘラ	×	×
高台付杯	16-3	(12.4)	5.8	7.4	ヘラ	×	×	高台付杯	16-4	12.7	5.5	7.4	ヘラ	○	○
高台付杯	16-5	13.3	5.9	8.0	ヘラ	○	○	高台付杯	16-6	15.2	7.4	8.8	ヘラ	○	○
杯	16-7	12.0	3.8	6.8	ヘラ	○	○	杯	16-8	(12.3)	2.7	6.2	ヘラ	○	○
SK311出土遺物															
杯	21-1	(13.1)	3.5	7.0	丌	×	×								
SD401出土遺物															
皿	28-1	(8.0)	2.1	(5.2)	丌	×	×								
SD402出土遺物															
杯	28-3	(11.9)	3.2	(4.8)	丌	×	×								
SD501出土遺物															
杯	40-1	(11.4)	3.0	(8.0)	丌	○	○	杯	40-2	13.3	3.5	6.2	丌	○	○
SK505出土遺物															
杯	46-2	(11.0)	4.1	7.6	丌	○	×	杯	46-3	12.4	4.0	8.8	丌	×	×
杯	46-4	(13.6)	3.3	(8.0)	丌	×	×								
SK510出土遺物															
杯	48-1	(12.0)	3.3	(6.0)	丌	×	×	杯	48-2	(13.6)	3.2	(8.0)	丌	×	×
SK603出土遺物															
杯	51-1	(13.0)	3.6	8.8	丌	○	○								
SD604出土遺物															
杯	51-4	(13.6)	3.8	8.7	丌	○	○								
SD612出土遺物															
皿	53-1	(8.1)	1.5	(7.0)	丌	×	×	皿	53-2	8.1	1.6	6.1	丌	×	×
杯	53-3	(12.6)	2.5	(8.4)	丌	○	×	杯	53-4	(15.0)	3.5	(11.2)	丌	○	×
杯	53-5	(11.4)	3.4	(8.0)	丌	×	×	杯	53-6	(11.4)	3.1	(8.6)	丌	×	×
杯	53-7	12.3	3.9	8.2	丌	○	○								
SD613出土遺物															
皿	55-1	(8.5)	1.5	(6.4)	丌	○	×	皿	55-2	(8.6)	1.6	(7.0)	丌	○	×
皿	55-3	8.8	1.7	7.4	丌	○	○	杯	55-4	(15.0)	3.2	(9.2)	丌	×	×
SD614出土遺物															
皿	57-1	(7.8)	1.4	6.0	丌	○	○	皿	57-2	7.8	1.4	6.4	丌	○	○
皿	57-3	(8.0)	1.8	(5.0)	丌	○	○	皿	57-4	(8.0)	1.7	(6.0)	丌	○	×
皿	57-5	8.0	1.6	6.4	丌	○	○	皿	57-6	8.2	1.5	6.0	丌	○	○
皿	57-7	(8.7)	1.5	(6.8)	丌	○	○	皿	57-8	(8.8)	1.5	6.8	丌	○	×

Tab. 2 土師器供膳具観察表 (2)

器種	番号	口径	器高	底径	切離	ナテ	圧痕	器種	番号	口径	器高	底径	切離	ナテ	圧痕
SD 6 1 4 出土遺物															
皿	57-9	(8.8)	1.4	(7.0)	卍	○	○	皿	57-10	(9.2)	1.8	(7.6)	卍	○	○
皿	57-11	9.5	1.7	7.8	卍	×	×	杯	57-12	(11.6)	3.8	(7.8)	卍	○	○
杯	57-13	(11.4)	3.4	(8.0)	卍	○	○	杯	57-14	(11.6)	3.1	(8.6)	卍	○	○
杯	57-15	(11.8)	3.6	7.0	卍	×	×	杯	57-16	(12.3)	4.1	8.0	卍	×	×
杯	57-17	(12.4)	3.5	(8.0)	卍	○	○	杯	58-18	(12.6)	3.6	8.1	卍	○	○
杯	58-19	(12.8)	3.9	(8.4)	卍	×	×	杯	58-20	(12.8)	3.6	(8.4)	卍	×	×
杯	58-21	(12.8)	3.5	(8.4)	卍	×	×	杯	58-22	13.2	4.1	7.9	卍	○	○
杯	58-23	(13.3)	3.5	8.0	卍	×	×	杯	58-24	(13.4)	3.9	8.3	卍	×	×
杯	58-25	13.5	3.5	8.8	卍	○	×	杯	58-26	(13.6)	3.7	(7.5)	卍	○	×
杯	59-27	(13.6)	3.4	(9.6)	卍	×	×	杯	59-28	(13.7)	3.5	(6.8)	卍	×	○
杯	59-29	(13.8)	4.5	(8.8)	卍	×	○	杯	59-30	(14.0)	3.3	秋(8.0)	卍	×	○
杯	59-31	(14.4)	2.7	(11.0)	卍	×	○	杯	59-22	(16.0)	3.0	(12.0)	卍	○	×
SD 6 1 4・6 1 5 出土遺物															
皿	64-1	(7.2)	1.4	(5.0)	卍	×	×	皿	64-2	(7.4)	1.5	6.2	卍	○	○
皿	64-3	(7.6)	1.5	(5.2)	卍	○	×	皿	64-4	(8.0)	1.2	(6.0)	卍	×	×
皿	64-5	(8.1)	1.7	(5.6)	卍	○	○	皿	64-6	8.2	1.7	6.0	卍	○	○
皿	64-7	(8.4)	2.2	6.0	卍	○	○	皿	64-8	8.5	1.9	6.0	卍	○	○
皿	64-9	8.6	1.7	6.8	卍	○	○	皿	64-10	(8.8)	1.4	(6.6)	卍	○	×
皿	64-11	(8.8)	1.2	(7.0)	卍	○	×	皿	64-12	(9.0)	1.9	(7.4)	卍	○	×
皿	64-13	(9.4)	1.8	(8.4)	卍	○	○	皿	64-14	(9.8)	1.9	(7.4)	卍	○	○
皿	64-15	(10.0)	1.4	(8.0)	卍	○	×	杯	64-16	(11.4)	4.2	(8.0)	卍	×	×
杯	64-17	(11.8)	2.8	(9.4)	卍	○	○	杯	64-18	(12.0)	3.8	8.1	卍	○	○
杯	65-19	(12.2)	4.2	(8.0)	卍	○	○	杯	65-20	(12.4)	3.0	(8.0)	卍	×	×
杯	65-21	(12.4)	2.8	(9.6)	卍	×	×	杯	65-22	(12.5)	3.6	8.0	卍	○	×
杯	65-23	12.8	2.8	7.4	卍	○	×	杯	65-24	(12.8)	3.6	(8.8)	卍	○	×
杯	65-25	(12.9)	4.2	7.6	卍	×	×	杯	65-26	12.9	3.9	8.2	卍	×	×
杯	65-27	13.0	3.8	8.0	卍	×	×	杯	65-28	(13.0)	3.4	(8.2)	卍	×	×
杯	66-29	13.1	3.9	8.4	卍	○	×	杯	66-30	13.2	3.8	8.2	卍	○	○
杯	66-31	13.3	3.6	8.6	卍	○	×	杯	66-32	13.5	4.0	9.0	卍	○	×
杯	66-33	(13.8)	2.8	(8.0)	卍	×	×	杯	66-34	(13.8)	3.9	(9.0)	卍	×	×
杯	66-35	14.3	4.0	9.8	卍	○	○	杯	66-36	(14.4)	3.3	(11.0)	卍	○	○
SD 6 1 5 出土遺物															
皿	69-1	(8.0)	1.4	(5.2)	卍	○	×	皿	69-2	(8.0)	1.3	(5.4)	卍	○	×
皿	69-3	(8.0)	1.2	(5.4)	卍	○	×	皿	69-4	(8.0)	1.6	(6.4)	卍	○	×
皿	69-5	(8.4)	1.6	(6.4)	卍	○	×	杯	69-6	(12.0)	3.3	8.0	卍	○	×
杯	69-7	(12.8)	3.7	(7.6)	卍	○	×	杯	69-8	(12.8)	3.2	8.0	卍	○	×

Tab. 3 土師器供膳具観察表 (3)

器種	番号	口径	器高	底径	切離	ナデ	圧痕	器種	番号	口径	器高	底径	切離	ナデ	圧痕
SD 6 1 5 出土遺物															
杯	69-9	(12.8)	3.2	8.0	丌	○	○	杯	69-10	(13.2)	3.3	(9.0)	丌	○	×
杯	69-11	(13.8)	3.5	8.4	丌	○	×	杯	69-12	(14.6)	3.9	(9.0)	丌	○	×
SD 6 1 6 出土遺物															
皿	72-1	(7.6)	1.6	(4.6)	丌	○	×	皿	72-2	(8.0)	1.7	(7.0)	丌	○	×
皿	72-3	8.1	1.5	6.3	丌	○	○	皿	72-4	(9.1)	2.0	8.7	丌	○	○
杯	72-5	(12.8)	3.3	(7.4)	丌	○	×	杯	72-6	(13.0)	3.3	(8.2)	丌	○	×
SD 6 1 7 出土遺物															
皿	74-1	(8.6)	1.4	(5.8)	丌	○	×	皿	74-2	(13.0)	2.3	(7.4)	丌	○	○
杯	74-3	(13.0)	3.5	(7.7)	丌	○	○								
SD 6 2 1 出土遺物															
皿	75-1	(8.8)	1.4	(7.0)	丌	○	○								
SD 6 2 2 出土遺物															
皿	76-1	(8.2)	1.5	(7.0)	丌	○	×								
SD 6 2 3 出土遺物															
杯	76-3	(12.2)	3.7	(8.0)	丌	○	×								
SK 6 0 6 出土遺物															
杯	81-1	13.8	4.1	6.4	丌	×	×								
SK 6 0 8 出土遺物															
皿	81-2	8.1	1.2	7.0	丌	○	○	杯	81-3	(14.0)	3.7	(9.6)	丌	○	○
SK 6 1 8 出土遺物															
皿	86-1	(8.0)	1.4	(6.0)	丌	×	×	皿	86-2	(8.0)	1.5	(6.0)	丌	○	○
皿	86-3	(8.4)	1.6	(6.4)	丌	○	×	杯	86-4	(11.8)	4.4	(8.8)	丌	×	×
杯	86-5	12.4	3.6	7.4	丌	○	○	杯	86-6	12.4	3.3	8.0	丌	○	○
杯	86-7	(12.5)	3.7	8.0	丌	○	○	杯	86-8	12.6	3.6	7.8	丌	○	○
杯	86-9	12.9	3.5	7.6	丌	○	○	杯	86-10	(13.2)	3.2	(7.6)	丌	×	×
SK 6 1 9 出土遺物															
皿	91-1	(8.0)	1.4	(6.4)	丌	×	×								
SK 6 2 0 出土遺物															
皿	91-4	(9.0)	1.5	(6.6)	丌	○	×								
6区出土遺物															
皿	92-1	7.8	1.5	6.5	丌	○	○	皿	92-2	(8.0)	1.4	(6.8)	丌	○	○
皿	93-3	8.0	1.6	7.0	丌	○	○	皿	92-4	8.4	1.8	6.6	丌	○	○
皿	92-5	8.6	1.7	7.6	丌	○	○	皿	92-6	(9.1)	1.9	(7.2)	丌	○	×
杯	92-7	(11.4)	3.3	(7.8)	丌	○	×								

文献一覧

- 加藤元信・福田義彦・前田達男[1990]：来迎寺遺跡(佐賀市文化財調査報告書27)；佐賀市教育委員会。
- 木島慎治[1989a]：大日遺跡(佐賀市文化財調査報告書25)；佐賀市教育委員会。
- 木島慎治[1989b]：村徳永遺跡(佐賀市文化財調査報告書26)；佐賀市教育委員会。
- 木島慎治[1990]：村徳永遺跡(佐賀市文化財調査報告書32)；佐賀市教育委員会。
- 木島慎治[1992]：久富遺跡(佐賀市文化財調査報告書38)；佐賀市教育委員会。
- 久保伸洋[1985]：大曲遺跡群Ⅱ(東背振村文化財調査報告書9)；東背振村教育委員会
- 角信一郎[1993]：篠木野遺跡・琵琶原遺跡(佐賀市文化財調査報告書45)；佐賀市教育委員会。
- 徳永貞紹[1990]：肥前における中世後期の在地土器(中近世土器の基礎研究Ⅵ pp.93-108)；中世土器研究会。
- 徳永貞紹・宮武正登[1991]：本村遺跡(佐賀県文化財調査報告書102)；佐賀県教育委員会。
- 西田巖[1992]：村徳永遺跡(佐賀市文化財調査報告書42)；佐賀市教育委員会。
- 西田巖[1993]：大野原遺跡(佐賀市文化財調査報告書48)；佐賀市教育委員会。
- 西田巖・木島慎治[1992]：原ノ町遺跡・東高田遺跡・樺木遺跡・北宿遺跡・南宿遺跡(佐賀市文化財調査報告書38)；佐賀市教育委員会。
- 西田巖・前田達男[1993]：千布二本黒木遺跡(佐賀市文化財調査報告書47)；佐賀市教育委員会。
- 福田義彦[1981]：琵琶原遺跡(佐賀市文化財調査報告書13)；佐賀市教育委員会。
- 福田義彦[1985]：東千布遺跡・久富遺跡(佐賀市文化財調査報告書15)；佐賀市教育委員会。
- 福田義彦[1987]：泉三本栗遺跡(佐賀市文化財調査報告書18)；佐賀市教育委員会。
- 福田義彦[1988a]：上泉遺跡(佐賀市文化財調査報告書20)；佐賀市教育委員会。
- 福田義彦[1988b]：上泉遺跡(佐賀市文化財調査報告書21)；佐賀市教育委員会。
- 福田義彦[1989]：立野遺跡・村徳永遺跡(佐賀市文化財調査報告書24)；佐賀市教育委員会。
- 福田義彦[1990]：牟田寄遺跡(佐賀市文化財調査報告書31)；佐賀市教育委員会。
- 福田義彦[1993]：牟田寄遺跡(佐賀市文化財調査報告書49)；佐賀市教育委員会。
- 前田達男[1990]：本村遺跡(佐賀市文化財調査報告書29)；佐賀市教育委員会。
- 前田達男[1991]：村徳永遺跡(佐賀市文化財調査報告書34)；佐賀市教育委員会。
- 前田達男[1992]：村徳永遺跡・篠木野遺跡(佐賀市文化財調査報告書37)；佐賀市教育委員会。
- 前田達男・福田義彦・木島慎治・西田巖[1990]：南宿遺跡・本村遺跡・阿高遺跡・牟田寄遺跡・村徳永遺跡・古村遺跡(佐賀市文化財調査報告書28)；佐賀市教育委員会。
- 前田達男・牟田裕二[1992]：瓦町遺跡(佐賀市文化財調査報告書41)；佐賀市教育委員会。
- 森田勉・横田賢次郎[1978]：大宰府出土の輸入陶磁器について－型式分類と編年を中心として－(九州歴史資料館研究論集4 pp.1-26)；九州歴史資料館。
- 山崎純男・小畑弘己[1983]：柏原遺跡群Ⅰ(福岡市文化財調査報告書90)；福岡市教育委員会。

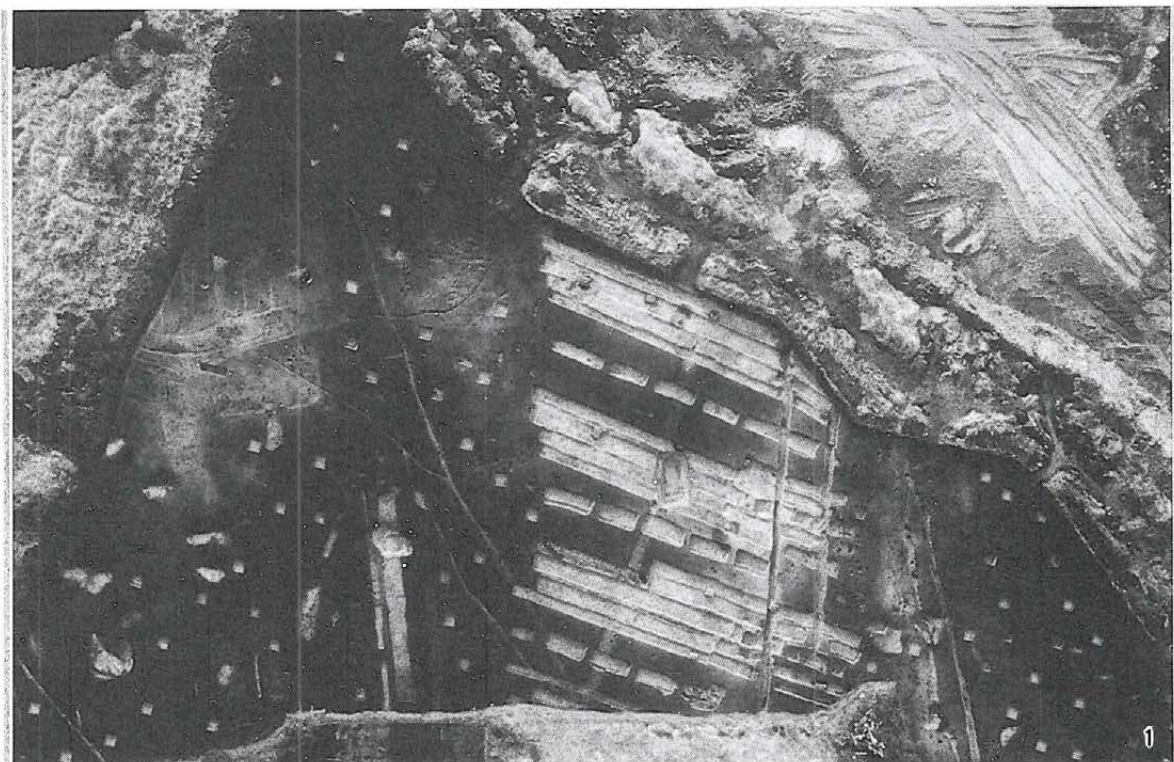


宿野遺跡遠景(南から)

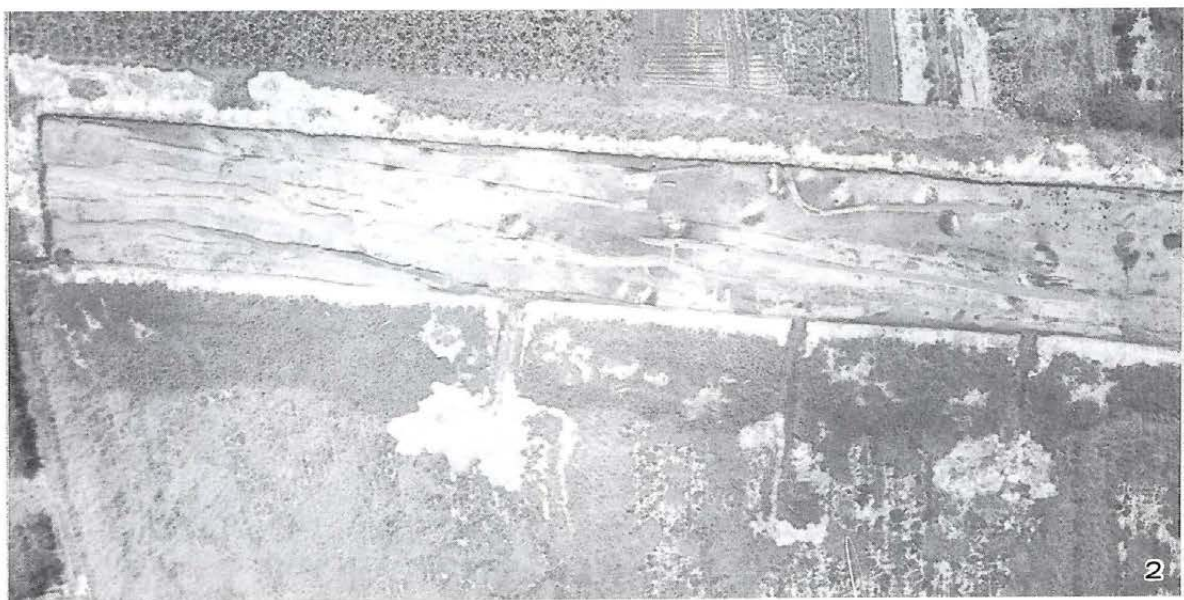
北の熊本山から突き出した低住段丘が南東方向にのびる。
南に位置する集落の北側が櫟木遺跡。画面中央やや北が宿野遺跡。

遺物写真は挿図と対照できるように
挿図番号を表記した。

3 S D 604 (98-14)
写真番号 遺構番号 挿図番号



1 : 宿野遺跡 3 区全景(南から)
2 : 宿野遺跡 5・6 区全景(西から)



1 : 宿野遺跡・5区全景(南から)
2 : 宿野遺跡6区全景(北から)



1 : 宿野遺跡 1 区(南東から) 4 : 宿野遺跡 2 区(南から) 7 : S P 304 遺物出土状況
2 : 宿野遺跡 1 区(西から) 5 : S K 302(北から) 8 : S P 304 遺物出土状況
3 : 宿野遺跡 2 区(東から) 6 : S P 304(東から)



1



2



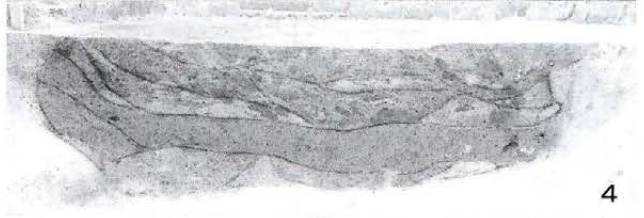
3



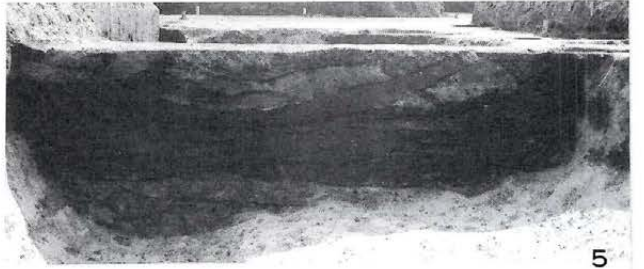
7



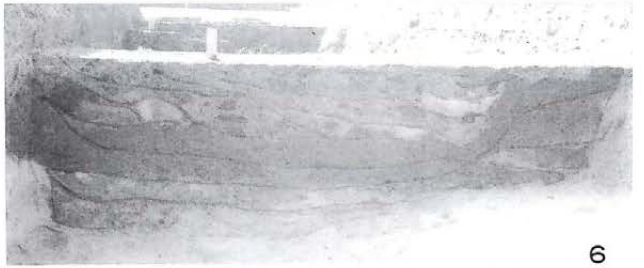
8



4



5



6



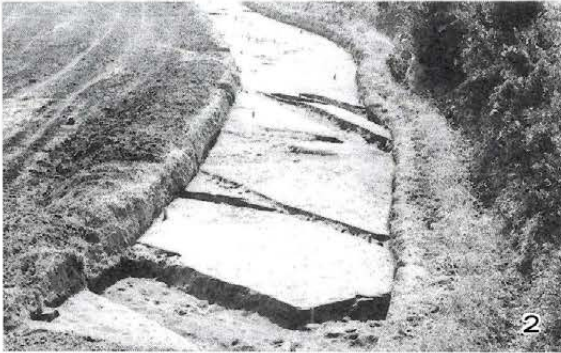
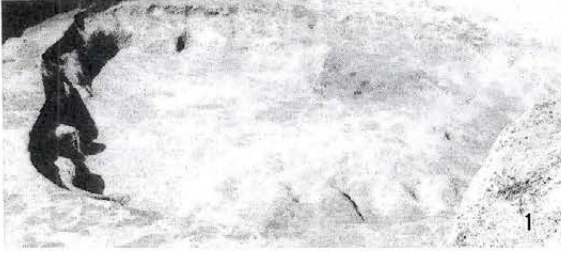
9



10

1 : S D 401 (北から) 4 : S D 401 A ベルト (北から) 7 : S K 404 (西から) 10 : S K 404 (東から)
 2 : S D 401 (北から) 5 : S D 401 B ベルト (北から) 8 : S K 404 (南東から)
 3 : S D 401 (南から) 6 : S D 401 C ベルト (北から) 9 : S K 404 (北西から)

PL. 6



1 : S K413(西から)

4 : 宿野遺跡 4 区南東側(西から)

7 : 宿野遺跡 4 区南東側(西から)

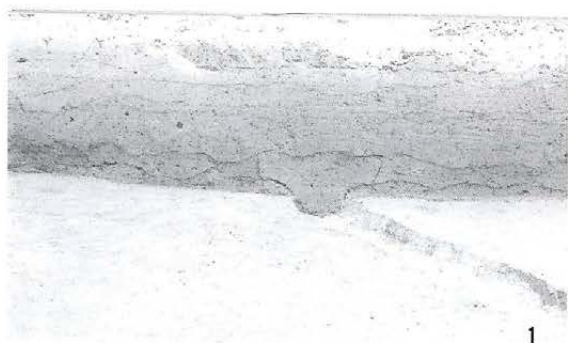
2 : 宿野遺跡 4 区南西側(南から)

5 : 宿野遺跡 4 区北西側(南東から)

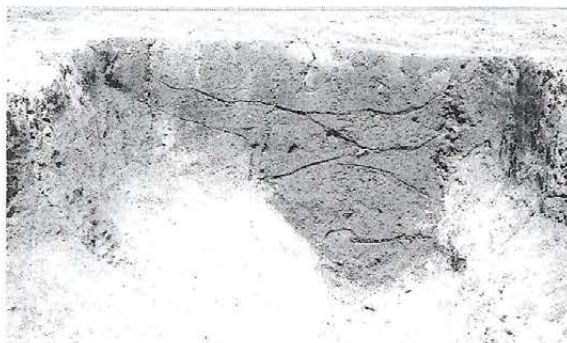
8 : 宿野遺跡 4 区作業状況

3 : 宿野遺跡 4 区西側(東から)

6 : 宿野遺跡西側(東から)



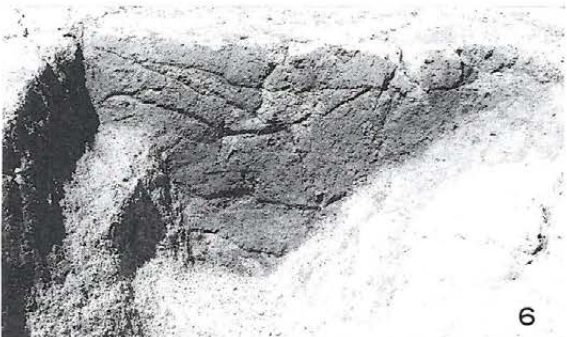
1



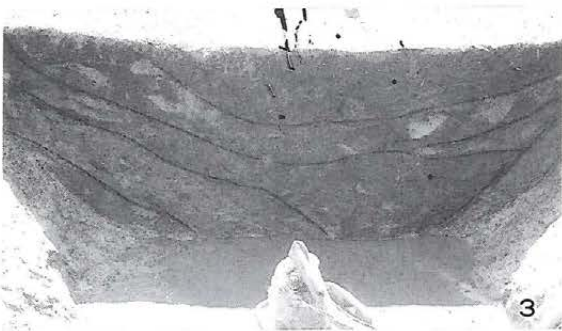
5



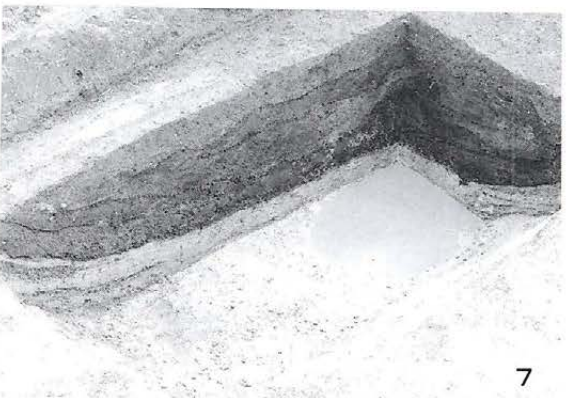
2



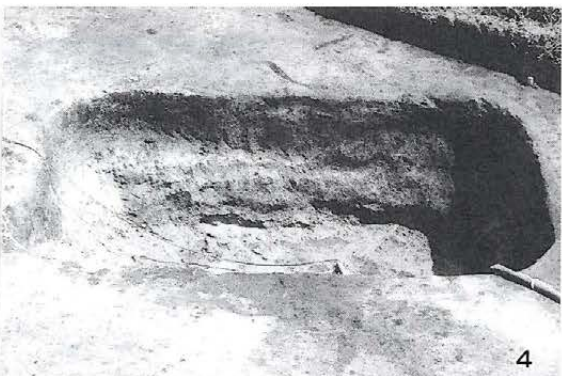
6



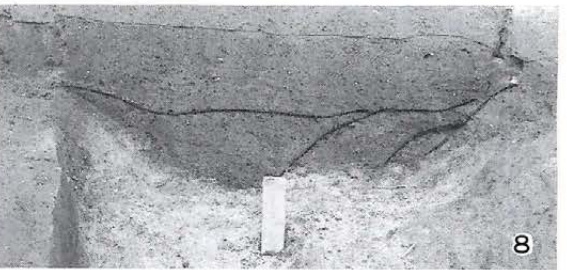
3



7

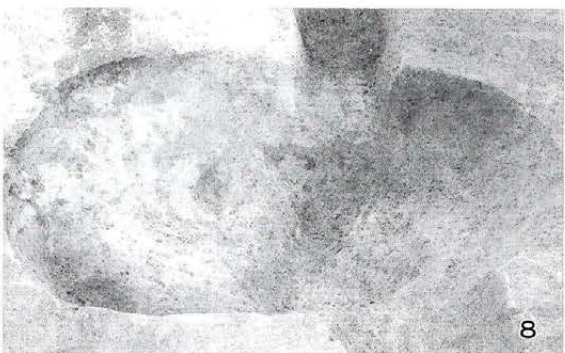
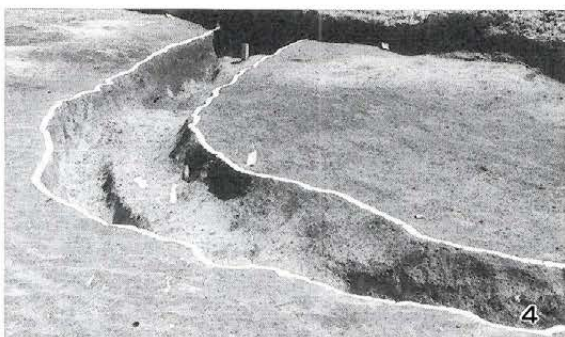
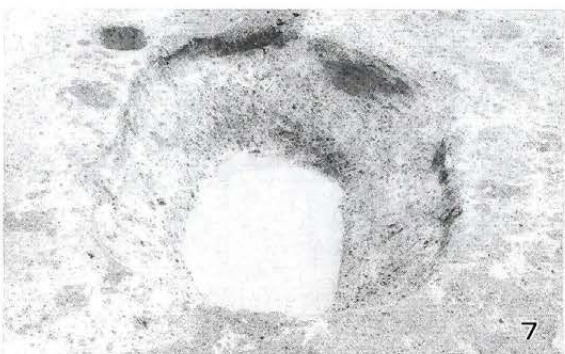
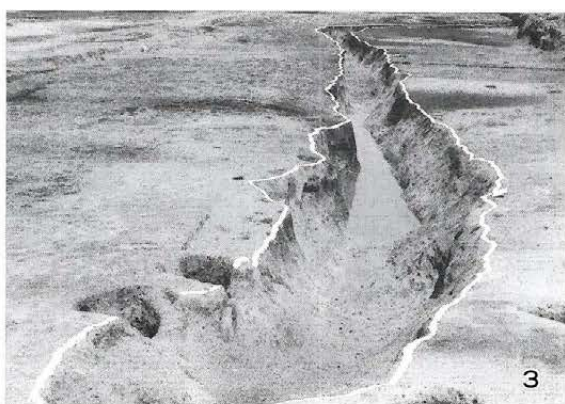
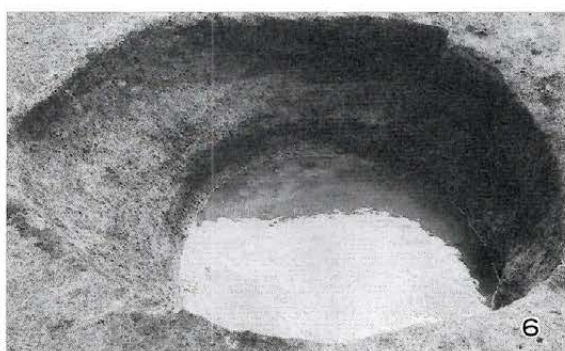
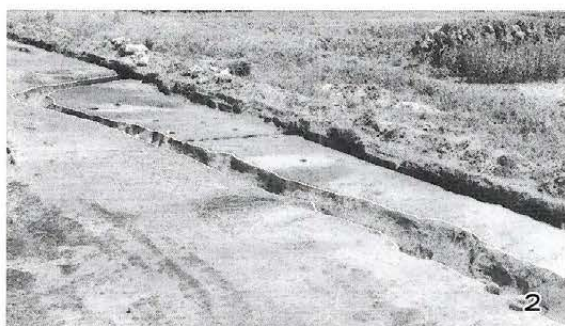


4

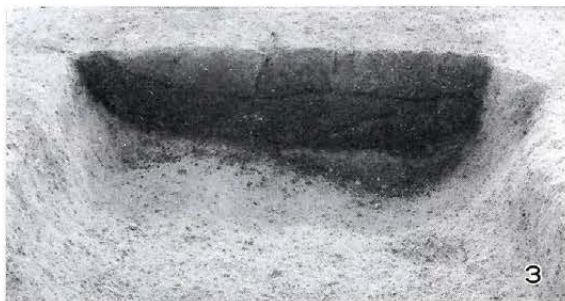
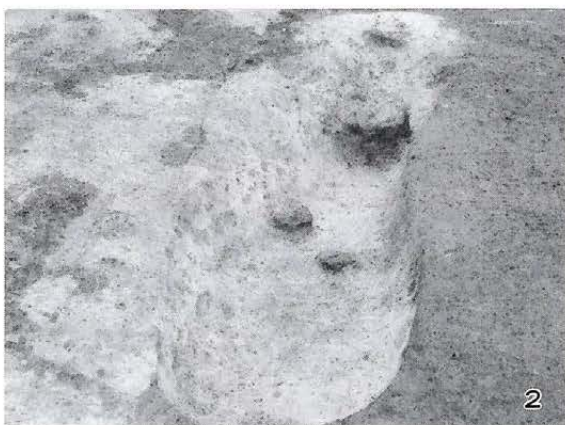


8

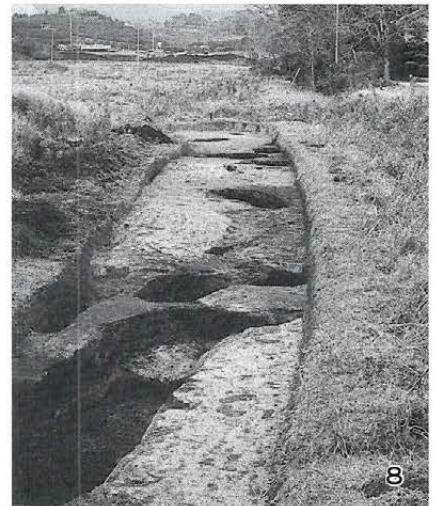
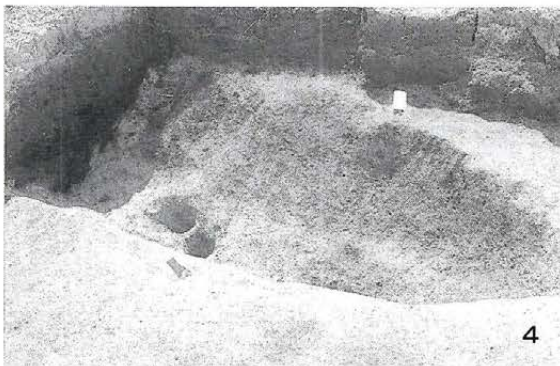
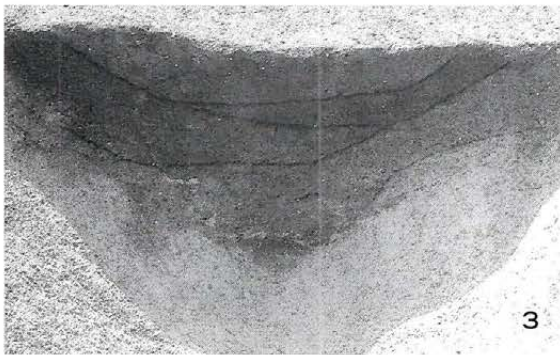
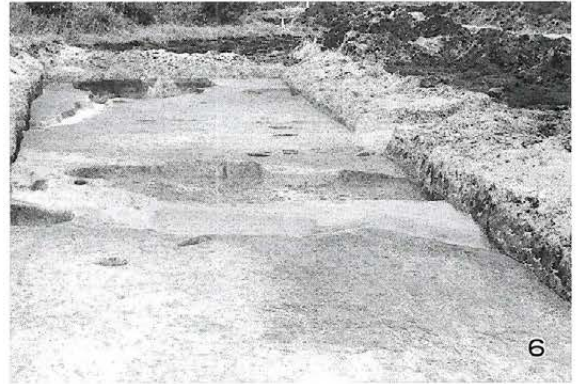
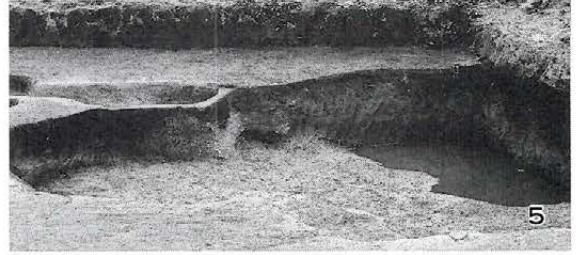
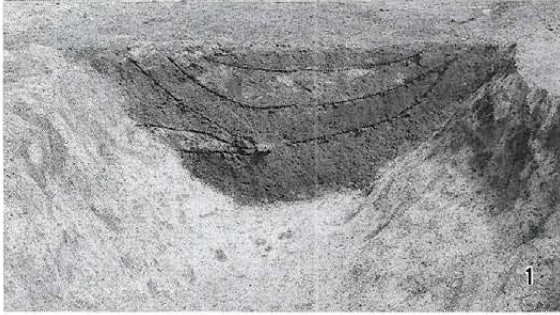
1 : 宿野遺跡 5 区北壁 4 : S K 502 (北西から) 7 : S K 510 (北東から)
 2 : S D 501 A ベルト (東から) 5 : S D 503 B ベルト (南東から) 8 : S D 604 南壁
 3 : S K 502 (東から) 6 : S D 503 C ベルト (南東から)



1 : S D 604 (西から) 4 : S D 604 (北から) 7 : S K 607 (西から)
2 : S D 604 (北西から) 5 : S K 605 (東から) 8 : S K 608 (西から)
3 : S D 604 (西から) 6 : S K 606 (北から)



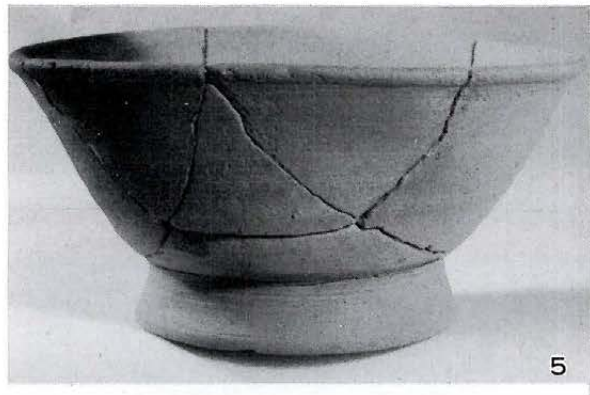
1 : S K 609(東から) 4 : S D 613Cベルト(西から) 7 : S D 617Aベルト(西から)
 2 : S K 610(東から) 5 : S D 614・615Bベルト(西から) 8 : S K 620(南西から)
 3 : S D 612Aベルト(西から) 6 : S D 616Bベルト(西から)



1 : S K 618(西から) 4 : S K 619(北から) 7 : 宿野遺跡 8 区南東側(南から)
2 : S K 618(西から) 5 : S K 701(東から) 8 : 宿野遺跡 8 区(南から)
3 : S K 619(東から) 6 : 宿野遺跡 7 区西側(南から)



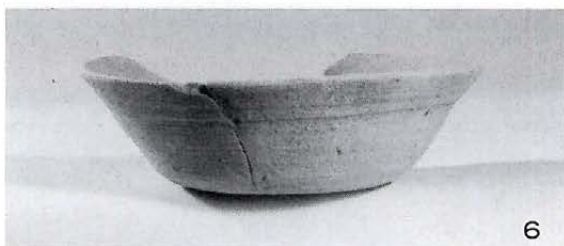
1



5



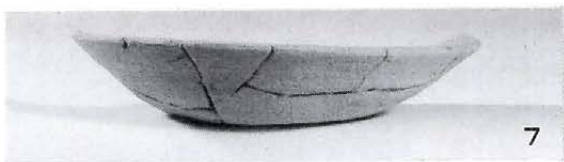
2



6



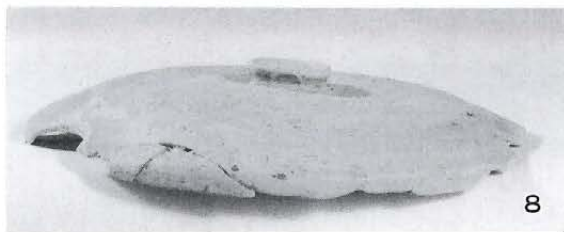
3



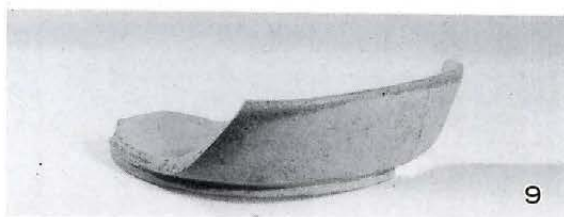
7



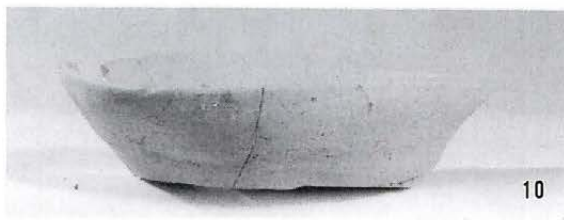
4



8



9

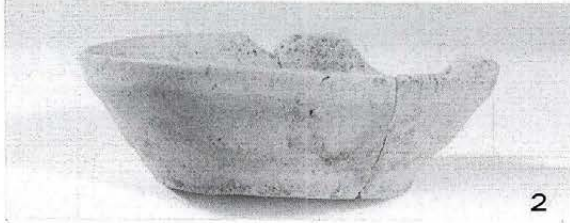


10

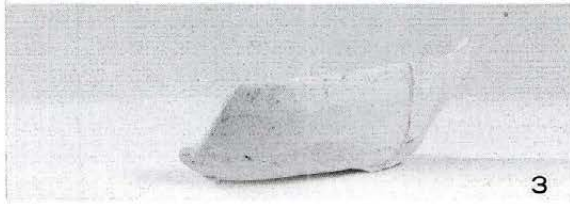
- | | | |
|-------------------|-------------------|--------------------|
| 1 : S P 304(16-2) | 5 : S P 304(16-6) | 9 : 3区出土遺物(25-2) |
| 2 : S P 304(16-3) | 6 : S P 304(16-7) | 10 : S D 501(40-2) |
| 3 : S P 304(16-4) | 7 : S P 304(16-8) | |
| 4 : S P 304(16-5) | 8 : 3区出土遺物(25-1) | |



1



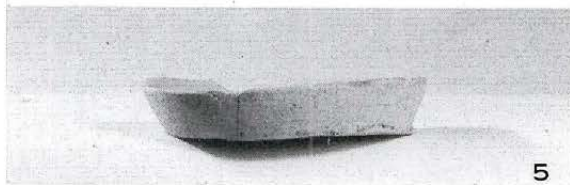
2



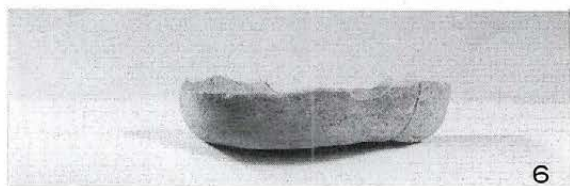
3



4



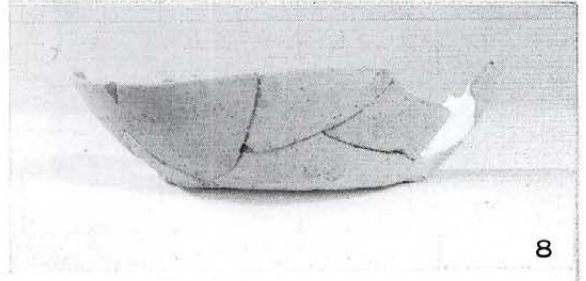
5



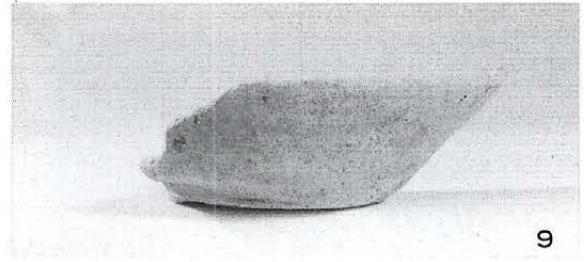
6



7



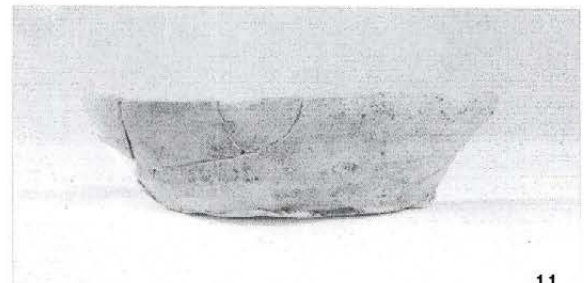
8



9



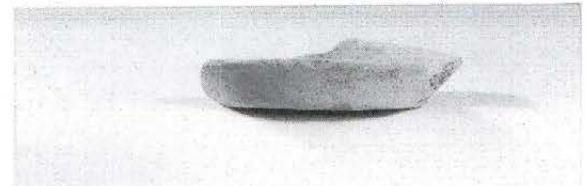
10



11

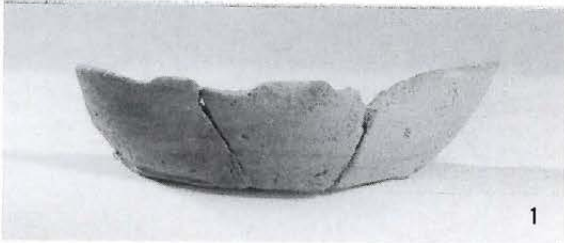


12



13

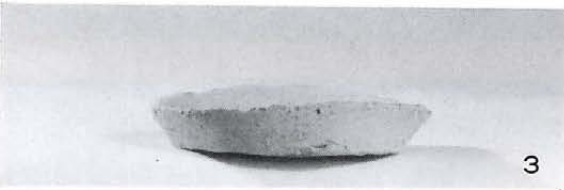
- 1 : S K505(46-2) 5 : 6区出土遺物(92-3) 9 : S K606(81-1) 13 : S D612(53-2)
2 : S K505(46-3) 6 : 6区出土遺物(92-4) 10 : S K608(81-2)
3 : S K505(46-4) 7 : 6区出土遺物(92-5) 11 : S K608(81-3)
4 : 6区出土遺物(92-1) 8 : S D603(51-1) 12 : S D612(53-1)



1



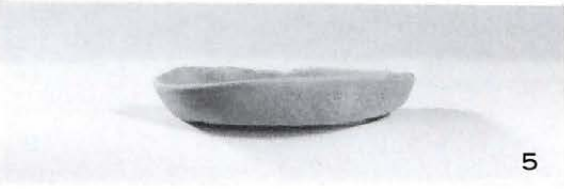
2



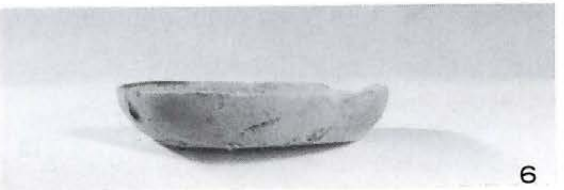
3



4



5



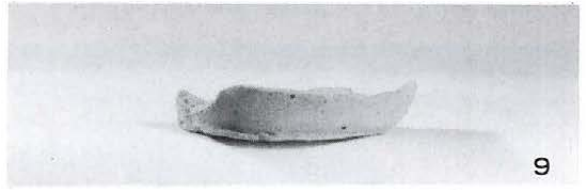
6



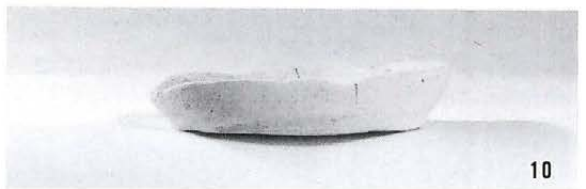
7



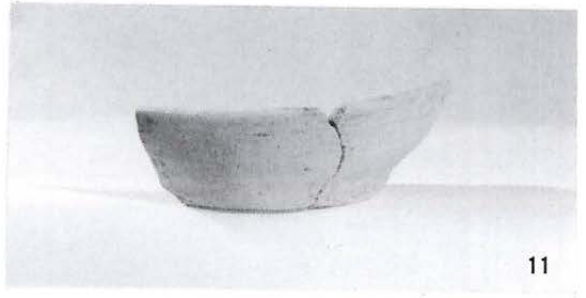
8



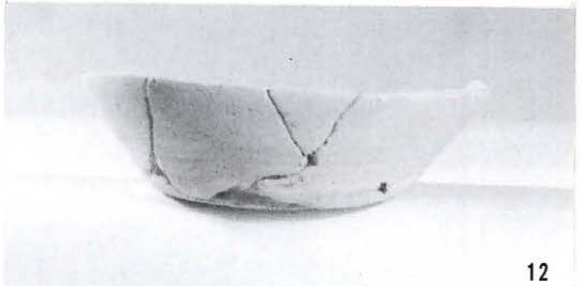
9



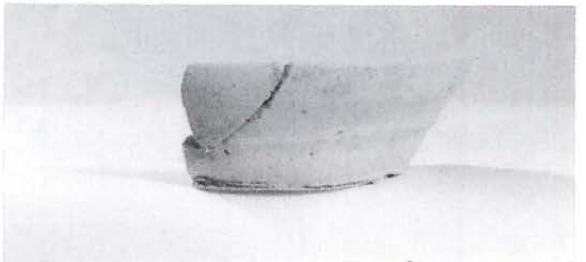
10



11

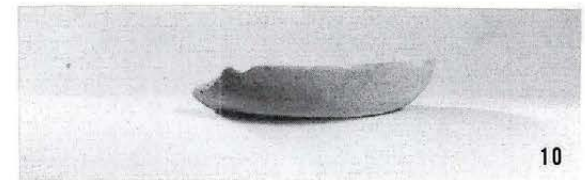
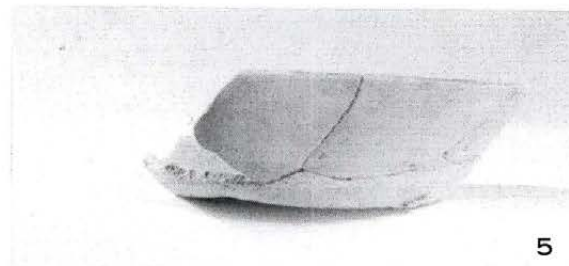
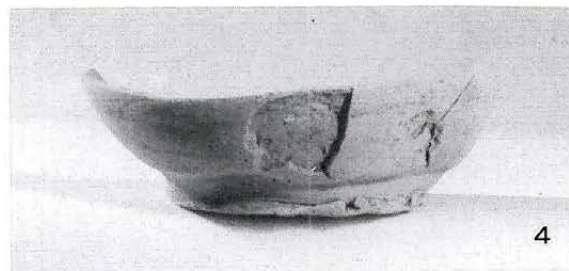
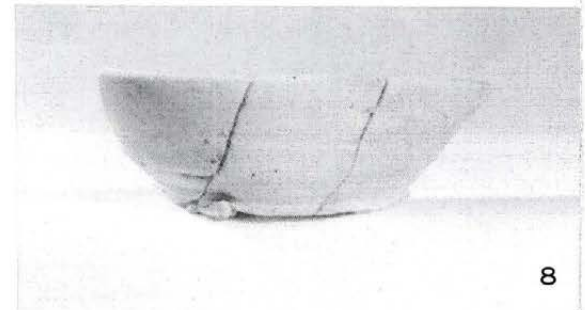
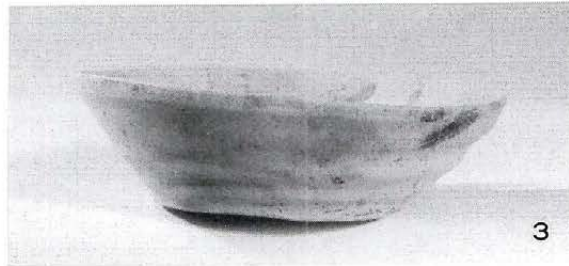
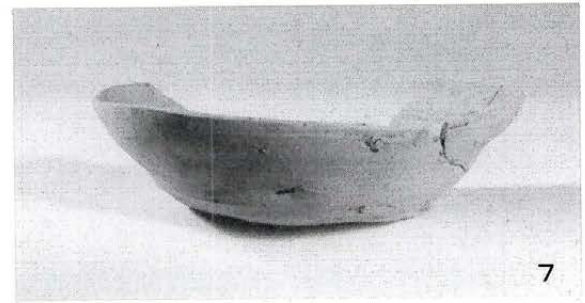
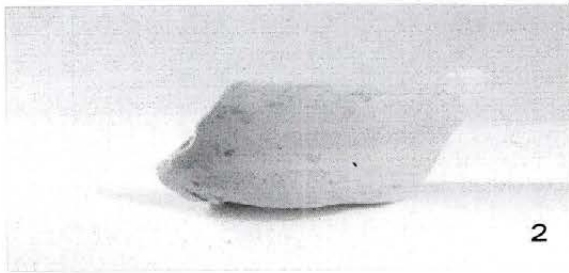
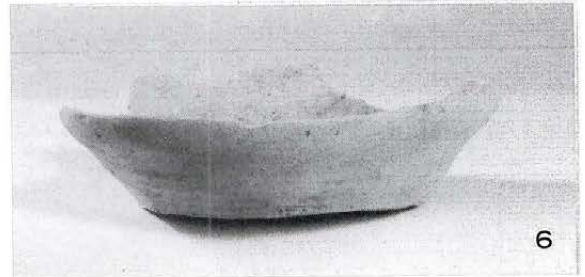
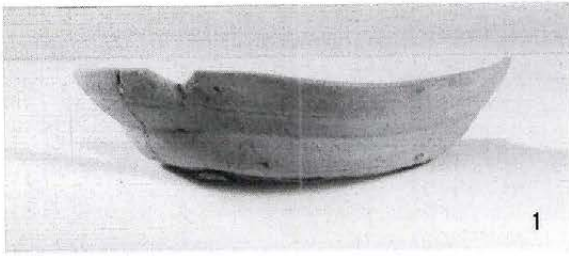


12



13

- | | | | |
|------------------|------------------|--------------------|--------------------|
| 1 : S D612(53-4) | 5 : S D614(57-2) | 9 : S D614(57-9) | 13 : S D614(57-16) |
| 2 : S D612(53-7) | 6 : S D614(59-5) | 10 : S D614(57-11) | |
| 3 : S D613(55-3) | 7 : S D614(57-6) | 11 : S D614(57-13) | |
| 4 : S D614(57-1) | 8 : S D614(57-8) | 12 : S D614(57-15) | |



- | | | |
|--------------------|--------------------|------------------------|
| 1 : S D 612(38-18) | 5 : S D 614(58-24) | 9 : S D 614-615(64-2) |
| 2 : S D 614(58-19) | 6 : S D 614(58-25) | 10 : S D 614-615(64-5) |
| 3 : S D 614(58-22) | 7 : S D 614(58-26) | 11 : S D 614-615(64-6) |
| 4 : S D 614(58-23) | 8 : S D 614(59-29) | |



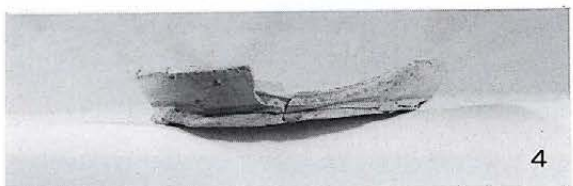
1



2



3



4



5



6



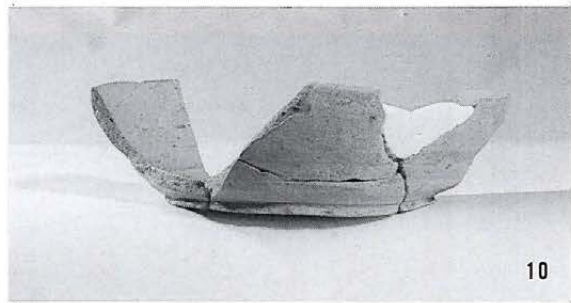
7



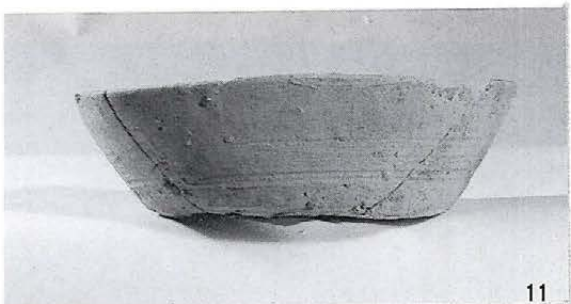
8



9

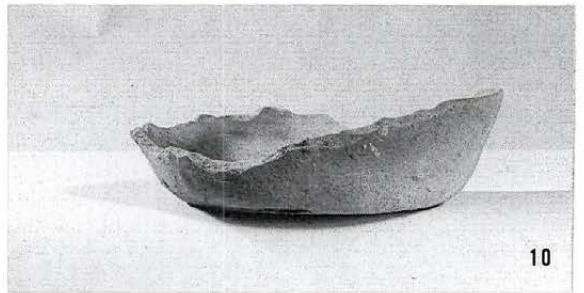
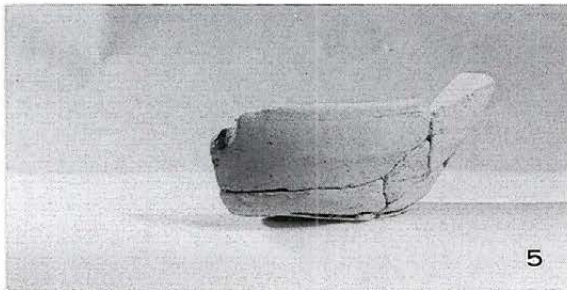
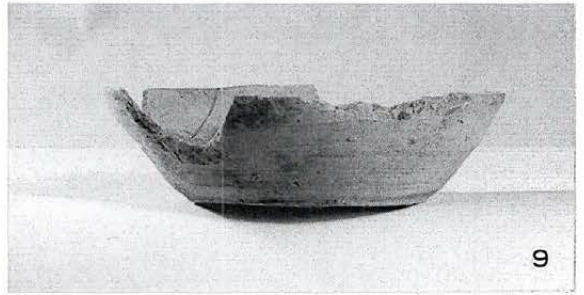
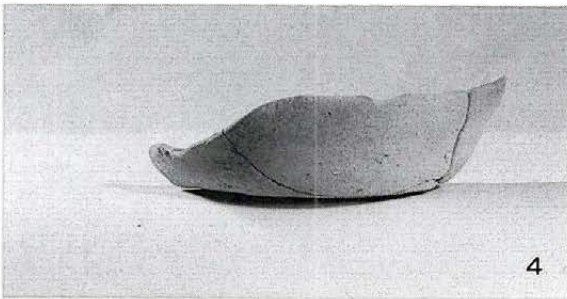
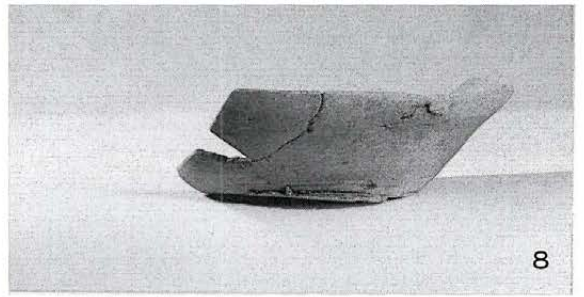
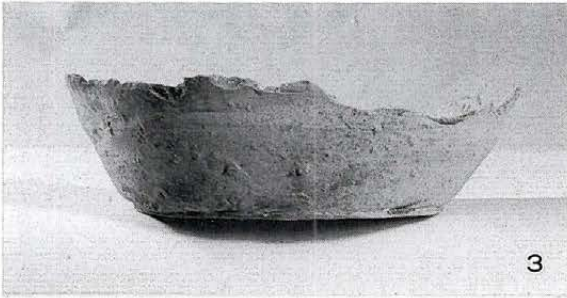
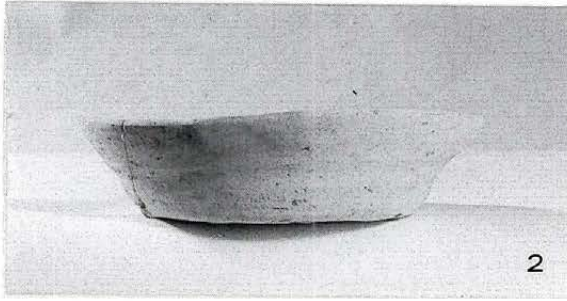
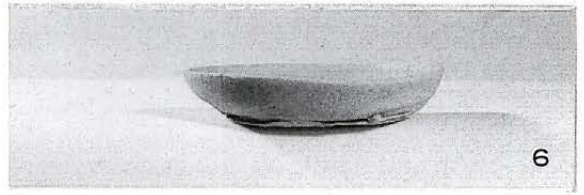
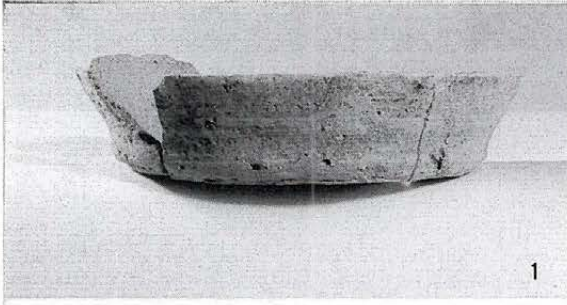


10



11

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|------------------------|
| 1 : S D614•615(64-7) | 5 : S D614•615(65-23) | 9 : S D614•615(66-30) |
| 2 : S D614•615(54-8) | 6 : S D614•615(65-26) | 10 : S D614•615(66-31) |
| 3 : S D614•615(64-9) | 7 : S D614(65-27) | 11 : S D614•615(66-32) |
| 4 : S D614•615(64-13) | 8 : S D614•615(66-29) | |



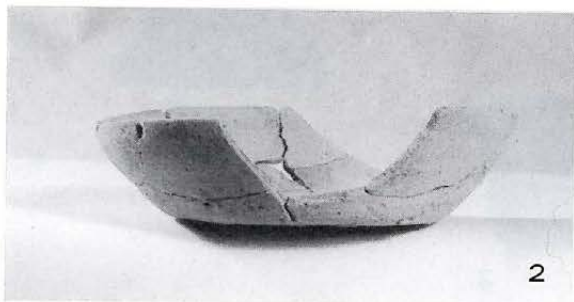
1 : S D614·615(66-36) 5 : S D615(69-12) 9 : S K618(86-5)
2 : S D615(69-6) 6 : S D616(72-3) 10 : S K618(86-7)
3 : S D615(69-7) 7 : S D616(72-4)
4 : S D615(69-11) 8 : S D616(72-5)



1



5



2



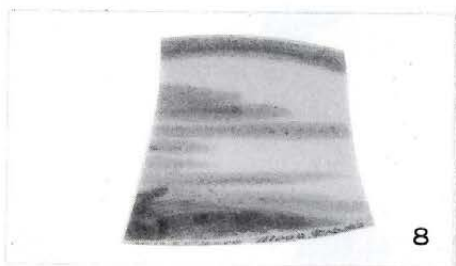
6



3



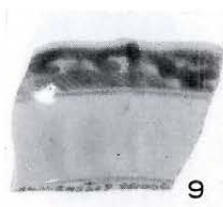
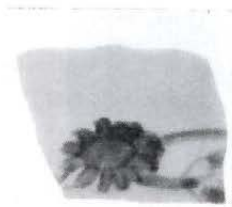
7



8



4



9

- 1 : S D 618 (86-8) 5 : 1区出土遺物(7-6) 9 : 2区出土遺物(9-9)
 2 : S K 618 (86-9) 6 : 2区出土遺物(9-4)
 3 : S K 701 (97-12) 7 : 2区出土遺物(9-3)
 4 : 1区出土遺物(7-4) 8 : 2区出土遺物(9-8)



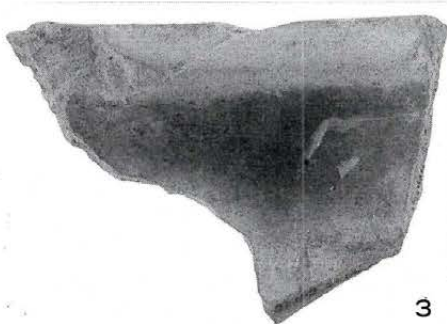
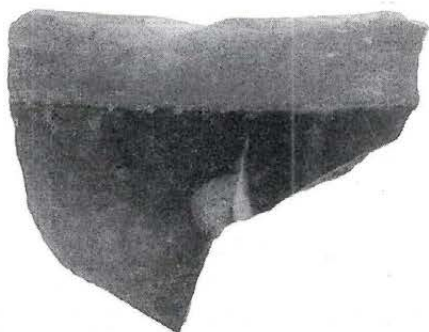
1



4



2



3



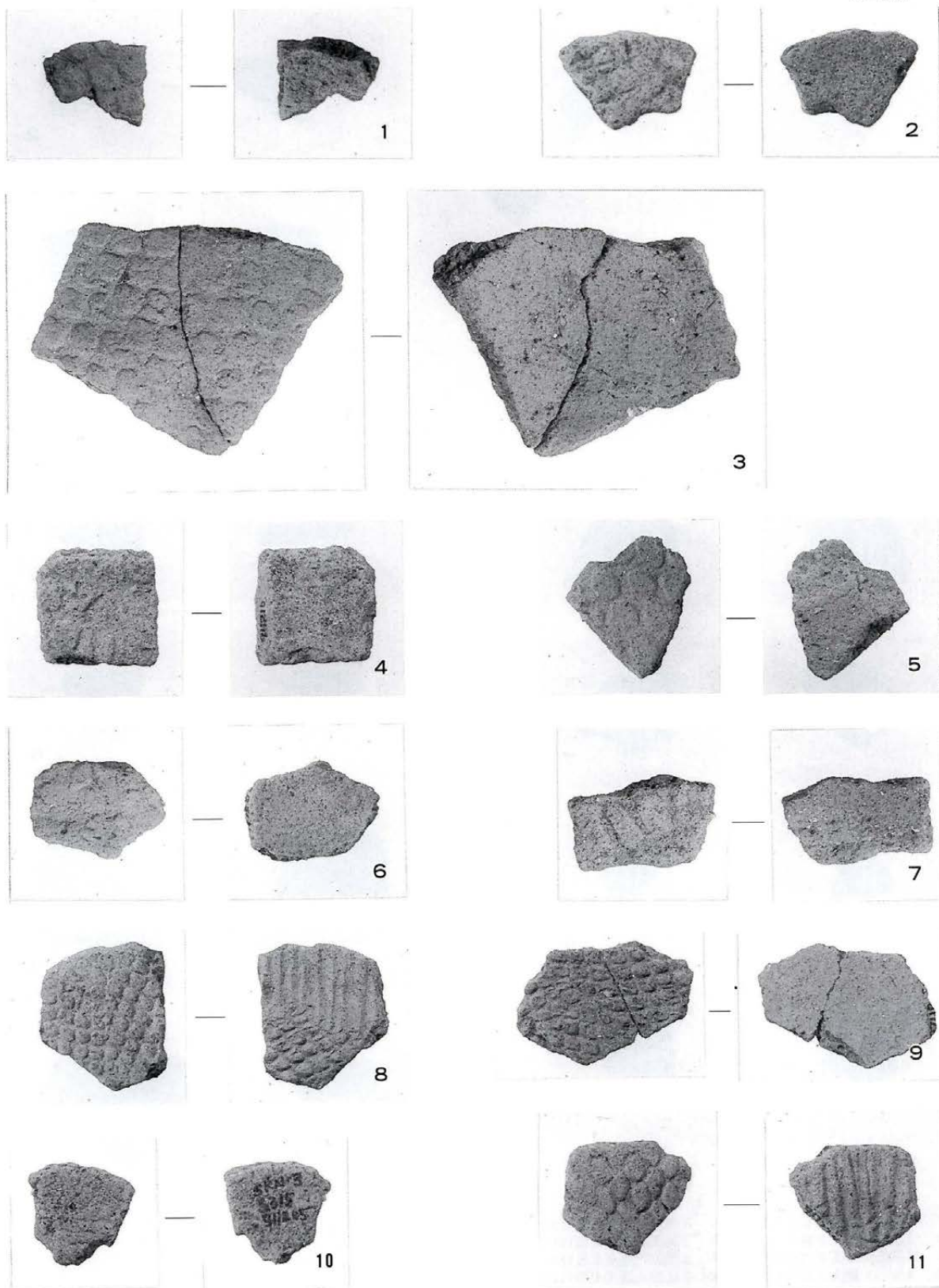
5



6

1 : 2区出土遺物(9-9)
2 : 2区出土遺物(9-10)
3 : 2区出土遺物(9-11)
4 : 2区出土遺物(9-12)

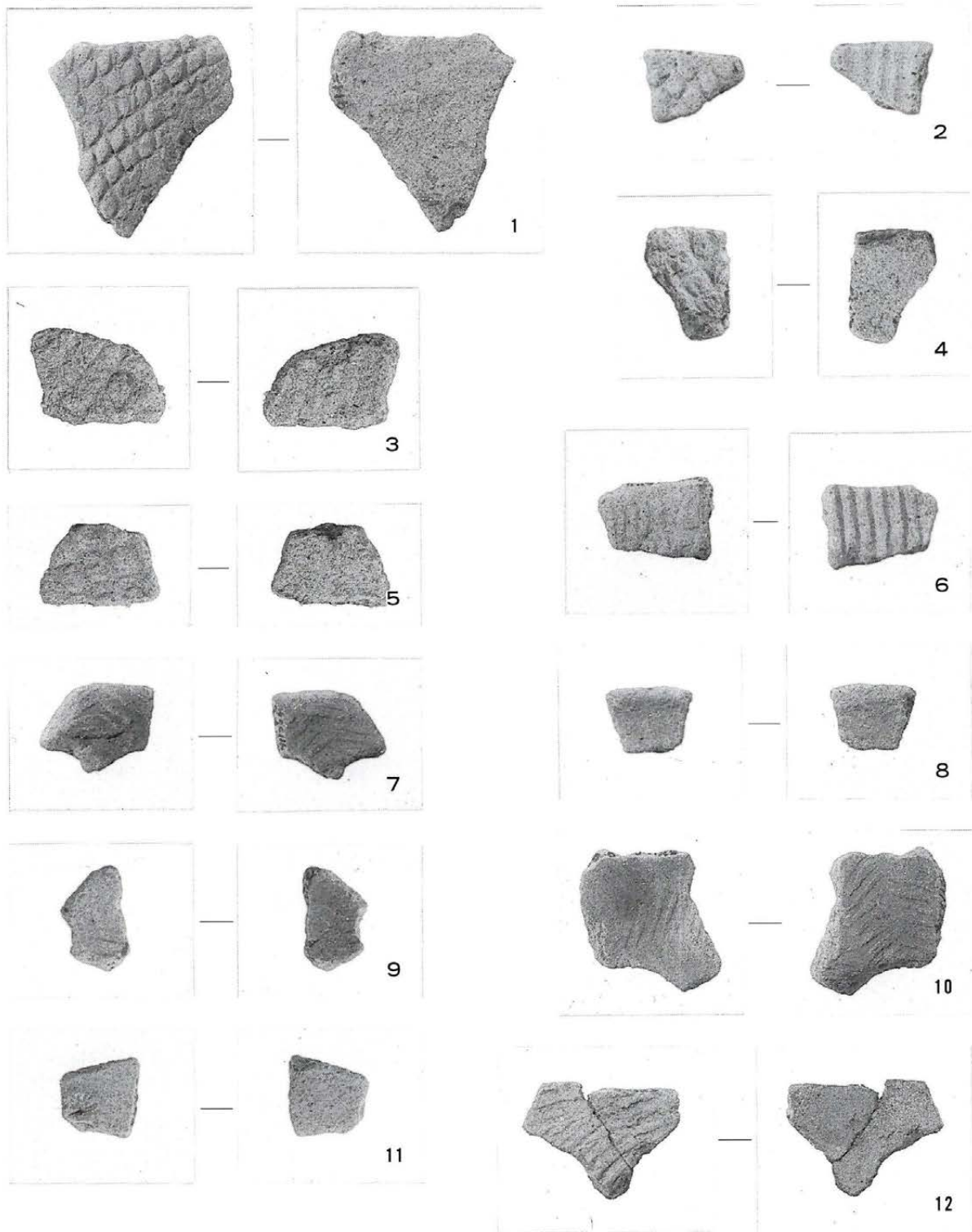
5 : 3区出土繩文土器(12-1)
6 : 3区出土繩文土器(12-2)



1 : 3区出土縄文土器(12-3)
 2 : 3区出土縄文土器(12-5)
 3 : 3区出土縄文土器(12-4)

4 : 3区出土縄文土器(12-6)
 5 : 3区出土縄文土器(12-7)
 6 : 3区出土縄文土器(12-8)
 7 : 3区出土縄文土器(12-9)
 8 : 3区出土縄文土器(13-10)

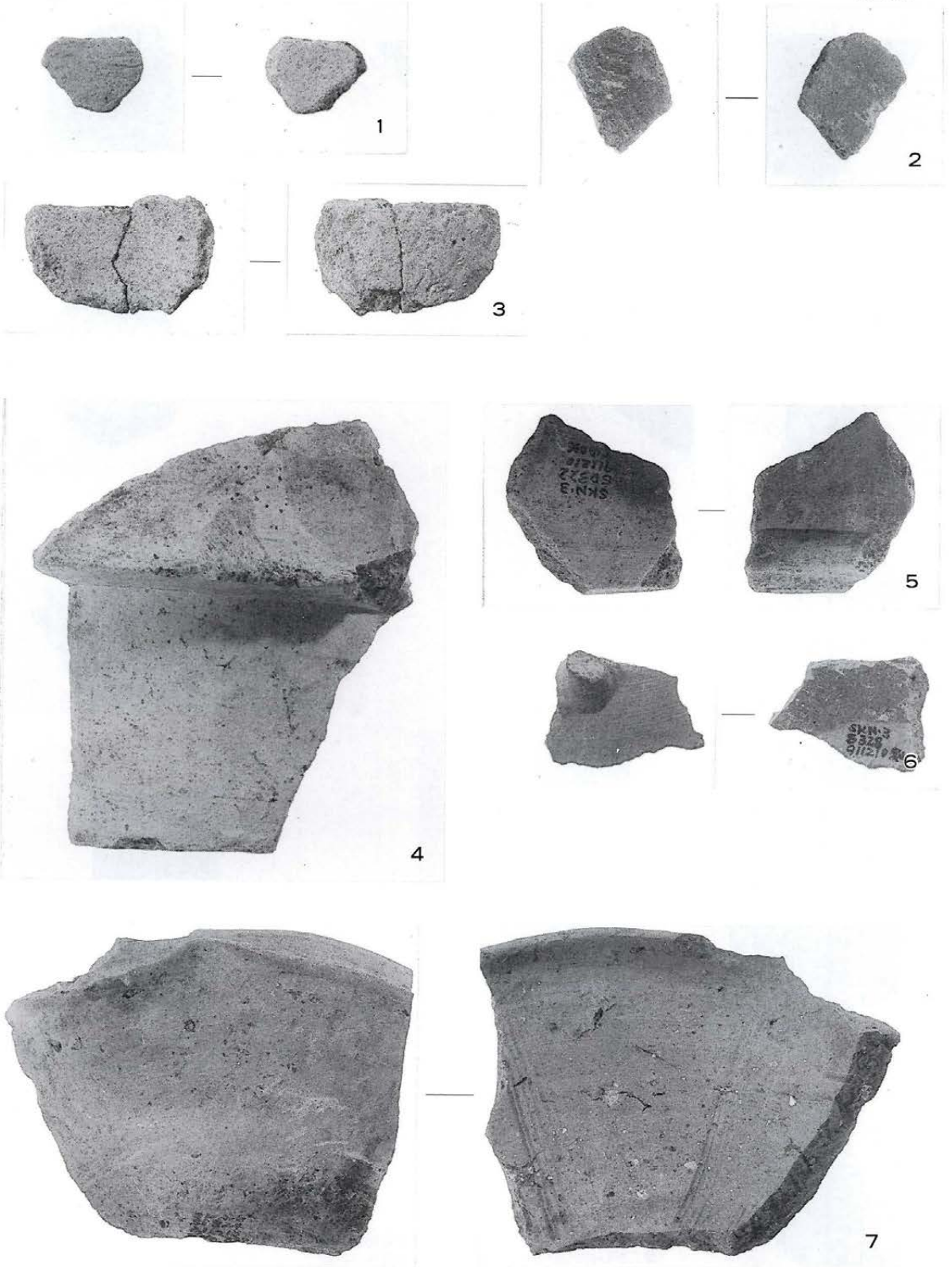
9 : 3区出土縄文土器(13-11)
 10 : 3区出土縄文土器(13-12)
 11 : 3区出土縄文土器(13-14)



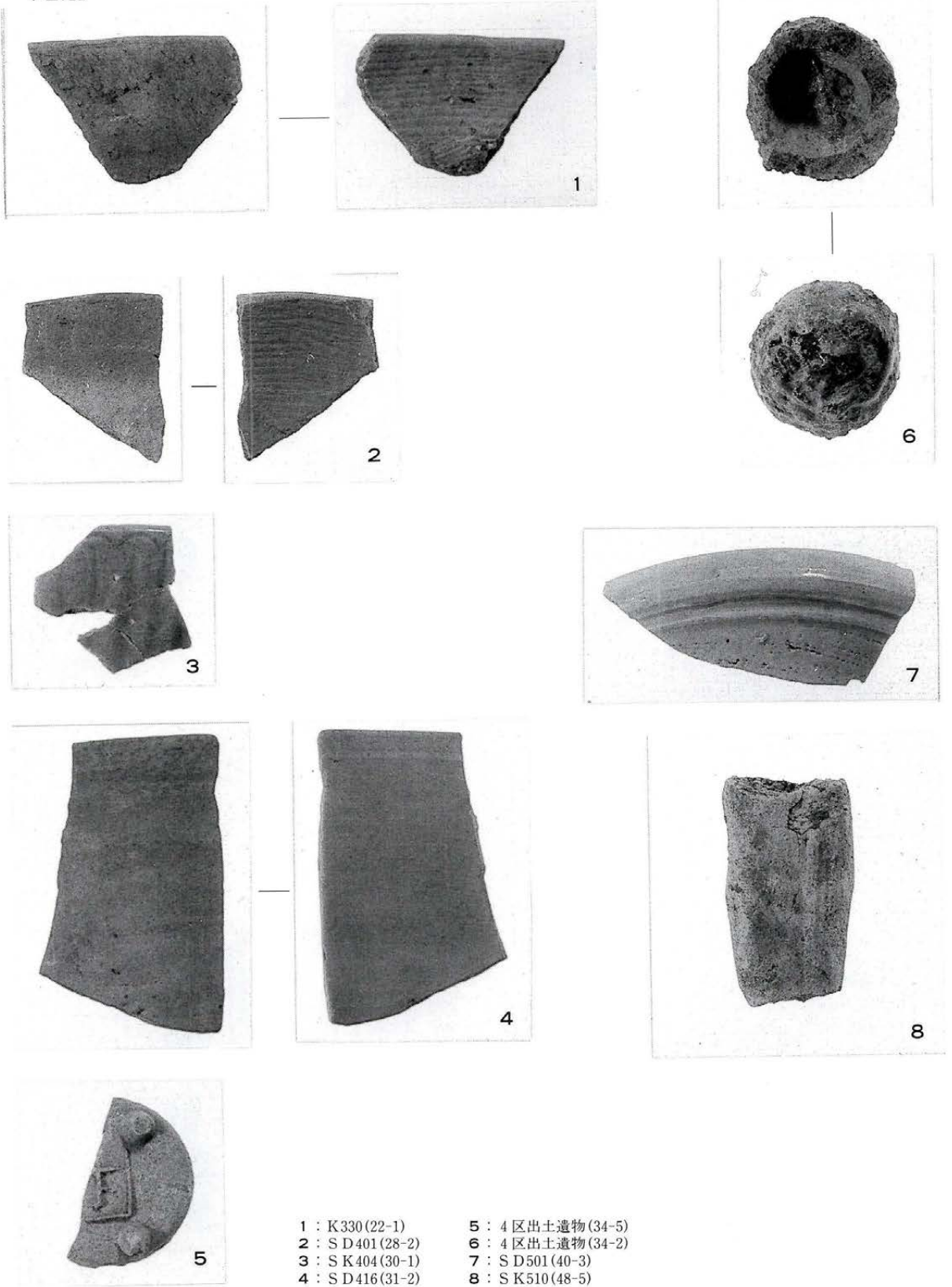
1 : 3区出土縄文土器 (13-13)
 2 : 3区出土縄文土器 (13-15)
 3 : 3区出土縄文土器 (13-16)
 4 : 3区出土縄文土器 (13-17)

5 : 3区出土縄文土器 (13-18)
 6 : 3区出土縄文土器 (14-19)
 7 : 3区出土縄文土器 (14-20)
 8 : 3区出土縄文土器 (14-21)

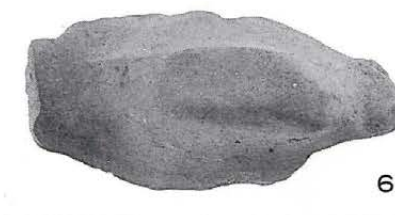
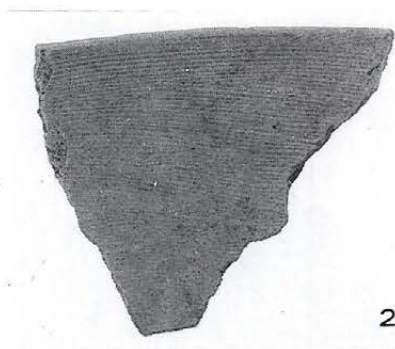
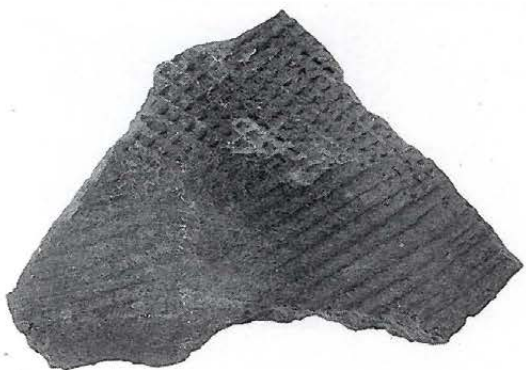
9 : 3区出土縄文土器 (14-22)
 10 : 3区出土縄文土器 (14-23)
 11 : 3区出土縄文土器 (14-24)
 12 : 3区出土縄文土器 (14-25)



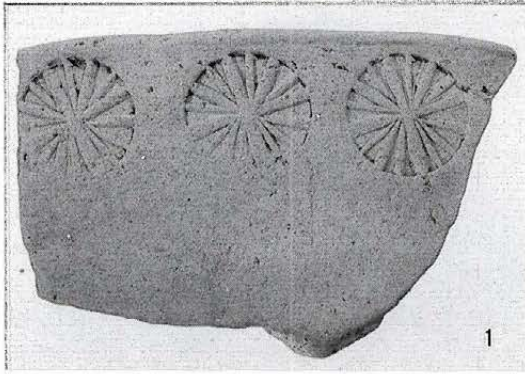
1 : 3区出土縄文土器 (14-26) 5 : S D322(23-1)
 2 : 3区出土縄文土器 (14-27) 6 : S K328(21-2)
 3 : 3区出土縄文土器 (14-28) 7 : S D324(23-2)
 4 : S K303(19-3)



1 : K330(22-1) 5 : 4区出土遺物(34-5)
2 : S D401(28-2) 6 : 4区出土遺物(34-2)
3 : S K404(30-1) 7 : S D501(40-3)
4 : S D416(31-2) 8 : S K510(48-5)



- 1 : S D501(40-5)
- 2 : S D503(43-2)
- 3 : S D604(51-7)
- 4 : S D614(61-43)
- 5 : S D614(59-37)
- 6 : S D614(62-60)



- 1 : S K 618 (88-25)
- 2 : S K 618 (88-26)
- 3 : S K 619 (91-3)

宿野遺跡1-7区(SKN-1~7) 1種 収蔵品目録

番号	名称	種別	計測値()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
SKN-1-001	皿	土師器	口径(7.6) 底径(6.0) 器高 1.2	S101	1-001	7-1	5
SKN-1-002	砥石	石製品	長さ(5.5) 幅 (2.5) 厚さ 2.3	S104	1-002	7-6	5
SKN-1-003	杯	土師器	口径 — 底径(6.0) 器高(1.2)	S105	1-003	7-2	5
SKN-1-004	高台付杯	須恵器	口径 — 底径(12.4) 器高(2.4)	表採	1-004	7-4	5
SKN-1-005	瓶	須恵器	口径 — 底径 — 器高(6.0)	表採	1-005	7-5	5
SKN-1-006	椀	黒色土器	口径 — 底径(5.4) 器高(2.2)	表採	1-006	7-3	5
SKN-2-001	皿	染付	口径 — 底径 8.2 器高(2.2)	S204	2-001	9-4	5
SKN-2-002	椀	青磁	口径(10.0) 底径 — 器高(1.6)	S205	2-002	9-5	5
SKN-2-003	皿	染付	口径(16.0) 底径 — 器高(2.6)	S206	2-003	9-8	5
SKN-2-004	椀	染付	口径(10.0) 底径(4.6) 器高 2.0	S206	2-004	9-6	5
SKN-2-005	蓋	白磁	口径(4.6) 頭径(1.8) 器高 1.5	S206	2-005	9-2	5
SKN-2-006	石鏃	石器	長さ 2.6 幅 1.8 器高 0.5	S208	2-006	—	5
SKN-2-007	鉢	瓦器	口径(17.8) 底径 — 器高(4.2)	S209	2-007	9-10	5
SKN-2-008	鉢	瓦器	口径(30.0) 底径 — 器高(5.7)	S209	2-008	9-11	5
SKN-2-009	椀	染付	口径(18.0) 底径 — 器高(3.2)	S209	2-009	9-7	5
SKN-2-010	蓋	青磁	口径 — 底径(4.0) 器高(1.3)	S209	2-010	9-1	5
SKN-2-011	播鉢	陶器	口径 — 底径 — 器高(5.4)	S211	2-011	9-9	5
SKN-2-012	椀	染付	口径 — 底径(4.4) 器高(2.6)	S211	2-012	9-3	5
SKN-2-013	トチン	土製品	頭径 — 底径 — 器高(8.6)	表採	2-013	9-12	5
SKN-3-001	深鉢	縄文土器		S303	3-001	12-1	5
SKN-3-002	深鉢	縄文土器		S311	3-002	12-5	5
SKN-3-003	深鉢	縄文土器		S314	3-003	12-2	5
SKN-3-004	深鉢	縄文土器		S315	3-004	13-12	5
SKN-3-005	深鉢	縄文土器		S317	3-005	12-3	5
SKN-3-006	深鉢	縄文土器		CI-43	3-006	13-10	5
SKN-3-007	深鉢	縄文土器		CH-45	3-007	13-17	5
SKN-3-008	深鉢	縄文土器		CH-43	3-008	12-8	5
SKN-3-009	深鉢	縄文土器		CG-45	3-009	14-21	5
SKN-3-010	深鉢	縄文土器		CI-44	3-010	12-4	5
SKN-3-011	深鉢	縄文土器		CG-45	3-011	14-24	5
SKN-3-012	深鉢	縄文土器		CH-45	3-012	14-28	5
SKN-3-013	深鉢	縄文土器		CG-45	3-013	14-26	5
SKN-3-014	深鉢	縄文土器		CG-45	3-014	14-27	5
SKN-3-015	深鉢	縄文土器		CG-45	3-015	14-15	5
SKN-3-016	深鉢	縄文土器		CG-44	3-016	13-14	5
SKN-3-017	深鉢	縄文土器		CG-44	3-017	14-19	5
SKN-3-018	深鉢	縄文土器		CG-43	3-018	13-15	5
SKN-3-019	深鉢	縄文土器		CF-46	3-019	14-25	5
SKN-3-020	深鉢	縄文土器		CI-43	3-020	13-11	5
SKN-3-021	深鉢	縄文土器		CI-39	3-021	12-6	5
SKN-3-022	深鉢	縄文土器		CH-44	3-022	13-16	5
SKN-3-023	深鉢	縄文土器		CH-44	3-023	13-18	5
SKN-3-024	深鉢	縄文土器		CI-39	3-024	12-9	5
SKN-3-025	深鉢	縄文土器		CI-44	3-025	12-7	5
SKN-3-026	深鉢	縄文土器		CH-44	3-026	13-13	5
SKN-3-027	深鉢	縄文土器		CG-45	3-027	14-20	5
SKN-3-028	打製石鏃	縄文土器		CG-45	3-028	14-20	5
SKN-3-029	打製石鏃	石器		CG-47	3-029	—	5
SKN-3-030	打製石鏃	石器		CI-45	3-030	—	5
SKN-3-031	土師器	石器		CN-47	3-031	—	5

宿野遺跡1-7区(SKN-1~7) 1種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値()内は復元値・残存値			遺構	実測図	挿図	収納
SKN-3-032	不明	土師器	口径—	底径(10.0)	器高(3.3)	S302	3-032	19-1	5
SKN-3-033	鉢	須恵器	口径—	底径—	器高(3.6)	S302	3-033	19-2	5
SKN-3-034	丸瓦	瓦				S303	3-034	19-3	5
SKN-3-035	杯	土師器	口径(13.1)	底径(7.0)	器高3.5	S311	3-035	21-1	5
SKN-3-036	鍋	土師器	口径—	底径—	器高(5.0)	S322	3-036	23-1	5
SKN-3-037	播鉢	陶器	口径(19.0)	底径(10.2)	器高7.2	S324	3-037	23-2	5
SKN-3-038	鍋	土師器	口径—	底径—	器高(4.1)	S325	3-038	23-3	5
SKN-3-039	平瓦	瓦				S325	3-039	23-4	5
SKN-3-040	壺	陶器	口径—	底径—	器高(3.1)	S328	3-040	21-2	5
SKN-3-041	鉢	瓦器	口径—	底径—	器高(4.4)	S330	3-041	22-1	5
SKN-3-042	皿	青磁	口径—	底径—	器高(3.9)	S331	3-042	22-2	5
SKN-3-043	杯	土師器	口径12.0	底径6.8	器高3.8	S304	3-043	16-7	5
SKN-3-044	高台付杯	土師器	口径15.2	底径8.8	器高7.4	S304	3-044	16-6	5
SKN-3-045	高台付杯	土師器	口径13.3	底径8.0	器高5.9	S304	3-045	16-5	5
SKN-3-046	高台付杯	土師器	口径12.3	底径7.0	器高5.5	S304	3-046	16-2	5
SKN-3-047	高台付杯	土師器	口径12.7	底径7.4	器高5.5	S304	3-047	16-4	5
SKN-3-048	高台付杯	土師器	口径(12.4)	底径7.4	器高5.8	S304	3-048	16-3	5
SKN-3-049	高台付杯	土師器	口径(12.2)	底径(7.0)	器高5.8	S304	3-049	16-1	5
SKN-3-050	杯	土師器	口径(12.3)	底径6.2	器高2.7	S304	3-050	16-8	5
SKN-3-051	蓋	土師器	口径(17.0)		器高2.8	CF-43	3-051	25-1	5
SKN-3-052	高台付杯	須恵器	口径(12.4)	底径(9.6)	器高3.3	CF-43	3-052	25-2	5
SKN-3-053	鉢	土師器	口径(33.4)	底径—	器高(7.4)	CF-43	3-053	25-3	5
SKN-3-054	砥石	石製品				CI-42	3-054	25-4	5
SKN-4-001	皿	土師器	口径(8.0)	底径(5.2)	器高2.1	S401	4-001	28-1	5
SKN-4-002	鉢	瓦器	口径—	底径—	器高(4.7)	S401	4-002	28-2	5
SKN-4-003	椀	磁器				S401	4-003	—	5
SKN-4-004	杯	土師器	口径(11.9)	底径(4.8)	器高3.2	S402	4-004	28-3	5
SKN-4-005	鍋	土師器	口径—	底径—	器高(3.4)	S402	4-005	28-4	5
SKN-4-006	剥片	石器類				S402	4-006	—	5
SKN-4-007	砥石	石製品				S402	4-007	—	5
SKN-4-008	椀	青磁	口径—	底径—	器高(4.4)	S404	4-008	30-1	5
SKN-4-009	壺	土師器	口径—	底径—	器高(5.4)	S405	4-009	—	5
SKN-4-010	鍋	土師器	口径—	底径—	器高(2.9)	S405	4-010	28-6	5
SKN-4-011	椀	磁器	口径—	底径—	器高(2.1)	S405	4-011	28-5	5
SKN-4-012	打製石鏃	石器				S409	4-012	—	5
SKN-4-013	鍋	土師器	口径(17.0)	底径—	器高(3.4)	S411	4-013	30-2	5
SKN-4-014	鍋	土師器	口径—	底径—	器高(3.9)	S412	4-014	30-3	5
SKN-4-015	鍋	土師器	口径—	底径—	器高(4.7)	S412	4-015	30-4	5
SKN-4-016	高台付杯	須恵器	口径—	底径(8.8)	器高(3.2)	S413	4-016	31-1	5
SKN-4-017	不明	石器類				S414	4-017	—	5
SKN-4-018	鉢	須恵器	口径—	底径—	器高(7.6)	S416	4-018	31-2	5
SKN-4-019	埴塼	土師器	口径—	丸底	器高(3.1)	表採	4-019	34-2	5
SKN-4-020	トチン	土製品				J-35	4-020	34-5	5
SKN-4-021	トチン	土製品				J-34	4-021	34-4	5
SKN-4-022	皿	土師器	口径—	底径3.5	器高(1.0)	表採	4-022	34-1	5
SKN-4-023	平瓦	瓦				表採	4-023	34-3	5
SKN-5-001	杯	土師器	口径13.3	底径8.8	器高3.5	S501	5-001	40-2	5
SKN-5-002	杯	土師器	口径(11.4)	底径(8.0)	器高3.0	S501	5-002	40-1	5
SKN-5-003	椀	白磁	口径(16.0)	底径—	器高(3.4)	S501	5-003	40-3	5
SKN-5-004	瓶	須恵器	口径—	底径—	器高(4.9)	S501	5-004	40-4	5

宿野遺跡1-7区 (SKN-1~7) 1種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値			遺構	実測図	挿図	収納		
SKN-5-005	瓶	須恵器	口径	—	底径	—	器高(16.1)	S501	5-005	40-6	5
SKN-5-006	瓶	須恵器	口径	—	底径	—	器高(8.3)	S501	5-006	40-5	5
SKN-5-007	支脚	土製品					S501	5-007	40-7	5	
SKN-5-008	杯	土師器	口径	—	底径	8.0	器高(1.2)	S502	5-008	46-1	5
SKN-5-009	杯	土師器	口径	—	底径	(7.0)	器高(1.4)	S503	5-009	43-1	5
SKN-5-010	鍋	土師器	口径	—	底径	—	器高(6.9)	S503	5-010	43-2	5
SKN-5-011	杯	土師器	口径	12.4	底径	8.0	器高 4.0	S505	5-011	46-3	5
SKN-5-012	杯	土師器	口径	11.0	底径	7.6	器高 4.1	S505	5-012	46-2	5
SKN-5-013	杯	土師器	口径	13.6	底径	8.0	器高 3.3	S505	5-013	46-4	5
SKN-5-014	瓶	須恵器	口径(36.0)		底径	—	器高(5.9)	S505	5-014	46-5	5
SKN-5-015	甕	土師器	口径(22.0)		底径	—	器高(8.6)	S506	5-015	38-5	5
SKN-5-016	甌	土師器						S506	5-016	38-6	5
SKN-5-017	杯蓋	土師器	口径(13.0)				器高 4.0	S506	5-017	38-1	5
SKN-5-018	杯蓋	土師器	口径(14.0)				器高 3.8	S506	5-018	38-2	5
SKN-5-019	杯蓋	土師器	口径	—			器高(2.5)	S506	5-019	38-4	5
SKN-5-020	杯蓋	土師器	口径(15.8)				器高 3.8	S506	5-020	38-3	5
SKN-5-021	瓶	須恵器	口径	—	底径	—	器高(7.2)	S506	5-021	38-7	5
SKN-5-022	打製石鏃	石器						S506	5-022	—	5
SKN-5-023	杯	土師器	口径(13.6)	底径(8.0)			器高 3.2	S510	5-023	48-2	5
SKN-5-024	杯	土師器	口径(12.0)	底径(6.0)			器高 3.3	S510	5-024	48-1	5
SKN-5-025	杯	青磁	口径	—	底径	—	器高(2.7)	S510	5-025	48-3	5
SKN-5-026	瓶	須恵器	口径	—	底径	—	器高(8.6)	S510	5-026	48-4	5
SKN-5-027	支脚	土製品						S510	5-027	48-5	5
SKN-6-001	杯	土師器	口径	—	底径(6.0)		器高(1.8)	S601	6-001	50-1	6
SKN-6-002	鉢	須恵器	口径(24.0)		底径	—	器高(5.2)	S602	6-002	50-2	6
SKN-6-003	砥石	石製品						S602	6-003	50-3	6
SKN-6-004	杯	土師器	口径(13.0)	底径(8.8)			器高 3.6	S603	6-004	51-1	6
SKN-6-005	杯	土師器	口径	—	底径(7.8)		器高(2.0)	S603	6-005	51-2	6
SKN-6-006	支脚	土製品						S603	6-006	51-3	6
SKN-6-007	杯	土師器	口径(17.4)	底径	—		器高(3.3)	S604	6-007	51-5	6
SKN-6-008	杯	土師器	口径	—	底径 7.7		器高(1.8)	S604	6-008	51-6	6
SKN-6-009	杯	土師器	口径(13.6)	底径 8.7			器高 3.8	S604	6-009	51-4	6
SKN-6-010	鉢	土師器	口径(20.2)	底径	—		器高(5.4)	S604	6-010	51-7	6
SKN-6-011	鍋	土師器	口径	—	底径	—	器高(2.6)	S604	6-011	51-8	6
SKN-6-012	杯	土師器	口径	—	底径(8.0)		器高(1.3)	S605	6-012	78-1	6
SKN-6-013	鉢	土師器	口径(27.0)	底径(14.0)			器高 10.8	S605	6-013	78-4	6
SKN-6-014	鉢	土師器	口径(26.0)	底径	—		器高(6.3)	S605	6-014	78-3	6
SKN-6-015	鍋	土師器	口径(31.0)	底径	—		器高(8.4)	S605	6-015	78-5	6
SKN-6-016	手捏	土師器	口径(5.0)	底径(3.0)			器高 3.2	S605	6-016	78-2	6
SKN-6-017	杯	土師器	口径(13.8)	底径 6.4			器高 4.1	S606	6-017	81-1	6
SKN-6-018	皿	土師器	口径 8.1	底径 7.0			器高 1.2	S608	6-018	81-2	6
SKN-6-019	杯	土師器	口径	—	底径 7.2		器高(3.5)	S608	6-019	81-4	6
SKN-6-020	杯	土師器	口径(14.0)	底径(9.6)			器高 3.7	S608	6-020	81-3	6
SKN-6-021	鉢	須恵器	口径	—	底径	—	器高(4,2)	S608	6-021	81-5	6
SKN-6-022	砥石	石製品						S608	6-022	81-6	6
SKN-6-023	杯	土師器	口径	—	底径 8.4		器高(2.0)	S609	6-023	84-2	6
SKN-6-024	碗	瓦器	口径	—	底径(7,0)		器高(1.5)	S609	6-024	84-1	6
SKN-6-025	鍋	土師器	口径	—	底径	—	器高(7.2)	S609	6-025	84-3	6
SKN-6-026	支脚	土製品						S610	6-026	84-4	6
SKN-6-027	皿	土師器	口径 8.1	底径 6.1			器高 1.6	S612	6-027	53-2	6

宿野遺跡1-7区(SKN-1~7) 1種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値()内は復元値・残存値			遺構	実測図	挿図	収納
SKN-6-028	皿	土師器	口径 8.1	底径 7.0	器高 1.5	S612	6-028	53-1	6
SKN-6-029	杯	土師器	口径 12.3	底径 8.2	器高 3.9	S612	6-029	53-7	6
SKN-6-030	杯	土師器	口径(15.0)	底径(11.2)	器高 3.5	S612	6-030	53-4	6
SKN-6-031	杯	土師器	口径(12.6)	底径(8.4)	器高 2.5	S612	6-031	55-3	6
SKN-6-032	杯	土師器	口径(11.4)	底径(8.0)	器高 3.4	S612	6-032	53-5	6
SKN-6-033	杯	土師器	口径(11.4)	底径(8.6)	器高 3.1	S612	6-033	53-6	6
SKN-6-034	杯	土師器	口径 —	底径(8.0)	器高(2.3)	S612	6-034	53-8	6
SKN-6-035	鉢	須恵器	口径 —	底径 —	器高(4.3)	S612	6-035	53-11	6
SKN-6-036	支脚	土製品				S612	6-036	53-9	6
SKN-6-037	支脚	土製品				S612	6-037	53-10	6
SKN-6-038	皿	土師器	口径 8.8	底径 7.4	器高 1.7	S613	6-038	55-3	6
SKN-6-039	皿	土師器	口径(8.4)	底径(6.4)	器高 1.5	S613	6-039	55-1	6
SKN-6-040	皿	土師器	口径(8.6)	底径(7.0)	器高 1.6	S613	6-040	55-2	6
SKN-6-041	杯	土師器	口径(15.0)	底径(9.2)	器高 3.2	S613	6-041	55-4	6
SKN-6-042	杯	土師器	口径 —	底径(9.8)	器高(1.7)	S613	6-042	55-5	6
SKN-6-043	椀	青磁	口径 —	底径 —	器高(5.8)	S613	6-043	55-6	6
SKN-6-044	鉢	須恵器	口径 —	底径 —	器高(6.8)	S613	6-044	55-7	6
SKN-6-045	瓶	瓦器	口径(13.7)	底径 —	器高(6.1)	S613	6-045	55-8	6
SKN-6-046	瓶	瓦器	口径 —	底径 —	器高(6.5)	S613	6-046	55-9	6
SKN-6-047	皿	土師器	口径 9.5	底径 7.8	器高(6.5)	S614	6-047	57-11	6
SKN-6-048	皿	土師器	口径(8.8)	底径(7.0)	器高 1.7	S614	6-048	57-9	6
SKN-6-049	皿	土師器	口径(8.0)	底径(6.0)	器高 1.4	S614	6-049	57-4	6
SKN-6-050	皿	土師器	口径(8.7)	底径(6.8)	器高 1.7	S614	6-050	57-7	6
SKN-6-051	皿	土師器	口径 7.8	底径 6.4	器高 1.5	S614	6-051	57-2	6
SKN-6-052	皿	土師器	口径 8.2	底径 6.0	器高 1.4	S614	6-052	57-6	6
SKN-6-053	皿	土師器	口径 8.0	底径 6.4	器高 1.5	S614	6-053	57-5	6
SKN-6-054	皿	土師器	口径(7.8)	底径(6.0)	器高 1.6	S614	6-054	57-1	6
SKN-6-055	皿	土師器	口径(8.8)	底径(6.8)	器高 1.4	S614	6-055	57-8	6
SKN-6-056	皿	土師器	口径(9.2)	底径(7.6)	器高 1.5	S614	6-056	57-10	6
SKN-6-057	皿	土師器	口径(8.0)	底径(5.0)	器高 1.8	S614	6-057	57-3	6
SKN-6-058	杯	土師器	口径(13.6)	底径(7.5)	器高 1.8	S614	6-058	58-26	6
SKN-6-059	杯	土師器	口径 13.2	底径 7.9	器高 3.7	S614	6-059	58-22	6
SKN-6-060	杯	土師器	口径 13.5	底径 8.8	器高 4.1	S614	6-060	58-25	6
SKN-6-061	杯	土師器	口径(12.6)	底径 8.1	器高 3.5	S614	6-061	58-18	6
SKN-6-062	杯	土師器	口径(11.8)	底径 7.7	器高 3.6	S614	6-062	57-15	6
SKN-6-063	杯	土師器	口径(13.3)	底径 8.0	器高 3.6	S614	6-063	58-23	6
SKN-6-064	杯	土師器	口径(13.4)	底径 8.3	器高 3.5	S614	6-064	58-24	6
SKN-6-065	杯	土師器	口径(12.4)	底径 8.0	器高 3.9	S614	6-065	57-17	6
SKN-6-066	杯	土師器	口径(11.6)	底径(8.0)	器高 3.5	S614	6-066	57-13	6
SKN-6-067	杯	土師器	口径(12.8)	底径(8.4)	器高 3.4	S614	6-067	58-21	6
SKN-6-068	杯	土師器	口径(11.6)	底径(8.6)	器高 3.5	S614	6-068	57-14	6
SKN-6-069	杯	土師器	口径(14.0)	底径(8.6)	器高 3.1	S614	6-069	59-30	6
SKN-6-070	杯	土師器	口径(16.0)	底径(12.0)	器高 3.3	S614	6-070	59-32	6
SKN-6-071	杯	土師器	口径(12.8)	底径(8.4)	器高 3.0	S614	6-071	58-20	6
SKN-6-072	杯	土師器	口径(13.6)	底径(9.6)	器高 3.6	S614	6-072	59-27	6
SKN-6-073	杯	土師器	口径(12.3)	底径 8.0	器高 3.4	S614	6-073	57-16	6
SKN-6-074	杯	土師器	口径(13.8)	底径(8.8)	器高 4.1	S614	6-074	59-29	6
SKN-6-075	杯	土師器	口径(12.8)	底径(8.4)	器高 4.5	S614	6-075	58-19	6
SKN-6-076	杯	土師器	口径(13.7)	底径(8.0)	器高 3.9	S614	6-076	59-28	6
SKN-6-077	杯	土師器	口径(11.6)	底径(7.8)	器高 3.5	S614	6-077	57-12	6

宿野遺跡1-7区(SKN-1~7) 1種 收藏品目録

番号	名称	種別	計測値 ()内は復元値・残存値			遺構	実測図	挿図	収納
SKN-6-078	杯	土師器	口径(14.4)	底径(11.0)	器高 2.7	S614	6-078	59-31	6
SKN-6-079	杯	土師器	口径 —	底径(7,8)	器高(2.2)	S614	6-079	59-33	6
SKN-6-080	鉢	須恵器	口径 —	底径 —	器高(9.2)	S614	6-080	60-47	6
SKN-6-081	鉢	須恵器	口径 —	底径 —	器高(4.0)	S614	6-081	60-46	6
SKN-6-082	鉢	須恵器	口径 —	底径 —	器高(3.2)	S614	6-082	60-44	6
SKN-6-083	鉢	須恵器	口径 —	底径 —	器高(2.8)	S614	6-083	60-45	6
SKN-6-084	鉢	須恵器	口径 —	底径(100)	器高(4.1)	S614	6-084	60-49	6
SKN-6-085	鉢	須恵器	口径 —	底径 —	器高(3.2)	S614	6-085	60-48	6
SKN-6-086	鉢	瓦器	口径(30.6)	底径 —	器高(7.8)	S614	6-086	60-38	6
SKN-6-087	鉢	瓦器	口径 —	底径(10.0)	器高(3.3)	S614	6-087	60-39	6
SKN-6-088	鉢	瓦器	口径 —	底径(11.0)	器高(2.8)	S614	6-088	60-41	6
SKN-6-089	鉢	瓦器	口径 —	底径(10.0)	器高(3.7)	S614	6-089	60-40	6
SKN-6-090	鉢	土師器	口径 —	底径 —	器高(7.0)	S614	6-090	59-35	6
SKN-6-091	鉢	土師器	口径 —	底径 —	器高(6.1)	S614	6-091	59-36	6
SKN-6-092	播鉢	瓦器	口径 —	底径 —	器高(5.0)	S614	6-092	60-43	6
SKN-6-093	播鉢	瓦器	口径 —	底径(15.0)	器高(3.1)	S614	6-093	60-42	6
SKN-6-094	播鉢	土師器	口径(22.0)	底径 —	器高(6.9)	S614	6-094	59-37	6
SKN-6-095	鍋	土師器				S614	6-095	62-60	7
SKN-6-096	鍋	土師器	口径(26.0)	底径 —	器高(7.8)	S614	6-096	62-58	7
SKN-6-097	鍋	土師器	口径 —	底径 —	器高(6.1)	S614	6-097	61-54	7
SKN-6-098	鍋	土師器	口径(23.0)	底径 —	器高(3.6)	S614	6-098	62-57	7
SKN-6-099	鍋	土師器	口径(28.0)	底径 —	器高(5.3)	S614	6-099	62-59	7
SKN-6-100	鍋	土師器	口径 —	底径 —	器高(4.2)	S614	6-100	61-56	7
SKN-6-101	鍋	土師器	口径 —	底径 —	器高(6.7)	S614	6-101	61-55	7
SKN-6-102	壺	土師器	口径 —	底径(7.0)	器高(4.0)	S614	6-102	59-34	7
SKN-6-103	壺	土師器	口径(14.6)	底径 —	器高(12.1)	S614	6-103	61-52	7
SKN-6-104	壺	土師器	口径(15.0)	底径 —	器高(5.4)	S614	6-104	61-51	7
SKN-6-105	壺	土師器	口径(17.0)	底径 —	器高(10.0)	S614	6-105	61-53	7
SKN-6-106	壺	土師器	口径(14.0)	底径 —	器高(7.0)	S614	6-106	61-50	7
SKN-6-107	石鍋	滑石製品	口径 —	底径 —	器高(1.9)	S614	6-107	62-61	7
SKN-6-108	支脚	土製品				S614	6-108	62-63	7
SKN-6-109	支脚	土製品				S614	6-109	62-62	7
SKN-6-110	宝珠	石製品				S614	6-110	63-64	7
SKN-6-111	鉄滓					S614	6-111	—	7
SKN-6-112	皿	土師器	口径 8.5	底径 6.0	器高 1.9	S614/615	6-112	64-8	7
SKN-6-113	皿	土師器	口径 8.6	底径 6.8	器高 1.7	S614/615	6-113	64-9	7
SKN-6-114	皿	土師器	口径 8.2	底径 6.0	器高 1.7	S614/615	6-114	64-6	7
SKN-6-115	皿	土師器	口径(8.4)	底径6.0	器高 2.2	S614/615	6-115	64-7	7
SKN-6-116	皿	土師器	口径(7.4)	底径 6.2	器高 1.3	S614/615	6-116	64-2	7
SKN-6-117	皿	土師器	口径(8.1)	底径(5.6)	器高 1.7	S614/615	6-117	64-5	7
SKN-6-118	皿	土師器	口径(10.1)	底径(8.0)	器高 1.4	S614/615	6-118	64-15	7
SKN-6-119	皿	土師器	口径(8.8)	底径(7.0)	器高 1.2	S614/615	6-119	64-11	7
SKN-6-120	皿	土師器	口径(8.8)	底径(6.6)	器高 1.4	S614/615	6-120	64-10	7
SKN-6-121	皿	土師器	口径(7.2)	底径(5.0)	器高 1.4	S614/615	6-121	64-1	7
SKN-6-122	皿	土師器	口径(7.6)	底径(5.2)	器高 1.5	S614/615	6-122	64-3	7
SKN-6-123	皿	土師器	口径(9.8)	底径(7.4)	器高 1.9	S614/615	6-123	64-14	7
SKN-6-124	皿	土師器	口径(8.0)	底径(6.0)	器高 1.2	S614/615	6-124	64-4	7
SKN-6-125	皿	土師器	口径(9.0)	底径(7.4)	器高 1.9	S614/615	6-125	64-12	7
SKN-6-126	皿	土師器	口径(9.4)	底径(8.4)	器高 1.8	S614/615	6-126	64-13	7
SKN-6-127	杯	土師器	口径 13.2	底径 8.2	器高 3.8	S614/615	6-127	66-30	7

宿野遺跡1-7区 (SKN-1~7) 1種 収藏品目録

番 号	名 称	種 別	計測値 ()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
SKN-6-128	杯	土師器	口径 12.9 底径 8.2 器高 3.9	S614/615	6-128	65-26	7
SKN-6-129	杯	土師器	口径 13.1 底径 8.4 器高 3.9	S614/615	6-129	66-29	7
SKN-6-130	杯	土師器	口径 12.8 底径 7.4 器高 2.8	S614/615	6-130	65-23	7
SKN-6-131	杯	土師器	口径 13.5 底径 9.0 器高 4.0	S614/615	6-131	66-32	7
SKN-6-132	杯	土師器	口径 13.0 底径 8.0 器高 3.8	S614/615	6-132	65-27	7
SKN-6-133	杯	土師器	口径(14.4) 底径(11.0) 器高 3.3	S614/615	6-133	66-36	7
SKN-6-134	杯	土師器	口径(14.3) 底径 9.8 器高 4.0	S614/615	6-134	66-35	7
SKN-6-135	杯	土師器	口径 13.3 底径 8.6 器高 3.6	S614/615	6-135	66-31	7
SKN-6-136	杯	土師器	口径(12.4) 底径(9.6) 器高 2.8	S614/615	6-136	65-21	7
SKN-6-137	杯	土師器	口径(12.2) 底径 8.0 器高 4.2	S614/615	6-137	65-19	7
SKN-6-138	杯	土師器	口径(12.8) 底径(8.8) 器高 3.6	S614/615	6-138	65-24	7
SKN-6-139	杯	土師器	口径(12.0) 底径(8.1) 器高 3.8	S614/615	6-139	64-18	7
SKN-6-140	杯	土師器	口径(13.0) 底径(8.2) 器高 3.4	S614/615	6-140	65-28	7
SKN-6-141	杯	土師器	口径(12.9) 底径 7.6 器高 4.2	S614/615	6-141	65-25	7
SKN-6-142	杯	土師器	口径(12.5) 底径 8.0 器高 3.6	S614/615	6-142	65-22	7
SKN-6-143	杯	土師器	口径(13.8) 底径(9.0) 器高 3.9	S614/615	6-143	66-34	7
SKN-6-144	杯	土師器	口径(11.8) 底径(9.0) 器高 2.8	S614/615	6-144	64-17	7
SKN-6-145	杯	土師器	口径(12.4) 底径(8.0) 器高 3.4	S614/615	6-145	65-20	7
SKN-6-146	杯	土師器	口径(11.4) 底径(8.0) 器高 4.2	S614/615	6-146	64-16	7
SKN-6-147	杯	土師器	口径(13.8) 底径(8.0) 器高 2.8	S614/615	6-147	66-33	7
SKN-6-148	椀	青磁	口径 — 底径(6.0) 器高(3.5)	S614/615	6-148	67-37	7
SKN-6-149	鉢	瓦器	口径 — 底径 — 器高(7.2)	S614/615	6-149	67-38	7
SKN-6-150	鉢	瓦器	口径(25.0) 底径 — 器高(6.4)	S614/615	6-150	67-39	7
SKN-6-151	火鉢	土師器	口径 — 底径 — 器高(5.2)	S614/615	6-151	67-41	7
SKN-6-152	鍋	土師器	口径(25.0) 底径 — 器高(14.9)	S614/615	6-152	67-43	7
SKN-6-153	鍋	土師器	口径(32.0) 底径 — 器高(7.7)	S614/615	6-153	67-44	7
SKN-6-154	鍋	土師器	口径 — 底径(23.0) 器高(5.5)	S614/615	6-154	67-45	7
SKN-6-155	鉢	土師器	口径 — 底径 — 器高(4.7)	S614/615	6-155	67-40	7
SKN-6-156	石鍋	滑石製品	口径(21.8) 底径 — 器高(3.7)	S614/615	6-156	67-42	7
SKN-6-157	皿	土師器	口径(8.0) 底径(5.2) 器高 1.4	S615	6-157	69-1	7
SKN-6-158	皿	土師器	口径(8.0) 底径(5.4) 器高 1.3	S615	6-158	69-2	7
SKN-6-159	皿	土師器	口径(8.4) 底径(6.4) 器高 1.6	S615	6-159	69-5	7
SKN-6-160	皿	土師器	口径(8.0) 底径(6.4) 器高 1.6	S615	6-160	69-4	7
SKN-6-161	皿	土師器	口径(8.0) 底径(5.4) 器高 1.2	S615	6-161	69-3	7
SKN-6-162	杯	土師器	口径(12.0) 底径 8.0 器高 3.3	S615	6-162	69-6	7
SKN-6-163	杯	土師器	口径(12.8) 底径 8.2 器高 3.2	S615	6-163	69-9	7
SKN-6-164	杯	土師器	口径(12.8) 底径(7.6) 器高 3.7	S615	6-164	69-7	7
SKN-6-165	杯	土師器	口径(13.2) 底径(7.6) 器高 3.3	S615	6-165	69-10	7
SKN-6-166	杯	土師器	口径(12.8) 底径 8.0 器高 3.2	S615	6-166	69-8	7
SKN-6-167	杯	土師器	口径(13.8) 底径(8.4) 器高 3.5	S615	6-167	69-11	7
SKN-6-168	杯	土師器	口径(14.6) 底径(9.0) 器高 3.9	S615	6-168	69-12	7
SKN-6-169	紡錘車	土製品		S615	6-169	69-13	7
SKN-6-170	皿	土師器	口径 8.1 底径 6.3 器高 1.5	S616	6-170	72-3	8
SKN-6-171	皿	土師器	口径(8.0) 底径(7.0) 器高 1.7	S616	6-171	72-2	8
SKN-6-172	皿	土師器	口径(7.6) 底径(4.6) 器高 1.6	S616	6-172	72-1	8
SKN-6-173	皿	土師器	口径(9.1) 底径 8.7 器高 2.0	S616	6-173	72-4	8
SKN-6-174	杯	土師器	口径(12.8) 底径(7.4) 器高 3.3	S616	6-174	72-5	8
SKN-6-175	杯	土師器	口径(13.0) 底径(8.2) 器高 3.3	S616	6-175	72-6	8
SKN-6-176	鉢	土師器	口径 — 底径(11.0) 器高(4.0)	S616	6-176	72-10	8
SKN-6-177	搦鉢	土師器	口径 — 底径 — 器高(2.7)	S616	6-177	72-9	8

宿野遺跡1-7区(SKN-1~7) 1種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値()内は復元値・残存値			遺構	実測図	挿図	収納		
SKN-6-178	播鉢	土師器	口径	—	底径	—	器高(8.6)	S616	6-178	72-8	8
SKN-6-179	鍋	土師器	口径	—	底径	—	器高(13.6)	S616	6-179	72-11	8
SKN-6-180	瓶	須恵器	口径	—	底径	—	器高(3.9)	S616	6-180	72-12	8
SKN-6-181	椀	青磁	口径	—	底径	—	器高(3.0)	S616	6-181	72-7	8
SKN-6-182	皿	土師器	口径(8.6)		底径(5.8)		器高 1.4	S617	6-182	74-1	8
SKN-6-183	杯	土師器	口径(13.0)		底径(7.6)		器高 3.5	S617	6-183	74-3	8
SKN-6-184	杯	土師器	口径(13.0)		底径(7.4)		器高 2.3	S617	6-184	74-2	8
SKN-6-185	椀	白磁	口径	—	底径(6.0)		器高(1.4)	S617	6-185	74-4	8
SKN-6-186	鉢	須恵器	口径(26.0)		底径	—	器高(5.2)	S617	6-186	74-8	8
SKN-6-187	鉢	須恵器	口径	—	底径	—	器高(5.7)	S617	6-187	74-7	8
SKN-6-188	鍋	土師器	口径(20.4)		底径	—	器高(7.2)	S617	6-188	74-5	8
SKN-6-189	瓶	瓦器	口径	—	底径	—	器高(4.7)	S617	6-189	74-6	8
SKN-6-190	皿	土師器	口径(8.0)		底径(6.0)		器高1.5	S618	6-190	86-2	8
SKN-6-191	皿	土師器	口径(8.4)		底径(6.4)		器高 1.6	S618	6-191	86-3	8
SKN-6-192	皿	土師器	口径(8.0)		底径(6.0)		器高 1.4	S618	6-192	86-1	8
SKN-6-193	杯	土師器	口径 12.6		底径 7.8		器高 3.6	S618	6-193	86-8	8
SKN-6-194	杯	土師器	口径 12.9		底径 7.6		器高 3.5	S618	6-194	86-9	8
SKN-6-195	杯	土師器	口径 12.4		底径 7.4		器高 3.6	S618	6-195	86-5	8
SKN-6-196	杯	土師器	口径(12.5)		底径 8.0		器高 3.7	S618	6-196	86-7	8
SKN-6-197	杯	土師器	口径(11.8)		底径(8.8)		器高 4.4	S618	6-197	86-4	8
SKN-6-198	杯	土師器	口径(12.4)		底径(8.0)		器高 3.3	S618	6-198	86-6	8
SKN-6-199	杯	土師器	口径(13.2)		底径(7.6)		器高 3.2	S618	6-199	86-10	8
SKN-6-200	鉢	土師器	口径	—	底径	—	器高(8.0)	S618	6-200	87-21	8
SKN-6-201	鉢	土師器	口径	—	底径	—	器高(3.1)	S618	6-201	86-10	8
SKN-6-202	鉢	土師器	口径	—	底径	—	器高(3.7)	S618	6-202	87-15	8
SKN-6-203	鉢	土師器	口径	—	底径(9.0)		器高(3.0)	S618	6-203	87-14	8
SKN-6-204	鉢	土師器	口径	—	底径	—	器高(1.6)	S618	6-204	87-22	8
SKN-6-205	鉢	土師器	口径	—	底径	—	器高(7.3)	S618	6-205	87-16	8
SKN-6-206	播鉢	土師器	口径	—	底径	—	器高(6.9)	S618	6-206	87-12	8
SKN-6-207	播鉢	土師器	口径	—	底径	—	器高(4.0)	S618	6-207	87-13	8
SKN-6-208	播鉢	土師器	口径	—	底径	—	器高(6.7)	S618	6-208	86-11	8
SKN-6-209	火鉢	土師器	口径(37.0)		底径	—	器高(7.3)	S618	6-209	88-25	8
SKN-6-210	鍋	土師器	口径(33.0)		底径	—	器高(7.1)	S618	6-210	88-24	8
SKN-6-211	鍋	土師器	口径(25.0)		底径	—	器高(8.1)	S618	6-211	88-23	8
SKN-6-212	鍋	土師器	口径	—	底径	—	器高(5.1)	S618	6-212	87-17	8
SKN-6-213	鍋	土師器	口径	—	底径	—	器高(3.7)	S618	6-213	87-18	8
SKN-6-214	鍋	土師器	口径	—	底径	—	器高(6.9)	S618	6-214	87-19	8
SKN-6-215	瓶	瓦器	口径	—	底径	—	器高(5.9)	S618	6-215	88-26	8
SKN-6-216	皿	土師器	口径(8.0)		底径(6.4)		器高 1.4	S619	6-216	91-1	8
SKN-6-217	杯	土師器	口径	—	底径(7.6)		器高(1.4)	S619	6-217	91-2	8
SKN-6-218	播鉢	瓦器	口径	—	底径 14.2		器高(1.5)	S619	6-218	91-3	8
SKN-6-219	皿	土師器	口径(9.0)		底径(6.6)		器高 1.5	S620	6-219	91-4	8
SKN-6-220	鉢	瓦器	口径	—	底径	—	器高(5.8)	S620	6-220	91-5	8
SKN-6-221	皿	土師器	口径(8.8)		底径(7.0)		器高 1.4	S621	6-221	75-1	8
SKN-6-222	椀	青磁	口径	—	底径 5.0		器高(2.6)	S621	6-222	75-2	8
SKN-6-223	鉢	須恵器	口径	—	底径	—	器高(5.5)	S621	6-223	75-6	8
SKN-6-224	鉢	須恵器	口径	—	底径	—	器高(3.1)	S621	6-224	75-5	8
SKN-6-225	鉢	瓦器	口径	—	底径	—	器高(4.2)	S621	6-225	75-4	8
SKN-6-226	鉢	土師器	口径	—	底径	—	器高(4.6)	S621	6-226	75-3	8
SKN-6-227	瓶	須恵器	口径	—	底径	—	器高(7.7)	S621	6-227	75-7	8

宿野遺跡1-7区(SKN-1~7) 1種 収藏品目録

番号	名称	種別	計測値()内は復元値・残存値	遺構	実測図	挿図	収納
SKN-6-228	皿	土師器	口径(8.2) 底径(7.0) 器高 1.5	S622	6-228	76-1	8
SKN-6-229	杯	土師器	口径 — 底径(9.0) 器高(1.8)	S622	6-229	76-2	8
SKN-6-230	杯	土師器	口径(12.2) 底径(8.0) 器高 3.7	S623	6-230	76-3	8
SKN-6-231	皿	土師器	口径(9.1) 底径(7.2) 器高 1.9	P6001	6-231	92-6	8
SKN-6-232	皿	土師器	口径 8.0 底径 7.0 器高 1.6	S6031	6-232	92-3	8
SKN-6-233	皿	土師器	口径(8.0) 底径(6.8) 器高 1.4	FB-67	6-233	92-2	8
SKN-6-234	椀	青磁	口径 — 底径 5.3 器高(1.3)	FB-67	6-234	92-8	8
SKN-6-235	皿	土師器	口径 8.6 底径 7.6 器高 1.7	FB-69	6-235	92-5	8
SKN-6-236	皿	土師器	口径 7.8 底径 6.5 器高 1.5	FC-71	6-236	92-1	8
SKN-6-237	皿	土師器	口径 8.4 底径 6.6 器高 1.8	FD-82	6-237	92-4	8
SKN-6-238	杯	土師器	口径(11.4) 底径(7.8) 器高 3.3	FD-83	6-238	92-7	8
SKN-7-001	甌	土師器	口径(27.0) 底径 — 器高(22.7)	S701	7-001	97-12	8
SKN-7-002	甌	土師器		S701	7-002	97-11	8
SKN-7-003	甕	土師器	口径(19.8) 底径 — 器高(9.4)	S701	7-003	97-8	8
SKN-7-004	甕	土師器	口径 — 底径 — 器高(10.2)	S701	7-004	97-9	8
SKN-7-005	甕	土師器	口径 — 底径 — 器高(5.5)	S701	7-005	97-10	8
SKN-7-006	鉢	土師器	口径(18.0) 底径 — 器高(3.6)	S701	7-006	95-5	8
SKN-7-007	高杯	土師器	口径 — 底径 6.0 器高(4.8)	S701	7-007	95-6	8
SKN-7-008	杯蓋	須恵器	口径(16.0) 器高(1.4)	S701	7-008	95-2	8
SKN-7-009	杯蓋	須恵器	口径(13.8) 器高(1.5)	S701	7-009	95-1	8
SKN-7-010	杯	須恵器	口径 — 底径(8.8) 器高(2.8)	S701	7-010	95-3	8
SKN-7-011	杯	須恵器	口径 — 底径(9.0) 器高(.2.2)	S701	7-011	95-4	8
SKN-7-012	瓶	須恵器	口径 — 丸径 器高(4.9)	S701	7-012	95-7	8
SKN-7-013	甕	土師器	口径 — 底径 — 器高(5.5)	S702	7-013	—	8
SKN-7-014	杯蓋	須恵器	口径 — 器高(1.4)	表採	7-014	—	8
SKN-7-015	杯	須恵器	口径(13.8) 底径(9.0) 器高 2.9	表採	7-015	—	8

宿野遺跡1-7区(SKN-1~7) II種 収藏品目録

調査区	種別	遺構名	袋数	収納
SKN-1	土器・陶磁器・石器破片	S102、S103、S105、表採	8	1
SKN-2	土器・陶磁器・石器破片	S201、S202、S203、S204、S205、S206、S207、S209、S210、S211、表採	21	1
SKN-3	土器・陶磁器・石器破片	S301、S302、S304、S305、S306、S307、S308、S309、S310、S311、S312、S313、S314、S315、S316、S318、S319、S320、S321、S322、S323、S324、S325、S326、S327、S328、S329、S330、S332、P3001、表採	71	1
SKN-4	土器・陶磁器・石器破片	S401、S402、S403、S404、S405、S406、S407、S408、S410、S411、S412、S413、S414、S415、S416、表採	29	1
SKN-5	土器・陶磁器・石器破片	S501、S503、S504、S505、S506、S507、S509、S531、S532、S533、S534、S535、P5001、表採	26	2
SKN-6	土器・陶磁器・石器破片	S601、S602、S603、S604、S605、S606、S608、S609、S610、S611、S612、S613、S614、	26	2
SKN-6	土器・陶磁器・石器破片	S614、S615、S616、S617、S618	15	3
SKN-6	土器・陶磁器・石器破片	S619、S620、S621、S622、S623、S633、S634、P6001、表採	23	4
SKN-7	土器・陶磁器・石器破片	S701、S702、S703、S704、S705、P7001、P7002、P7003、P7004、P7005、表採	17	4
SKN-8	土器・陶磁器・石器破片	S801、S802、S803、S804、S805、S806、S807、P8001、表採	9	4

佐賀市文化財調査報告書第44集

宿野遺跡

平成5年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 福博印刷株式会社
佐賀市兵庫町修理田72-2